

羽根山古窯跡群

～大府羽根山土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告～



2010年

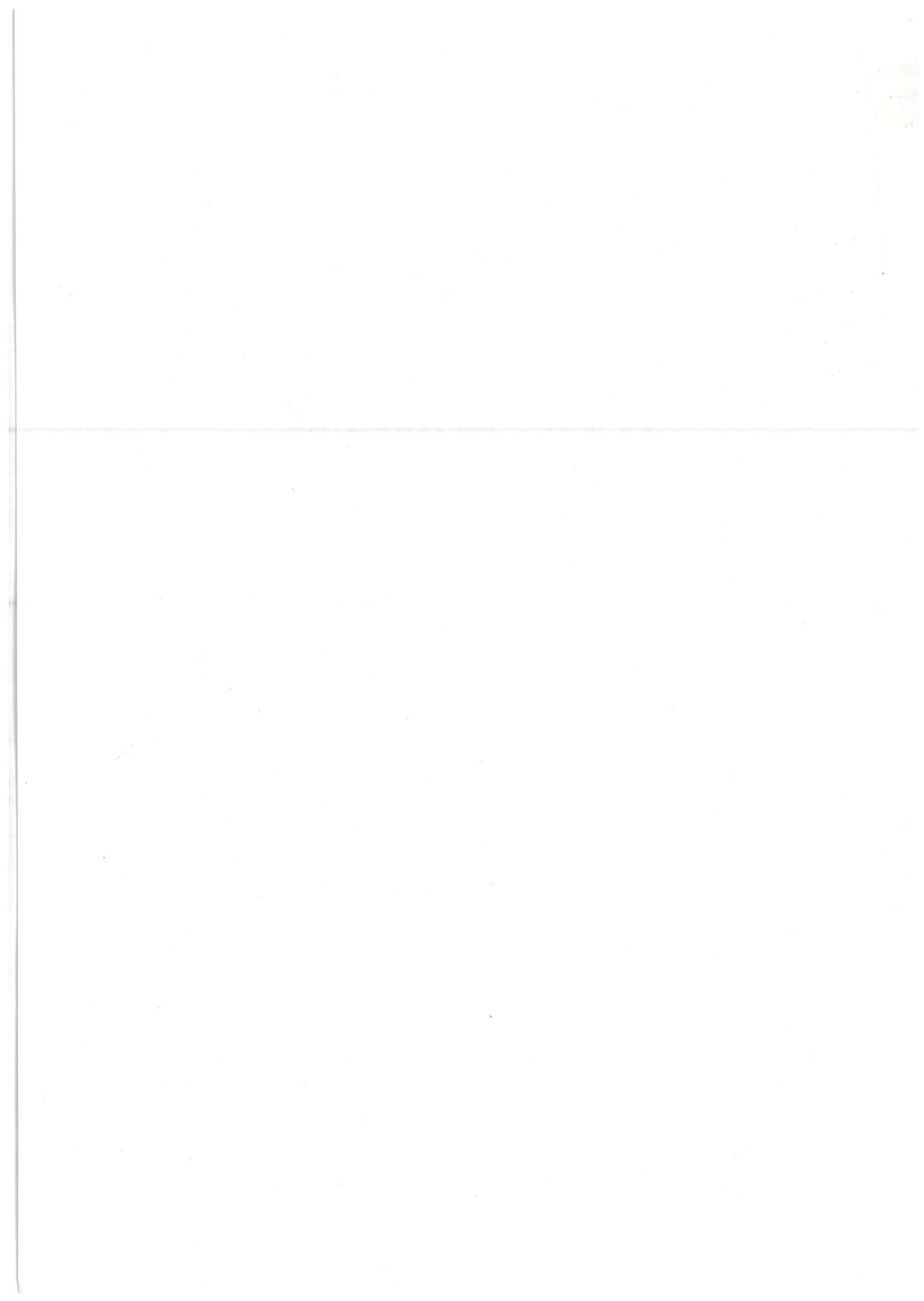
大府市教育委員会

はねやまこようせきぐん
羽根山古窯跡群

～大府羽根山土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告～

2010年

大府市教育委員会





巻頭1 調査区全景



卷頭 2 土師質埴 (伊勢型鍋)



卷頭 3 窯体空撮

序

現代社会は急激な少子高齢化と政治経済および文化のグローバル化というかつて経験したことのない変革期に入り、大府市も例外ではありえません。大府市ではここ10年、急激に人口が流入し、活気をもたらす半面、懐かしい風景や景観が失われていくという事実が伴いますが、我々の祖先が残した貴重な文化遺産を後世に継承する責務は不変でなければなりません。大府市での区画整理事業・道路建設・民間開発事業は官民併せて活発であり、それに平行して数多くの埋蔵文化財が発見・調査されています。しかし消滅することを前提とした調査が大半であるため、さらなる文化財保護を推進する必要があることを痛感しています。このたび、大府市教育委員会が平成10年に羽根山古窯跡群を発掘調査し、その結果、大府市東部の丘陵地も鎌倉期に窯業生産の地域であったことが解明できました。

最後になりましたが、発掘調査を指導された立松宏氏（故人）と現場調査員の方々のご苦勞とご協力に心から感謝いたします。また調査に際して、ご指導とご援助を賜りました愛知県教育委員会、大府市役所区画整理課（現産業建設部都市整備課）、株式会社花井組、発掘調査作業にご参加された方々、この事業に対して、特別なご理解とご高配をいただきました大府羽根山土地区画整理組合の各役員の方々には厚くお礼を申し上げます。

平成22年3月吉日

大府市教育委員会

教育長 梶 谷 修

例 言

1. 本書は愛知県大府市横根町羽根山177番地の1・177番地の2・178番地の4・178番地の5・186番地の1他に所在した羽根山古窯跡群（市遺跡番号57）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は大府羽根山土地区画整理事業にともなう事前調査として大府市教育委員会の委託を請けた羽根山古窯発掘調査会が実施した。
3. 調査期間は平成10年11月16日から平成11年4月30日まで本調査を行った。さらに3回にわたり追加調査を実施した。特に平成13年2月12日から3月23日の間で5日間にわたり灰原部分を追加調査した。遺物洗浄作業は平成10年度に発掘調査現場で開始し、平成11年度から歴史民俗資料館で実施した。平成13年度に出土品整理作業を、平成14年度に遺物の図化作業を、以下の随時報告書に必要な資料の編集を継続して行い、平成21年度に報告書編集に関する作業を実施した。
4. 発掘調査体制は、羽根山古窯発掘調査会を組織し、半田市立博物館館長立松宏（当時、故人）を会長とし、氏の指導の下、近藤英正（当時、半田市立博物館学芸員）と古田功治（現大府市歴史民俗資料館館長）が担当した。

調査主体 大府市教育委員会

調査指導 立松 宏（当時：半田市立博物館長）

調査指導 近藤英正（当時：半田市立博物館学芸員）

調査担当者 古田功治（現：大府市歴史民俗資料館館長）

5. 発掘調査および報告書作成にあたっては、次の各機関をはじめ多くの方々からのご指導、ご協力を得た。記して感謝の意を表す次第である。

愛知県教育委員会文化財課（当時、現生涯学習課文化財保護室）、株式会社花井組、大府羽根山土地区画整理組合、大府市役所都市開発部区画整理課（現産業建設部都市整備課）、中野晴久（常滑市民俗資料館）、青木修（瀬戸市埋蔵文化財センター）、松田訓（財団法人愛知教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター）、長島広・柴田直光（当時、愛知県教育委員会文化財課）

6. 出土品の洗浄は平成10年から12年にかけて大府市シルバー人材センターに委託（緊急雇用対策事業補助金使用）して実施、出土品整理（マーキング・接合・仕分など）は平成13年度、実測図作成は平成14年度、いずれもアイシン精機株式会社事業企画室（現在廃止）に業務を依頼した。
7. 発掘調査と整理作業には以下の方々に参加協力された。現場の調査作業と洗浄作業に25名、出土品洗浄のみに大府市シルバー人材センターの会員が協力された。お名前は以下のとおりである。

【調査に参加された方々】

相木千津子・浅田レイ子・石田優子・井上純子・大竹富美子・上飯坂日出美・木下信雄・児

玉五市・佐野栄作・澤山昭八・土井シズ・鳥居和子・那須昌俊・七ツ村清吉・服部祐子・舟崎千春・保科懐子・前田美江・牧野みゆき・真島知恵・松本純子・村野實・渡辺勝・伊藤羊子・鈴木智恵

【洗浄作業】省略

8. 熱残留磁気測定と炭化物分析はそれぞれ大谷女子大学文化財学科教授広岡公夫氏（当時、富山大学理学部教授）と株式会社パレオ・ラボ 植田弥生氏に依頼した。
9. 窯体と調査区の測量および図化は愛知玉野情報システム株式会社に委託し、座標は国土座標第Ⅶ系に準拠する。
10. 本書の編集は古田功治が総括し、鈴木智恵と伊藤羊子が補佐した。執筆の分担は以下のとおりである。

第1章

第1節 古田功治

第2節 中村伸吾

第3節 古田功治

第2章 古田功治・伊藤羊子

第3章 古田功治

第4章 植田弥生

第5章 古田功治

12. 土色には、小林正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』を使用した。
13. 調査記録および出土遺物は大府市歴史民俗資料館で保管している。

目次

第1章	調査概要	
第1節	位置と地形	2
第2節	地理および歴史的環境	3
第3節	発掘調査に至る経緯と調査経過等	9
第2章	遺構	
第1節	窯体について	14
第2節	灰原について	52
第3章	遺物	
第1節	器形分類	68
第2節	窯内の遺物	71
第3節	灰原および土坑等の遺物	90
第4節	床面下施設の遺物	107
第5節	その他の遺物	117
第6節	考察	120
第4章	科学分析	
第1節	羽根山古窯跡から出土した炭化材の樹種同定	152
第5章	総論	
	まとめ	160
	報告書抄録	163

挿図目次

【第1章】

第1図	遺跡位置図	2
第2図	江戸末期の羽根山古窯跡群付近（『大府市誌』近世村絵図集より）	4
第3図	大府市の表層地質図（『日本地質図大系』）	6
第4図	発掘時調査地点地形図	7
第5図	調査地点現況位置図	7
第6図	周辺遺跡分布図	7
第7図	調査前地形図	10

【第2章】

第8図	遺構配置図	15
第9図	1号窯窯体実測図	17
第10図	1号窯埋土縦ベルト実測図	18
第11図	1号窯埋土横ベルト実測図	19
第12図	1号窯床面断割縦ベルト実測図	20
第13図	1号窯床面断割横ベルト実測図	21
第14図	2号窯窯体実測図	23
第15図	2号窯埋土縦ベルト実測図	24
第16図	2号窯埋土横ベルト実測図	25
第17図	2号窯床面断割縦ベルト実測図	26
第18図	2号窯床面断割横ベルト実測図	27
第19図	3号窯窯体実測図	30
第20図	3号窯埋土縦ベルト実測図	31
第21図	3号窯埋土横ベルト実測図	32
第22図	3号窯床面断割縦ベルト実測図	33
第23図	3号窯床面断割横ベルト実測図	34
第24図	3号窯床面下施設	35
第25図	4号窯窯体実測図	38
第26図	4号窯埋土縦ベルト実測図	39
第27図	4号窯埋土横ベルト実測図	40
第28図	4号窯床面断割縦ベルト実測図	41
第29図	4号窯床面断割横ベルト実測図	42
第30図	4号窯床面下施設	43
第31図	5号窯窯体実測図	46
第32図	5号窯埋土縦ベルト実測図	47

第33図	5号窯埋土横ベルト実測図	48
第34図	5号窯床面断割縦ベルト実測図	49
第35図	5号窯床面断割横ベルト実測図	50
第36図	灰原推定位置図	55
第37図	灰原Aベルト実測図	56
第38図	灰原Bベルト実測図	57
第39図	灰原Cベルト実測図1	58
第40図	灰原Cベルト実測図2	59
第41図	灰原Iベルト実測図	60
第42図	灰原IIベルト実測図	61
第43図	灰原IIIベルト実測図	62
第44図	灰原IVベルト実測図	63
第45図	灰原Vベルト実測図	64
第46図	その他の遺構平面図とセクション図	66
【第3章】		
第47図	部位等名称図	68
第48図	1・2号窯碗類器形分類図	69
第49図	1・2号窯皿類器形分類図	69
第50図	3・4・5号窯碗類器形分類図	70
第51図	3・4・5号窯皿類器形分類図	70
第52図	1号窯出土碗実測図	71
第53図	1号窯窯内出土碗類器形分類組成図	71
第54図	1号窯出土皿実測図	72
第55図	1号窯窯内出土皿類器形分類組成図	72
第56図	2号窯窯内出土碗類器形分類組成図	73
第57図	2号窯窯内出土皿類器形分類組成図	73
第58図	2号窯出土碗実測図	74
第59図	2号窯出土皿実測図	75
第60図	2号窯出土土師質埴実測図	76
第61図	3号窯窯内出土碗類器形分類組成図	76
第62図	3号窯出土碗実測図	77
第63図	3号窯窯内出土皿類器形分類組成図	78
第64図	3号窯出土皿実測図	78
第65図	3号窯出土陶丸実測図	79
第66図	3号窯出土焼台実測図	79
第67図	4号窯窯内出土碗類器形分類組成図	80

第68図	4号窯出土碗実測図	81
第69図	4号窯窯内出土皿類器形分類組成図	83
第70図	4号窯出土皿実測図	83
第71図	4号窯出土陶丸実測図	84
第72図	4号窯出土重ね碗皿等実測図	85
第73図	5号窯窯内出土皿類器形分類組成図	86
第74図	5号窯出土碗実測図	87
第75図	5号窯窯内出土皿類器形分類組成図	88
第76図	5号窯出土皿実測図	88
第77図	5号窯出土焼台実測図	89
第78図	灰原等出土碗類A器形分類組成図	90
第79図	灰原等出土碗類B器形分類組成図	91
第80図	灰原等出土碗実測図(その1)	91
第81図	灰原等出土碗実測図(その2)	92
第82図	灰原等出土碗実測図(その3)	93
第83図	灰原等出土皿類A器形分類組成図	97
第84図	灰原等出土皿類B器形分類組成図	97
第85図	灰原等出土皿実測図(その1)	98
第86図	灰原等出土皿実測図(その2)	99
第87図	灰原等出土片口碗実測図	102
第88図	灰原等出土鉢類実測図	103
第89図	灰原等出土壺類実測図	104
第90図	灰原等出土陶丸実測図	105
第91図	灰原等出土焼台実測図	105
第92図	灰原等出土土師質埴実測図	106
第93図	灰原等出土器種不詳製品実測図	106
第94図	3号窯床面下施設出土遺物実測図	107
第95図	3号窯床面下施設遺物取上番号図	108
第96図	4号窯床面下施設出土遺物実測図	110
第97図	4号窯床面下施設遺物取上番号図	111
第98図	須恵器実測図	118
【第4章】		
第99図	羽根山古窯跡群出土炭化材の試料位置と検出樹種	156

表目次

【第1章】

第1表 大府市遺跡一覧表	8
第2表 文書一覧	12
第3表 調査工程表	12

【第3章】

第4表 1号窯窯内出土碗器形分類表	71
第5表 1号窯窯内出土皿器形分類表	72
第6表 2号窯窯内出土碗器形分類表	73
第7表 2号窯窯内出土皿器形分類表	73
第8表 3号窯窯内出土碗器形分類表	76
第9表 3号窯窯内出土皿器形分類表	78
第10表 4号窯窯内出土碗器形分類表	80
第11表 4号窯窯内出土皿器形分類表	83
第12表 5号窯窯内出土碗器形分類表	86
第13表 5号窯窯内出土皿器形分類表	88
第14表 灰原等出土碗法量一覧	90
第15表 灰原等出土碗類A器形分類表	90
第16表 灰原等出土碗類B器形分類表	91
第17表 灰原等出土碗法量一覧	97
第18表 灰原等出土皿類A器形分類表	97
第19表 灰原等出土皿類B器形分類表	97
第20表 3号窯床面下施設遺物取上げ表	109
第21表 4号窯床面下施設遺物取上げ表(その1)	112
第22表 4号窯床面下施設遺物取上げ表(その2)	113
第23表 4号窯床面下施設遺物取上げ表(その3)	114
第24表 4号窯床面下施設遺物取上げ表(その4)	115
第25表 4号窯床面下施設遺物取上げ表(その5)	116
第26表 碗類観察表(その1)	122
第27表 碗類観察表(その2)	123
第28表 碗類観察表(その3)	124
第29表 碗類観察表(その4)	125
第30表 碗類観察表(その5)	126
第31表 碗類観察表(その6)	127
第32表 碗類観察表(その7)	128

第33表	碗類観察表 (その8)	129
第34表	碗類観察表 (その9)	130
第35表	碗類観察表 (その10)	131
第36表	碗類観察表 (その11)	132
第37表	碗類観察表 (その12)	133
第38表	碗類観察表 (その13)	134
第39表	皿類観察表 (その1)	135
第40表	皿類観察表 (その2)	136
第41表	皿類観察表 (その3)	137
第42表	皿類観察表 (その4)	138
第43表	皿類観察表 (その5)	139
第44表	皿類観察表 (その6)	140
第45表	皿類観察表 (その7)	141
第46表	皿類観察表 (その8)	142
第47表	皿類観察表 (その9)	143
第48表	皿類観察表 (その10)	144
第49表	皿類観察表 (その11)	145
第50表	皿類観察表 (その12)	146
第51表	皿類観察表 (その13)	147
第52表	鉢類観察表	147
第53表	壺類観察表	147
第54表	陶丸観察表	147
第55表	器種不詳製品観察表	148
第56表	重ね碗観察表	148
第57表	重ね皿観察表	148
第58表	重ね碗皿観察表	148
第59表	焼台観察表	149
第60表	土師質埴観察表	149
第61表	須恵器観察表	149
第62表	石器観察表	149
第63表	弥生土器観察表	149
第64表	製塩土器観察表	149
【第4章】		
第65表	羽根山古窯跡群出土炭化材の樹種同定結果一覧	155
第66表	羽根山古窯跡群出土炭化材の窯体部位や灰原地点ごとの検出分類群の比較	156

写真目次

【巻頭】

巻頭1 調査区全景	i
巻頭2 土師質埴（伊勢型鍋）	ii
巻頭3 窯体空撮	ii

【第1章】

写真1 調査前風景	11
写真2 調査区近景（上空から）	11
写真3 作業風景1	11
写真4 作業風景2	11

【第2章】

写真5 1号窯埋土横セクション（南西から）	16
写真6 1号窯埋土縦セクション（北から）	16
写真7 1号窯窯体完掘状況（南西から）	16
写真8 1号窯窯体完掘状況（北東から）	16
写真9 1号窯窯体断割状況（西から）	16
写真10 1号窯窯体断割状況（南西から）	16
写真11 2号窯埋土横セクション（南西から）	28
写真12 2号窯埋土横セクション（南西から）	28
写真13 2号窯窯体掘削状況（南西から）	28
写真14 2号窯窯体完掘状況（南西から）	28
写真15 2号窯窯体断割状況（南西から）	28
写真16 2号窯窯体断割状況（南西から）	28
写真17 3号窯埋土横セクション（南西から）	36
写真18 3号窯埋土縦セクション（西から）	36
写真19 3号窯窯体天井部（北から）	36
写真20 3号窯窯体完掘状況（南西から）	36
写真21 3号窯分焰柱付近（南西から）	36
写真22 3号窯窯体断割状況（北西から）	36
写真23 3号窯窯体断割状況（南西から）	36
写真24 3号窯床面下施設（南西から）	36
写真25 4号窯埋土横セクション（南西から）	44
写真26 4号窯埋土縦セクション（西から）	44
写真27 4号窯窯体完掘状況（南西から）	44
写真28 4号窯窯体断割状況（南西から）	44

写真29	4号窯窯体断割状況（南西から）	44
写真30	4号窯床面下施設（南西から）	44
写真31	5号窯埋土縦セクション（北から）	51
写真32	5号窯分焰柱（南から）	51
写真33	5号窯窯体完掘状況（南西から）	51
写真34	5号窯窯体断割状況（南から）	51
写真35	5号窯窯体断割状況（北西から）	51
写真36	5号窯窯体断割状況（南西から）	51
写真37	灰原Ⅲベルト（北西から）	53
写真38	灰原Ⅲベルト（北西から）	53
写真39	灰原Ⅳベルト（北西から）	54
写真40	灰原Ⅴベルト（北西から）	54
写真41	灰原Aベルト全体（南西から）	54
写真42	灰原Aベルト近景（南西から）	54
写真43	灰原Bベルト近景（南西から）	54
写真44	灰原Bベルト近景（南西から）	54
写真45	灰原Cベルト（北東から）	54
写真46	灰原Cベルト近景（北東から）	54
写真47	土坑01セクション（南東から）	66
写真48	土坑02セクション（南東から）	66
【第3章】		
写真49	1号窯出土碗	71
写真50	1号窯出土皿	72
写真51	2号窯出土碗	74
写真52	2号窯出土皿	75
写真53	2号窯出土土師質埴	76
写真54	3号窯出土碗	77
写真55	3号窯出土皿	79
写真56	3号窯出土陶丸	79
写真57	3号窯出土焼台	79
写真58	4号窯出土碗	82
写真59	4号窯出土皿	84
写真60	4号窯出土陶丸	84
写真61	4号窯出土重ね碗・重ね皿・重ね碗皿	85
写真62	5号窯出土碗	87
写真63	5号窯出土皿	89

写真64	5号窯出土焼台	89
写真65	灰原等出土碗(その1)	94
写真66	灰原等出土碗(その2)	95
写真67	灰原等出土碗(その3)	96
写真68	灰原等出土皿(その1)	100
写真69	灰原等出土皿(その2)	101
写真70	灰原等出土片口碗	102
写真71	灰原等出土鉢	103
写真72	灰原等出土壺	104
写真73	灰原等出土陶丸	105
写真74	灰原等出土焼台	105
写真75	灰原等出土土師質埴	106
写真76	灰原等出土器種不詳製品	106
写真77	3号窯床面下施設出土遺物	107
写真78	4号窯床面下施設出土遺物	110
写真79	須恵器等写真	119
【第4章】		
写真80	羽根山古窯跡群出土炭化材樹種1	157
写真81	羽根山古窯跡群出土炭化材樹種2	158

第1章 調査概要

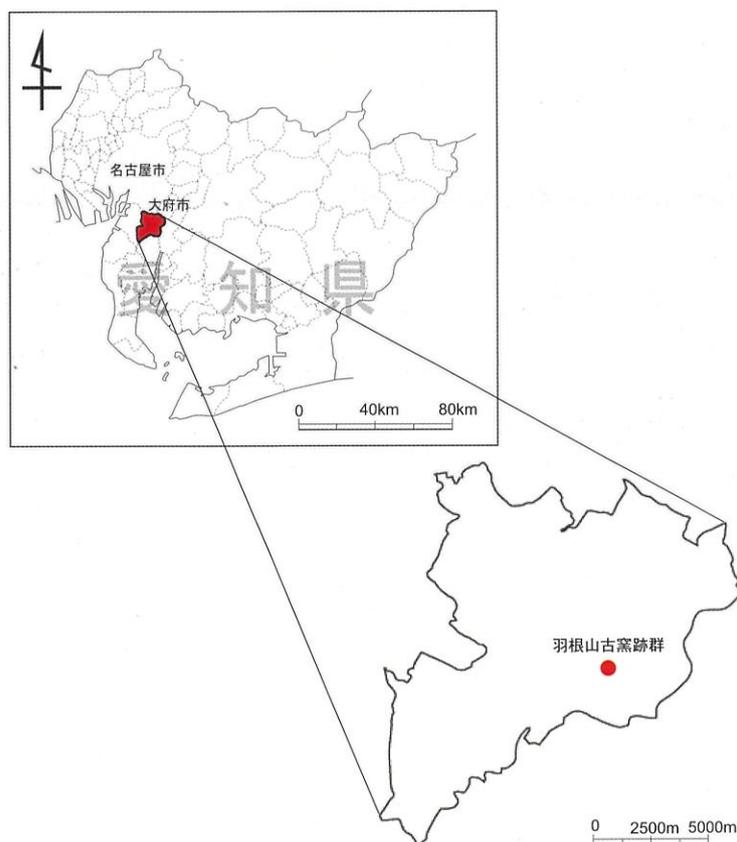


第1節 位置と地形

大府市は愛知県西部、知多半島の基部に位置し、面積33.68平方キロメートルを有する人口は約8万5千人の市である。北は名古屋市緑区と豊明市、西は東海市と知多市、南は東浦町、東はかつての尾張国と三河国を隔てる、かつて国境であった境川を挟んで三河の刈谷市と向き合う^①。旧郡は知多郡で、知多半島の一部とみなされているが、現在では海にはどこにも面していない。

さて、愛知県の中核に位置する名古屋市に接している大府市は、名古屋中心部への交通アクセスの良さから各地で住宅や工場、店舗の建設が旺盛で、田園が広がるかつての風景から様変わりし始めている。JR大府駅やJR共和駅に近接した畑や雑木林は区画整理事業の対象とされ、盛んに事業が企画され、実行に移されている。その中のひとつに、羽根山土地区画整理事業がある。

羽根山古窯跡群は、JR大府駅から直線距離にして東へ約1.4kmの場所にある。そこは標高約34mあり、東側が崖といえるほどの傾斜があり、そのもとに砂川（すがわ）という境川に流れ込む小河川が流れる。さらに川の東は低地で田として利用されているが、農地改良がおこなわれるまでは深田とよばれる深くぬかるむ場所であったようである。ちなみに遺跡の北側には地区の墓所が存在する。



第1図 遺跡位置図

第2節 地理および歴史的環境

地形地質

愛知県の地層は、新生代古代三紀までと新第三紀中新世以降とに大別されると、言われる^②。伊勢湾周辺の地域には、やや固結した礫・砂・シルト・泥層からなっている丘陵が拡がっており、これらは東海層群と呼ばれ、見られる地域毎に呼称が異なる。例えば、濃尾平野より東のものは瀬戸層群、知多半島のものは南部の師崎層群と北中部の常滑層群である。

地質年代は、最下部層は中新統最上部、下部層は下部鮮新統、中部層は上部鮮新統、上部層は鮮新統最上部、最上部層は下部更新統と考えられている^③。師崎層群は、今からおよそ1,600万年前の第三紀中新世中頃に堆積した砂岩・凝灰質泥岩および凝灰岩からなる海成層である。常滑層群は、師崎層群よりも新しく、第三紀末の鮮新世に存在した東海湖と呼ばれる淡水湖に堆積した淡水性堆積物で、砂層・泥層・亜炭層・砂礫層から構成されている。この地層は、尾張丘陵の瀬戸層群の延長と考えられる。

さて、大府市が位置する知多半島北部は、地形的には尾張丘陵の延長とされ、尾張丘陵に属する有松丘陵と大府丘陵および知多丘陵とからなる。有松丘陵と大府丘陵は、北流する大高川（伊勢湾に注ぐ）と南流する鞍流瀬川（三河湾に注ぐ）の谷中分水界が見られる低地を境とし、大府丘陵と知多丘陵は、大田川（東海市）の本・支流の作る谷によって隔てられている。これら三つの丘陵のうち、大府市には、有松丘陵と大府丘陵が含まれ、それぞれ東部の丘陵、西部の丘陵と称される。東部の丘陵は、標高40～50mでやや急な斜面をなしているが、西部の丘陵は、標高70mを超える丘陵もある。が、およそ40mで傾斜のゆるやかな丘陵地が広がる。いずれにしても標高は100mを超えないものである。これは、大府市にみられる地層が、全て新生代第三紀鮮新世以降のものであり、大府丘陵においては新第三紀（Neogene）後期中新世～鮮新世（Late Miocene (?) to Pliocene）東海層群（Tokai Group）常滑層群（Tokoname Formation）上部（Upper part）火山灰層（Volcanic ash layer）砂・シルト・粘土及び砂礫（火山灰層・亜炭を挟む）（Sand, clay and pebbly sand (intercalating volcanic ash layers and lignite)、大府丘陵北東の一部と有松丘陵においては新第三紀（Neogene）鮮新世（Pliocene）矢田川累層（Yadagawa Formation）砂及び礫層（Sand and gravel）を主としているためであり、東部の丘陵は透水性の高い礫が多く、西部の丘陵は透水性の低い砂やシルトがあるため、流れやすいためと考えられる。しかしながら、全体的には有松丘陵及び大府丘陵、知多丘陵は、砂・シルト・粘土層から構成されているなど、地質や地形が酷似しており、開析が進みやすく、いくつもの舌状の小丘陵が発達しているなどの共通点も見られる。丘陵部に広がる常滑層群を構成する主な鉱物は、チャート・ホルンフェルス・長石・石英・雲母などである。長石は風化して粘土になりやすい。シルト層や粘土層は、基本的には灰色をしているが、水分を含む量によりその濃さが変わる。また、砂層に伴うものは濃い灰色のものが多く、礫層に伴うものは桃色になるものが多い。常滑市周辺でみられる地層は、亜炭を挟むことが多いが、大府市内では比較的少ない。

河川流域の地形は、大府市では丘陵の上にわずかに残る高位段丘面を別にすれば、境川右岸や石ヶ

瀬川の河岸段丘が見られる。これは、第四紀 (Quaternary) 更新世 (Pleistocene) 後期 (Late) に形成された低位段丘層 (Lower terrace deposits) や中位段丘層 (Middle terrace deposits) で、標高10~20mの各段丘面は比較的小規模で点在している。この地層は、名古屋市の熱田台地を形成している熱田層や知多半島の半田層・野間層などと同時期のものである。低地は、第四紀 (Quaternary) 完新世 (Holocene) の潮汐低地 (Tidal flat)・後背湿地 (back swamp)・河道堆積物 (channel deposits) や谷低平野堆積物 (Valley plain deposits) からなり、開析された丘陵深部まで入り込み、平坦面を形成している④。

羽根山古窯跡群から西へ直線で1.4キロmの距離にある砂原古窯周辺で得られたデータが存在する。大府市長草町において実施された深度800mに達するボーリングでは、厚さ約520mの東海層群の下位に、厚さ約260mの海成中新統が存在することが確かめられている⑤。

本窯跡の位置する丘陵は、常滑層群という陶器原料粘土やみがき砂 (火山灰)・褐炭が含まれている地層が広がる。そのため、製品の原料や窯体を構築する良質な材料として広く利用されたものと推定される。事実、窯跡は丘陵地に濃密の差はあるが、存在している。遺跡分布調査でも遺構は確認できなくても、焼成品の破片をかなりの確度で見つけることができる。今回調査を行った羽根山古窯跡群は、主に砂及びシルト層に築窯されていた。窯体は5基、地中を掘りぬいた窖窯である。

地名

羽根山古窯跡群のあった地区は、江戸期には横根村に属し、天保12年 (1841) の村絵図によると遺跡のあったところは「定納山」「つき切畑」「山畑」と呼ばれていた。さらに西には「塩見坂」の小字もあり、江戸期から標高の高い場所であったことが確認できる。



第2図 江戸末期の羽根山古窯跡群付近 (『大府市誌』近世村絵図集より)

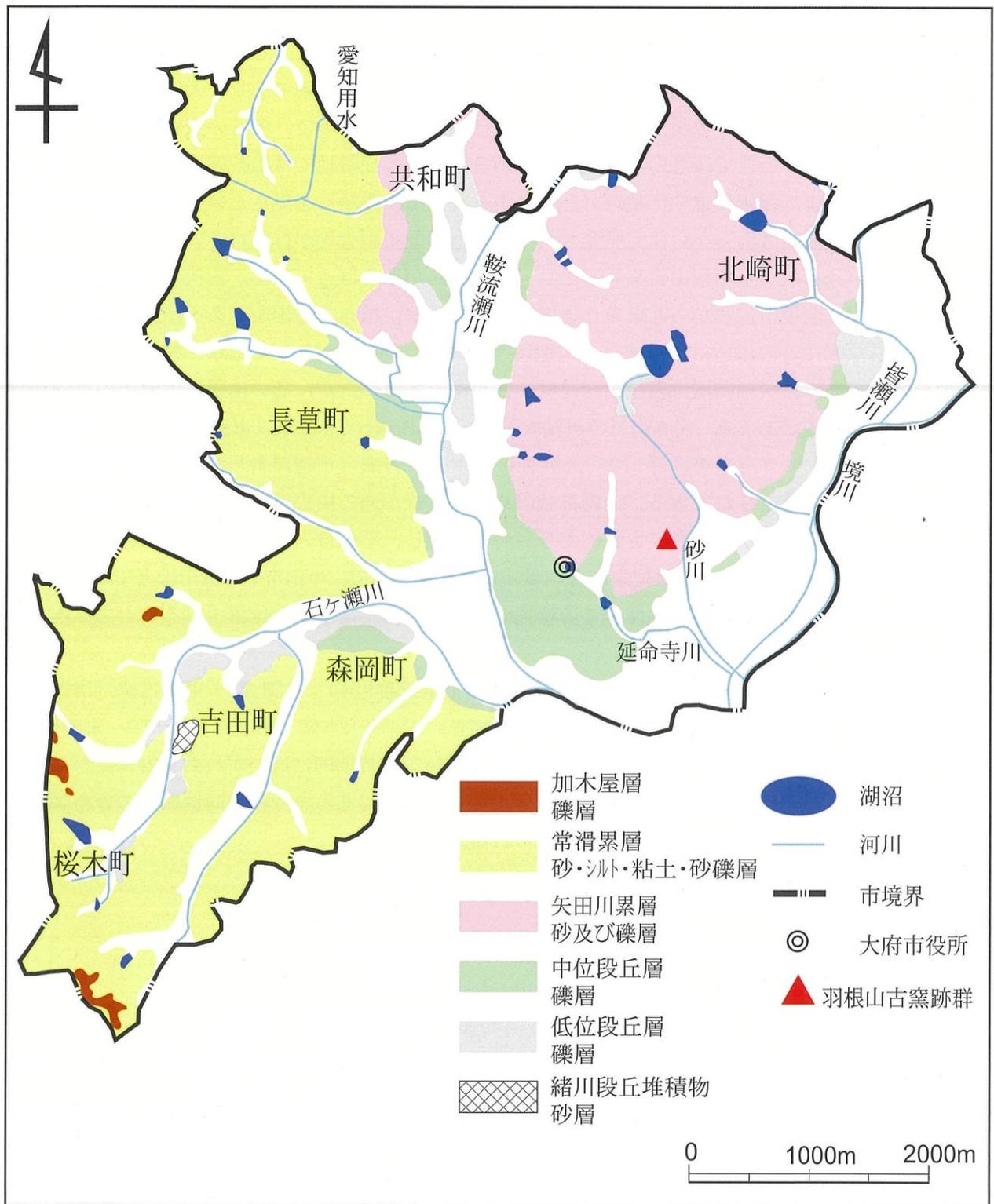
周辺の古窯・歴史的環境

羽根山古窯跡群の所在する市東部は刈谷市に接し、その境界は境川である。羽根山古窯跡群の周辺には現時点ではあまり窯業遺跡は確認されていない。地形的には丘陵地であり、大府市内および知多半島ならびに名古屋市緑区・豊明市と地形や地質的に類似しているため、多くの窯が築かれたと推定することは根拠のないことではない。実際に羽根山古窯周辺の丘陵地では山茶碗片を各所で拾うことが可能であるし、また藤四郎焼や行基焼（ともに山茶碗を指す俗語）を見たという地元在住者の証言は多い。ただ、丘陵地は早くから住宅開発され十分な遺跡分布調査等が行われていないことが、惜しまれる。少ない分布ながら羽根山古窯周辺には、窯業遺跡が散らばっている。古代に属する灰釉陶器窯は未確認だが、羽根山古窯から北東の丘陵地には灰釉陶器が散布する場所があるが窯体は発見し得ていない。ちなみにこの場所は中村遺跡（市遺跡番号171 未調査）として記録されるところで、南垂れの丘陵地である。灰釉陶器は猿投山西南麓を発生源とする窯だが、その南限に大府市の東側が含まれているとする説がある^⑥。大府市での灰釉陶器窯の南限は野々宮古窯（市遺跡番号12 昭和47年調査）とウドA古窯（市遺跡番号172 未調査）とウドB古窯（市遺跡番号173 未調査）であることが分布調査から推定されている。大府市域は東海道本線が通る中央部以外は丘陵地であることから、現在では窯業遺跡がかなり発見されており、今も増加し、そのほとんどが中世山茶碗窯と目される平安時代末期から鎌倉時代（12世紀末から14世紀前半）の窯跡で、半田市や常滑市ほどではないが、密集している。この現状から大府地域もこの時期窯業生産の盛んな地域と位置づけることも無理ではなかろう。

なお、羽根山古窯跡群の周辺には、名高山古窯群（市遺跡番号44 未調査）・平子古窯（市遺跡番号71 未調査）・川池西古窯群（市遺跡番号75 未調査）・平子B古窯（市遺跡番号179 未調査）・名高石丸古窯（市遺跡番号181 未調査）などを把握している。時期的にはいずれも平安末期から鎌倉期の窯と想定される、いわゆる中世山茶碗窯に分類されるものである。今後も同地域での分布調査を進めていけば、さらにその数は増加すると考えられる。

註

- ①大府市役所『大府市誌』資料編 自然 18頁（大府市役所 1998年）
- ②大府市役所『大府市誌』資料編 自然 14-36頁（大府市役所 1998年）
- ③山下 昇編『日本の地質5 中部地方の地質Ⅱ』130-177頁（共立出版株式会社 1988年）
- ④猪木幸男『日本地質図大系 中部地方』（朝倉書店 1991年）
- ⑤桑原 徹『濃尾盆地と傾動地塊運動』7 235-347頁（第四紀研究 1968年）
- ⑥斉藤孝正「中世猿投窯の研究～編年に関する一考察～」(『名古屋大学文学部研究論集』C1史学34 1988年)、藤澤良祐「山茶碗の生産体制」(「中世常滑焼をおって」資料集 日本福祉大学知多半島総合研究所 1994年)



第3図 大府市の表層地質図（『日本地質図大系』）

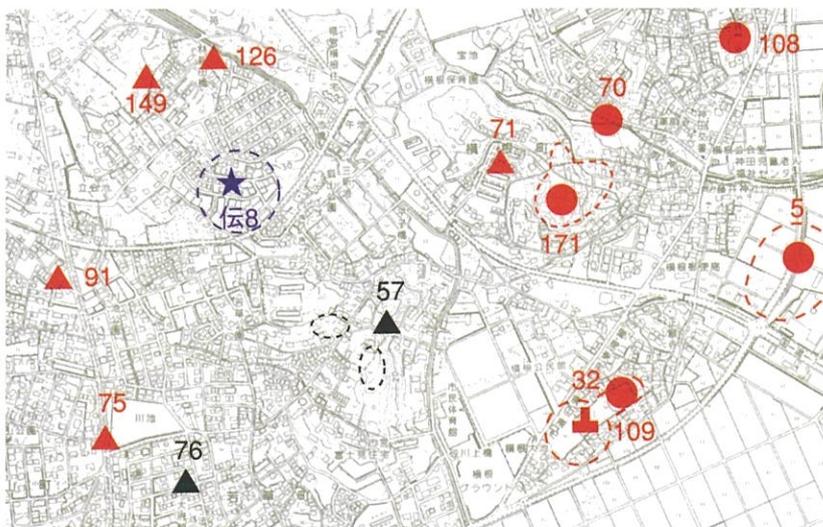
〔名古屋市南部、知多半島より加筆・修正〕



平成13年 3月
第4図 発掘時調査地点地形図



第5図 調査地点現況位置図
平成16年 1月



第6図 周辺遺跡分布図

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	子安神社遺跡	弥生～中世	62	長根山A古窯群	中世	123	梶田B古窯群	中世
2	共栄遺跡	縄文	63	立根B古窯群	中世	124	石亀土古窯群	中世
3	東光寺経塚	江戸	64	立根C古窯群	中世	125	箕手C古窯群	中世
4	賢聖院貝塚	中世	65	立根D古窯群	中世	126	古井戸A古窯	中世
5	惣作遺跡	弥生～鎌倉	66	立根E古窯	中世	127	長峰北A古窯	中世
6	棧敷貝塚	縄文晩期	67	深廻間B古窯群	中世	128	長峰北B古窯	中世
7	高山古墳	古墳後期	68	西浜田遺跡	不明	129	長峰北C古窯群	中世
8	正官墳	中世	69	二ツ池東古窯	中世	130	籠染西古窯	古代
9	南島貝塚	不明	70	藤井宮御酒瓶子出土地	中世	131	井戸場古窯群	中世
10	石丸遺跡	中世	71	平子古窯	中世	132	西定保根A古窯群	中世
11	源吾遺跡	古墳	72	鴨池北古窯群	中世	133	高根山B古窯群	古代～中世
12	野々宮古窯	平安中期	73	鴨池東古窯	中世	134	高根山C古窯群	古代
13	森岡第1号窯群	12世紀中	74	下北山古窯群	中世	135	山手C古窯群	中世
14	森岡第2号窯	13世紀	75	川池西古窯群	不明	136	上り坂古窯	中世
15	北向古窯	13世紀	76	石亀土古窯	不明	137	山之神社北古窯	中世
16	旧中部病院第1号窯	12世紀	77	柵山B古窯	不明	138	八代山A古窯	中世
17	旧中部病院第2号窯	不明	78	柵山C古窯	中世	139	八代山B古窯	中世
18	旧中部病院第3号窯	不明	79	雨兼池西古墳	古墳	140	八代山C古窯	中世
19	ハンヤ古窯	13世紀	80	山口古窯群	不明	141	西定保根B古窯群	古代～中世
20	吉田第1号窯	12世紀	81	大高山古窯	不明	142	箕手D古窯	中世
21	吉田第2号窯	12世紀	82	籠染第3号窯	中世	143	箕手E古窯群	中世
22	律粉古窯	13世紀	83	円通寺経塚	江戸中期	144	上東山A古窯	中世
23	籠染第1号窯	13世紀	84	大廻間古窯	中世	145	上東山B古窯	中世
24	籠染第2号窯	不明	85	みどり公園古窯	中世	146	立合池東古窯群	中世
25	大日古窯	不明	86	高根山西古窯	中世	147	立合池西A古窯群	中世
26	外輪第1号窯	不明	87	口無池西古窯	中世	148	立合池西B古窯群	中世
27	外輪第2号窯	不明	88	北崎大池北古窯	平安	149	古井戸B古窯	中世
28	外輪第3号窯	不明	89	箕手A古窯	中世	150	脇ノ畑A古窯	中世
29	外輪第4号窯	不明	90	箕手B古窯	中世	151	脇ノ畑B古窯	中世
30	骨田末古窯	12世紀	91	ガンジ山A古窯群	13世紀	152	脇ノ畑C古窯	中世
31	吉川城跡	室町	92	律粉東古窯	中世	153	馬池東古窯	中世
32	横根城跡	戦国	93	上徳古窯群	中世	154	東端B古窯	中世
33	追分城跡	室町	94	丸根城跡	不明	155	毛分田A古窯	中世
34	石ヶ瀬古戰場跡	室町	95	大深田古窯	12世紀	156	毛分田B古窯	中世
35	大清水井戸跡	室町	96	荒池古窯群	中世	157	家下古窯	中世
36	おしも井戸跡	不明	97	砂原古窯	中世	158	上家下古窯	中世
37	芦沢井戸跡	中世	98	木根A古窯群	中世	159	車池A古窯	中世
38	福池古窯	中世	99	木根B古窯群	中世	160	車池B古窯	中世
39	大根古窯	中世	100	久分古窯	中世	161	森東古窯	中世
40	高根山古窯群	中世	101	瀬戸B古窯群	中世	162	前田A古窯	中世
41	梶田古窯	中世	102	奥谷古窯	中世	163	前田B古窯	中世
42	別唄古窯群	中世	103	瀬戸A古窯	中世	164	前田C古窯	中世
43	権兵衛池古窯	中世	104	北山古窯	中世	165	森前古窯	中世
44	名高山古窯群	中世	105	石原古窯群	中世	166	骨田池南古窯	中世
45	立根A古窯群	中世	106	長草城跡	不明	167	深廻間C古窯群	中世
46	廻間A古窯群	中世	107	長根山B古窯	中世	168	子安古窯	古代～中世
47	柵山A古窯群	中世	108	普門寺遺跡	中世	169	上田ノ松古窯	中世
48	石ヶ瀬古窯	中世	109	寺田遺跡	中世	170	瀬戸C古窯群	中世
49	江端古窯	中世	110	大高山西古窯群	中世	171	中村遺跡	古代～中世
50	延命寺貝塚	不明	111	影清屋敷跡	不明	172	ウドA古窯	古代
51	割木A古窯群	中世	112	外輪南古窯	中世	173	ウドB古窯	古代
52	東端古窯	中世	113	炭焼遺跡	中世	174	森岡平子古窯	中世
53	才田A古窯	中世	114	上り戸古窯	中世	175	笹山古窯	中世
54	才田B古窯	中世	115	井田古窯群	中世	176	木根C古窯	中世
55	山手A古窯	不明	116	池之分古窯	不明	177	西忍場古窯	中世
56	山手B古窯	不明	117	山中遺跡	古代～中世	178	名高遺跡	古代～中世
57	羽根山古窯群	中世	118	兒子廻間A遺跡	古代	179	平子B古窯	中世
58	神明古窯群	平安末期	119	兒子廻間B遺跡	古代	180	山ノ井古窯	中世
59	海陸庵古窯群	鎌倉中期	120	下入道子窯	中世	181	名高石丸古窯	中世
60	円通寺古墓	近世	121	坊主山A古窯群	中世			
61	上入道古窯	中世	122	井田B古窯	中世			

第1表 大府市遺跡一覧表

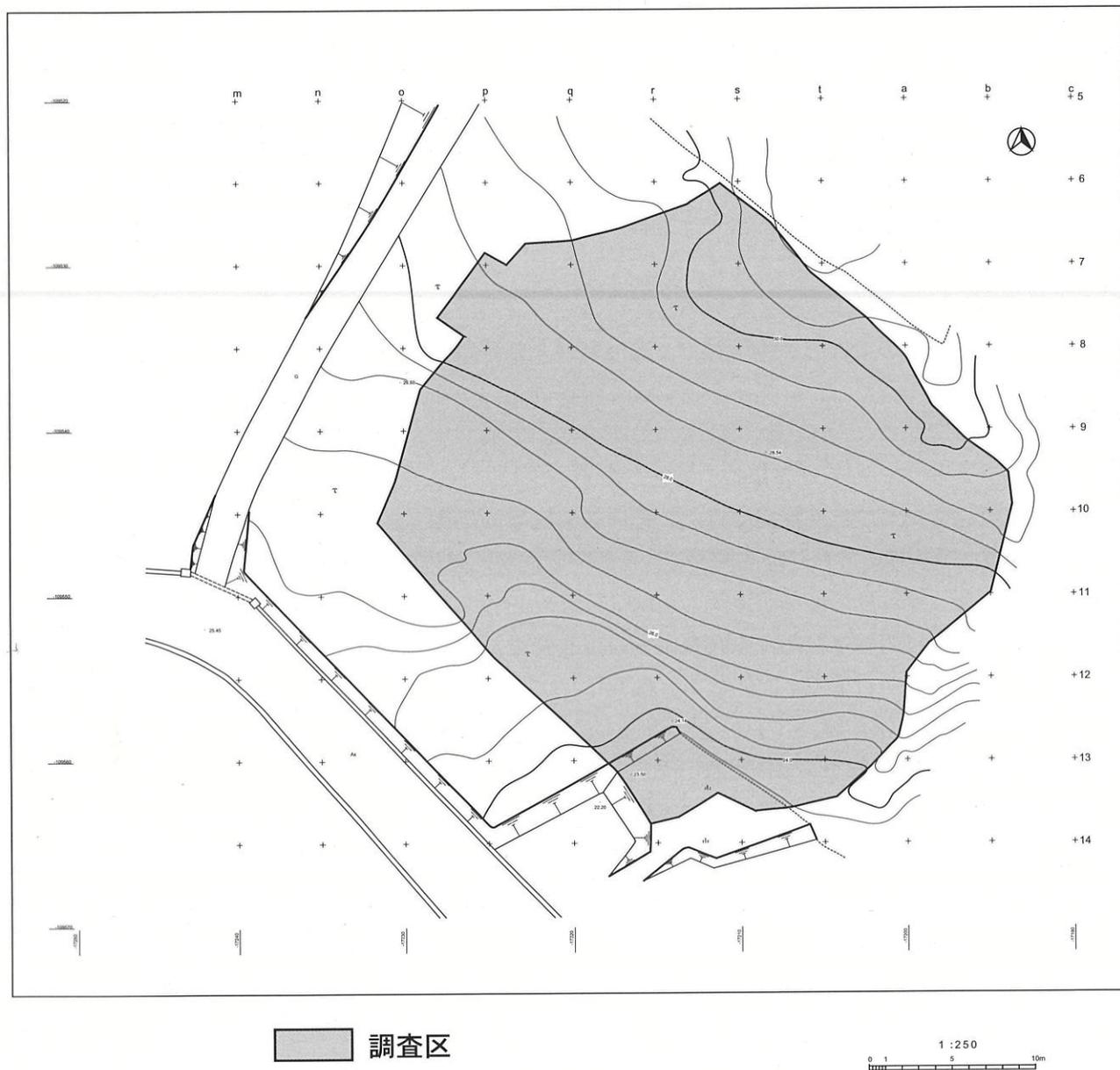
第3節 発掘調査に至る経緯と調査経過等

愛知県の中核に位置する名古屋市に南接する大府市は、名古屋駅前や金山地区・栄地区などの中心部への交通アクセスの至便さから各地で住宅や工場建設、企業立地や店舗進出が旺盛で、田園が広がる昭和期の風景から様変わりした。JR大府駅や共和駅に近接した畑や雑木林は大規模な区画整理事業の対象とされ、風景が一変している。そのひとつに、大府羽根山土地区画整理事業がある。この事業が計画された頃、市区画整理課から予定地内での遺跡所在の有無の照会があり、平成9年7月に大府市歴史民俗資料館では事業予定地内での遺跡の踏査を行い、古窯跡と古代の土器が採取できる場所、中世山茶碗が拾える場所数か所を発見した。そのうち、確実に遺跡が眠ると思われる場所があり、そこを字名を冠して「羽根山古窯」と命名した。この古窯跡はごく一部関係者のみが知る隠れた遺跡であった。この古窯跡の大部分は雑木林で、道沿いの一部分が畑の中となっていて、そこに陶器片や遺物が密集している場所だった。雑木が覆い茂る現場の状況から、にわかに遺跡の規模や正確な位置を表面の状況のみで知ることは困難を極めた。そのため平成9年3月26日に遺跡の範囲確認調査を実施。トレンチ3本(A~C)を設定し、掘削した。いずれのトレンチからも焼成品の破片が検出でき、その場所が灰原であることが推測できた。その結果灰原の位置と表土から深さの情報が得られた。よって遺跡の位置や規模をおおむね把握することができたが、窯体の場所をつかむことができなかった。それも遺跡を覆う雑木林の存在が遺跡の正確な位置を知るすべを阻んでいた。そんな確信が持てない状況で本発掘調査は開始された。本調査は大府市教育委員会が羽根山古窯発掘調査会に委託して、平成10年11月4日から準備が開始され、撤収は平成11年4月30日までで、半年間の時間がかかった。遺構の残存状況が極めて良好だったため、調査面積は約1000㎡を予定したが、最終的に約1200㎡に広がり時間を要する一因となった。

表土剥ぎ開始前に遺跡を覆う雑木林の伐採が必要で、その作業を11月5日からはじめ、翌日には完了。その後樹木の運び出しが13日までの時間を要した。16日からと抜根作業と平行して調査区の設定を行い、25日から表土剥ぎに取り掛かる。終了した12月3日に国土座標に従ったグリッド杭(5m×5m)の設定を行う。準備が整った12月10日から掘削作業に移行した。最初は窯体検出に全力を集中し、5基を検出し、その後灰原のエリアの検出に移行し、調査区設定を終える。最初は窯内から掘削を行い、窯体が完了した後、灰原の検出へ移った。4月9日にはラジコンヘリでの空撮を終え、翌10日に熱残留磁気測定のスAMPLINGを富山大学広岡教授グループ(当時)に依頼して実施。スAMPLING後、窯の床面下調査へ進んだ。遺構の確認とその図化および撮影などのすべての作業を終えたのは、4月30日であった。5月18日には現場で保管していた全ての土器を歴史民俗資料館へ搬入した。

出土品の洗浄は、発掘調査中に本調査と平行して実施し、残った部分は平成11年11月15日から翌12年2月29日まで大府市シルバー人材センターへ委託して実施した。出土品整理(マーキング・接合など)は平成13年度に行い、平成14年度は遺物の実測図化を中心に作業を進めた。手書き図面の図化は随時行い、資料整理や必要な情報が整った21年度から編集作業を開始した。

なお、平成13年2月から3月にかけて、灰原での遺物採取とその位置を測量する追加調査と図面修正のため追加測量を実施した。



第7図 調査前地形図

調査日誌抄

- 平成10年11月4日 作業用コンテナ設置
11月5日 立木伐採開始
11月9日 作業道具搬入
11月16日 抜根作業開始、調査区設定
11月19日 窯体3基発見
11月20日 さらに窯体2基発見し、計5基となる。
11月25日 表土剥ぎ開始
12月3日 グリッド杭設定
12月5日 5号窯から調査開始
平成11年 3月8日 窯内完掘および灰原掘削開始
4月10日 熱残留磁気測定サンプリング
4月12日 窯体断割作業開始
4月30日 全調査完了
5月18日 現場撤収
平成13年 2月11日 追加調査（灰原最終面から土器採取）
2月20日 追加調査（須恵器出土位置測量および取上げ）
3月23日 追加測量（図面修正のため）



写真1 調査前風景



写真2 調査区近景（上空から）



写真3 作業風景1



写真4 作業風景2

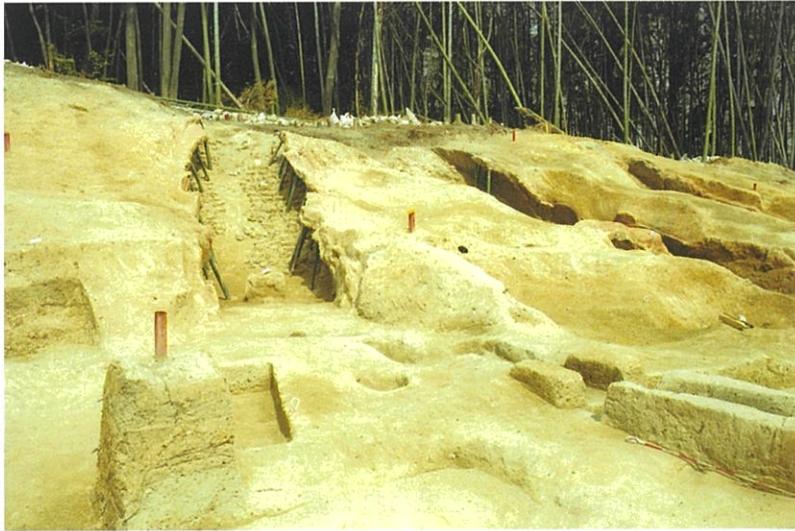
文 書 名	文書番号	日 付
土木工事届出(文化財保護法57条の2)区画整理組合	文書番号なし	平成10年11月16日
土木工事受理通知(県教委)	10教文第62-388号	平成10年11月20日
発掘調査届出(文化財保護法98条の2)市教委	大教生発第134-1号	平成10年11月25日
発掘調査受理通知(県教委)	10教文第62-59号	平成10年12月25日

第2表 文書一覧

年 度	内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成9年度	試掘・範囲確認調査												●
平成10年度	本調査								←————→				
平成11年度	本調査	↔											
平成13年度	出土品整理	←————→											
平成14年度	実測図化作業	←————→											
平成20年度	報告書編集	←————→											
平成21年度	報告書編集刊行	————→											●刊行

第3表 調査工程表

第 2 章 遺 構



第1節 窯体について

概要

羽根山古窯跡群は南西から北東へかけて傾斜する丘陵の、主にシルト層に築窯されていた。窯体は5基を検出した。各窯の間隔は均等ではなく、焚口の位置もバラバラであった。ただ、3号窯と4号窯は焚口の位置は揃っていた。1号窯と2号窯は6.5mの間隔があり、2号窯と3号窯は4m、3号窯と4号窯は2m、4号窯と5号窯は2.5mであった。1号窯と2号窯から5号窯までを一塊とみることもできよう。形態は傾斜を利用して、地中に穴を掘りぬいた窯で窖窯と呼ばれるものである。1号窯と5号窯は焼成室の上部から煙道部までが欠損していたが、それ以外は概ね残存していた。

灰原は焚口より下に広がって形成され、左右にピットを伴っている窯もあった。特に2号窯と3号窯関連と想定される灰原部分には遺物と灰が厚く堆積した層が確認された。全体として、窯体の遺存状況や、前庭部から灰原にかけての残存状態は良好であった。

1号窯

調査区の北端で本窯を検出した。焼成室上部は理由が不明であるが、焼成室部分が北東のラインで斜めに欠損していた。部分としては窯体の最上部である煙出しや火炎調節棒（ダンパー）付近にかけてである。だが、分焰柱とその近くの焼成室および燃焼室はよく残っていた。ただ分焰柱はすでに削られたか壊されたかで根元から30cm程度しか残ってなかった。窯体全体の残存長は、約6.70mである。窯体は焚口を北東に向けて築窯されており、窯体の主軸方位はS-46°-E、標高は約28m～30mで、比高は1.8mあった。焚口の幅は1.2mを測り、焚口から燃焼室までの遺存状態は良好である。壁面は左右とも残存していたが、脆弱だった。焼成室部分の床面に焼台が残っていたが、窯内の埋土や床面に残っていた遺物はごくわずかであった。

<燃焼室>

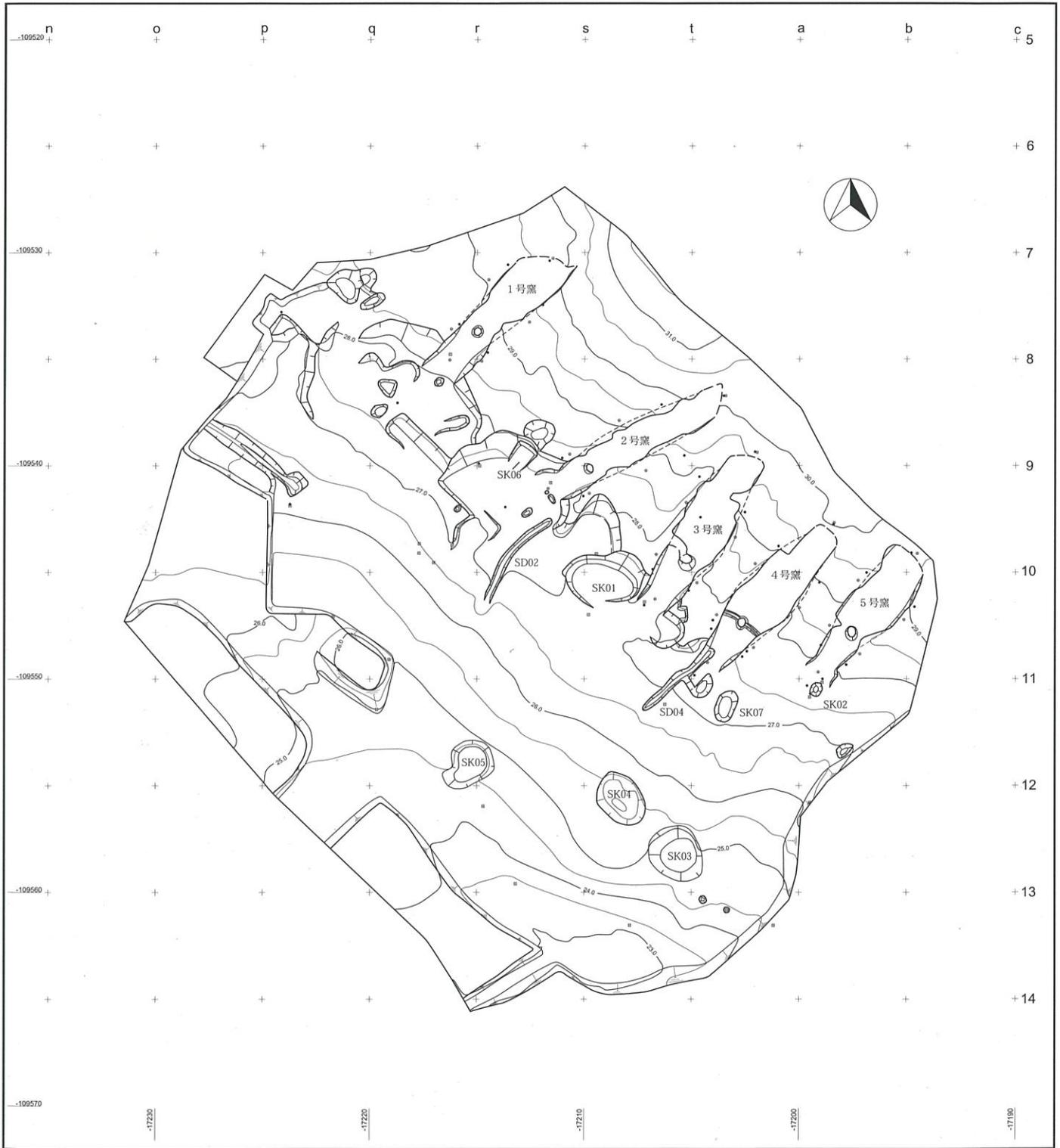
規模は分焰柱基部で幅1.8m、長さが分焰柱基部までで1.4mである。床面の傾斜は、焚口から分焰柱までの2mほど平坦で傾斜はない。そこから分焰柱を超えて20cmの地点から13°の傾斜でわずかに上昇し、さらにその地点から80cmの地点から30°の傾斜を有する。分焰柱と主軸とが直交する部分の床面に焼成室とを分ける目的で作られたと思われる壁らしき跡が確認できた。床面は暗黒褐色でよく焼き締まっていた。

<分焰柱・通焰孔>

平面的にはほぼ円形を呈している。高さは床面から約20cmまでが残存し、基底部の奥行きは約60cm、幅は50cmである。地山を掘り残した部分を基礎にした分焰柱である。全体の1/3程度が姿を留めていた。分焰柱もわずかで、天井部も無いので通焰孔の様子はわからない。

<焼成室>

分焰柱基部と煙道部を結ぶセンターライン上での規模は残存長5.3m・最大幅2.5mである。



第8図 遺構配置図

壁面は最大高70cmを測る。焼台や遺物が残っていなかったため、全て窯から出した後の状態と考えられる。床面の傾斜は、分焰柱基部から約20cmの地点までわずかな傾斜でほぼ平坦で推移し、そこから80cmの地点までは13°で緩やかに上昇する。そこから残存部分の末端までは26°の傾斜で上昇する。

<床下>

床面の断割調査を行ったところ、床面下に碗（山茶碗）が伏せられた状態、あるいは横にして敷き詰められた、いわゆる床面下施設は検出されなかった。硬化した床面は1面しか検出できなかった。床面（＝最終焼成面）以下は9層確認できたが、最終床面の上から灰黄色シルト層・にぶい黄色シルト層・黄褐色シルト・黒色シルト・暗褐色シルト・にぶい黄褐色シルト・にぶい黄橙色シルト、地山の層へと続いていた。



写真5 1号窯埋土横セクション（南西から）



写真6 1号窯埋土縦セクション（北から）



写真7 1号窯窯体完掘状況（南西から）



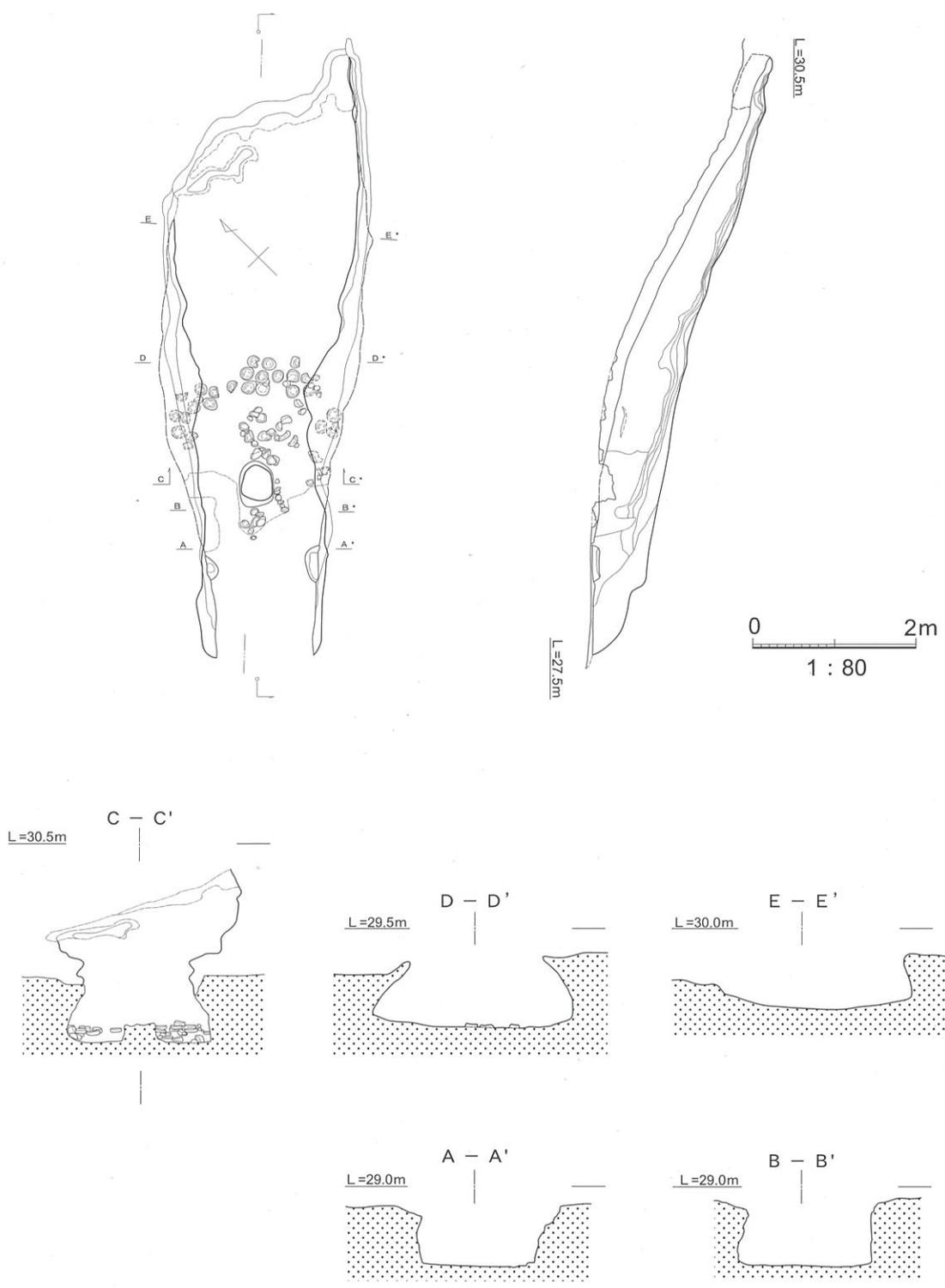
写真8 1号窯窯体完掘状況（北東から）



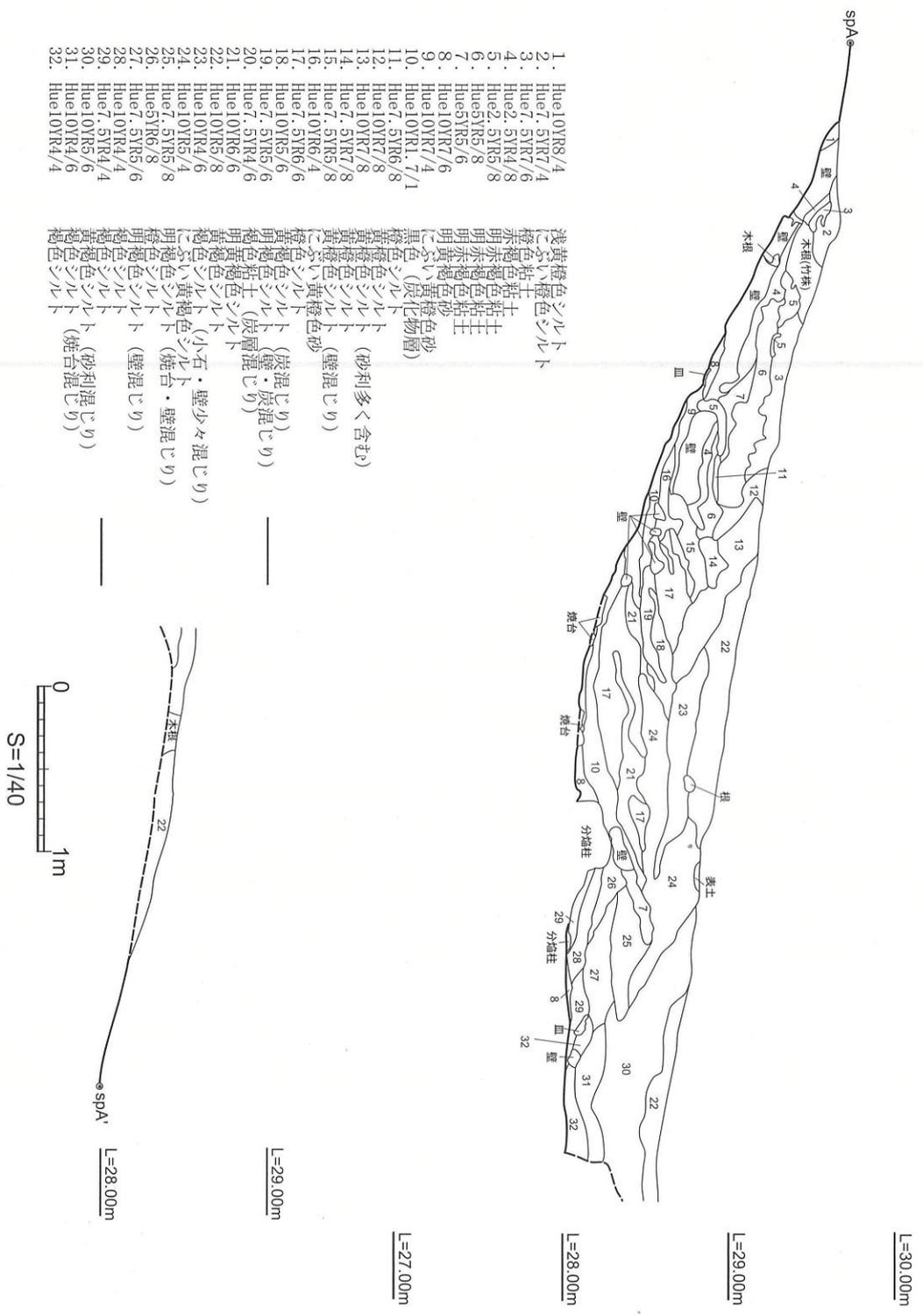
写真9 1号窯窯体断割状況（西から）



写真10 1号窯窯体断割状況（南西から）

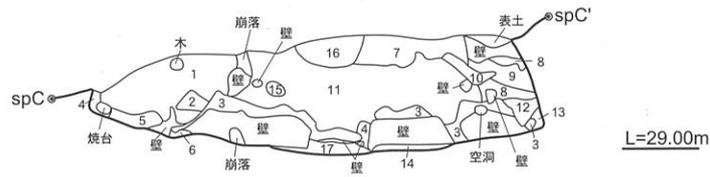


第9图 1号窑体实测图



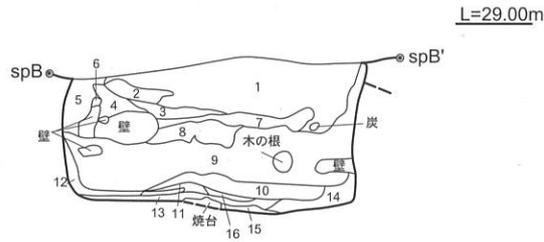
第10図 1号窆埋土縦バルト実測図

横ベルト2

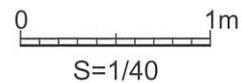
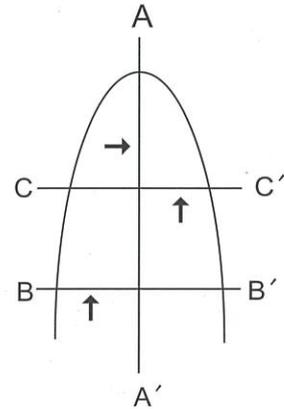


- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. Hue7.5YR7/6 | 橙色シルト (壁含む) |
| 2. Hue2.5YR8/4 | 淡黄色シルト |
| 3. Hue10R4/8 | 赤色シルト |
| 4. Hue7.5YR6/6 | 橙色シルト |
| 5. Hue5YR7/8 | 橙色シルト |
| 6. Hue10YR4/6 | 褐色砂 |
| 7. Hue2.5Y8/6 | 黄色シルト |
| 8. Hue5YR7/6 | 橙色シルト |
| 9. Hue2.5YR6/8 | 橙色シルト |
| 10. Hue7.5YR7/8 | 黄褐色シルト (炭化物含む) |
| 11. Hue7.5YR6/8 | 橙色シルト |
| 12. Hue10YR6/8 | 明黄褐色シルト |
| 13. Hue5YR5/8 | 明赤褐色シルト |
| 14. Hue2.5Y5/3 | 黄褐色砂 |
| 15. Hue2.5YR4/8 | 赤褐色粘土 |
| 16. Hue7.5YR5/6 | 明褐色シルト (小石混じり) |
| 17. Hue10YR7/4 | にぶい黄橙色砂 |

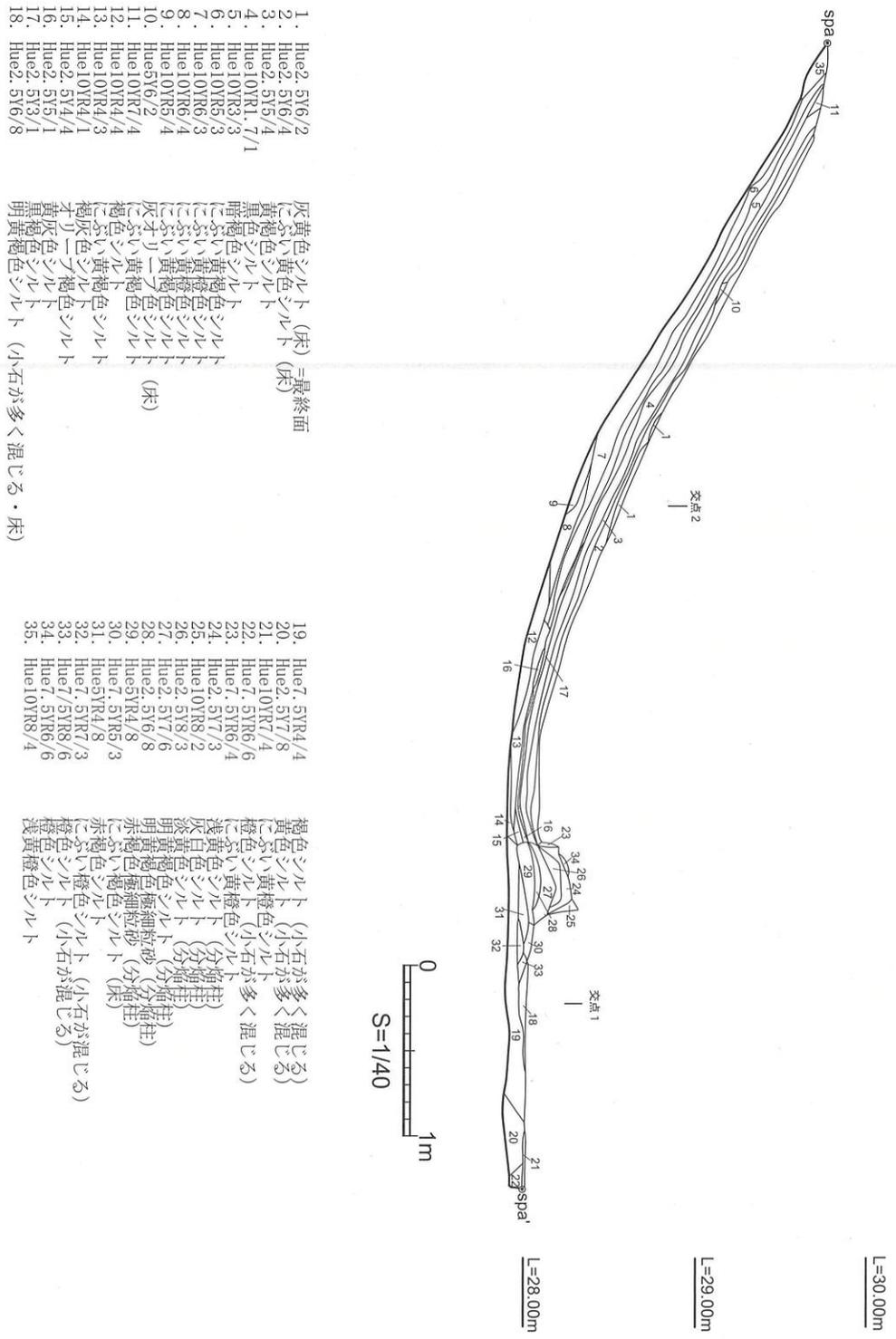
横ベルト1



- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. Hue10YR7/8 | 黄褐色シルト (壁の破片少々混じり) |
| 2. Hue10YR5/4 | にぶい黄褐色シルト (炭化物含む) |
| 3. Hue10YR5/8 | にぶい黄褐色シルト |
| 4. Hue7.5YR5/8 | 明褐色シルト |
| 5. Hue7.5YR5/6 | 明褐色シルト |
| 6. Hue7.5YR6/6 | 橙色シルト |
| 7. Hue5YR5/6 | 明赤褐色シルト (炭化物含む) |
| 8. Hue5YR5/8 | 明赤褐色シルト |
| 9. Hue5YR6/8 | 橙色シルト |
| 10. Hue10YR6/6 | 明黄褐色シルト |
| 11. Hue7.5YR4/4 | 褐色シルト |
| 12. Hue10YR6/4 | にぶい黄橙色シルト |
| 13. Hue2.5Y5/6 | 黄褐色シルト |
| 14. Hue7.5YR6/8 | 橙色シルト |
| 15. Hue10YR5/6 | 黄褐色シルト |
| 16. Hue5YR4/8 | 赤褐色粘土 |



第11図 1号窯埋土横ベルト実測図

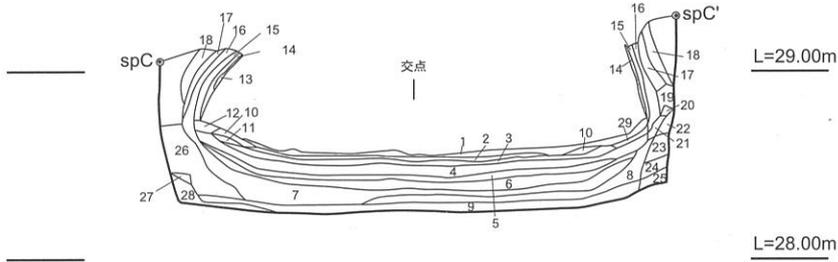


- 1. Hue2. 5Y6/2 シルト (床) =最終面
- 2. Hue2. 5Y6/4 灰色シルト
- 3. Hue2. 5Y5/4 黄褐色シルト
- 4. Hue10YR1 7/1 暗褐色シルト
- 5. Hue10YR3/3 黄褐色シルト
- 6. Hue10YR5/3 黄褐色シルト
- 7. Hue10YR6/3 黄褐色シルト
- 8. Hue10YR6/4 黄褐色シルト
- 9. Hue10YR5/4 黄褐色シルト
- 10. Hue5Y6/2 灰赤い黄褐色シルト
- 11. Hue10YR7/4 赤い黄褐色シルト
- 12. Hue10YR4/4 褐色シルト
- 13. Hue10YR4/3 褐色シルト
- 14. Hue10YR4/1 褐色シルト
- 15. Hue2. 5Y4/4 黄褐色シルト
- 16. Hue2. 5Y5/1 黄褐色シルト
- 17. Hue2. 5Y3/1 黄褐色シルト
- 18. Hue2. 5Y6/8 黄褐色シルト

- 19. Hue7. 5YR4/4 シルト (床) (小石が多く混じる)
- 20. Hue2. 5Y7/8 黄褐色シルト (小石が多く混じる)
- 21. Hue10YR7/4 黄褐色シルト (小石が多く混じる)
- 22. Hue7. 5YR6/6 黄褐色シルト (小石が多く混じる)
- 23. Hue2. 5Y7/3 黄褐色シルト (分極柱)
- 24. Hue2. 5Y7/3 黄褐色シルト (分極柱)
- 25. Hue10YR8/2 黄褐色シルト (分極柱)
- 26. Hue2. 5Y8/3 黄褐色シルト (分極柱)
- 27. Hue2. 5Y7/6 黄褐色シルト (分極柱)
- 28. Hue2. 5Y6/8 黄褐色シルト (分極柱)
- 29. Hue5YR4/8 黄褐色シルト (分極柱)
- 30. Hue7. 5YR5/3 黄褐色シルト (分極柱)
- 31. Hue5YR4/8 黄褐色シルト (分極柱)
- 32. Hue7. 5YR7/3 黄褐色シルト (分極柱)
- 33. Hue7. 5YR8/6 黄褐色シルト (分極柱)
- 34. Hue7. 5YR6/6 黄褐色シルト (分極柱)
- 35. Hue10YR8/4 黄褐色シルト (分極柱)

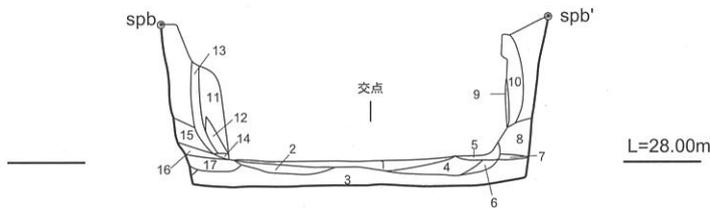
第12図 1号窯床面断割縦ベルト実測図

横ベルト2

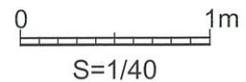
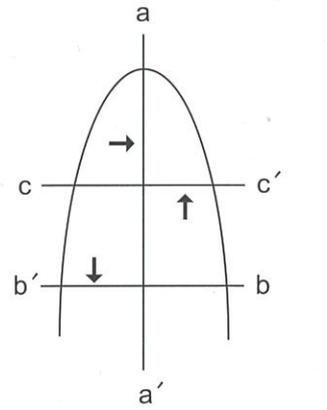


- | | | | |
|------------------|-----------------|------------------|----------------|
| 1. Hue2. 5Y6/2 | 灰黄色シルト (床) =最終面 | 16. Hue10YR6/8 | 明黄褐色シルト (壁) |
| 2. Hue2. 5Y6/4 | にぶい黄色シルト (床) | 17. Hue7. 5YR5/6 | 明褐色シルト (壁) |
| 3. Hue2. 5Y5/4 | 黄褐色シルト | 18. Hue7. 5YR5/8 | 明褐色シルト (壁) |
| 4. Hue10YR1. 7/1 | 黒色シルト | 19. Hue7. 5YR8/6 | 浅黄色粘土 |
| 5. Hue10YR3/3 | 暗褐色シルト | 20. Hue2. 5YR5/8 | 明赤褐色シルト |
| 6. Hue10YR5/3 | にぶい黄褐色シルト | 21. Hue7. 5YR7/6 | 橙色シルト |
| 7. Hue10YR6/3 | にぶい黄褐色シルト | 22. Hue7. 5YR8/8 | 橙色シルト (地山) |
| 8. Hue10YR6/4 | にぶい黄褐色シルト | 23. Hue10YR8/6 | 黄褐色シルト (地山) |
| 9. Hue10YR5/4 | にぶい黄褐色シルト | 24. Hue10YR6/8 | 橙色細粒砂 (地山) |
| 10. Hue2. 5Y5/4 | 黄褐色シルト | 25. Hue7. 5YR8/3 | 浅黄褐色細粒砂 (地山) |
| 11. Hue2. 5Y7/3 | 浅黄色シルト | 26. Hue10YR8/2 | 灰白色細粒砂 (地山) |
| 12. Hue5Y6/2 | 灰オリーブシルト (床) | 27. Hue10YR7/3 | にぶい黄褐色細粒砂 (地山) |
| 13. Hue2. 5Y7/2 | 灰黄色シルト (壁) | 28. Hue10YR8/4 | 浅黄褐色細粒砂 (地山) |
| 14. Hue5Y6/1 | 灰色シルト (壁) | 29. Hue2. 5YR7/2 | 灰黄色シルト細粒砂 |
| 15. Hue5Y7/2 | 灰白色シルト (壁) | | |

横ベルト1



- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. Hue2. 5YR6/8 | 明黄褐色シルト (小石が多く混じる・床) |
| 2. Hue7. 5YR4/4 | 褐色シルト (小石が多く混じる) |
| 3. Hue7. 5YR6/4 | にぶい橙色シルト (小石が多く混じる) |
| 4. Hue2. 5Y6/4 | にぶい黄色シルト (小石が多く混じる) |
| 5. Hue2. 5Y6/3 | にぶい黄色シルト (掘り足りないか?) |
| 6. Hue7. 5YR5/6 | 明褐色シルト (小石が混じる) |
| 7. Hue7. 5YR6/6 | 橙色シルト (壁) |
| 8. Hue5YR5/4 | にぶい赤褐色シルト (壁) |
| 9. Hue10YR6/6 | 明黄褐色シルト (壁) |
| 10. Hue2. 5YR4/8 | 赤褐色シルト (壁) |
| 11. Hue5YR5/8 | 明赤褐色シルト (壁) |
| 12. Hue4. 5YR5/8 | 明褐色細粒砂 (壁) |
| 13. Hue5YR4/6 | 赤褐色シルト (壁) |
| 14. Hue5YR4/8 | 明赤褐色細粒砂 (壁) |
| 15. Hue5YR5/6 | 明赤褐色細粒砂 |
| 16. Hue10YR6/6 | 明黄褐色粘土 |
| 17. Hue7. 5YR7/6 | 橙色細粒砂 |



第13図 1号窠床面断割横ベルト実測図

2号窯

調査区の中央部において本窯を検出した。煙出部と焼成室最上部がわずかに失われていた。一方、分焰柱と燃焼室および焼成室天井部はよく残っていたが、調査の都合で天井部は削った。窯体全体の残存長は、約9mである。窯体は焚口を北東に向けて築窯されており、窯体の主軸方位はS-63°-E、標高は約28m~30mで、比高は2.7mあった。焚口の幅は2.2mを計測し、残存部分の状態は良好で、側壁は左右とも残存していた。焼成室部分には天井部が残存しており、窯内の高さは比較的lowかった。全体的に細長く、焼成室で幅が広がることもない形をしていた。焼成室部分の床面に焼台がほぼ全面的に残り、その配置から最終焼成時の様子を伝えていると感じられた。なお、第14図に描かれた窯平面図の中央部に焼台の空白が存在するが、これは調査の過程で意図的に取り除いたことによるもので、この部分にも焼台が整然と位置していた。

<燃焼室>

規模は分焰柱基部で幅1.7m、長さが分焰柱基部までで1.9mである。床面の傾斜は、焚口から分焰柱まで0°でほぼ水平、分焰柱基部付近がやや窪む程度である。側壁は焚口の右で約55cm、分焰柱の左で約50cmまでの高さが残存する。

<分焰柱>

平面的にはほぼ円形を呈している。完全な形で残存し、一部は碗にて補修されていた。地山を掘り残した部分を基礎にした分焰柱である。基底部の奥行きは約50cm、幅も約50cmである。残存していた高さは40cmを計測し、全体の1/3程度が姿を留めていた。分焰柱中央部での窯体の幅は1.7mであった。

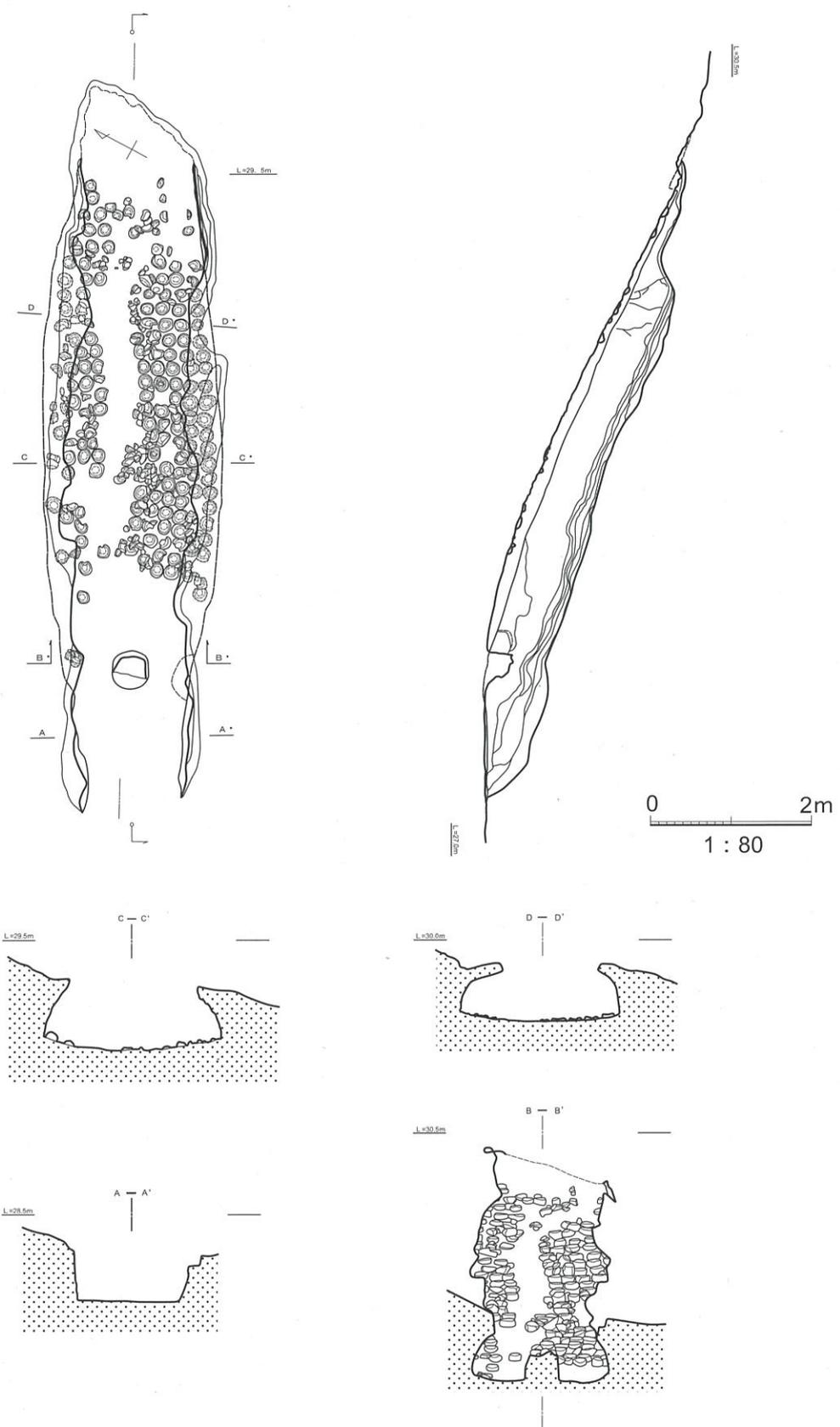
<焼成室>

長さは分焰柱基部と煙道部を結ぶセンターライン上で残存長7.1m・最大幅2.2mである。側壁は最大高50~55mを測る。床面の傾斜は、分焰柱基部あたりから残存部末端まで22°で緩やかに上昇する。室内は焼台が碗などの焼成品を取り出して、そのまま放置した状態で規則正しく床に据えられたままの状態であることから、最終焼成時の様子をとどめていたと判断した。

断割の結果からみると、床面は全体に硬化しており、床は何度か上から補修したようである。床面は約10cmの厚みがあり、最終面の下に別の床面が残されていた。

<床下>

床面の断割調査を実施したところ、いわゆる床面下施設は検出されなかった。硬化した床面は2面検出した。特に分焰柱周辺は約20cmの厚みを計測している。

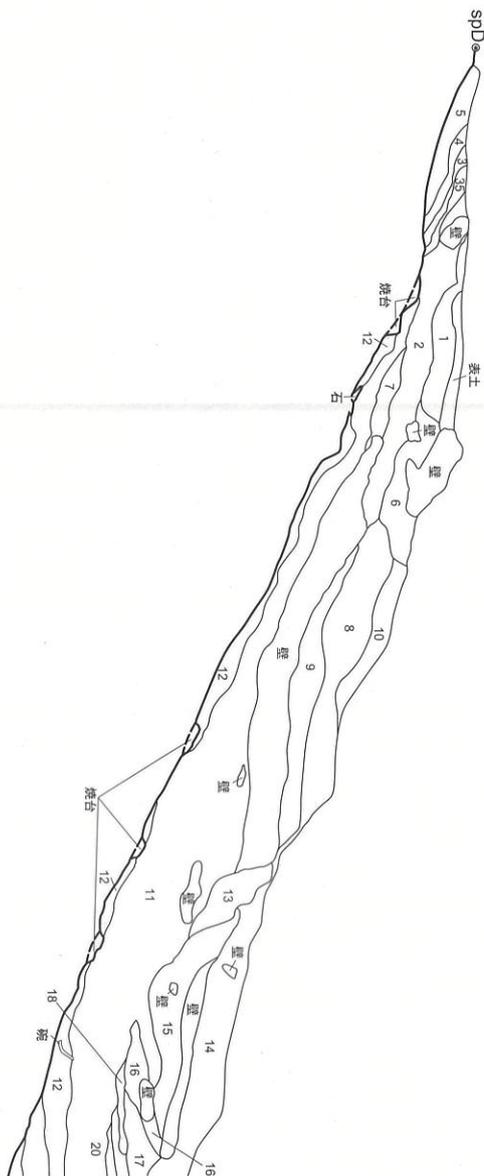


第14图 2号窠窠体实测图

- 1. Hae5YR7/6 棕色極細粒砂
- 2. Hae5YR6/8 棕色粗粒砂
- 3. Hae7.5YR7/8 黄褐色シルト (壁混じり)
- 4. Hae5Y2/1 黒色シルト
- 5. Hae10YR4/6 褐色シルト
- 6. Hae7.5YR8/4 浅黄褐色極細粒砂
- 7. Hae7.5YR6/8 棕色極細粒砂
- 8. Hae10YR6/4 に近い黄褐色シルト (小石混じり)
- 9. Hae2.5YR5/8 明赤褐色シルト
- 10. Hae7.5YR6/6 褐色シルト
- 11. Hae7.5YR5/8 明褐色シルト
- 12. Hae7.5YR5/6 明褐色シルト

- 13. Hae7.5Y8/3 浅黄褐色シルト
- 14. Hae5YR6/8 褐色シルト質砂 (小石混じり)
- 15. Hae5YR5/8 明赤褐色シルト (壁片混じり)
- 16. Hae5YR5/6 明赤褐色シルト質砂
- 17. Hae7.5YR6/8 褐色シルト
- 18. Hae7.5YR6/6 褐色シルト
- 19. Hae5YR5/6 明赤褐色シルト質砂
- 20. Hae5YR5/8 明赤褐色シルト
- 21. Hae10YR5/8 明褐色シルト
- 22. Hae7.5YR5/6 明黄褐色シルト
- 23. Hae10YR6/8 明黄褐色シルト
- 24. Hae10YR6/6 明黄褐色シルト
- 25. Hae10YR7/6 明黄褐色シルト

- 26. Hae7.5YR6/8 褐色シルト
- 27. Hae7.5YR5/6 明褐色シルト
- 28. Hae10YR4/6 褐色シルト
- 29. Hae7.5YR5/8 明褐色シルト (壁混じり)
- 30. Hae7.5YR5/6 明褐色シルト (多量の遺物含む)
- 31. Hae10YR4/3 明褐色シルト
- 32. Hae7.5YR4/6 明赤褐色シルト
- 33. Hae5YR5/8 明褐色シルト (多量の壁・焼台含む)
- 34. Hae7.5YR4/6 褐色シルト
- 35. Hae2.5YR5/1 灰白色シルト 壁 (床)



L=30.00m

L=29.00m

L=28.00m

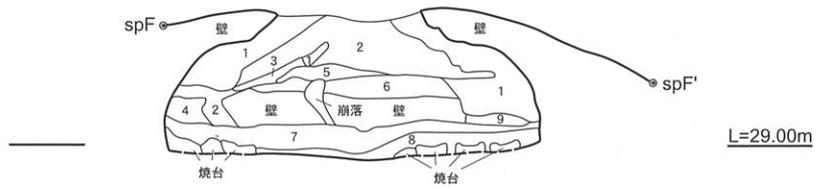
L=29.00m

L=28.00m

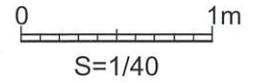


第15図 2号窯埋土縦ベルト実測図

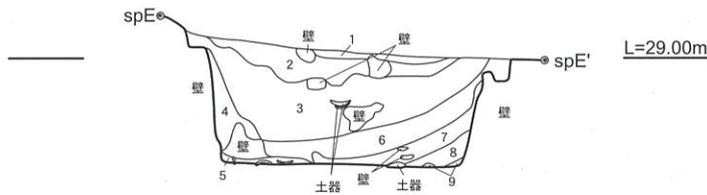
横ベルト 2



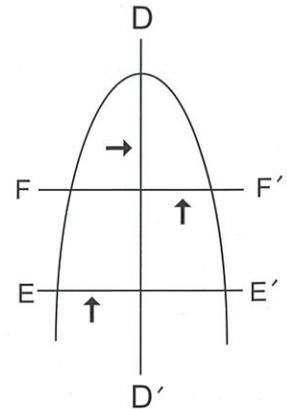
- | | |
|----------------|------------------|
| 1. Hue7.5YR6/6 | 橙色シルト (小石混じり) |
| 2. Hue10YR6/4 | にぶい黄橙色シルト |
| 3. Hue10YR6/4 | にぶい黄橙色シルト (小石の層) |
| 4. Hue7.5YR6/8 | 橙色砂質シルト |
| 5. Hue5YR8/4 | 淡橙色シルト |
| 6. Hue2.5YR5/8 | 明赤褐色シルト |
| 7. Hue7.5YR5/8 | 明褐色砂質シルト |
| 8. Hue10YR5/6 | 黄褐色シルト |
| 9. Hue7.5YR6/6 | 橙色シルト (大量の壁混じり) |



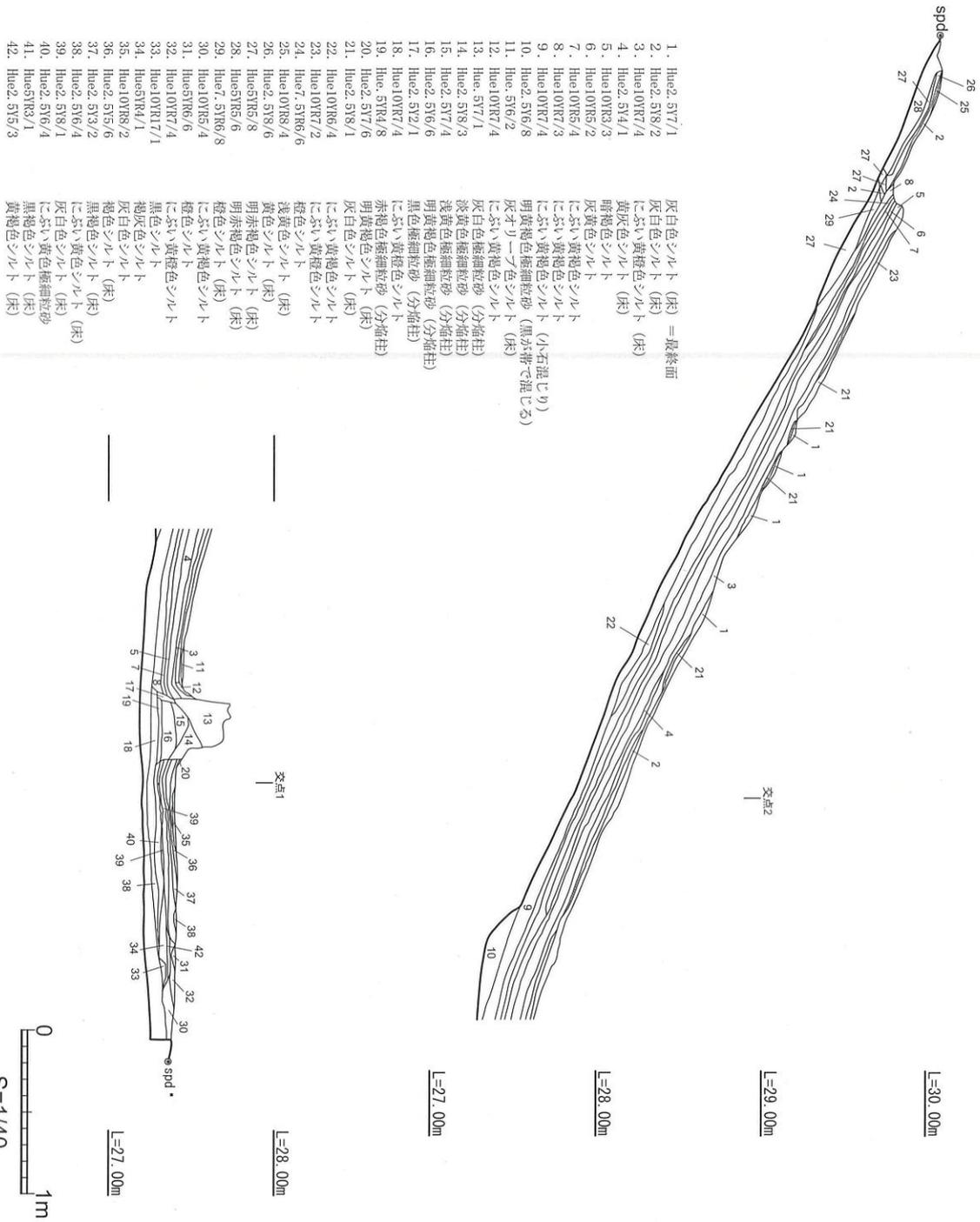
横ベルト 1



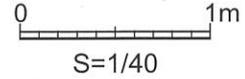
- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. Hue7.5YR8/6 | 浅黄橙色極細粒砂 |
| 2. Hue7.5YR6/8 | 橙色シルト (小石・壁混じり) |
| 3. Hue7.5YR5/6 | 明褐色シルト |
| 4. Hue7.5YR6/6 | 橙色シルト |
| 5. Hue10YR4/4 | 褐色シルト |
| 6. Hue10YR4/6 | 褐色シルト (炭化物混じり) |
| 7. Hue7.5YR5/8 | 明褐色シルト (壁混じり) |
| 8. Hue5YR5/8 | 明赤褐色シルト |
| 9. Hue10YR4/3 | にぶい黄色シルト (壁っぽい) |



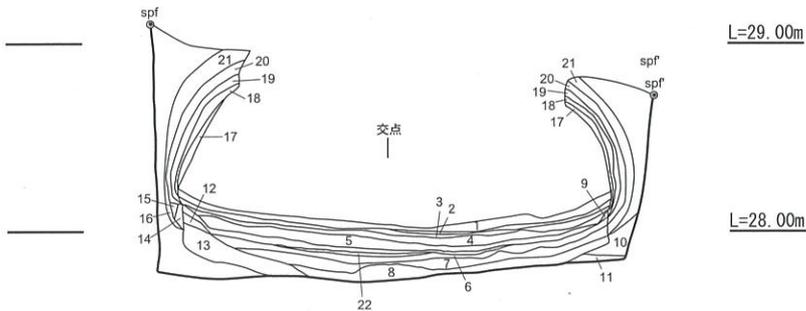
第16図 2号窯埋土横ベルト実測図



第17図 2号窯床面断割縦ベルト実測図

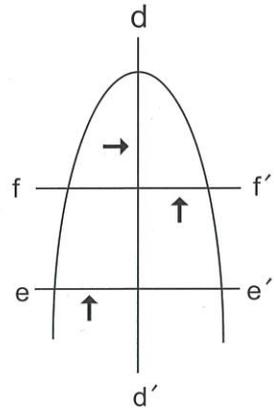
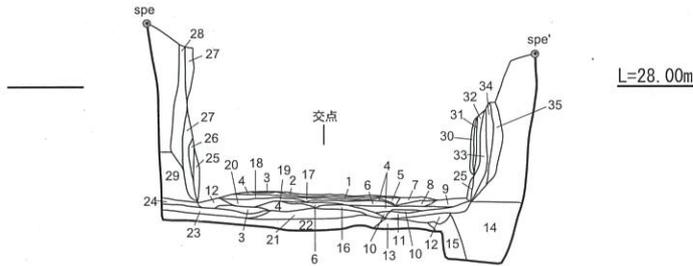


横ベルト 2



- | | | | |
|----------------|------------------|-----------------|--------------------------------|
| 1. Hue2. 5Y7/1 | 灰白色シルト (床) =最終面 | 14. Hue2. 5Y2/1 | 黒色シルト (壁で焼けている、
床を剥がした残骸か?) |
| 2. Hue2. 5Y8/2 | 灰白色シルト (床) | 15. Hue2. 5Y4/2 | 暗灰黄色シルト (壁で焼けている) |
| 3. Hue10YR7/4 | にぶい黄褐色シルト (床) | 16. Hue5YR5/8 | 明赤褐色シルト (壁で焼けている) |
| 4. Hue2. 5Y4/1 | 黄灰色シルト (床) | 17. Hue2. 5Y5/1 | 黄灰色シルト (壁) |
| 5. Hue10YR3/3 | 暗褐色シルト | 18. Hue5Y6/1 | 灰色シルト (壁) |
| 6. Hue10YR5/4 | にぶい黄褐色シルト | 19. Hue2. 5Y8/1 | 灰白色シルト (壁) |
| 7. Hue10YR7/3 | にぶい黄褐色シルト | 20. Hue2. 5Y8/6 | 黄色シルト (壁) |
| 8. Hue10YR7/4 | にぶい黄褐色シルト | 21. Hue5YR7/6 | 橙色シルト (壁) |
| 9. Hue10YR4/4 | 褐色シルト | 22. Hue10YR5/2 | 灰黄褐色シルト |
| 10. Hue10YR6/8 | 橙色シルト (粘土系) (地山) | | |
| 11. Hue10YR7/8 | 褐色シルト (地山) | | |
| 12. Hue10YR3/4 | 褐色シルト (床?) | | |
| 13. Hue10YR5/3 | にぶい黄褐色シルト | | |

横ベルト 1



- | | | | |
|------------------|----------------------------------------|------------------|-------------------|
| 1. Hue10YR8/2 | 灰白色シルト (床) =最終面 | 18. Hue10YR3/3 | 暗褐色シルト (床) |
| 2. Hue2. 5Y2/1 | 黒色シルト (床) | 19. Hue2. 5YR5/4 | 黄褐色シルト (床) |
| 3. Hue2. 5Y3/3 | 黒オリーブ褐色シルト (床) | 20. Hue10YR4/2 | 灰黄褐色シルト (床) |
| 4. Hue2. 5Y3/2 | 黒褐色シルト (床) | 21. Hue2. 5Y6/4 | にぶい黄色極細粒砂 (小石混じり) |
| 5. Hue2. 5Y5/6 | 黄褐色シルト (床) | 22. Hue5YR4/8 | 赤褐色極細粒砂 (小石混じり) |
| 6. Hue2. 5Y6/4 | にぶい黄色シルト (床) | 23. Hue5YR4/6 | 赤褐色極細粒砂 (小石混じり) |
| 7. Hue2. 5Y4/2 | 暗灰色シルト (床) | 24. Hue5Y7/1 | 灰白色粘土 |
| 8. Hue10YR5/4 | にぶい黄褐色シルト (床) | 25. Hue10YR6/6 | 明黄褐色シルト (掘り残し) |
| 9. Hue10YR6/4 | にぶい黄褐色シルト (床) | 26. Hue2. 5Y8/1 | 灰白色シルト (壁) |
| 10. Hue10YR3/4 | 褐色シルト | 27. Hue2. 5Y8/6 | 黄色シルト (壁) |
| 11. Hue10YR6/3 | にぶい黄褐色シルト | 28. Hue5YR7/6 | 橙色シルト (壁) |
| 12. Hue10YR4/6 | 褐色シルト | 29. Hue5YR5/8 | 明赤褐色細粒砂 |
| 13. Hue7. 5YR6/6 | 褐色シルト | 30. Hue2. 5Y8/2 | 灰白色シルト (壁) |
| 14. Hue7. 5YR5/8 | 明褐色シルト (7. 5YR3/1黒褐色シルト
が混じる。何かは不明) | 31. Hue2. 5Y6/8 | 明黄褐色シルト (壁) |
| 15. Hue10YR6/4 | にぶい黄褐色シルト (小石混じり) | 32. Hue2. 5Y8/1 | 灰白色シルト (壁) |
| 16. Hue2. 5Y8/1 | 灰白色シルト (床) | 33. Hue10YR5/6 | 黄褐色シルト (壁) |
| 17. Hue2. 5Y3/1 | 黒褐色シルト (床) | 34. Hue. 5YR6/6 | 褐色シルト (壁) |
| | | 35. Hue5YR7/8 | 橙色シルト (壁) |

第18図 2号窯床面断割横ベルト実測図



写真11 2号窯埋土横セクション（南西から）



写真12 2号窯埋土横セクション（南西から）



写真13 2号窯窯体掘削状況（南西から）

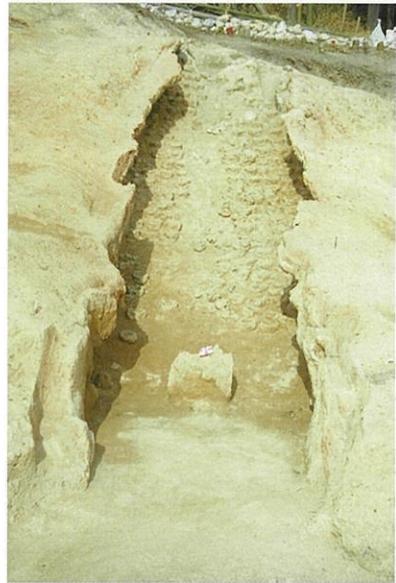


写真14 2号窯窯体完掘状況（南西から）



写真15 2号窯窯体断割状況（南西から）

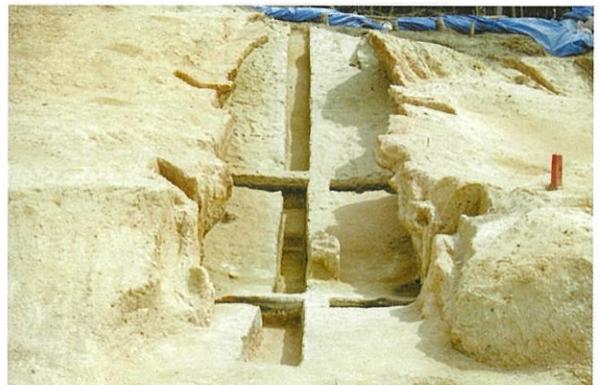


写真16 2号窯窯体断割状況（南西から）

3号窯

調査区の中央部において本窯を検出した。焼成室上部と煙出し部分は滅失していた。一方、燃烧室や分焰柱および焼成室の大部分はよく残っていた。また焼成室部天井は分焰柱から約30cmは維持していたし、分焰柱中心から約3.5mの地点での天井部のアーチが残存していた。窯体全体の残存長は、約8.4mである。窯体は焚口を北東に向けて築窯されており、窯体の主軸方位はS-35°-E、標高は約27.5m~29.5mで、比高は2.8mあった。焚口の幅は1.2mを測り、残存部分の状態は良好であった。壁面は左右とも残存していたが、土質が砂ないしは砂利が多いためか、被熱温度が低いためか北西側は脆かった。焼成室部分の床面には焼台が比較的多く残されていたが、中央部で取り除かれる一方で、不規則に全体に散らばっていた。

<燃烧室>

規模は分焰柱基部で幅2.1m、長さが焚口から分焰柱基部までで2.5mである。床面の傾斜は、焚口から分焰柱までは水平である。側壁は分焰柱の左右で高さ約50cmを計測した。床面には陶器片を含む焼土と炭化物の層が薄く広がっていた。燃烧室の床面は焼成室側よりやや低くなっていた。

<分焰柱>

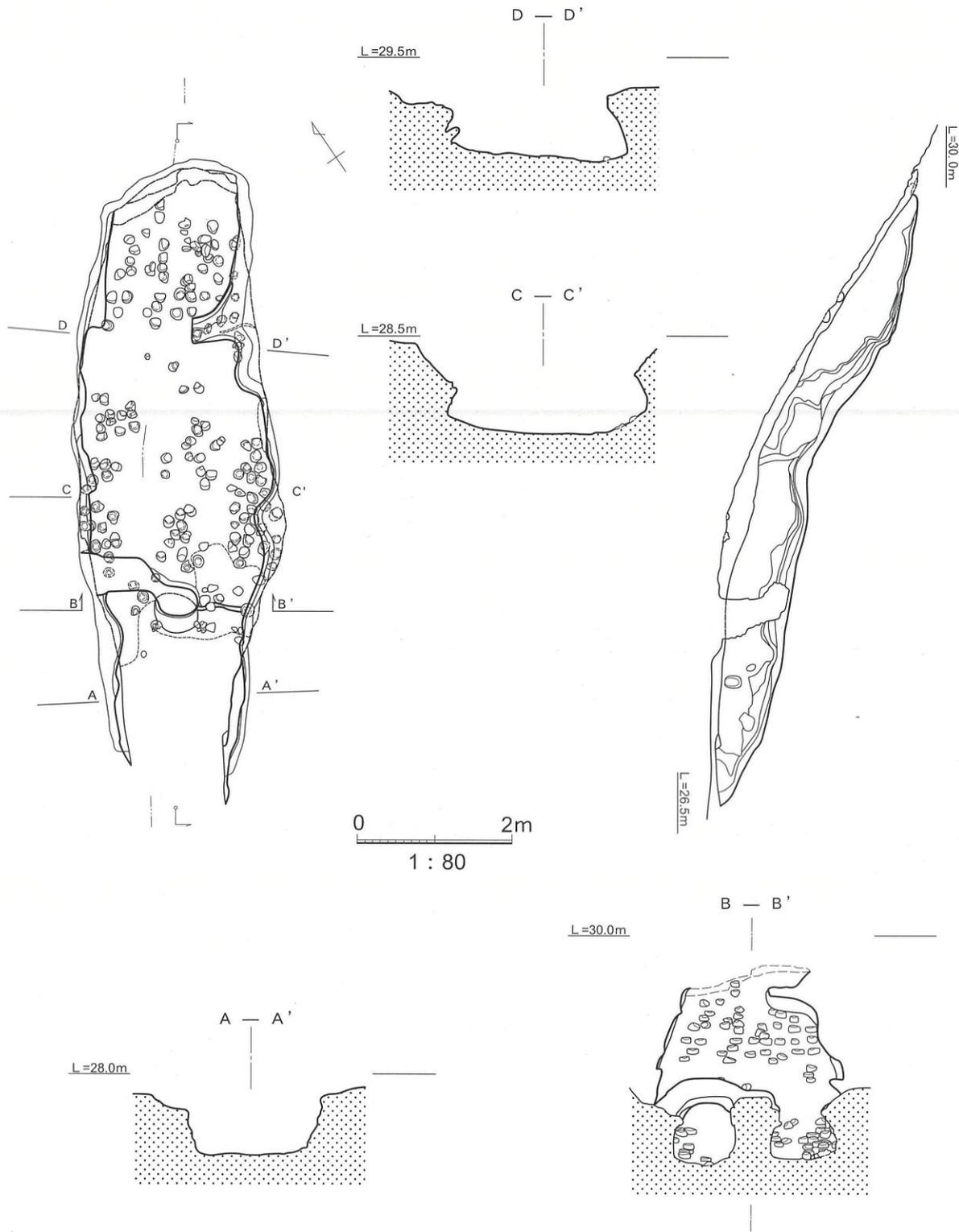
平面的には円形を呈し、基底部の奥行きは約50cm、幅も約50cmである。高さは80cmあり、北西側の天井部アーチが残り、分焰柱とアーチの関係がよく分かる状態であった。ベースは地山を掘り残した部分を基礎にしたものである。分焰柱の北東側の通焰孔には、燃烧室と焼成室の境を隔てるように“堤防”が施されていた。

<焼成室>

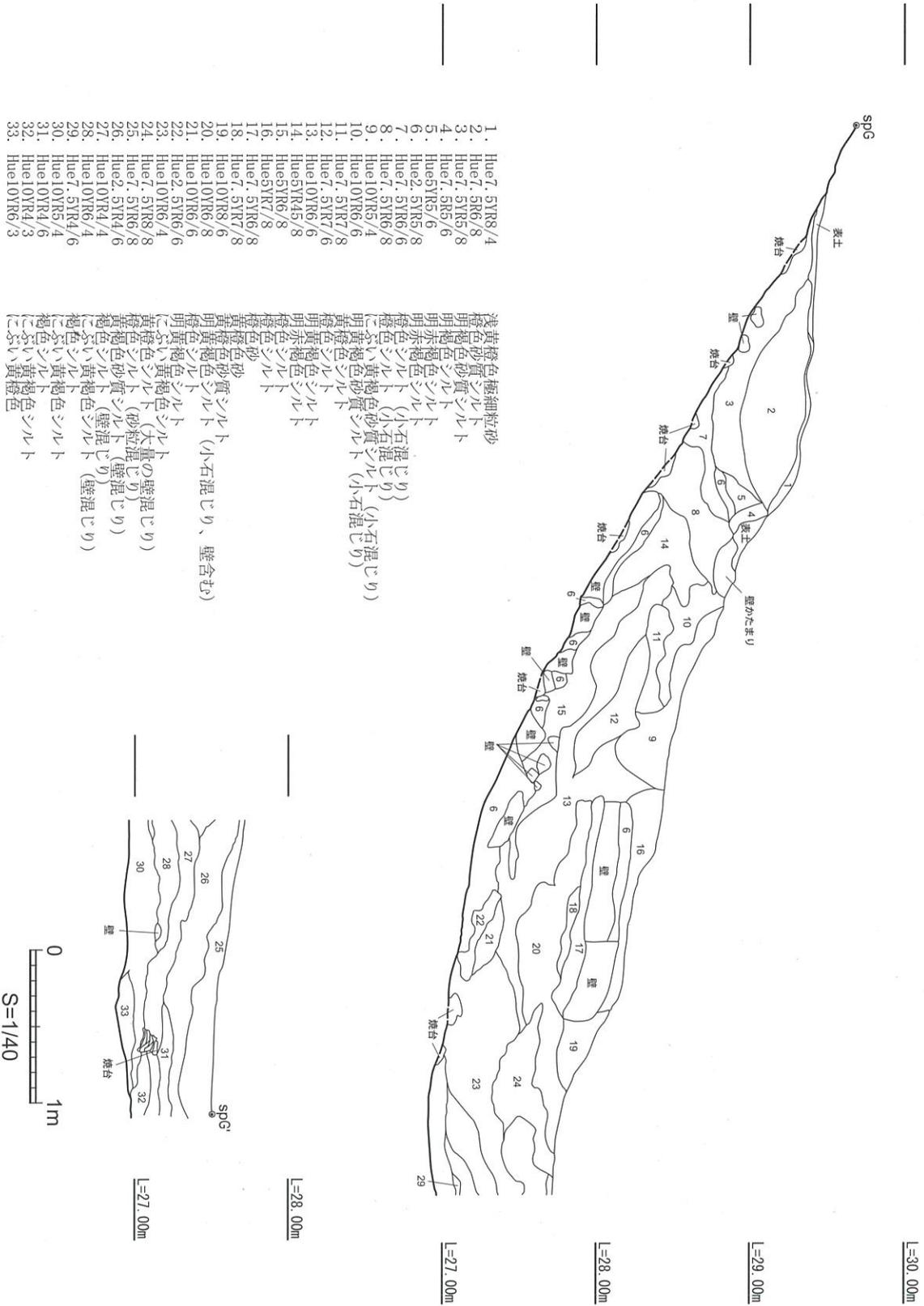
長さは分焰柱基部と煙道部を結ぶセンターライン上で残存長5.9m・最大幅2.7mである。側壁は最大高60cmを測る。床面の傾斜は、焚口から約4mの地点から残存部分の末端まで29°で上昇する。床面は全体に硬化の度合が低く、柔らかくもろかった。

<床面下施設>

床面の断割調査を行ったところ、床面下に碗（山茶碗）が伏せられた状態、あるいは横にして敷き詰めた施設と目される遺構が検出された。遺物は碗のみで93点を取り上げた。床面下施設の構築された平面的な位置は、分焰柱のまわりから焼成室東側にかけての範囲であった。ただ、伏せられてはいるが、全面または塊となって造られていない。伏せられた碗の下は、地山を掘り下げた状態のままであり、碗を伏せて並べて粘土を貼り付けた構造であった。碗や皿は単体のものと熔着したものが使用されており、伏せられた碗の大半は押しつぶされたようになっているので内部には何も詰められなかったと思われる。床面下施設の層位は黄橙色シルト層であり、粘土層の地山へと続いている。



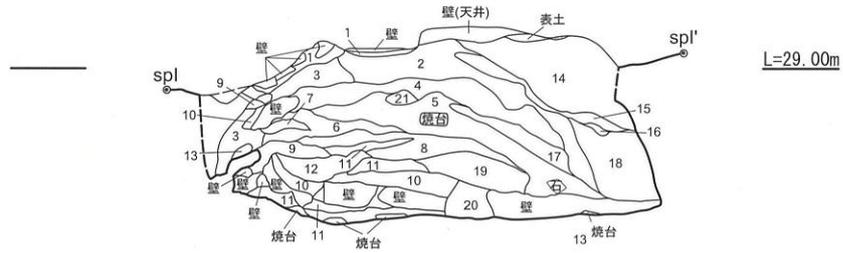
第19図 3号窟窠体实测图



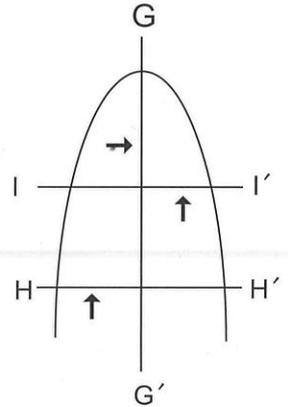
1. Hue7, 5YR8/4 褐色極細粒砂
2. Hue7, 5R6/8 褐色砂質シルト
3. Hue7, 5YR5/8 明褐色シルト
4. Hue7, 5R5/6 明赤褐色シルト
5. Hue5YR5/6 明赤褐色シルト
6. Hue2, 5YR5/8 褐色シルト(小石混じり)
7. Hue7, 5YR6/6 褐色シルト(小石混じり)
8. Hue7, 5YR6/8 褐色シルト(小石混じり)
9. Hue10YR5/4 明黄褐色シルト
10. Hue10YR6/6 黄褐色シルト
11. Hue7, 5YR7/8 明黄褐色シルト
12. Hue7, 5YR7/6 明黄褐色シルト
13. Hue10YR6/6 明赤褐色シルト
14. Hue5YR45/8 明赤褐色シルト
15. Hue5YR6/8 褐色砂質シルト
16. Hue5YR7/8 褐色砂質シルト
17. Hue7, 5YR6/8 黄褐色シルト
18. Hue7, 5YR7/8 黄褐色シルト
19. Hue10YR8/6 黄褐色シルト
20. Hue10YR8/8 黄褐色シルト
21. Hue10YR6/6 黄褐色シルト
22. Hue2, 5YR6/6 明黄褐色シルト
23. Hue10YR6/4 黄褐色シルト
24. Hue7, 5YR8/8 黄褐色シルト(大量の壁混じり)
25. Hue7, 5YR8/8 黄褐色シルト(砂粒混じり)
26. Hue2, 5YR6/8 黄褐色シルト(壁混じり)
27. Hue10YR4/4 黄褐色シルト(壁混じり)
28. Hue10YR6/4 黄褐色シルト(壁混じり)
29. Hue7, 5YR4/6 褐色シルト
30. Hue10YR5/4 褐色シルト
31. Hue10YR4/6 褐色シルト
32. Hue10YR4/3 褐色シルト
33. Hue10YR6/3 褐色シルト

第20図 3号窯埋土縦ベルト実測図

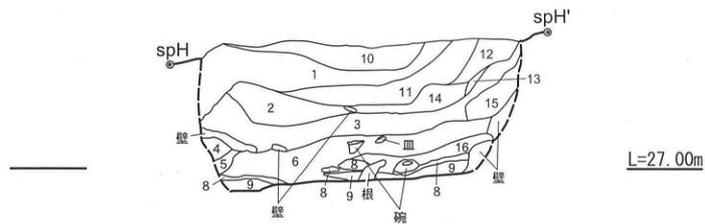
横ベルト2



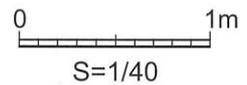
- | | |
|------------------|-------------------------------|
| 1. Hue7. 5YR7/8 | 黄褐色細粒砂 |
| 2. Hue7. 5YR5/6 | 明褐色シルト |
| 3. Hue7. 5YR6/6 | 橙色シルト |
| 4. Hue5YR5/8 | 明赤褐色シルト |
| 5. Hue5YR6/8 | 橙色シルト |
| 6. Hue7. 5YR5/8 | 明褐色シルト |
| 7. Hue7. 5YR7/6 | 橙色シルト |
| 8. Hue10YR8/4 | 浅黄色シルト |
| 9. Hue2. 5YR7/6 | 橙色シルト |
| 10. Hue2. 5YR5/8 | 明褐色シルト |
| 11. Hue2. 5YR6/8 | 橙色シルト |
| 12. Hue2. 5YR5/8 | 明褐色シルト |
| 13. Hue10YR4/8 | 赤シルト |
| 14. Hue7. 5YR8/6 | 黄褐色砂質シルト |
| 15. Hue10YR8/8 | 黄褐色砂質シルト |
| 16. Hue10YR7/6 | 黄褐色細粒砂 |
| 17. Hue7. 5YR8/8 | 黄褐色シルト(小石を少々含む) |
| 18. Hue7. 5YR6/8 | 橙色シルト質砂 |
| 19. Hue5YR5/8 | 明赤褐色粘土とHue7. 5YR6/8橙色粘土を斑状に含む |
| 20. Hue5YR5/8 | 明赤褐色粘土 |
| 21. Hue2. 5YR5/8 | 明赤褐色シルト |



横ベルト1



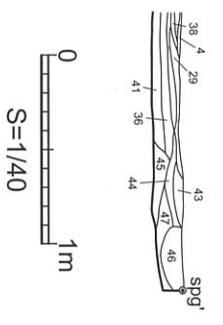
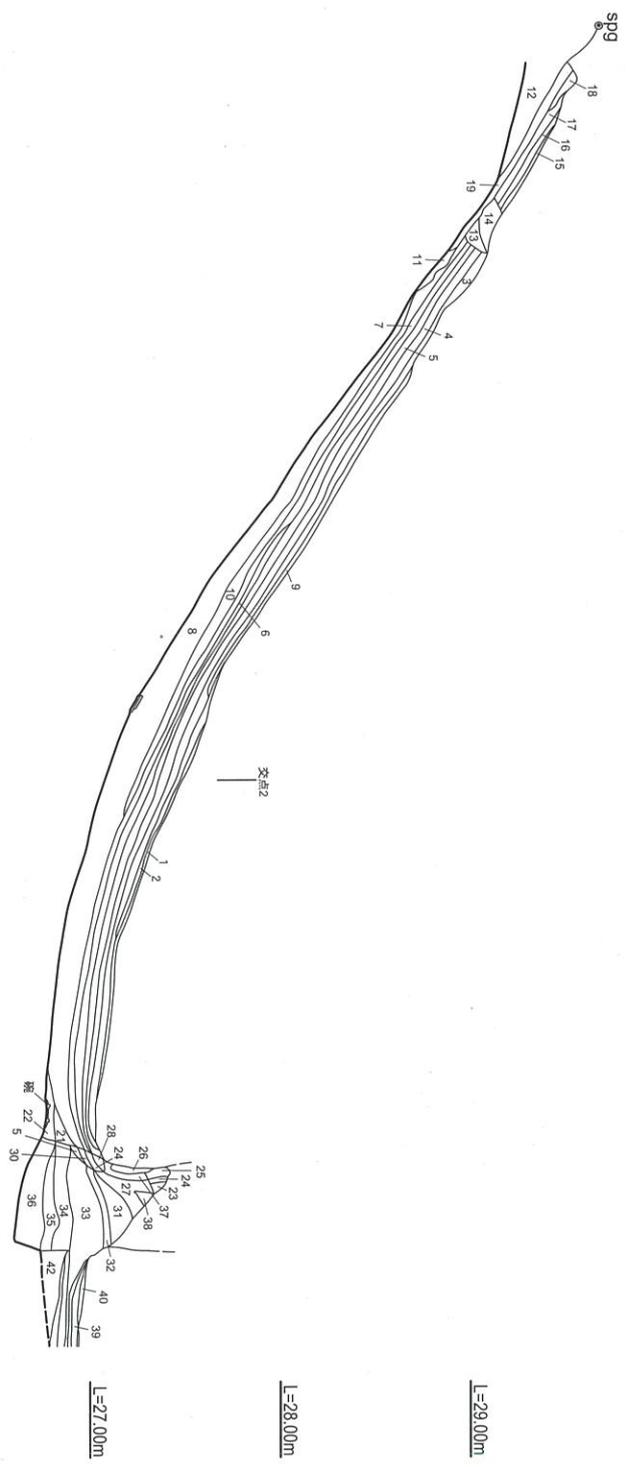
- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. Hue7. 5YR5/6 | 明褐色砂質シルト |
| 2. Hue10YR4/4 | 褐色シルト |
| 3. Hue10YR6/4 | にぶい黄褐色シルト |
| 4. Hue7. 5YR4/4 | 褐色粘土 |
| 5. Hue7. 5YR4/6 | 褐色粘土(炭化物若干含む) |
| 6. Hue10YR3/2 | 黒褐色シルト(炭化物多く含む) |
| 8. Hue10YR6/6 | 明黄褐色シルト |
| 9. Hue10YR5/4 | にぶい黄褐色シルト |
| 10. Hue10YR6/8 | 明黄褐色シルト(小石混じり) |
| 11. Hue10YR7/6 | 明黄褐色シルト |
| 12. Hue10YR7/8 | 黄褐色シルト |
| 13. Hue7. 5YR7/6 | 橙色シルト |
| 14. Hue10YR5/6 | 黄褐色シルト |
| 15. Hue10YR5/8 | 黄褐色シルト |
| 16. Hue10YR4/6 | 褐色シルト |



第21図 3号窯埋土横ベルト実測図

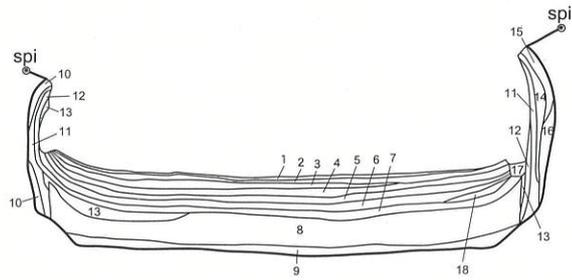
1. Hue5YR6/8 橙色シルト (床面) =最上
2. Hue10YR8/4 浅橙色シルト (床面)
3. Hue5YR8/4 黄色シルト (床面)
4. Hue2.5Y7/8 黒色シルト (床面)
5. Hue10YR1.7/1 黒色シルト (床面)
6. Hue10YR3/2 褐色シルト
7. Hue10YR4/4 褐色シルト
8. Hue10YR6/4 灰褐色シルト
9. Hue7.5YR/8 灰褐色シルト (床面)
10. Hue10YR6/3 灰褐色シルト
11. Hue10YR7/3 灰褐色シルト
12. Hue5YR8/3 淡褐色シルト
13. Hue10YR8/3 淡褐色シルト
14. Hue10YR7/4 淡褐色シルト
15. Hue10YR6/4 淡褐色シルト (掘り残し)
16. Hue7.5YR/6 褐色シルト
17. Hue7.5YR/3 褐色シルト
18. Hue2.5YR/6 褐色シルト (当初床面)
19. Hue5YR8/4 淡褐色シルト
20. Hue5YR8/3 淡褐色シルト
21. Hue10YR6/6 黄褐色シルト
22. Hue2.5Y/6 黄褐色シルト (床面下あり)
23. Hue2.5YR6/6 黄褐色シルト (分楯柱)
24. Hue5YR7/4 黄褐色シルト (分楯柱)

25. Hue5YR7/3 灰褐色シルト (分楯柱)
26. Hue5YR2/2 暗褐色シルト (分楯柱)
27. Hue5YR3/2 暗褐色シルト (分楯柱)
28. Hue10YR4/2 灰黄褐色シルト (分楯柱)
29. Hue10YR4/3 灰黄褐色シルト (分楯柱)
30. Hue10YR6/3 灰黄褐色シルト (分楯柱)
31. Hue2.5Y8/2 灰白色シルト (分楯柱)
32. Hue2.5Y7/4 浅黄色細粒砂 (地山)
33. Hue10YR7/6 明黄褐色細粒砂 (分楯柱) (地山)
34. Hue10R3/6 暗赤色細粒砂 (分楯柱) (地山)
35. Hue10R4/8 赤色細粒砂 (分楯柱)
36. Hue5YR6/8 褐色細粒砂 (分楯柱) (地山)
37. Hue5YR3/2 暗褐色シルト (分楯柱)
38. Hue10YR2/1 黒色シルト (床面)
39. Hue2.5Y2/1 黒色シルト (床面)
40. Hue2.5Y3/1 黒色シルト (床面)
41. Hue5YR7/8 褐色細粒砂 (地山)
42. Hue10YR8/2 灰白色細粒砂 (地山)
43. Hue7.5YR3/6 褐色細粒砂 (地山)
44. Hue7.5YR3/4 暗褐色シルト
45. Hue7.5YR6/8 暗褐色シルト
46. Hue7.5YR6/4 褐色細粒砂 (地山)
47. Hue2.5Y8/1 灰白色砂



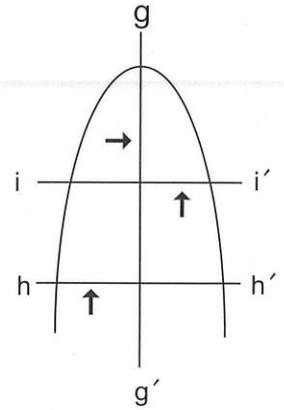
第22図 3号窯床面断割縦ベルト実測図

横ベルト2

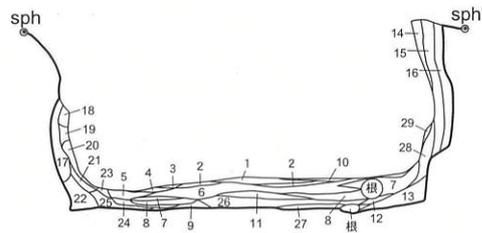


- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. Hue5YR6/8 | 橙色シルト (床面) =最上 |
| 2. Hue10YR8/4 | 浅黄色シルト (床面) |
| 3. Hue5YR8/4 | 淡橙色シルト (床面) |
| 4. Hue2. 5Y7/8 | 黄色シルト (床面) (一部土器含む) |
| 5. Hue10YR1. 7/1 | 黒色シルト (床面) |
| 6. Hue10YR3/2 | 黒褐色シルト |
| 7. Hue10YR4/4 | 褐色シルト |
| 8. Hue10YR6/4 | にぶい黄褐色シルト |
| 9. Hue10YR7/3 | にぶい黄褐色シルト |
| 10. Hue7. 5YR5/8 | 明褐色シルト (壁) |
| 11. Hue2. 5Y7/8 | 黄色シルト (壁) |
| 12. Hue10YR8/1 | 灰白色シルト (壁) |
| 13. Hue10YR5/1 | 褐色シルト (壁) |
| 14. Hue2. 5YR6/8 | 褐色シルト (壁) |
| 15. Hue2. 5YR5/8 | 明赤褐色シルト (壁) |
| 16. Hue5YR5/8 | 明赤褐色シルト (壁) |
| 17. Hue10YR5/4 | にぶい黄褐色シルト |
| 18. Hue5YR2/1 | 黒褐色シルト |

L=28.00m

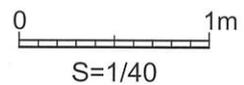


横ベルト1

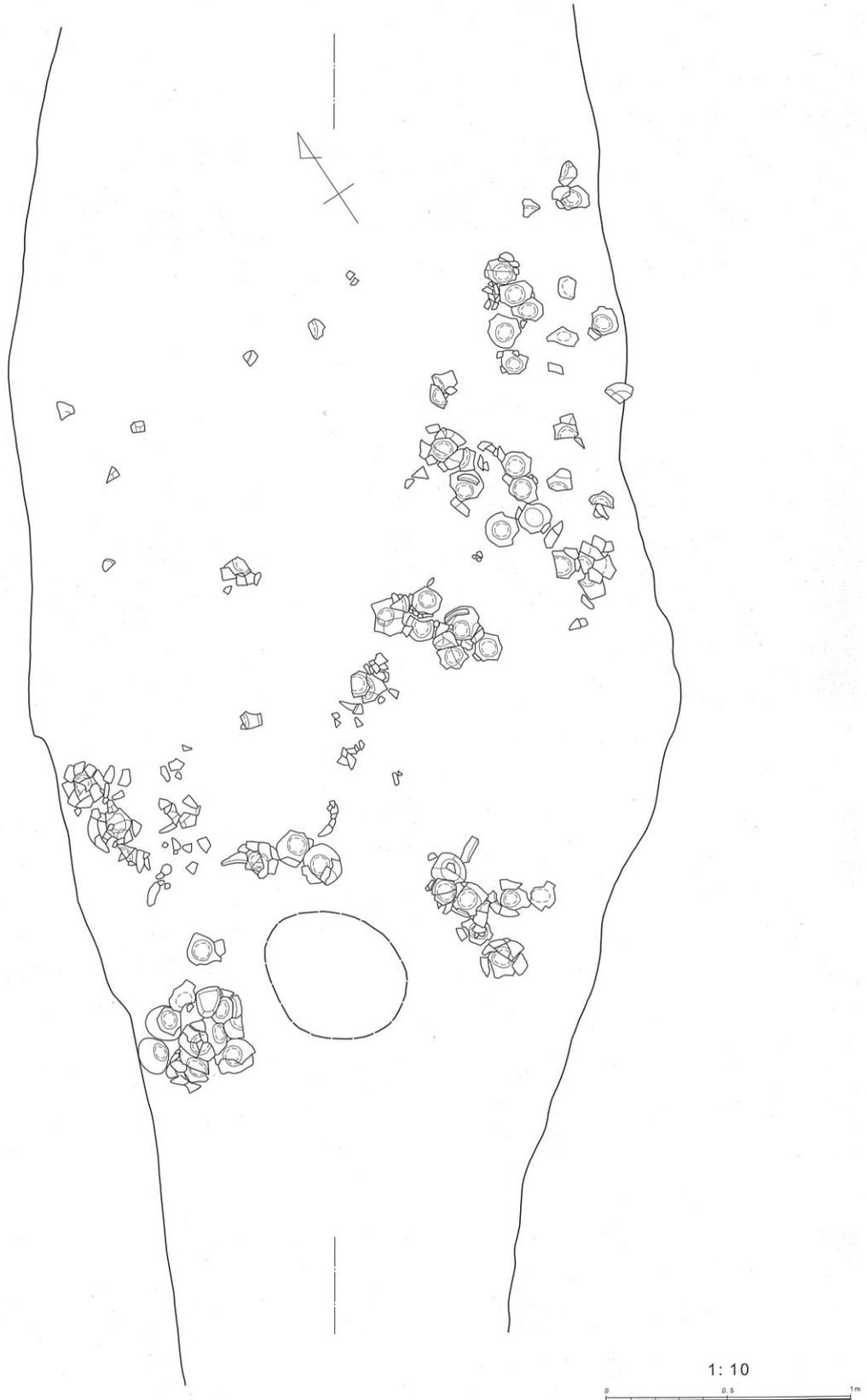


- | | |
|------------------|--------------|
| 1. Hue2. 5Y2/1 | 黒色シルト (床面) |
| 2. Hue2. 5Y7/8 | 黄色シルト (床面) |
| 3. Hue2. 5Y6/8 | 明黄褐色シルト (床面) |
| 4. Hue10YR4/4 | 褐色シルト |
| 5. Hue7. 5YR4/3 | 褐色シルト |
| 6. Hue10YR2/1 | 黒色シルト (床面) |
| 7. Hue10YR3/1 | 黒褐色シルト |
| 8. Hue10YR4/3 | にぶい黄褐色シルト |
| 9. Hue10YR8/3 | 浅黄褐色細粒砂 |
| 10. Hue7. 5YR7/8 | 黄褐色シルト |
| 11. Hue2. 5YR7/6 | 明黄褐色細粒砂 |
| 12. Hue7. 5YR5/8 | 明褐色粘質土 |
| 13. Hue5YR6/4 | にぶい橙色粘土 |
| 14. Hue5YR6/8 | 橙色シルト (壁) |
| 15. Hue2. 5YR5/8 | 明赤褐色シルト (壁) |
| 16. Hue2. 5YR6/8 | 褐色シルト (壁) |
| 17. Hue10R3/6 | 暗赤極細粒砂 (壁) |
| 18. Hue10Y4/8 | 赤色極細粒砂 (壁) |
| 19. Hue7. 5YR6/8 | 褐色極細粒砂 (壁) |
| 20. Hue2. 5Y3/1 | 黒褐色極細粒砂 |
| 21. Hue5YR4/6 | 赤褐色細粒砂 (壁) |
| 22. Hue5YR7/8 | 褐色細粒砂 |
| 23. Hue10YR5/8 | 黄褐色シルト |
| 24. Hue10YR6/3 | にぶい黄褐色シルト |
| 25. Hue10YR7/4 | にぶい黄褐色細粒砂 |
| 26. Hue5YR6/8 | 褐色細粒砂 |
| 27. Hue10YR8/2 | 灰白色細粒砂 |
| 28. Hue2. 5Y7/8 | 黄色シルト (壁) |
| 29. Hue10YR8/1 | 灰白色シルト (壁) |

L=27.00m



第23図 3号窯床面断割横ベルト実測図



第24図 3号窯床面下施設



写真17 3号窯埋土横セクション（南西から）



写真18 3号窯埋土縦セクション（西から）



写真19 3号窯窯体天井部（北から）



写真20 3号窯窯体完掘状況（南西から）



写真21 3号窯分焰柱付近（南西から）



写真22 3号窯窯体断割状況（北西から）



写真23 3号窯窯体断割状況（南西から）



写真24 3号窯床面下施設（南西から）

4号窯

調査区の中央部よりやや東側において本窯を検出した。焼成室最上部と煙出し部分がわずかに滅失していた程度で、5基中最も残存部分の多い窯であった。窯体全体の残存長は、約8.3mである。窯体は焚口を北東に向けて築窯されており、窯体の主軸方位はS-42°-E、標高は約27.3m~29.8mで、比高は2.9mあった。焚口の幅は2.2mを測り、残存部分の状態は良好であった。壁面は左右とも残存していたが、土質が砂ないしは砂利が多いためか脆かった。本窯の特徴は、窯内に焼成中釉着した碗や皿の固まりが放置されていたことである。塊群は窯内に密集しており、その上に天井部の壁が覆い被さっていた。窯内からはほとんど単品の製品は検出されていない。焼台も窯内に残されていたが、散乱状態であった。放置された塊群は分焰柱に近くなるほど密集し、燃烧室でも同様に散乱していた。本窯の最終焼成は不良品が多かったと推定される。

<燃烧室>

規模は分焰柱基部で幅2.2m、長さが焚口から分焰柱基部までで2.4mである。床面の傾斜は、焚口から分焰柱まではほぼ水平である。側壁は分焰柱の左右で高さ約30~40cmを計測した。室内には放置された製品が折り重なるようになっていた。床面には陶器片を含む焼土と炭化物の層が厚く広がっていた。

<分焰柱>

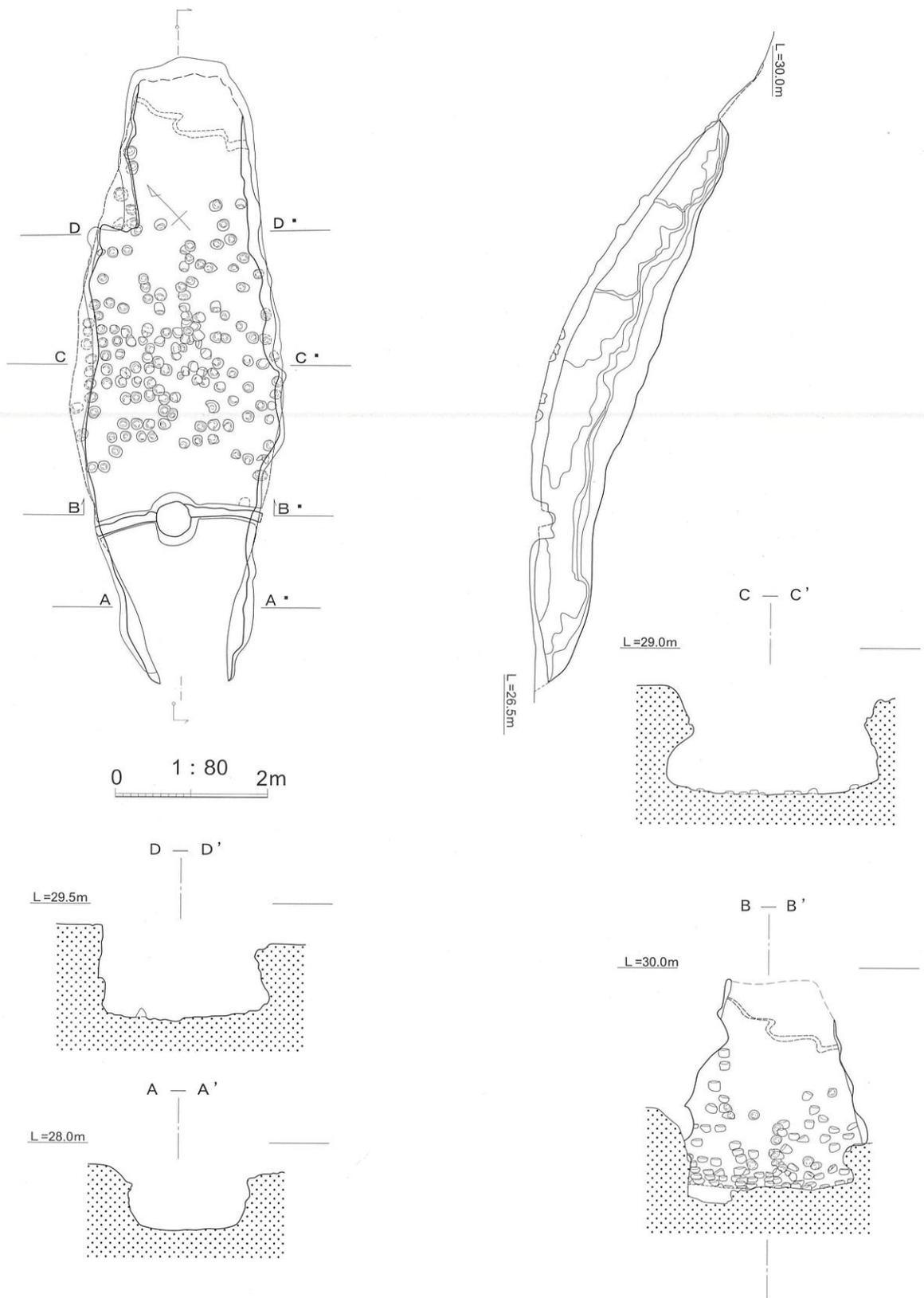
平面的にはほぼ円形を呈し、基底部の奥行きは約45cm、幅も約45cmである。高さは30cm残存していた。ベースは地山を掘り残した部分を基礎にしたもので、碗にて補修された箇所を確認した。分焰柱北東側と北西側の両方の通焰孔には、燃烧室と焼成室の境を隔てるように“堤防”が施されていた。北西側が長さ80cm、北東側が長さ94cm、高さが20~30cmを計測した。作りは焼台をベースにその上粘土の塊を積み上げた形状となっており、それを覆うように自然釉が分厚く付着していた。

<焼成室>

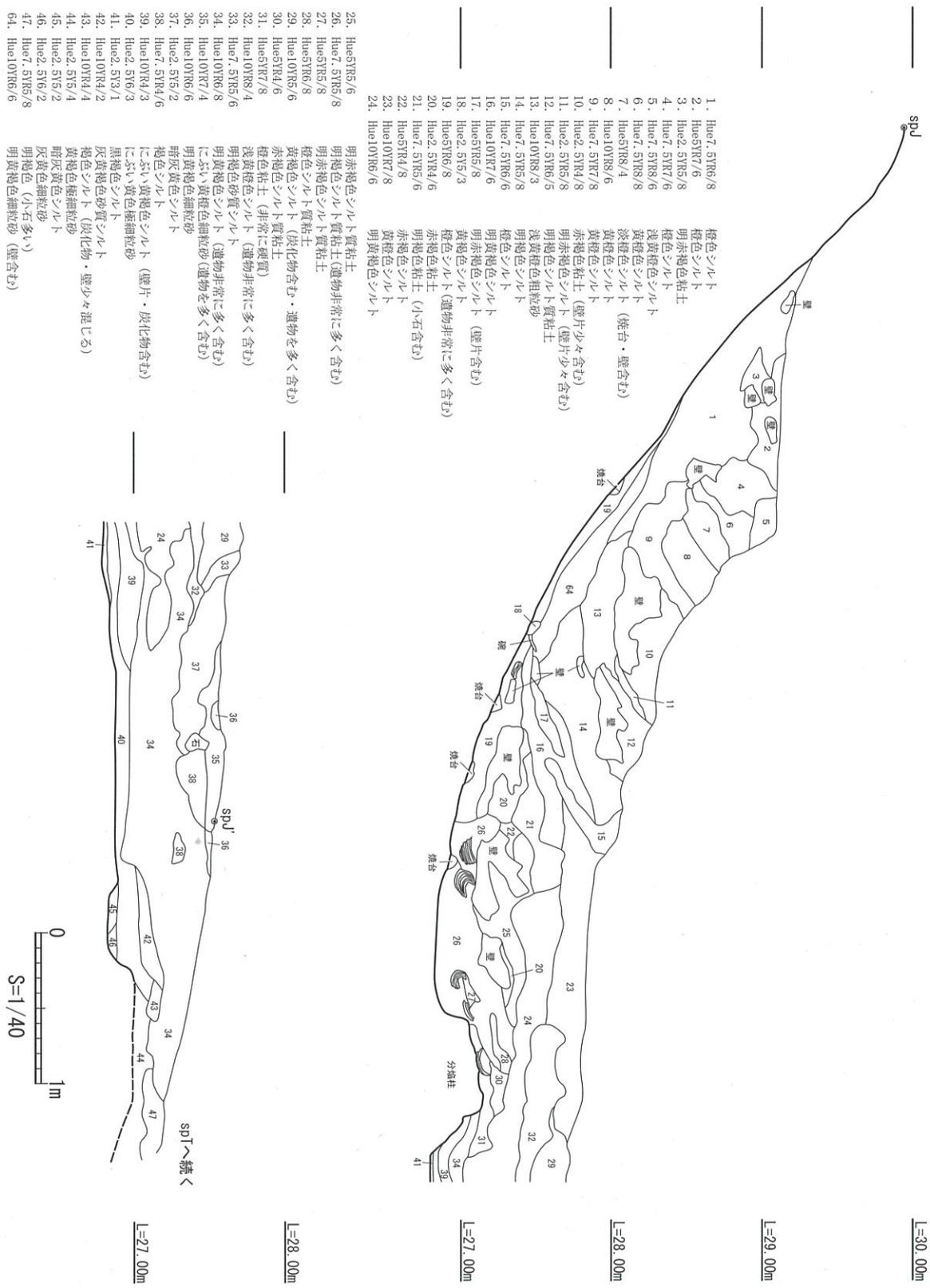
長さは分焰柱基部と煙道部を結ぶセンターライン上で残存長5.9m・最大幅2.8mである。側壁は最大高70cmを測る。床面の傾斜は、焚口から約3.2mの地点まで水平で、そこから1.3mまでは17°で上昇し、そこから残存部分の末端まで37°で急上昇する。この窯群で最大の傾斜である。最終床面は全体に硬化の度合いが低く、柔らかくもろかったが、その下に硬い床面が存在していた。

<床面下施設>

床面の断割調査を実施したところ、床面下に碗（山茶碗）や焼台を伏せたり、横に寝かせたり上にした状態ですきまなく敷き詰めた施設と目される遺構が検出された。遺物は碗のみで474点を取り上げた。床面下施設の構築された平面的な位置は、燃烧室の一部と分焰柱のまわりから焼成室全体にかけての範囲であった。伏せられた碗の下は、地山を掘り下げた状態のままであり、碗を伏せて並べて粘土を貼り付けた構造であった。碗は単体のものと2枚程度熔着したものが使用されており、伏せられた碗の内部は空洞ではなく、ほとんどは粘土や碗の破片が詰められた状態であった。床面下施設の層位は黄褐色粘質シルト層であり、粘土層の地山へと続いている。

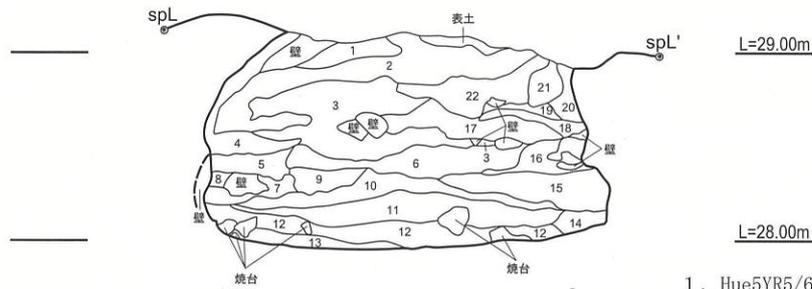


第25图 4号窑窑体实测图



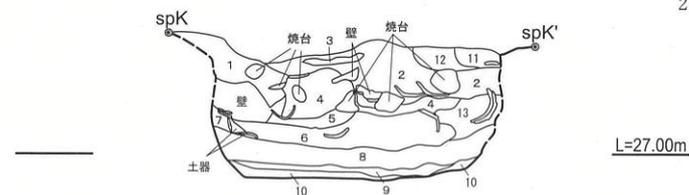
第26図 4号竈埋土縦ベルト実測図

横ベルト2

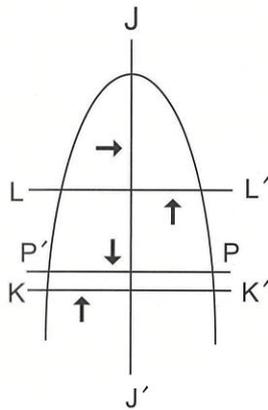


- 1. Hue5YR5/6 明赤褐色砂質シルト
- 2. Hue7. 5YR6/8 橙色細粒砂
- 3. Hue5YR6/8 橙色シルト
- 4. Hue2. 5YR5/8 明赤褐色砂質シルト
- 5. Hue5YR5/8 明赤褐色砂質シルト (細かい壁片含む)
- 6. Hue7. 5YR5/8 明褐色砂質シルト (細かい壁片含む)
- 7. Hue7. 5YR5/6 明褐色砂質シルト
- 8. Hue5YR5/8 明赤褐色シルト
- 9. Hue7. 5YR5/8 明褐色シルト (壁多く含む)
- 10. Hue7. 5YR6/6 橙色砂質シルト
- 11. Hue10YR5/4 にぶい黄褐色極細粒砂
- 12. Hue10YR6/6 明黄褐色細粒砂 (壁含む)
- 13. Hue10YR5/6 黄褐色砂質シルト
- 14. Hue10YR6/4 にぶい黄色褐色砂質シルト
- 15. Hue7. 5YR6/6 橙色細粒砂
- 16. Hue10YR4/8 赤色シルト
- 17. Hue7. 5YR8/8 黄褐色シルト
- 18. Hue5YR7/6 橙色砂質シルト
- 19. Hue2. 5YR4/8 赤褐色シルト
- 20. Hue5YR5/8 明赤褐色砂質シルト (壁混じり)
- 21. Hue7. 5YR7/6 橙色極細粒砂
- 22. Hue5YR5/8 明赤褐色砂質シルト (壁混じり)

横ベルト1

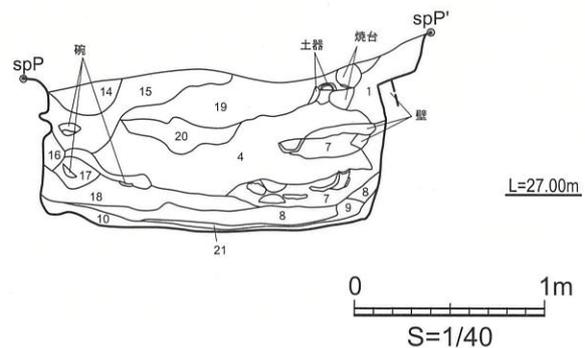


- 1. Hue10YR7/3 にぶい黄褐色シルト
- 2. Hue10YR4/4 褐色シルト
- 3. Hue7. 5YR5/6 明褐色砂質シルト
- 4. Hue10YR5/6 黄褐色シルト (遺物多量に含む)
- 5. Hue10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト
- 6. Hue10YR7/6 明黄褐色砂質シルト (遺物多量に含む)
- 7. Hue7. 5YR6/6 橙色シルト (遺物を多く含む)
- 8. Hue10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (壁片混じる)
- 9. Hue2. 5Y7/2 灰黄色極細粒砂
- 10. Hue2. 5YR2/1 黒色シルト
- 11. Hue7. 5YR8/6 浅黄褐色シルト
- 12. Hue10YR8/6 黄褐色シルト
- 13. Hue7. 5YR7/8 黄褐色シルト (小石片・遺物を多く含む)

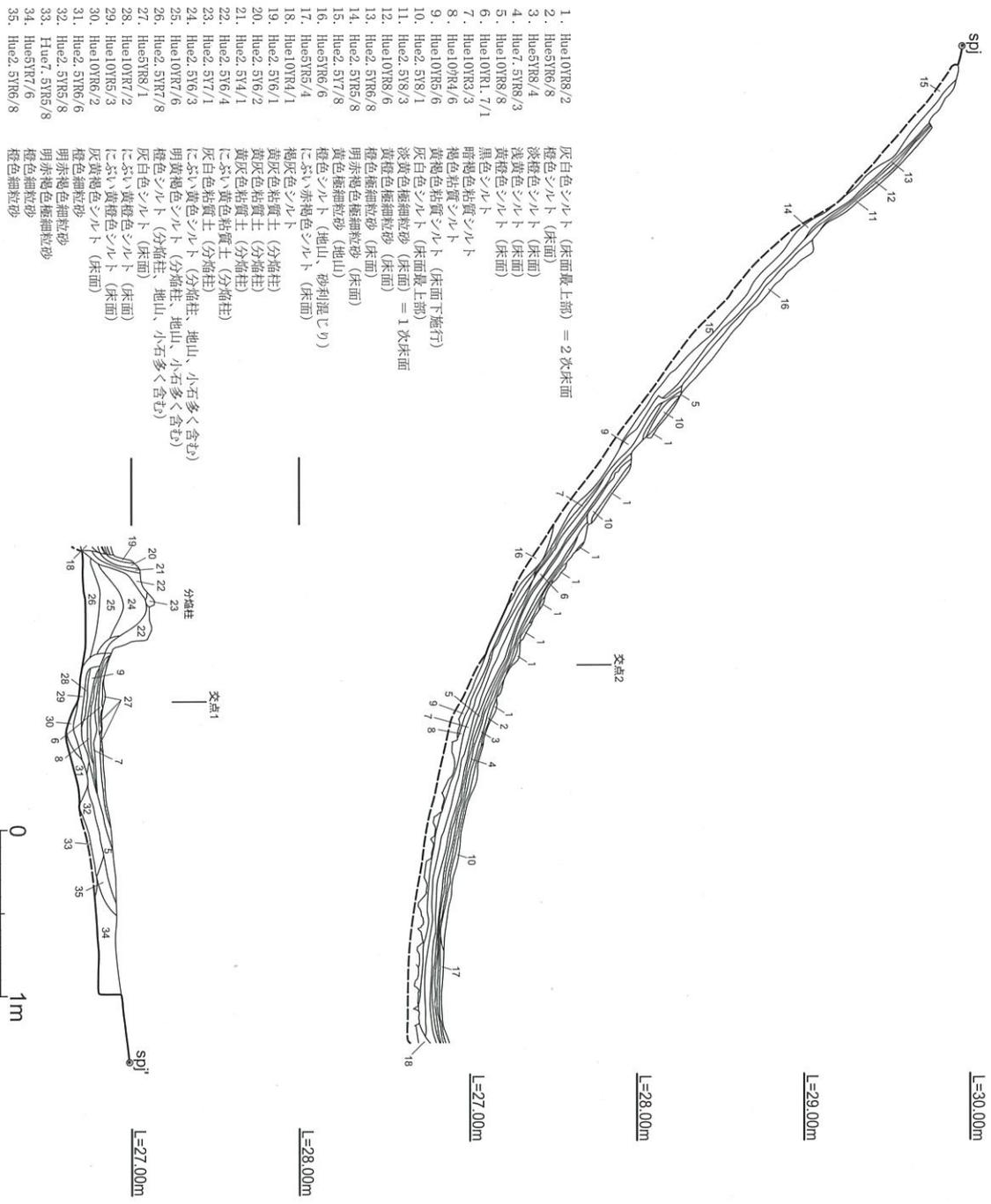


横ベルト1(裏)

- 14. Hue10YR5/4 にぶい黄褐色シルト
- 15. Hue10YR6/6 明黄褐色シルト
- 16. Hue7. 5YR5/8 明褐色シルト
- 17. Hue7. 5YR5/6 明褐色粘質シルト
- 18. Hue10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (遺物多く含む)
- 19. Hue10YR6/8 明黄褐色シルト
- 20. Hue10YR6/8 明黄褐色シルト (焼台・遺物多く含む)
- 21. Hue2. 5Y5/2 暗灰黄色極細粒砂

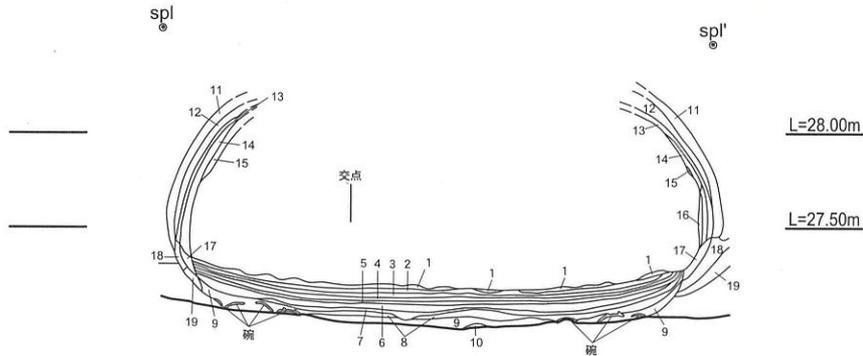


第27図 4号窯埋土横ベルト実測図

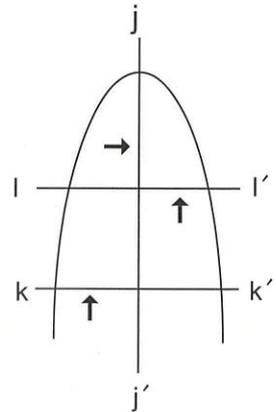


第28図 4号窯床面断割縦ベルト実測図

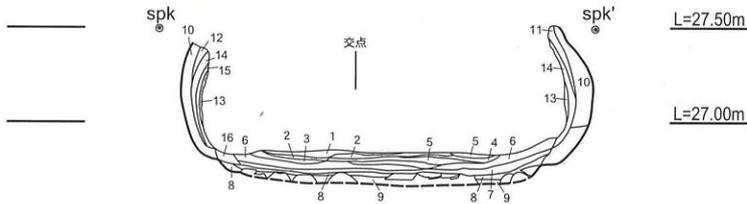
横ベルト2



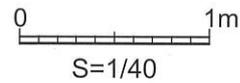
- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. Hue10YR8/2 | 灰白色シルト (床面最上部) |
| 2. Hue5YR6/8 | 橙色シルト (床面) |
| 3. Hue5YR8/4 | 淡橙色シルト (床面) |
| 4. Hue7.5YR8/3 | 浅黄色シルト (床面) |
| 5. Hue10YR8/8 | 黄橙色シルト (床面) |
| 6. Hue10YR1.7/1 | 黒色シルト (床面) |
| 7. Hue10YR3/3 | 暗褐色粘質シルト |
| 8. Hue10YR4/6 | 褐色粘質シルト |
| 9. Hue10YR5/6 | 黄褐色粘質シルト (碗含む) |
| 10. Hue10YR3/1 | 黒褐色シルト |
| 11. Hue2.5YR6/8 | 橙色シルト (壁) |
| 12. Hue2.5YR7/8 | 黄橙色シルト (壁) |
| 13. Hue10YR8/6 | 黄褐色シルト (壁) |
| 14. Hue10YR8/1 | 灰白色シルト (壁) |
| 15. Hue10YR5/1 | 褐色シルト (壁) |
| 16. Hue10YR7/6 | 明黄褐色砂質シルト (壁) |
| 17. Hue10YR8/6 | 黄褐色シルト (砂利多し) |
| 18. Hue10YR5/8 | 明黄褐色シルト (砂利多し) |
| 19. Hue10YR7/6 | 橙色シルト (砂利多し) |



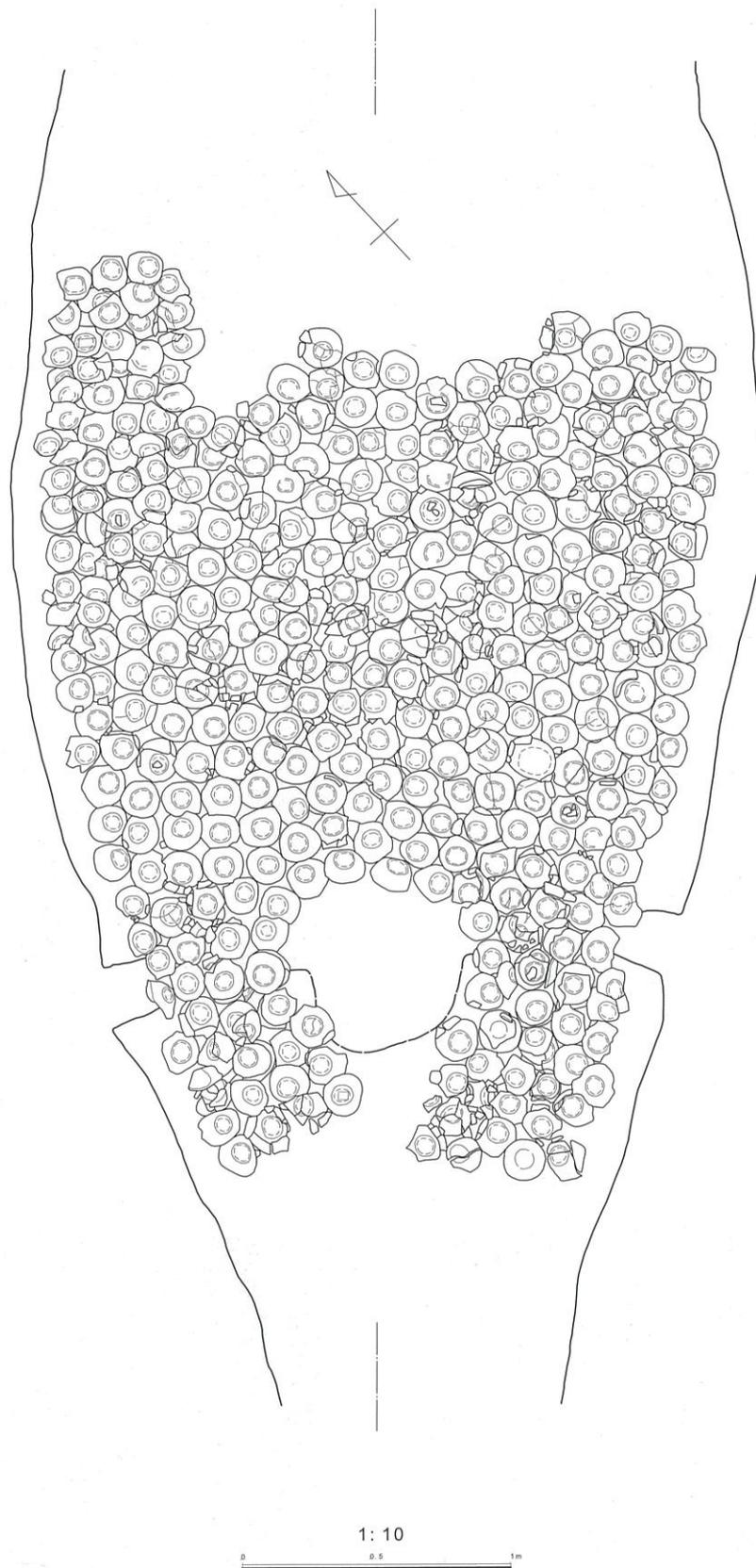
横ベルト1



- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. Hue2.5Y2/1 | 黒色粘質シルト |
| 2. Hue5YR8/1 | 灰白色シルト (床) |
| 3. Hue2.5Y7/3 | 浅黄色シルト (床) |
| 4. Hue5YR7/3 | にぶい橙色シルト |
| 5. Hue10YR8/8 | 黄褐色シルト (床) |
| 6. Hue10YR1.7/1 | 黒色シルト |
| 7. Hue10YR3/3 | 暗褐色粘質シルト |
| 8. Hue10YR4/6 | 褐色粘質シルト |
| 9. Hue10YR5/6 | 黄褐色粘質シルト |
| 10. Hue2.5YR6/8 | 橙色シルト (壁、砂利混じり) |
| 11. Hue2.5YR7/8 | 黄褐色シルト (壁、砂利混じり) |
| 12. Hue2.5YR7/6 | 褐色シルト (壁、砂利混じり) |
| 13. Hue10YR5/1 | 灰褐色シルト (壁、砂利混じり) |
| 14. Hue5YR6/8 | 褐色シルト (壁、砂利混じり) |
| 15. Hue10YR8/6 | 黄褐色シルト (壁、砂利混じり) |
| 16. Hue2.5YR6/6 | 橙色シルト (壁、砂利混じり) |



第29図 4号窯床面断割横ベルト実測図



第30図 4号窯床面下施設



写真25 4号窯埋土横セクション（南西から）



写真26 4号窯埋土縦セクション（西から）



写真27 4号窯窯体完掘状況（南西から）



写真28 4号窯窯体断割状況（南西から）



写真29 4号窯窯体断割状況（南西から）



写真30 4号窯床面下施設（南西から）

5号窯

調査区の東端において本窯を検出した。焼成室上部は失われていた。調査区東端は急峻な崖になっていていずれかの時に焼成室の一部と最上部である煙出しや火炎調節棒（ダンパー）付近は滅失したと想定される。一方、分焰柱とその近くの焼成室および燃焼室はよく残っていた。分焰柱のところでは天井部分のアーチが残っていた。窯体全体の残存長は、約6.80mである。窯体は焚口を北東に向けて築窯されており、窯体の主軸方位はS-39°-E、標高は約28m~29mで、比高は1.7mあった。焚口の幅は2.2mを測り、残存部分の状態は良好であった。壁面は左右とも残存していたが、土質が砂ないしは砂利が多いためか、被熱程度は低いためか脆かった。

焼成室部分の床面には密集しないが、ほぼ全面に焼台が残り、分焰柱に近い焼成室には碗・皿が残されていた。

<燃焼室>

規模は分焰柱基部で幅1.8m、長さが分焰柱基部までで2.3mである。床面の傾斜は、焚口から分焰柱までの1.8mは3°で下降し、分焰柱基部付近が最も低い。側壁は分焰柱の左右で約80cmと50cmの高さが残存する。床面には焼土と炭化物を含む層が薄く広がり、その下は熱を受けた影響でレンガ色を呈していた。

<分焰柱>

平面的には楕円形を呈している。ほぼ完全な形で残存し、一部は碗にて補修されていた。地山を掘り残した部分を基礎にした分焰柱である。基底部の奥行きは約80cm、幅60cmである。分焰柱の高さは70cmを計測し、調査時は天井部アーチが維持されていた。

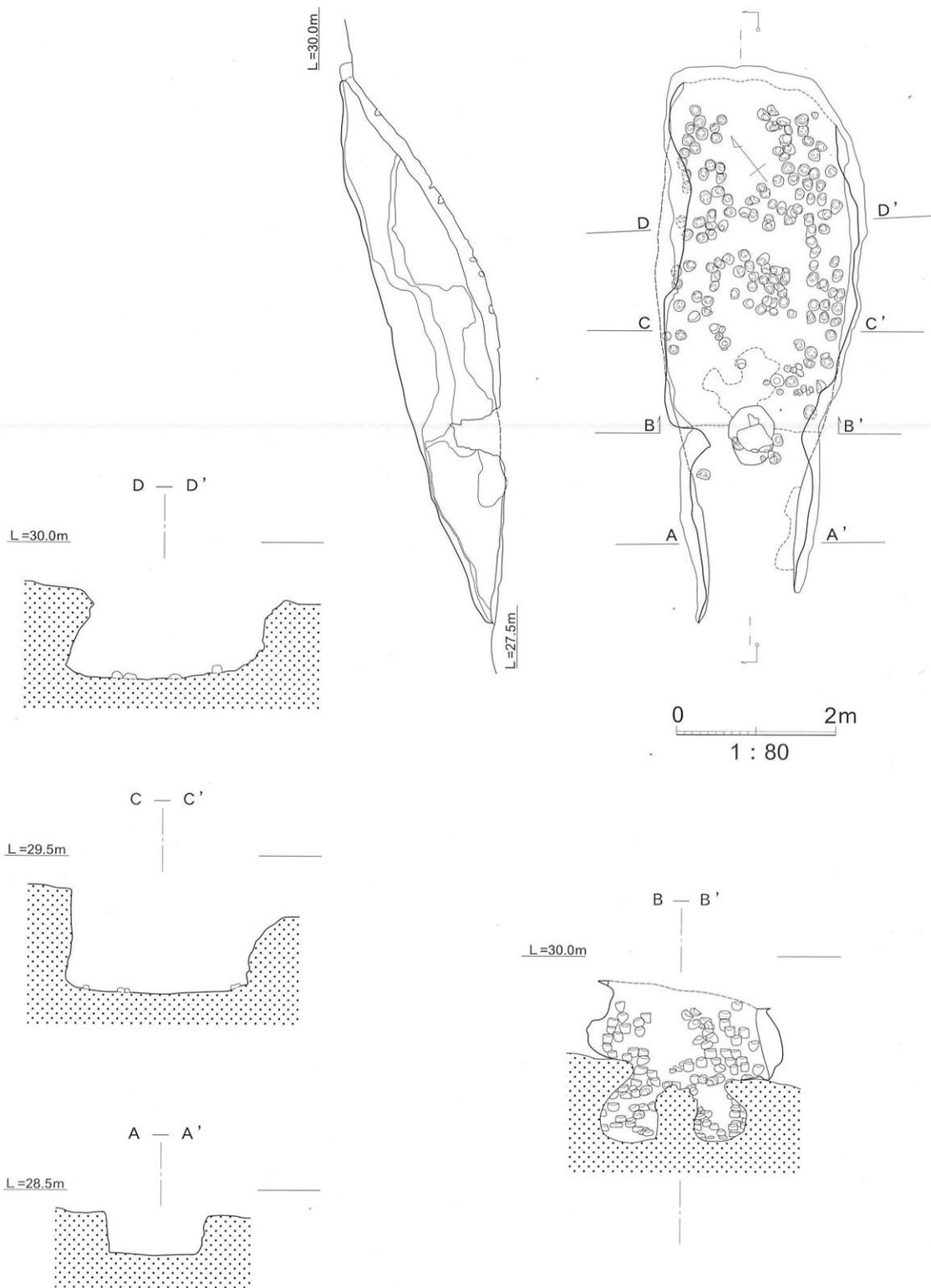
<焼成室>

長さは分焰柱基部と煙道部を結ぶセンターライン上で残存長4.5m・最大幅2.4mである。側壁は最大高50~60cmを測る。焼台が残されていたが、不規則な配置になっていたため、焼成品を窯から出した後の状態と考えられる。床面の傾斜は、分焰柱基部から約1.60cmの地点まで水平で推移し、そこから1mの地点までは15°で緩やかに上がる。そこから残存部分の末端までは34°の傾斜で上昇する。

床面は全体に硬化の度合いが低く、埋土と床面の区別が付けることが困難な状態であった。焼台が不規則ながら平面的に残っていたため、焼成後床面を剥いだ形跡は観察できなかった。

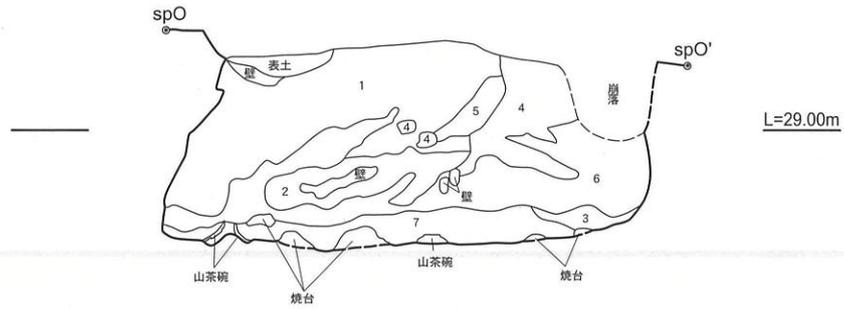
<床下>

床面の断割調査を実施したところ、いわゆる床面下施設は検出されなかった。硬化した床面は1面しか検出できなかった。硬化した床面は最終焼成面の1面した確認できなかった。分焰柱から焼成室にかけての2.8mの間は地山へ20cm程度の深さで掘り込みがなされ、黄橙色シルトの土を確認した。

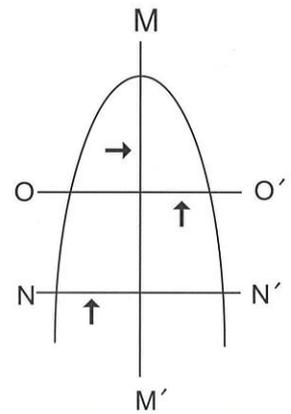


第31图 5号窟窠体实测图

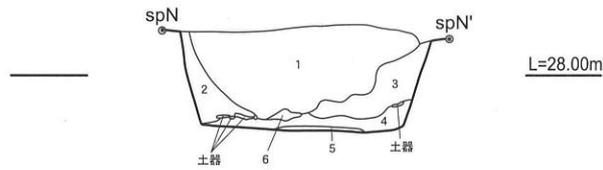
横ベルト2



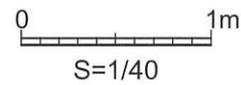
- | | |
|----------------|------------|
| 1. Hue2.5Y7/6 | 明黄褐色シルト |
| 2. Hue5YR5/6 | 明赤褐色粘土 |
| 3. Hue10YR7/4 | にぶい黄褐色シルト、 |
| 4. Hue2.5Y5/8 | 明赤褐色シルト |
| 5. Hue7.5YR6/8 | 橙色シルト |
| 6. Hue2.5YR5/8 | 明赤褐色シルト |
| 7. Hue10YR6/6 | 明黄褐色細粒砂 |



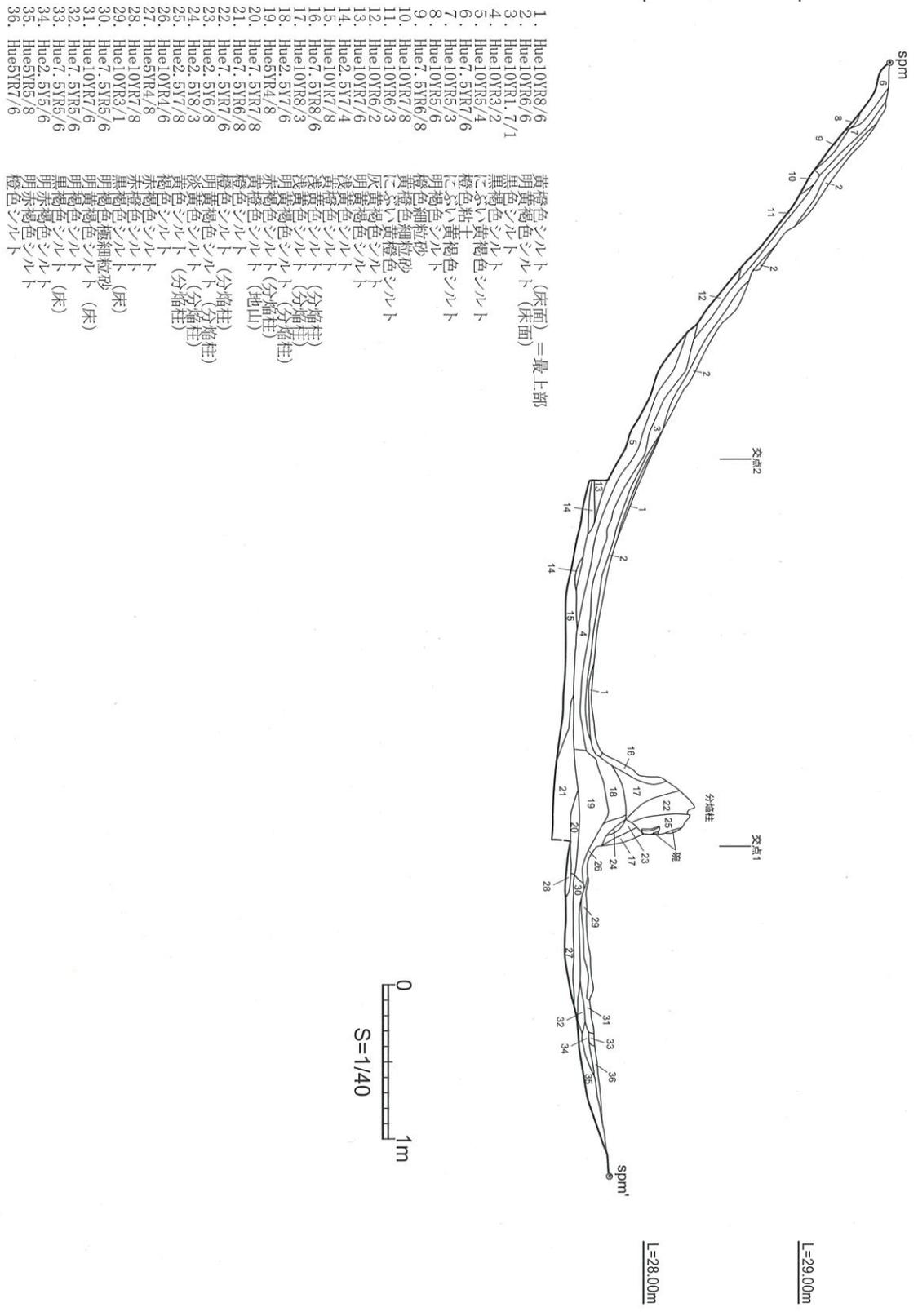
横ベルト1



- | | |
|---------------|------------------------|
| 1. Hue2.5Y7/4 | 浅黄色シルト (極小さな石が少し混じる) |
| 2. Hue5YR7/6 | 橙色シルト (焼壁片 (赤) が少し混じる) |
| 3. Hue5YR6/6 | 橙色シルト (焼壁片 (赤) が混じる) |
| 4. Hue2.5Y3/1 | 黒褐色シルト (灰混じり?) |
| 5. Hue5YR5/6 | 明赤褐色シルト |
| 6. Hue2.5Y4/2 | 暗灰黄色シルト (遺物多量に入る) |

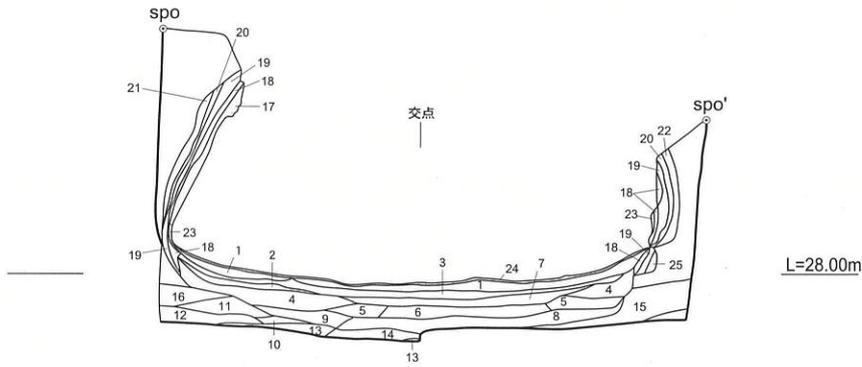


第33図 5号窯埋土横ベルト実測図



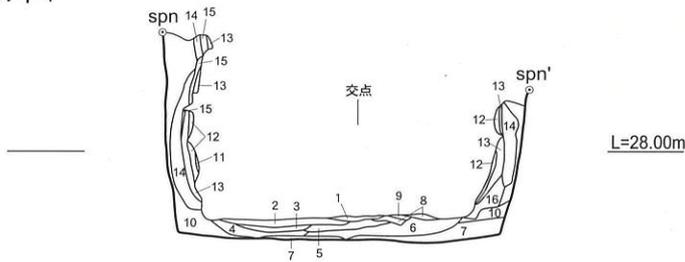
第34図 5号窯床面断割縦ベルト実測図

横ベルト2

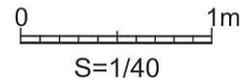
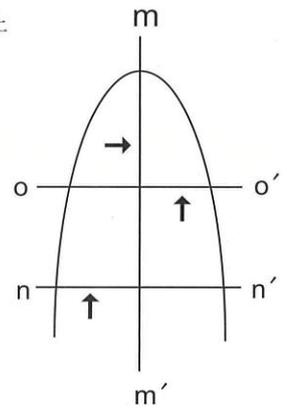


- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. Hue10YR6/6 | 明黄褐色シルト (床面) |
| 2. Hue10YR1.7/1 | 黒色シルト (床面) |
| 3. Hue10YR3/2 | 黒褐色シルト |
| 4. Hue10YR6/4 | にぶい黄褐色シルト |
| 5. Hue10YR7/4 | にぶい黄褐色シルト |
| 6. Hue10YR6/3 | にぶい黄褐色シルト |
| 7. Hue10YR5/4 | にぶい黄褐色シルト |
| 8. Hue10YR7/6 | 明黄褐色シルト |
| 9. Hue7.5YR6/6 | 橙褐色シルト |
| 10. Hue10YR5/8 | 黄褐色極細粒砂 |
| 11. Hue7.5YR7/6 | 橙褐色極細粒砂 |
| 12. Hue10YR5/6 | 黄褐色シルト |
| 13. Hue10YR7/8 | 黄褐色シルト |
| 14. Hue2.5Y7/4 | 浅黄褐色シルト |
| 15. Hue2.5Y6/4 | にぶい黄褐色シルト |
| 16. Hue10YR8/6 | 黄褐色シルト (壁) |
| 17. Hue2.5Y6/1 | 黄灰色シルト (壁) |
| 18. Hue2.5Y8/2 | 灰白色シルト (壁) |
| 19. Hue2.5Y6/8 | 明黄褐色シルト (壁) |
| 20. Hue2.5YR5/8 | 明赤褐色シルト (壁) |
| 21. Hue5YR4/8 | 赤褐色シルト (壁) |
| 22. Hue2.5YR4/8 | 赤褐色シルト (壁) |
| 23. Hue2.5Y7/4 | 浅黄褐色極細粒砂 (壁) |
| 24. Hue10YR8/6 | 黄褐色シルト (床面) =最上 |
| 25. Hue5YR6/6 | 橙色シルト |

横ベルト1



- | | |
|-----------------|--------------|
| 1. Hue10YR4/6 | 褐色シルト (床) |
| 2. Hue10YR3/3 | 黒褐色シルト (床) |
| 3. Hue10YR4/4 | 褐色シルト |
| 4. Hue10YR6/4 | にぶい黄褐色シルト |
| 5. Hue5YR5/8 | 明赤褐色極細粒砂 |
| 6. Hue5YR4/8 | 赤褐色シルト |
| 7. Hue10YR7/8 | 黄褐色シルト |
| 8. Hue10YR3/1 | 明黄褐色シルト (床) |
| 9. Hue7.5YR5/6 | 明黄褐色シルト (床) |
| 10. Hue7.5YR7/8 | 黄褐色極細粒砂 (壁) |
| 11. Hue2.5Y7/2 | 灰黄色極細粒砂 (壁) |
| 12. Hue2.5Y8/1 | 灰白色極細粒砂 (壁) |
| 13. Hue2.5Y6/8 | 明黄褐色極細粒砂 (壁) |
| 14. Hue5YR5/8 | 明赤褐色極細粒砂 (壁) |
| 15. Hue5YR6/8 | 橙色極細粒砂 (壁) |
| 16. Hue5YR5/6 | 明赤褐色極細粒砂 (壁) |



第35図 5号窯床面断割横ベルト実測図



写真31 5号窯埋土縦セクション（北から）



写真32 5号窯分焰柱（南から）



写真33 5号窯窯体完掘状況（南西から）



写真34 5号窯窯体断割状況（南から）



写真35 5号窯窯体断割状況（北西から）



写真36 5号窯窯体断割状況（南西から）

第2節 灰原について

概要

本窯の灰原は5基の窯の残存状況同様に比較的良好であった。調査前は雑木林が全体を覆っていたこともあり、一時期道に近い部分は畑として利用されていたようだが、平らな畑地として耕作していたものではなく、土地の改変は緩やかだったとためと思われる。

さて、灰原は第36図のように広範囲にひろがっており、窯が密集していたため、どれがどの窯の灰原であるかを特定することは困難であった。灰原は南北39.2m、東西38.1mの範囲とした。灰原には各窯の主軸を延長した北東方向のベルト5本（I～V）とそれに直行するベルト3本（A～C）を残して掘削した。調査の結果を総合して、第36図には灰原A～Eを色分けして図示してある。

Aベルト

調査区の西端から2号窯と3号窯の間までを一直線に伸ばした長さ約20mのベルトである。窯との位置関係は焚口から約80cmの距離がある。第37図に図示したように高さは一様でなく、でこぼこした観がある。1号窯の灰原と目されるあたりではあまり遺物が出土しなかった。一方2号窯のそれと推定される場所の11mから20mにかけては遺物が多く密集するところがあった。特に18～20mの地点ではそれが顕著であった。

Bベルト

調査区中央から東端までの一直線のベルトで、長さ約20mある。窯との位置関係は2号窯から5号窯をカバーしている。焚口から60cm～1mの距離がある。ベルトの最大の高さは8～9mの位置で1mを計測した。標高は北西から約27.5～26.2mと北東へ傾斜している。このベルトは約2.5～12mの位置に壁片や炭化物、土器を含む地層が伸びている。ここは2号窯・3号窯・4号窯の灰原と推定される。また16m前後は5号窯の灰原とした。

Cベルト

ベルトの位置は、Bベルトと同様に中央部から東端まで直線に伸ばしたもので、調査区の南端に近い位置に設定した。窯との位置関係は2号窯から5号窯をカバーするものである。長さは約25mで、北西から17～23.5mでは高さ1.2m、標高は約24.6～26.3mであった。このベルトは4.5m付近から遺物が目立ちはじめ東へ行くにつれて厚みを増し、10～17mではほとんどが遺物層であった。

Iベルト

1号窯窯内主軸ベルトを延長したもので、約10.5mある。遺物は焚口付近から2mにかけてのシルト層で出土するが、その量は多くはない。6.5～9mの黄褐色シルト層で焼土・焼台を含む層があった。しかし1号窯からは距離があるので、この層が1号窯の灰原とすることには慎重な検討が必要である。2号窯の灰原という可能性も捨て切れない。

IIベルト

2号窯窯内主軸ベルトを延長したもので、長さは約7mある。遺物層は焚口から1m弱の下層から

始まり約3.5mまで伸び、一旦途切れるが5m付近から遺物層が出現する。

Ⅲベルト

3号窯窯内主軸ベルトに繋げるように延長したもので、12mの距離がある。焚口から3mぐらいまでは水平だが、4mを過ぎると傾斜しはじめ5mから急に下降する。遺物は焚口付近か下層の明黄褐色シルト層から遺物が出土し始めそれがベルト末端まで継続する。また7mの地点では上層から徐々に壁片・焼台・土器を含む層が顕著になり、これも末端まで続いていく。これらの灰原は3号窯か4号窯のいずれかと推定する。

Ⅳベルト

4号窯窯内主軸ベルトからの継続したもので、長さ約11mある。始点から傾斜しはじめ末端までそのまま続いていく。遺物は焚口付近から確認できるが、4mから様子が一変し、ベルト全体に遺物層が広がり、末端まで続く。焚口付近は4号窯の灰原と推定されるが、中段から末端にかけての灰原は3号窯か4号窯かのいずれかと思われる。

Ⅴベルト

5号窯窯内主軸ベルトを延長したものである。長さは、約13mある。5号窯の焚口から傾斜し始め、7.5m付近で急激に落ち込み、窪みを形成したのち、末端まで傾斜した。ここは調査区の東端に近く、東は崖になっているところである。焚口付近の下層ではわずかに遺物を含んでいることを確認した。全体にベルトは設定したが、すぐに地山に到達し、明確な灰原は確認できなかった。ただ窪みでは遺物や土器が出土しているので、灰原はここまで広がっていたとしても間違いのないであろう。この部分は4号窯か5号窯のそれと判断した。なお、灰原掘削中、土層注記完了前に掘削した部分があるため、第45図の土層注記に欠落がある。



写真37 灰原Ⅲベルト（北西から）



写真38 灰原Ⅳベルト（北西から）



写真39 灰原IVベルト（北西から）



写真40 灰原Vベルト（北西から）



写真41 灰原Aベルト全体（南西から）



写真42 灰原Aベルト近景（南西から）



写真43 灰原Bベルト近景（南西から）



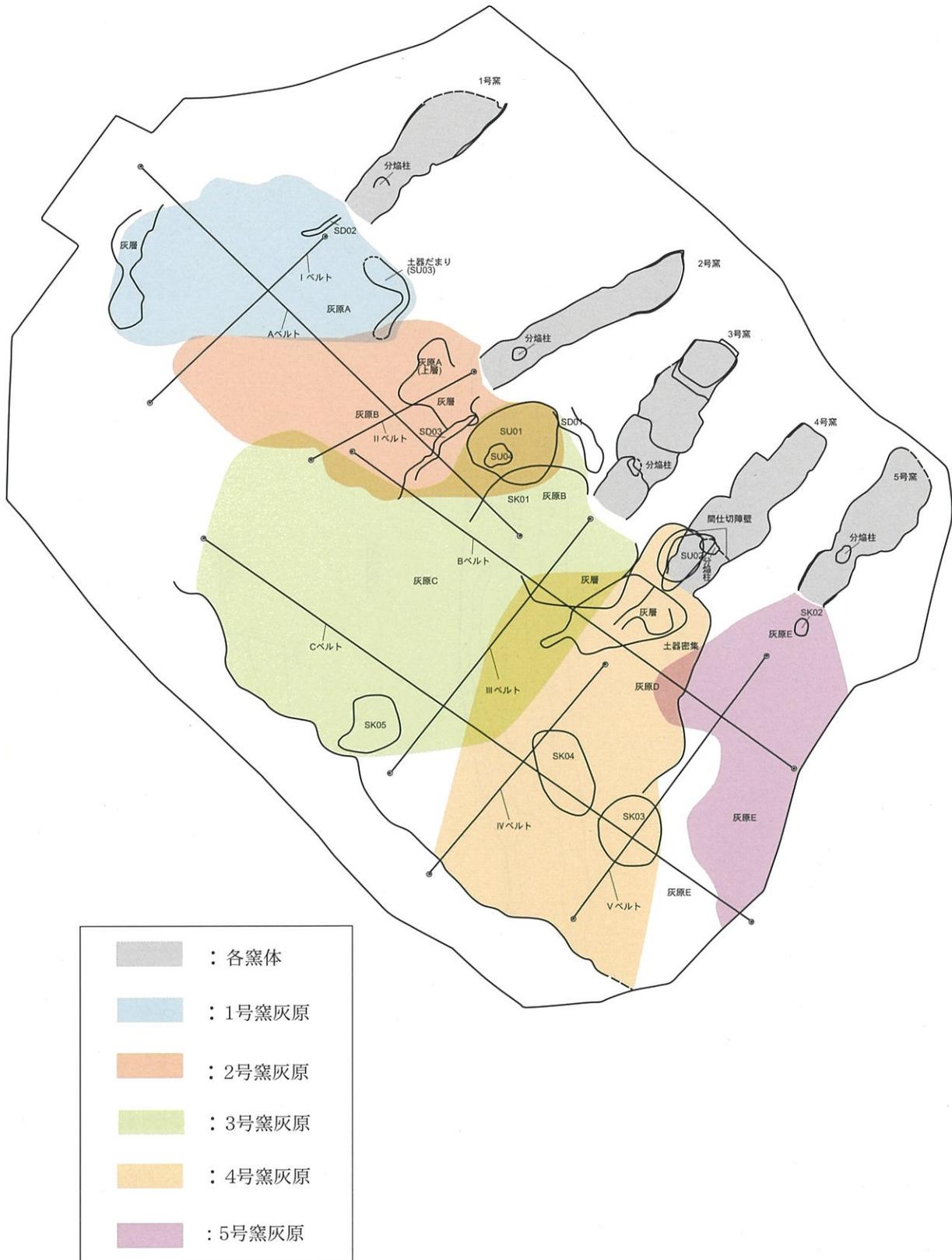
写真44 灰原Bベルト近景（南西から）



写真45 灰原Cベルト（北東から）

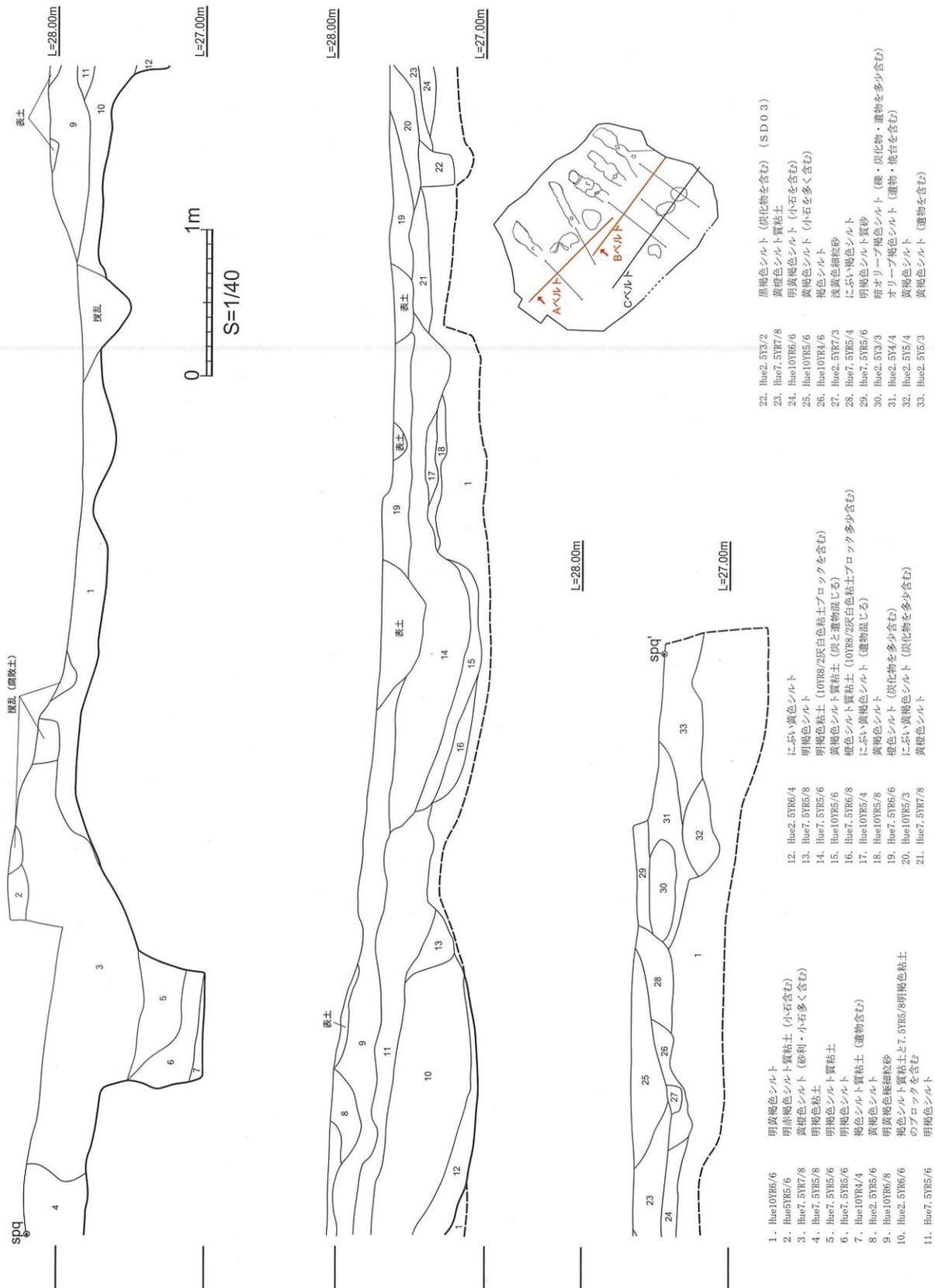


写真46 灰原Cベルト近景（北東から）

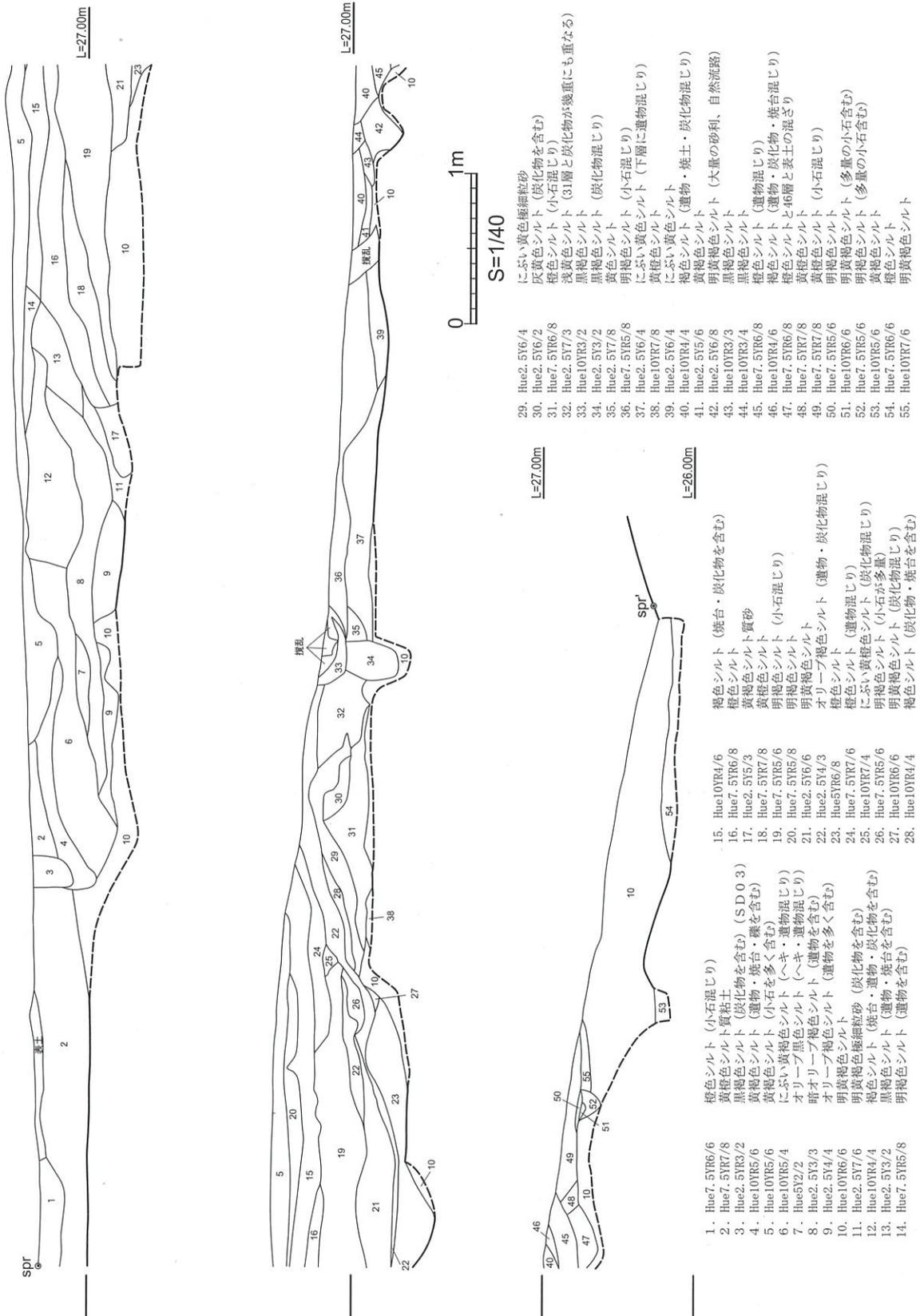


第36図 灰原推定位置図

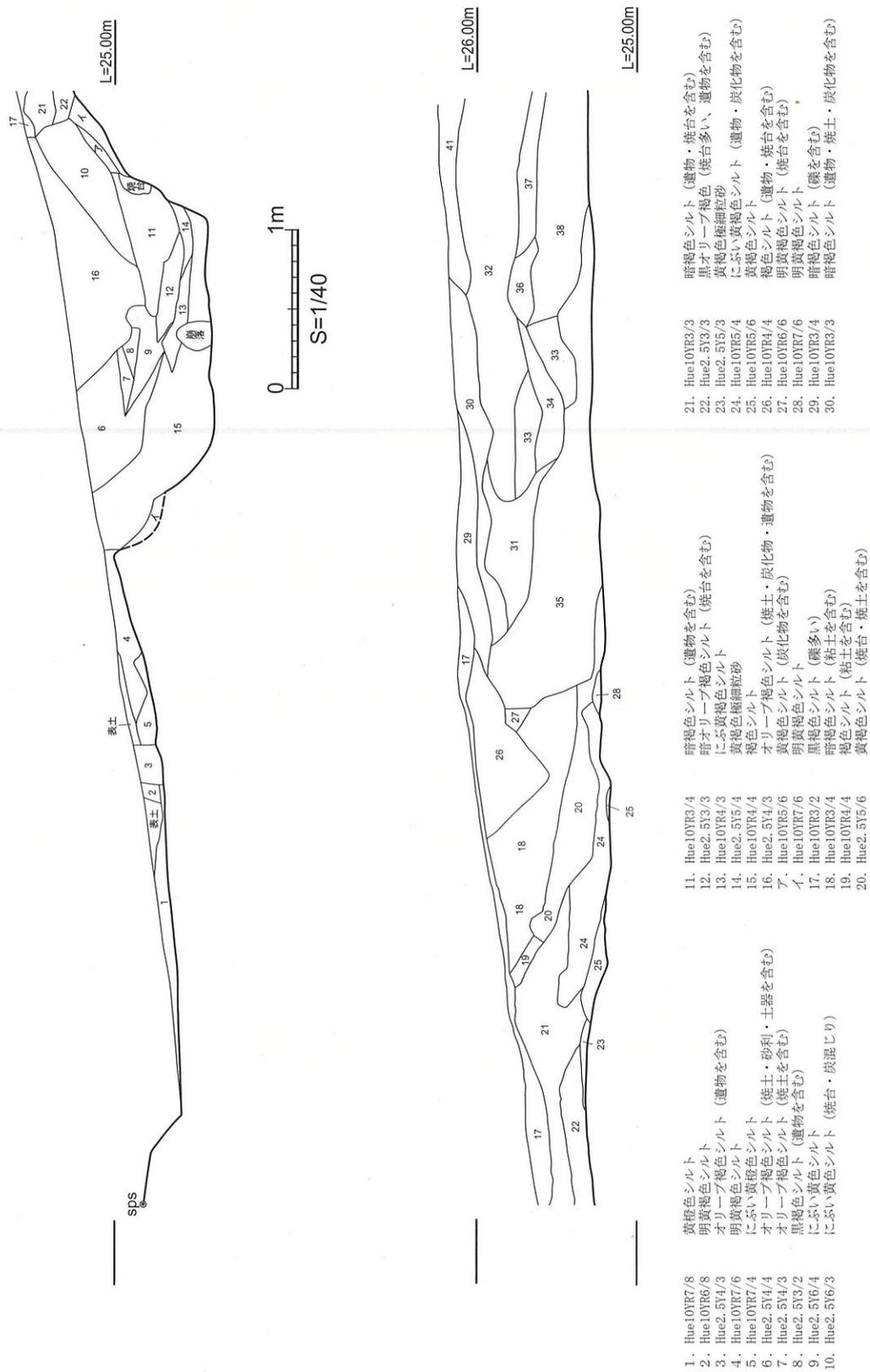
第37図 灰原Aベルト実測図



第38図 灰原Bベルト実測図

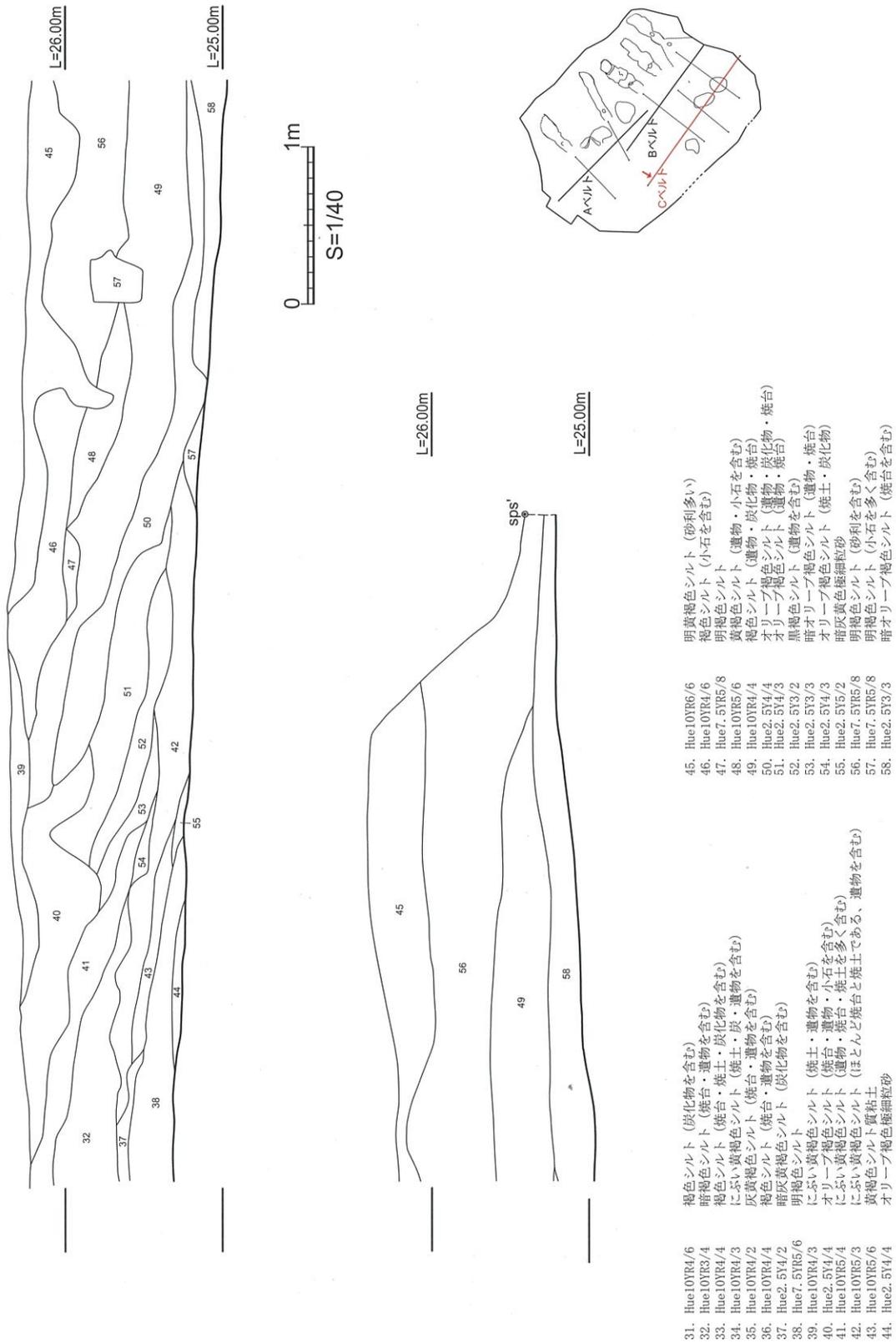


第39図 灰原Cベルト実測図1

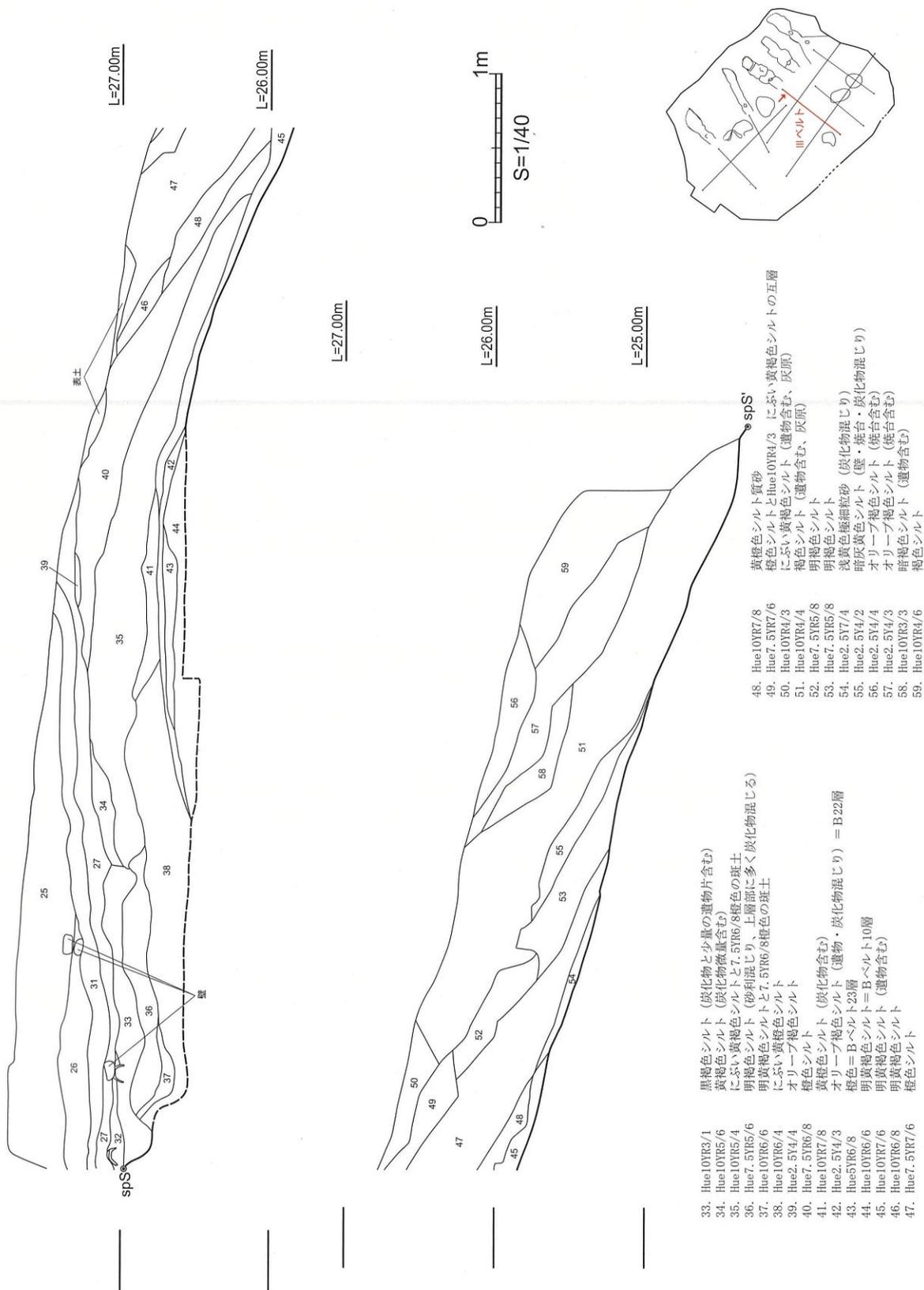


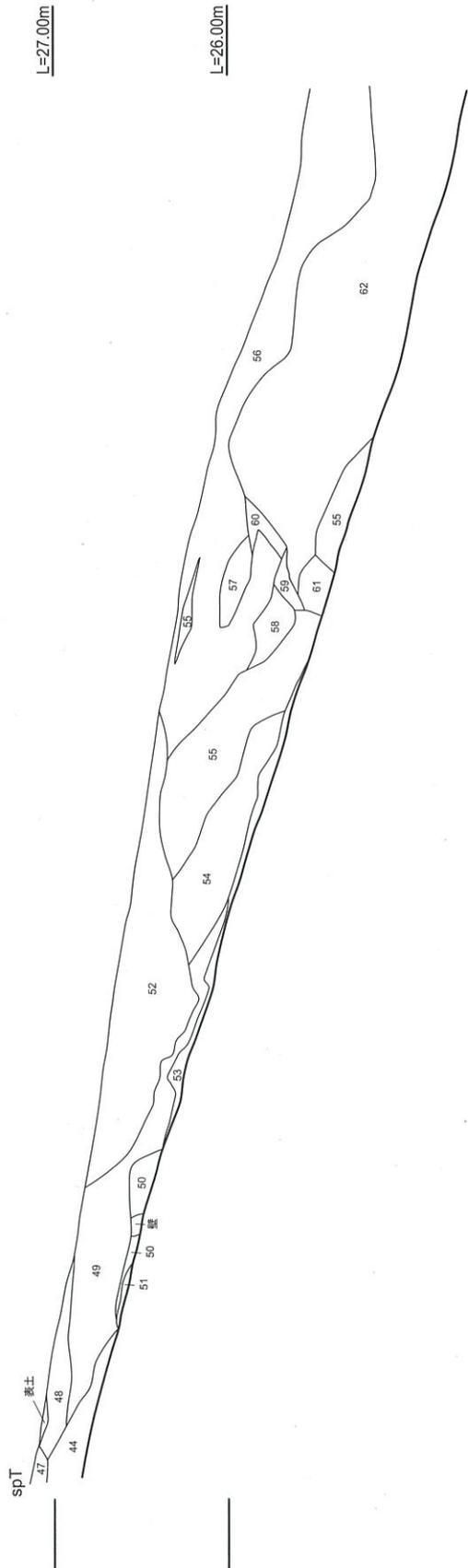
- | | | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. Hue10YR7/8
2. Hue10YR6/8
3. Hue2.5Y4/3
4. Hue10YR7/6
5. Hue10YR7/4
6. Hue2.5Y4/4
7. Hue2.5Y4/3
8. Hue2.5Y3/2
9. Hue2.5Y6/4
10. Hue2.5Y6/3</p> | <p>11. Hue10YR3/4
12. Hue2.5Y3/3
13. Hue10YR4/3
14. Hue2.5Y5/4
15. Hue10YR4/4
16. Hue2.5Y4/3
17. Hue10YR5/6
18. Hue10YR3/2
19. Hue10YR3/4
20. Hue2.5Y5/6</p> | <p>21. Hue10YR3/3
22. Hue2.5Y3/3
23. Hue10YR5/4
24. Hue10YR5/6
25. Hue10YR4/4
26. Hue10YR4/4
27. Hue10YR6/6
28. Hue10YR7/6
29. Hue10YR3/4
30. Hue10YR3/3</p> | <p>暗褐色シルト (遺物を含む)
暗オリーブ褐色 (焼台を含む)
黄褐色極細砂
にぶい黄褐色シルト
黄褐色シルト
オリーブ褐色シルト (遺物・炭化物を含む)
褐色シルト (遺物・焼台を含む)
明黄褐色シルト (燻を含む)
暗褐色シルト (燻を含む)
暗褐色シルト (遺物・炭化物を含む)</p> |
| <p>黄褐色シルト
明黄褐色シルト
オリーブ褐色シルト
明黄褐色シルト
にぶい黄褐色シルト
オリーブ褐色シルト (焼土・砂利・土器を含む)
オリーブ褐色シルト (焼土を含む)
黒褐色シルト (遺物を含む)
にぶい黄色シルト
にぶい黄色シルト (焼台・炭屑じり)</p> | <p>暗褐色シルト (遺物を含む)
暗オリーブ褐色シルト (焼台を含む)
黄褐色極細砂
褐色シルト
オリーブ褐色シルト (焼土・炭化物・遺物を含む)
黄褐色シルト (炭化物を含む)
明黄褐色シルト (燻多い)
暗褐色シルト (燻多い)
暗褐色シルト (粘土を含む)
黄褐色シルト (焼台・焼土を含む)</p> | <p>暗褐色シルト (遺物・焼台を含む)
暗オリーブ褐色 (焼台多い、遺物を含む)
黄褐色極細砂
にぶい黄褐色シルト
黄褐色シルト
褐色シルト (遺物・焼台を含む)
明黄褐色シルト (焼台を含む)
暗褐色シルト (燻を含む)
暗褐色シルト (遺物・炭化物を含む)</p> | |

第40図 灰原Cベルト実測図2

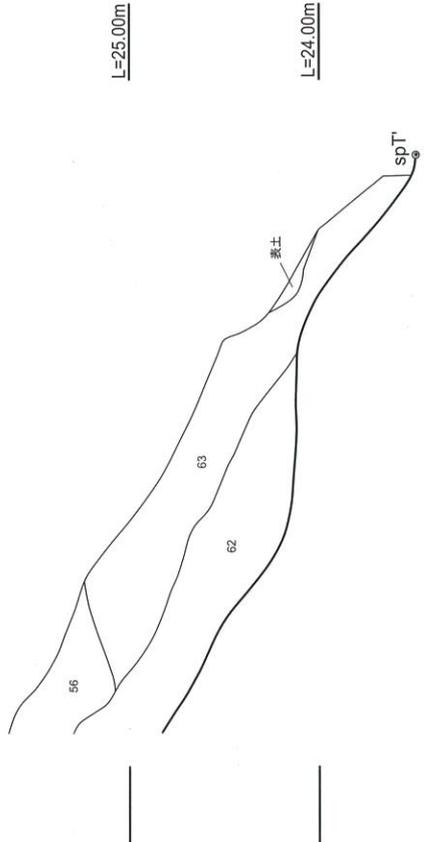
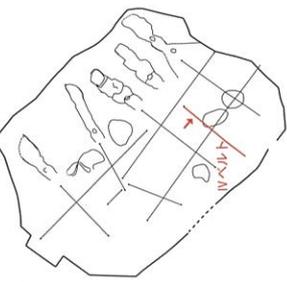


第43図 灰原皿ベルト実測図

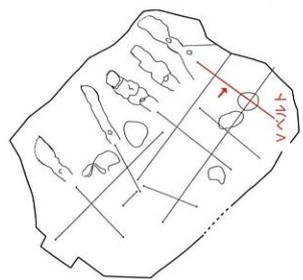
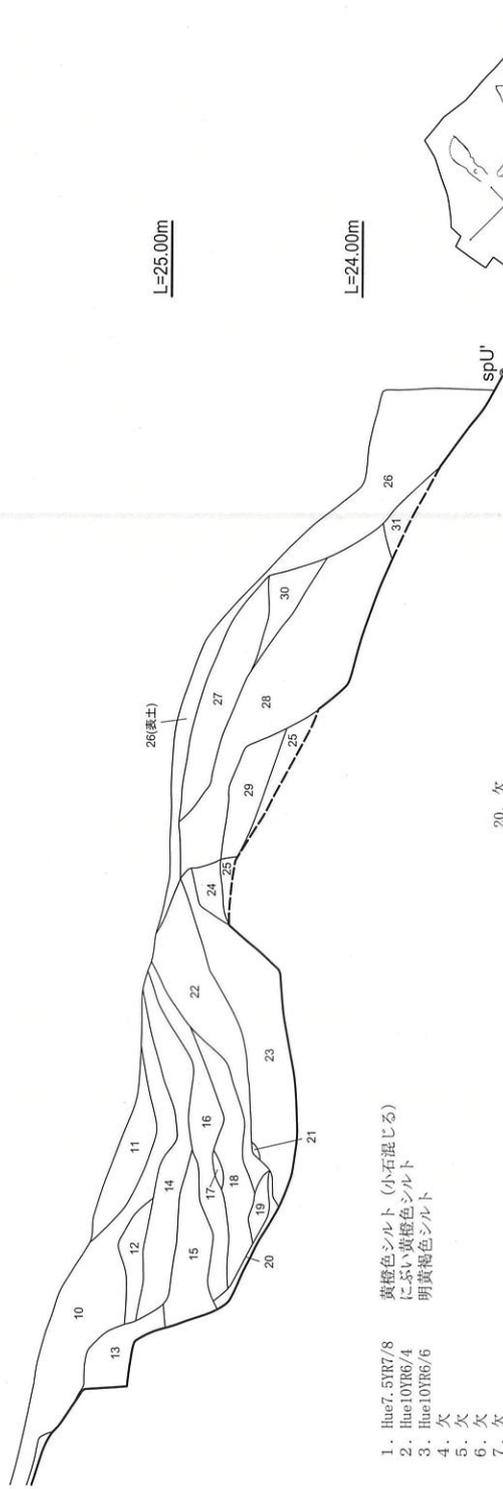
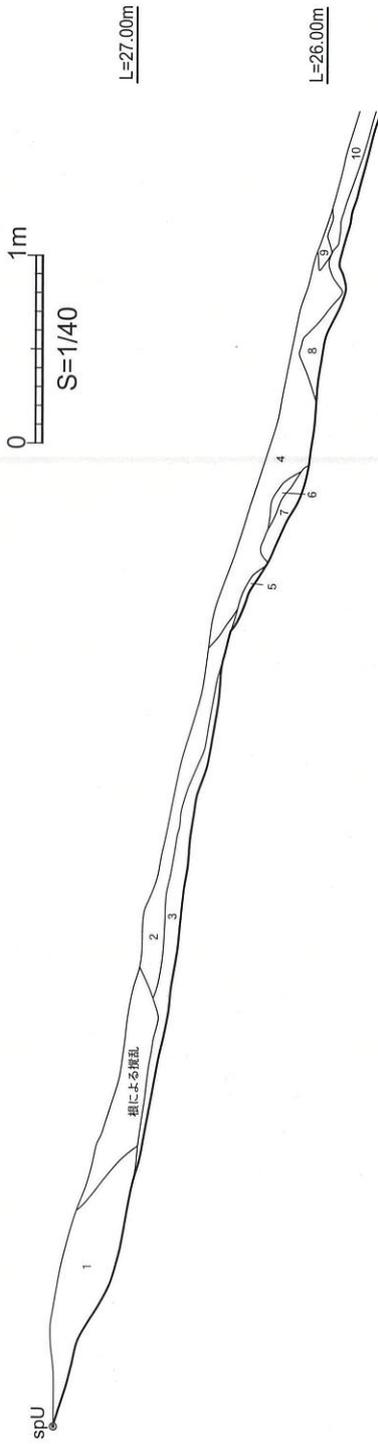




- 48. Hue10YR6/6 明黄褐色シルト
- 49. Hue2.5Y6/8 明黄褐色シルト
- 50. Hue10YR7/6 明黄褐色シルト
- 51. Hue10YR5/6 黄褐色シルト
- 52. 擾乱層 (10YR5/4) にぶい黄褐色シルトと7.5YR5/8 明褐色シルト、砂利混じり
- 53. Hue2.5Y6/4 明褐色シルト (砂利を多く含む)
- 54. Hue7.5YR5/8 橙色シルト (砂利が入る)
- 55. Hue7.5YR6/8 橙色シルト (遺物・炭台混じり)
- 56. Hue10YR4/4 褐色シルト (遺物・炭台混じり)
- 57. Hue10YR4/6 褐色シルト (炭台混じり)
- 58. Hue10YR3/3 暗褐色シルト
- 59. Hue2.5Y5/4 黄褐色シルト
- 60. Hue2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト
- 61. Hue2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト
- 62. Hue2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト (遺物・炭台混じり) = 灰原
- 63. Hue10YR4/6 褐色シルト



第44図 灰原IVベルト実測図



- | | | | |
|----------------|----------------------------------|----------------|------------------------|
| 1. Hue7.5YR7/8 | 黄褐色シルト (小石混じる) | 20. 欠 | 暗オリーブ褐色シルト |
| 2. Hue10YR6/4 | にぶい黄褐色シルト | 21. 欠 | (焼石・遺物を含む) = (C-ベルト12) |
| 3. Hue10YR6/6 | 明黄褐色シルト | 22. Hue2.5Y3/3 | 褐色シルト = (C-ベルト15) |
| 4. 欠 | | | オリーブ褐色シルト |
| 5. 欠 | | | 浅黄色極細粒砂(地山) |
| 6. 欠 | | | 明黄褐色シルト (砂利・遺物を含む) |
| 7. 欠 | | | 褐色シルト (遺物・焼石・壁を含む) |
| 8. 欠 | | | 褐色シルト |
| 9. 欠 | | | 黄褐色シルト (遺物を含む) |
| 10. Hue2.5Y4/4 | オリーブ褐色シルト (焼土・砂・石を含む) = (C-ベルト6) | | 黄褐色シルト |
| 11. Hue2.5Y4/3 | オリーブ褐色シルト (焼土・遺物を含む) = (C-ベルト16) | | |
| 12. 欠 | | | |
| 13. 欠 | | | |
| 14. Hue2.5Y4/3 | オリーブ褐色シルト (焼土を含む) = (C-ベルト7) | | |
| 15. 欠 | | | |
| 16. Hue2.5Y3/2 | 黒褐色シルト (遺物を含む) = (C-ベルト8) | | |
| 17. 欠 | | | |
| 18. Hue2.5Y6/4 | にぶい黄色シルト = (C-ベルト9) | | |
| 19. 欠 | | | |
| 23. Hue10YR4/4 | | | |
| 24. Hue2.5Y4/4 | | | |
| 25. Hue2.5Y7/3 | | | |
| 26. 表土 腐葉土 | | | |
| 27. Hue10Y6/6 | | | |
| 28. Hue10YR4/6 | | | |
| 29. Hue10YR4/4 | | | |
| 30. Hue10YR5/6 | | | |
| 31. Hue10YR5/8 | | | |

第45図 灰原Vベルト実測図

第3節 その他の遺構について

概要

本遺跡では窯体と灰原以外に土坑溝、土器集積が確認されている。土坑は7か所、溝は4か所以下、個々の遺構について概要を説明する。

土坑1 (SK01)

3号窯の焚口付近の西側に接して位置する。3号窯に関連して掘り込まれたものと想定される。東西に長い楕円形を呈している。長径3.5m、短径2.5m、深さ74cmである。

土坑2 (SK02)

5号窯内の焚口付近に掘り込まれていた。南北方向に長い楕円形で、長径66cm、短径50cm、深さ13cmである。

土坑3 (SK03)

5号窯の主軸の延長線上、焚口より灰原方向へ11m程下がったところに掘り込まれた土坑である。北西—南東方向に長い楕円形で、長径2.8m、短径2.3m、深さ86cmを計測する。

土坑4 (SK04)

SK04はSK03の北西側に掘り込まれた土坑で、SK03とSK04の中心間の距離は3.6mである。北西—南東方向へ長い楕円形を呈する。長径2.7m、短径2.0m、深さ40cm前後を計測した。

土坑5 (SK05)

SK05は北東—南西方向に長い勾玉状の形状を有する土坑である。3号窯に接するSK01の中心よりSK05の中心まで南西へ約10m、長径2.7m、短径2.0m、深さ54cmである。

土坑6 (SK06)

この土坑は2号窯の焚口西側に位置する長方形を呈するものである。北東—南西方向が長軸で1.3m、短軸は1.0m、深さ33cmを計測した。

土坑7 (SK07)

4号窯の東側に位置する。南北方向に長い楕円形を呈し、長径1.5m、短径1.0mを計測した。

溝3 (SD03)

2号窯に係るSD03は、窯前庭部分右寄り（東側）よりのびている。幅は50cm、深さ23cm前後の溝である。

溝4 (SD04)

SD04は4号窯の焚口付近より西側側壁に沿うように灰原方向へ約4.3mのびていた。幅は約50cm、深さ20cm前後を計測した溝である。

土器集積1 (SU01)

2号窯燃焼室と3号窯燃焼室間のやや2号窯寄りに、SK01に接して検出された。平面形はややゆがみのある円形で直線約3.2mである。

土器集積 2 (S U02)

4号窯の燃焼室付近で検出された。北東-南西方向に長い楕円形で長径2.1m、短径1.5mを有する。4号窯内からは大量の焼成不良品が埋もれており、しかも4号窯の上層に遺構が形成されていることから、本窯と密接に関連した遺構と推測される。

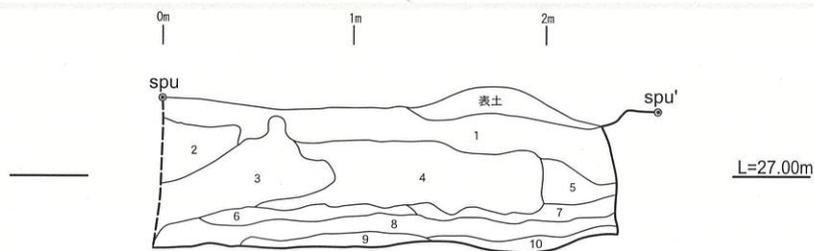
土器集積 3 (S U03)

1号窯前庭部付近の南東1.5mを中心に、「へ」の字に折れる溝状の平面形を有する。中心付近のくびれた部分の幅は約20cm、1号窯に近い部分の幅40cm、反対側の幅は約30cmである。

土器集積 4 (S U04)

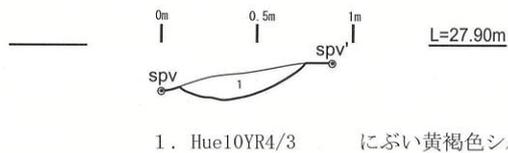
S U01内の南西寄りで見出された。径約50cmの不定形を呈する。

SK01

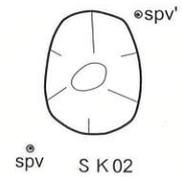


- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. Hue2. 5Y3/3 | 暗オリーブ褐色シルト(細かい焼台を含む) |
| 2. Hue10YR5/4 | にぶい黄褐色シルト |
| 3. Hue2. 5Y6/4 | にぶい黄色シルト(焼台が大量に混じる) |
| 4. Hue2. 5Y2/2 | 黒褐色シルト(焼台・遺物・炭が混じる) |
| 5. Hue2. 5Y4/4 | オリーブ褐色シルト(焼台少し混じる) |
| 6. Hue2. 5Y4/3 | オリーブ褐色シルト質砂 |
| 7. Hue2. 5Y5/4 | 黄褐色シルト質砂 |
| 8. Hue2. 5Y6/6 | 明黄褐色シルト質砂(遺物・焼台含む) |
| 9. Hue2. 5Y4/2 | 暗灰黄色シルト(炭・焼台含む) |
| 10. Hue2. 5Y6/3 | にぶい黄色シルト質砂 |

SK02



1. Hue10YR4/3 にぶい黄褐色シルト



第46図 その他の遺構平面図とセクション図

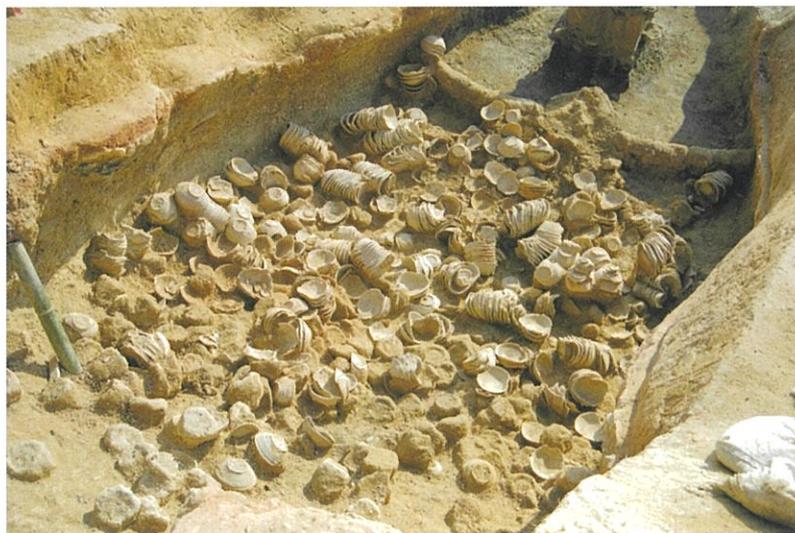


写真47 土坑01セクション (南東から)



写真48 土坑02セクション (南東から)

第 3 章 遺 物



第1節 器形分類

羽根山古窯跡群で出土した遺物は、窯跡の焼成品である碗類・皿類・鉢類・壺類・陶丸と器種不詳の6種類が確認できた。他に焼台および窯業生産にともなって使用されたと考えられる伊勢型鍋も出土した。なお本窯を構築するために用いられた床面下施設からは碗類と焼台を検出した。

本窯では碗・皿類について、底部を基準にした個別識別の方法を採用し、底部の残存率50%以上のものを1個体、それ以外のものは、一部例外を除いて0個体とみなし、総個体数を算出した。出土した遺物の総量36リットルコンテナで359箱である。小片の多くは碗や皿の口縁部・底部(1/2以下)・体部である。碗類の単体個体数は9,435点、重ね状態で4,305点、合計13,740点を数えた。皿類の単体個体数は3,967点、重ね状態で1,970点、合計5,937点であった。碗と皿の比率は7対3であった。鉢類・壺類・陶丸・器種不詳製品は、出土点数が少ないためすべて掲載した。

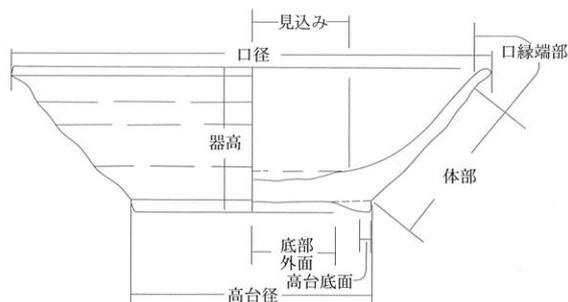
焼成品とは別に、床面下施設に使用された遺物は碗類496点と焼台1点の計497点である。内訳は3号窯で碗類93点、皿類が0点、4号窯のそれで碗類403点、皿類が0点、焼台が1点である。碗類の全体に占める割合は99.8%である。

その他、本窯と直接関係しないが、調査の過程で出土した遺物は、石器・弥生土器・製塩土器・須恵器があった。

以上が遺物全体の概要である。このうち実測図は碗類を399点、皿類を427点、鉢類を3点、壺を4点、その他を7点、作図し、観察表に掲載したものが碗類で538点、皿類で526点、鉢類・壺類・その他で906点である。それぞれ個体に遺跡単位の遺物番号を付与した。なお出土品個別情報は観察表として第26表から第63表にまとめたのでご参照願いたい。

最後に、器形分類については以下の項目で行い、数値処理した。碗類と皿類は、主として体部の断面形態を基にした分類を、これをさらに口縁端部の断面形態によった分類を設定した。ただし、皿類については底部に高台があるものと、無高台で底部が大きく突出するもの、無高台で底部は突出しないものに分けた。なお、碗・皿の部位名称は第47図を参照のこと。

今回検出された5つの窯体と付属する灰原遺構を検討した結果、1・2号窯で1つのグループ、3・4・5号窯でもう1つのグループを形成すると推定した。また出土遺物の胎土においても1・2号窯の遺物は3・4・5号窯の遺物に比して、砂粒や小礫を多く含み明らかな差異が認められる。そのため今回はそれぞれのグループに対し、器形分類を用意した。碗類は体部・口縁端部の断面形態により分類した。

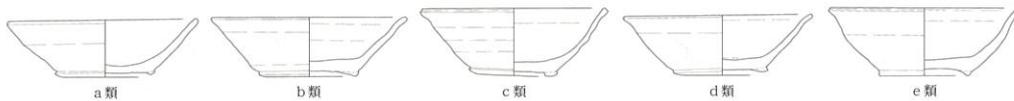


第47図 部位等名称図

(1) 【1・2号窯 碗類】＝碗類A

- 体部 a類 体部から口縁部にかけて断面形状が、直線的に立ち上がるもの。
 b類 体部から口縁部にかけて断面形状が、直線的に立ち上がり口縁部付近で外反するもの。
 c類 体部から口縁部にかけて断面形状が、直線的に立ち上がり、途中で数本の稜線が生じ、口縁部付近で外反するもの。
 d類 体部の断面形状がやや曲線的に立ち上がり、口縁部付近では外反するもの。
 e類 外形断面の形状はd類と同じだが、内面口縁部に稜線を形成するもの。
- 口縁端部 ①類 口縁端部が丸みを帯びたもの。
 ②類 口縁端部の断面形状が内側と外側の曲点がほぼ直角になるもの。
 ③類 口縁端部の断面形状が内側の曲点が外側の曲点より鋭角になるもの。

碗類 体部



口縁端部



第48図 1・2号窯碗類器形分類図

(2) 【1・2号窯 皿類】＝皿類A

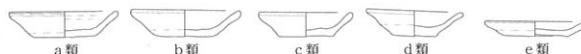
- 底部・i系 高台のないもの
 ii系 底部が円柱状に突出するもの
- 体部 a類 底部から直線的に立ち上がるもの
 b類 底部から曲線的に立ち上がるもの
 c類 底部から直線的に立ち上がり、口縁付近で外反するもの
 d類 底部から曲線的に立ち上がり、口縁付近で外反するもの
 e類 器高が低く扁平であるもの
- 口縁端部 ①類 口縁端部が丸みを帯びたもの。
 ②類 口縁端部の断面形状が内側と外側の曲点がほぼ直角になるもの。
 ③類 口縁端部の断面形状が内側の曲点が外側の曲点より鋭角になるもの。

皿類 底部

口縁端部



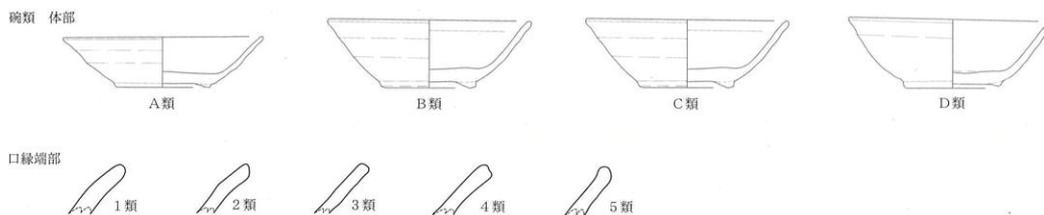
体部



第49図 1・2号窯皿類器形分類図

(3) 【3・4・5号窯 碗類】＝碗類B

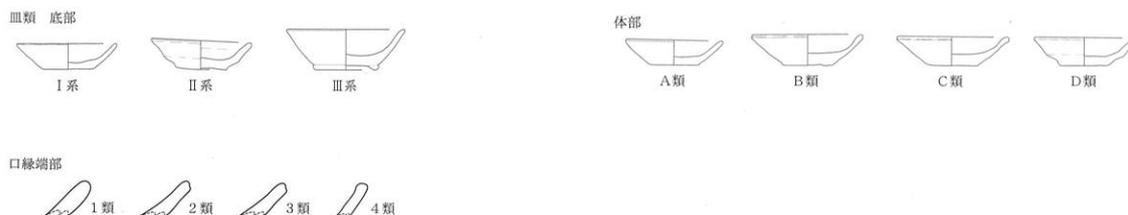
- 体部 A類 体部から口縁部にかけて断面形状が、直線的に立ち上がるもの。
 B類 体部から口縁部にかけて断面形状が、曲線的に立ち上がるもの。
 C類 体部から口縁部にかけて断面形状が、直線的に立ち上がり、口縁部付近で外反するもの。
 D類 体部の断面形状がやや曲線的に立ち上がり、口縁部付近で外反するもの。
- 口縁端部 1類 口縁端部が丸みを帯びたもの。
 2類 口縁端部の断面形状が内側の曲点が外側の曲点より鋭角のもの。
 3類 口縁端部の断面形状が内側の曲点が外側の曲点より鈍角のもの。
 4類 口縁端部の内側と外側の曲点がほぼ直角になるもの
 5類 口縁端部が内側に丸みを帯びるもの



第50図 3・4・5号窯碗類器形分類図

(4) 【3・4・5号窯 皿類】＝皿類B

- 底部 I系 高台のないもの
 II系 底部が円柱状に突出するもの
 III系 高台の付くもの
- 体部 A類 底部から直線的に立ち上がるもの
 B類 底部から曲線的に立ち上がるもの
 C類 底部から直線的に立ち上がり、口縁付近で外反するもの
 D類 底部から曲線的に立ち上がり、口縁付近で外反するもの
- 口縁端部 1類 口縁端部が丸みを帯びたもの。
 2類 口縁端部の断面形状が内側と外側の曲点がほぼ直角になるもの。
 3類 口縁端部の断面形状が内側の曲点が外側の曲点より鋭角になるもの。
 4類 口縁端部の断面形状が内側に丸みを帯びて入るもの。



第51図 3・4・5号窯皿類器形分類図

第2節 窯内の遺物

【1号窯内】

1号窯内に残っていた遺物は少なく、碗・皿・焼台・須恵器片が出土している。個体数としては碗10点、皿5点を数え、そのうちから資料として活用できたものを報告する。

碗（第52図、第4表、写真49）

碗は3点であるが、2点が焼成室、1点が燃焼室である。寸法は平均値で口径15.0cm、高台径6.8cm、器高5.3cmとなり、最大は口径15.3cm、高台径7.4cm、器高5.4cm、最小は口径14.8cm、高台径6.2cm、器高5.2cmを計測した。底部外面は糸切り痕とナデが確認できる。胎土は概ね良質である。器形分類はe類②類が3点である。



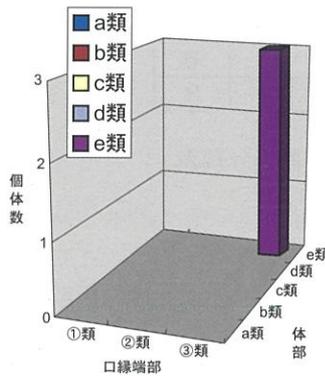
第52図 1号窯出土碗実測図



写真49 1号窯出土碗

口縁部 体部	①類	②類	③類	計
a類				0
b類				0
c類				0
d類				0
e類			3	3
計	0	0	3	3

第4表 1号窯窯内出土碗器形分類表

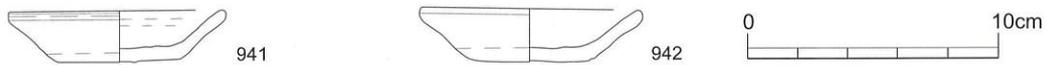


第53図 1号窯窯内出土碗類器形分類組成図

皿（第54図、第5表、写真50）

皿は3点であるが、1点が焼成室、2点が燃焼室である。寸法は平均値で口径8.6cm、高台径4.7cm、器高2.1cmとなり、最大は口径8.8cm、高台径4.9cm、器高2.3cm、最小は口径8.5cm、高台径4.5cm、器高2.0cmを計測した。底部外面は糸切り痕が確認できる。胎土、焼成ともに良質である。

3点いずれも高台が付かない。器形分類すると、a類③が1点、b類①が1点、d類①が1点である。



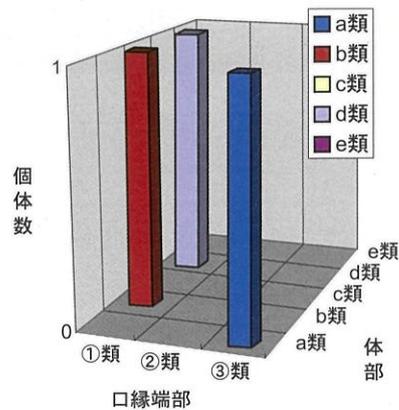
第54図 1号窯出土皿実測図



写真50 1号窯出土皿

口縁端部 体部	高台 i系			計
	①類	②類	③類	
	a類			
b類	1			1
c類				0
d類	1			1
e類				0
計	2	0	1	3

第5表 1号窯窯内出土皿器形分類表



第55図 1号窯窯内出土皿類器形分類組成図

焼台

窯内に使用されていたもので、通有の馬蹄型を呈するものである。表面の製品を載せた窪みからみて主に碗に使用されたものと思われる。

須恵器

1956が1点焼成室から出土しているが、詳細は第5節で報告するのでここでは触れない。

【2号窯内】

2号窯内での出土遺物は、碗・皿・鉢・焼台・土師質伊勢型鍋・石器である。そのうちから資料として抽出した個体数は碗76点、皿53点を数えた。

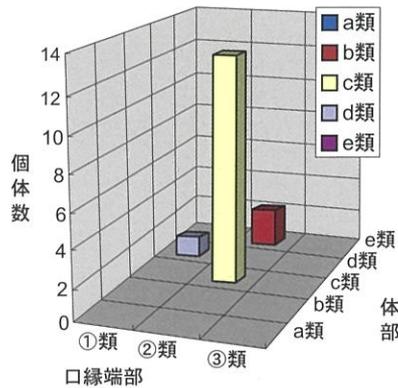
碗（第58図、第6表、写真51）

碗は焼成室と燃焼室から出土した3点と13点が対象のである。寸法は平均値で口径15.8cm、高台径7.2cm、器高5.7cmとなり、最大は口径16.3cm、高台径7.8cm、器高6.4cm、最小は口径15.0cm、高台径6.7cm、器高5.2cmを計測した。底部外面は糸切り痕とナデが確認できる。胎土は概ね良好、焼成も良好と不良が混ざるが、燃焼室に不良のものが目立つ。

器形分類は、c類②が13点、d類①が1点、e類②が2点である。

口縁部 体部	口縁部			計
	①類	②類	③類	
a類				0
b類				0
c類		13		13
d類	1			1
e類		2		2
計	1	15	0	16

第6表 2号窯窯内出土碗器形分類表



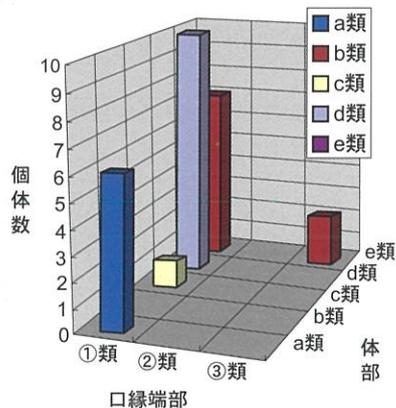
第56図 2号窯窯内出土碗類器形分類組成図

皿（第59図、第7表、写真52）

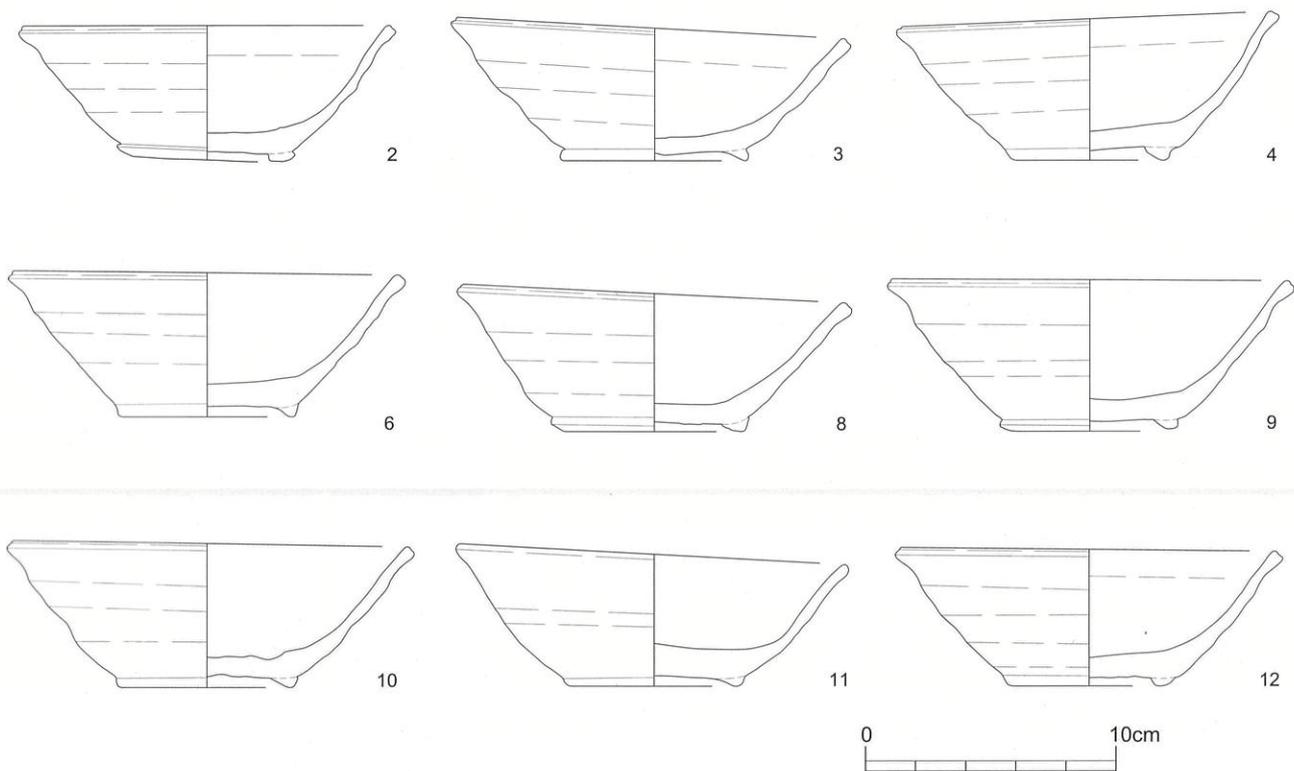
皿は8点が焼成室、18点が燃焼室で出土した。寸法は平均値で口径8.5cm、高台径4.7cm、器高2.0cmとなり、最大は口径9.5cm、高台径5.4cm、器高2.4cm、最小は口径7.8cm、高台径3.6cm、器高1.0cmを計測した。底部外面は糸切り痕とナデ痕、その両方があるものが確認できる。見込みはナデが19点、回転ナデが3点、不明が4点である。胎土は良質なものが17点、不良が9点だが、焼成は良質であった。形式上、高台が付かないもので、1点のみ底部が円柱状に突き出るものである。器形分類では、高台が付かないi系の中で、a類①が6点、c類①が1点、d類①が10点、e類①が7点、e類③が1点に分類される。同じく高台が付かないが、円柱状に突き出るii系分類されるe類①が1点ある。この窯で焼成された皿の中で特徴的なものはe類で、全部で9点確認した。これは他の皿とはやや趣きが異なり、器高が2cm未満で扁平な形を呈している。

口縁部 体部	高台			計
	i系・ii系			
	①類	②類	③類	
a類	6			6
b類				0
c類	1			1
d類	10			10
e類	7		2	9
計	24	0	2	26

第7表 2号窯窯内出土皿器形分類表



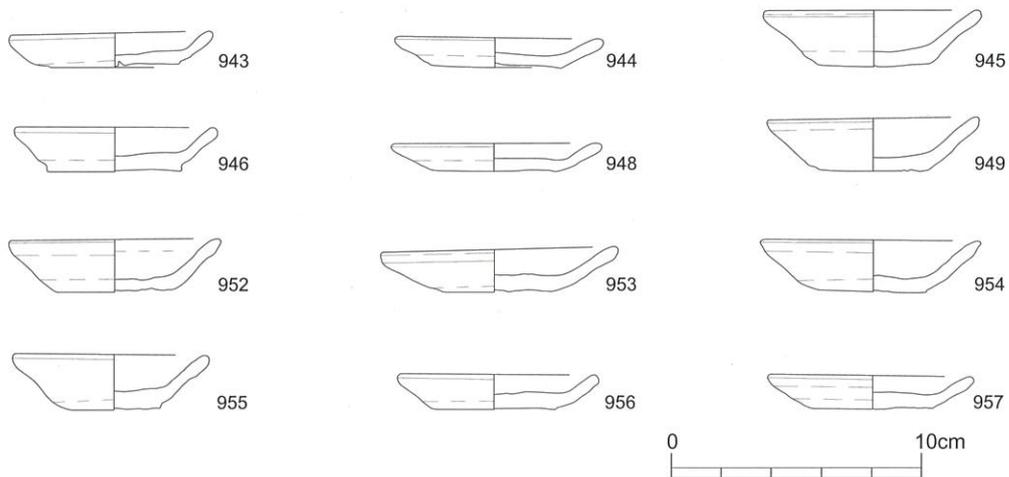
第57図 2号窯窯内出土皿類器形分類組成図



第58图 2号窯出土碗实测图



写真51 2号窯出土碗



第59図 2号窯出土皿実測図



写真52 2号窯出土皿

鉢

焼成室内から1点の破片が出土している。底部のみの資料であるが、高台はすべてはずれている。破片の割れ口に自然釉がかかっているので、二次焼成が行われたものである。

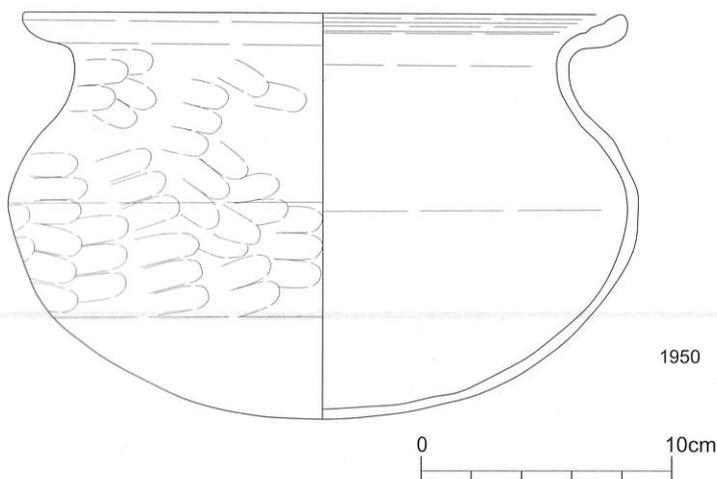
焼台

窯内に使用されていたもので、通有の馬蹄型を呈するものである。表面の製品を載せた窪みから判断して主に碗に使用されたものと思われる。

土師質埴片（伊勢型鍋）

窯内から破片が2点出土している。そのうち1点は遺物番号1950で、伊勢型鍋のほぼ完形品であ

る。これは、窯内の右壁に接するように口を横に向けた状態で出土した。口径23.8cm、器高16.3cmを計測する。残念ながら、口縁部の3分1が欠損し、体部にひび割れが認められるが、口縁部の破片はよく出土するが、全体がわかる形で出土するのは珍しい。



第60図 2号窯出土土師質埴実測図



写真53 2号窯出土土師質埴

【3号窯内】

3号窯内の出土は、碗・皿・陶丸・焼台・須恵器片である。個体数としてカウントできた点数は碗118点、皿71点を数え、そのうちから資料として活用できたものは、碗40点・皿39点・陶丸1点である。

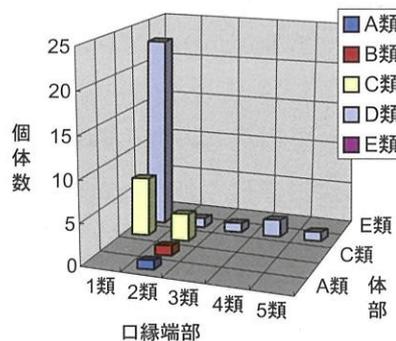
碗（第62図、第8表、写真54）

出土した詳細な場所は、燃烧室から17点、焼成室から13点、部屋は不詳だが窯内からの出土は10点である。高台底面付着痕には粉痕と粉痕・砂の2通りが認められ、底部外面には糸切り痕、ナデ痕が見られる。胎土は少量の砂が混じるものが多く、良質の範囲である。焼成は全体に白色を呈するが、焼き締まりのよくない、いわゆる生焼け風のもの19点含まれ、それらは焼成室からの出土である。寸法は平均値で口径16.1cm、高台径7.8cm、器高5.1cmとなり、最大は口径16.9cm、高台径8.7cm、器高5.7cm、最小は口径15.1cm、高台径7.0cm、器高3.9cmを計測した。

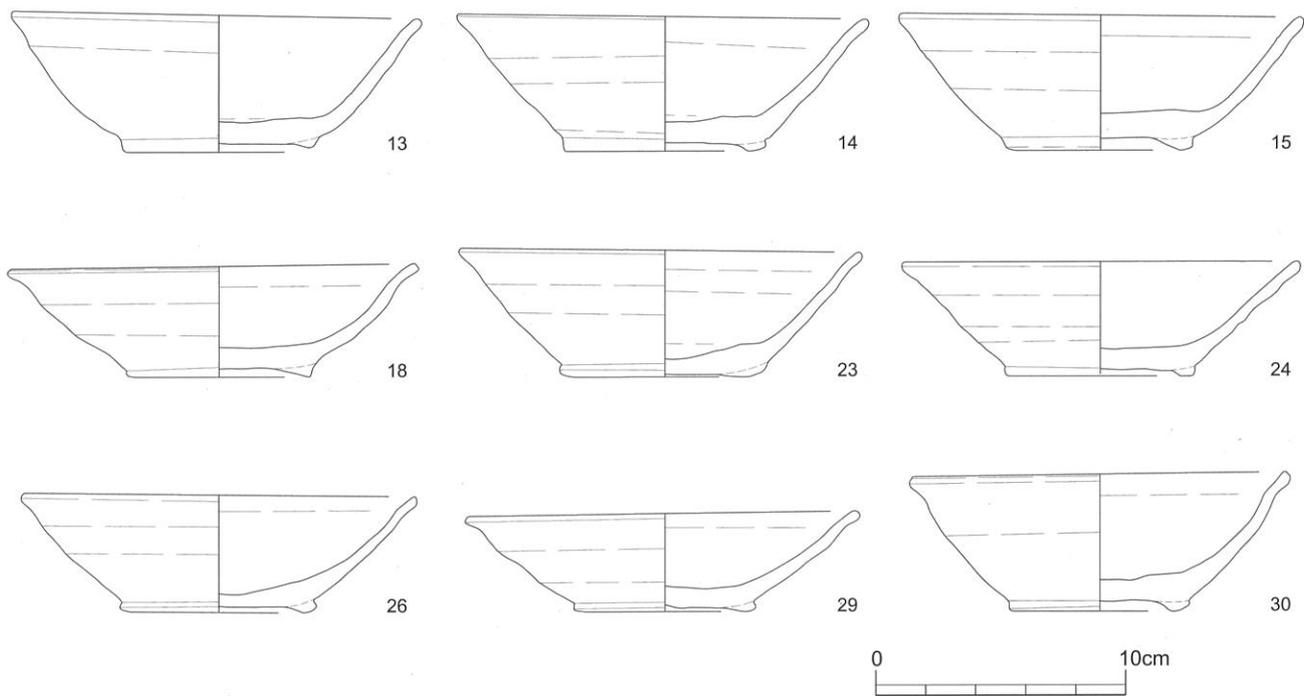
形状については、器形分類を行ったところ、A類2が1点、B類2が1点、C類1が7点、C類2が3点、D類1が23点、D類2が1点、D類3が1点、D類4が2点、不明が1点となった。

口縁部 体部	口縁部					計
	1類	2類	3類	4類	5類	
A類		1				1
B類		1				1
C類	7	3				10
D類	23	1	1	2	1	28
E類						0
計	30	6	1	2	1	40

第8表 3号窯窯内出土碗器形分類表



第61図 3号窯窯内出土碗類器形分類組成図



第62図 3号窯出土碗実測図

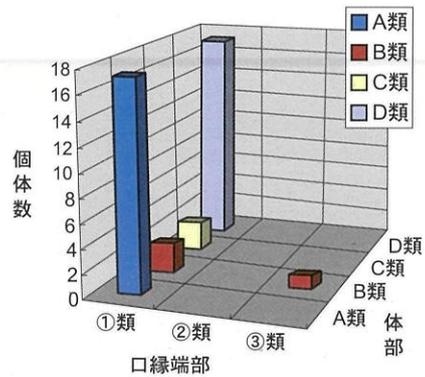


写真54 3号窯出土碗

皿（第64図、第9表、写真55）

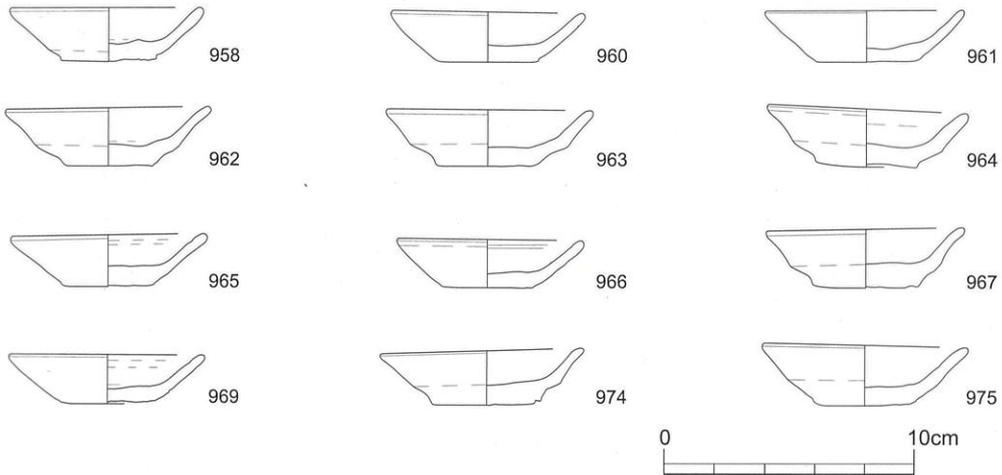
皿については、燃焼室から12点、焼成室から27点出土している。底部外面には糸切り痕とナデ痕が認められた。胎土は良質、焼成も良好である。寸法は平均値で口径7.9cm、高台径3.9cm、器高2.1cmとなり、最大は口径8.8cm、高台径4.8cm、器高3.4cm、最小は口径7.4cm、高台径3.3cm、器高1.9cmを計測した。形状については、底部に高台が付かないものが38点、高台が付くもの1点である。器形分類について、I系A類1が17点、I系B類1が2点、I系B類2が1点、I系D類1が4点である。II系C類1が2点、II系D類1が12点で、III系D類1が1点である。基本的に本窯跡群の皿には高台が付けられていないものが大半であるが、1399には高台が付いていた。

口縁端部 体部	高台			計
	I系・II系・III系			
	①類	②類	③類	
A類	17			17
B類	2		1	3
C類	2			2
D類	17			17
計	38	0	1	39



第9表 3号窯窯内出土皿器形分類表

第63図 3号窯窯内出土皿類器形分類組成図



第64図 3号窯出土皿実測図

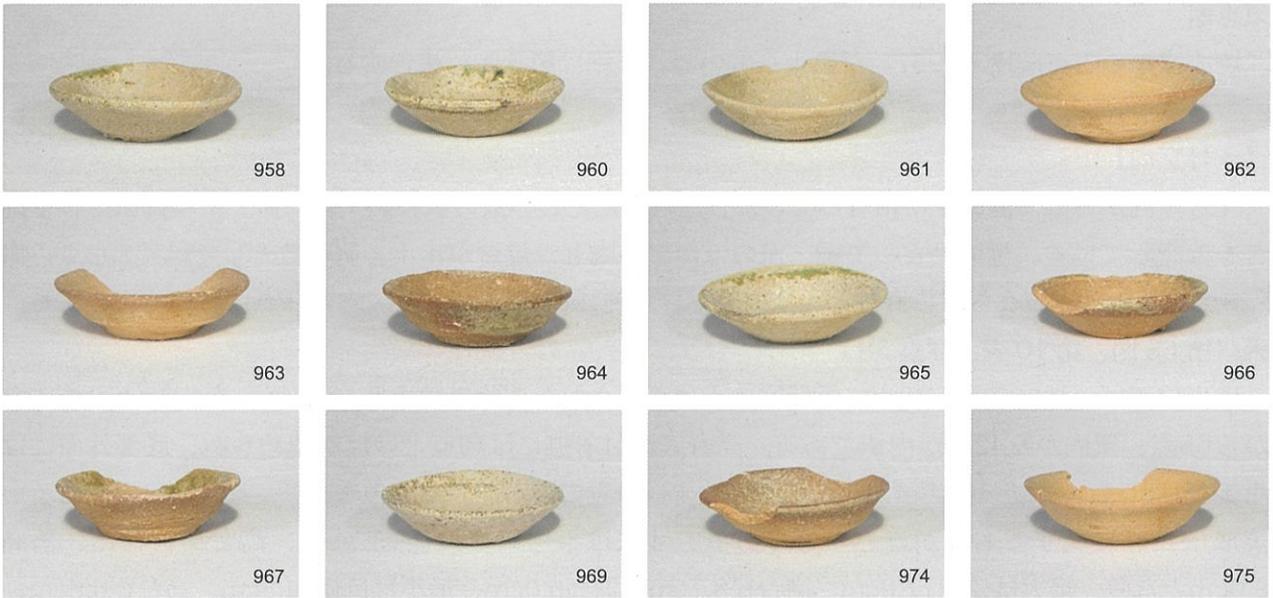
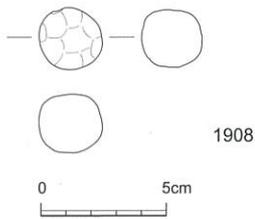


写真55 3号窯出土皿

陶丸（第65図、第54表、写真56）

焼成室から出土し、一部に釉が付着する。寸法は2.6×2.4cmで、楕円形を呈している。遺物番号は1908である。

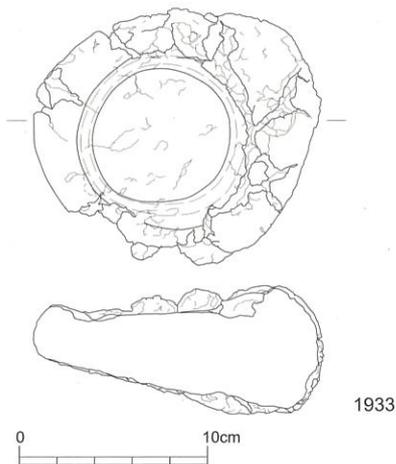


第65図 3号窯出土陶丸実測図

写真56 3号窯出土陶丸

焼台（第66図、第59表、写真57）

窯内で使用されていたもので、通有の馬蹄型を呈するものである。表面の製品を載せた窪みから判断して主に碗に使用されたものと思われる。



第66図 3号窯出土焼台実測図

写真57 3号窯出土焼台

須恵器

焼成室から1点破片（1957）が出土している。詳細は第5節で報告する。

【4号窯内】

4号窯内からは、焼成中に釉着してしまったおびただしい数の重ね碗・重ね皿・重ね碗皿そして焼台を確認している。焼成品として碗・皿のほかに、陶丸、焼台が出土。個体数としては碗592点、皿228点を数え、そのうちから資料として抽出できた碗190点・皿119点・陶丸2点について報告する。

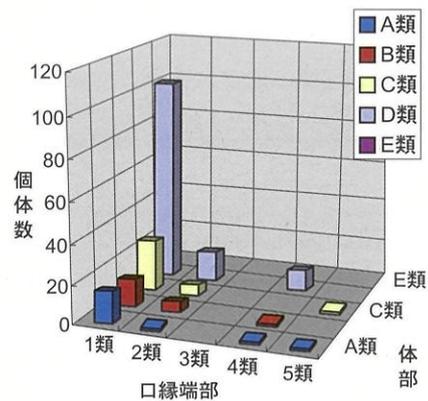
碗（第68図、第10表、写真58）

出土位置は、燃焼室から38点、燃焼室の上に形成された遺物集積土坑（SU02）から45点、焼成室から65点、窯内から42点が内訳である。高台底面付着痕には糊痕と砂痕が認められ、底部外面にはナデ・糸切り痕・糸切り後ナデが見られる。胎土は少量の砂が混じるものもあり、最良か良質である。焼成は良好に属するものがほとんどである。寸法は平均値で口径15.9cm、高台径7.6cm、器高5.0cmとなり、最大は口径17.0cm、高台径8.7cm、器高6.0cm、最小は口径14.8cm、高台径6.6cm、器高4.0cmを計測した。

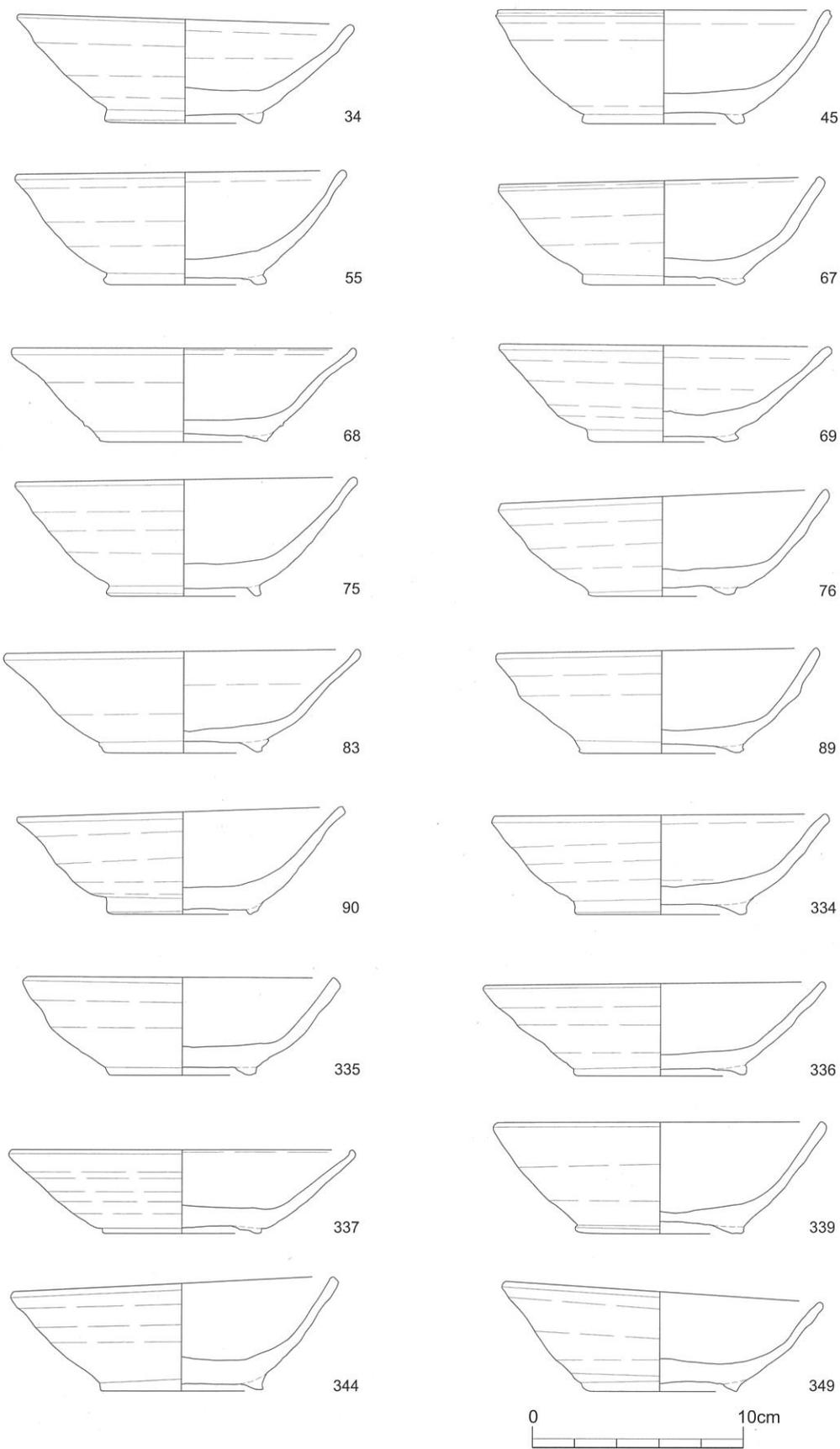
形状については、器形分類をおこなった結果、第10表のとおりとなった。最多はD類の124点、次いでC類の31点、以下B類A類と続く。これを口縁端部分類すると、1類が152点、2類が25点、3類が11点、4類が2点とに分けられた。

口縁部 体部	口縁部					計
	1類	2類	3類	4類	5類	
A類	14	1		1	1	17
B類	12	5		1		18
C類	25	5			1	31
D類	101	14		9		124
E類						0
計	152	25	0	11	2	190

第10表 4号窯窯内出土碗器形分類表



第67図 4号窯窯内出土碗類器形分類組成図



第68图 4号窑出土碗实测图

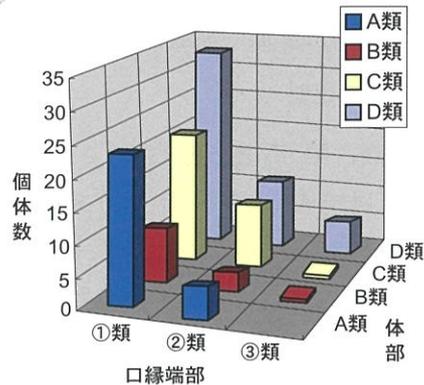


写真58 4号窯出土碗

皿（第70図、第11表、写真59）

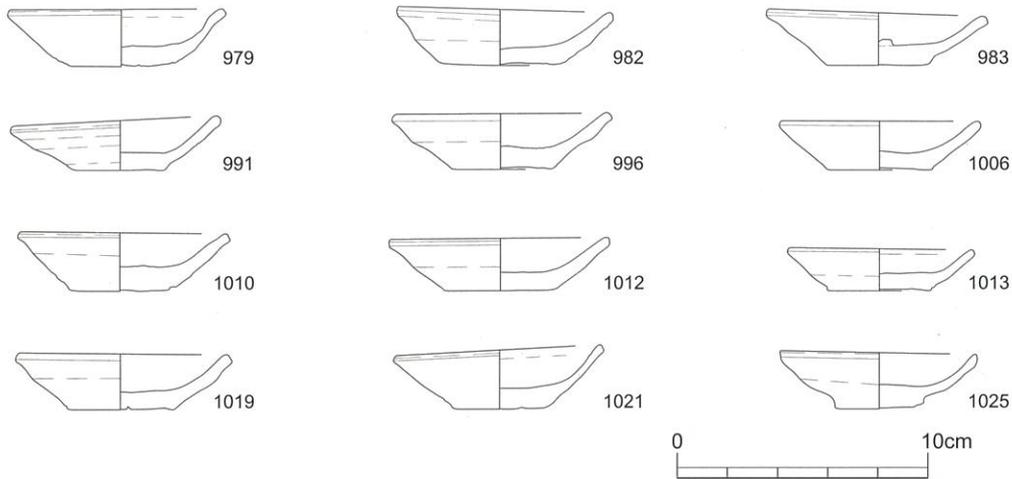
皿については、燃焼室から52点、燃焼室の上に形成された土坑（SU02）から5点、燃焼室前庭部から13点、焼成室から46点、窯内から2点、分焰柱中から1点出土している。底部外面には糸切り痕・ナデ痕が認められる。見込みはコロシ1点、横ナデ54点、回転ナデ47点、不良1点となった。胎土は少量の砂が混じるものもあるが良好である。焼成についても良好である。寸法は平均値で口径8.4cm、高台径4.3cm、器高2.2cmとなり、最大は口径9.4cm、高台径5.3cm、器高2.6cm、最小は口径7.2cm、高台径3.4cm、器高1.2cmを計測した。形状については、底部に高台が付かないものが94点、底部が円柱状に高くなるものが25点である。器形分類について、器形分類をおこなった結果、第11表のとおりとなった。最多はD類の49点、次いでC類の32点、A類の27点、B類の11点と続く。これを口縁端部分類すると、1類が85点、2類が27点、3類が7点、4類が2点とに分けられた。

口縁端部 体部	高台			計
	I系・II系・III系			
	①類	②類	③類	
A類	23	4		27
B類	8	2	1	11
C類	21	10	1	32
D類	33	11	5	49
計	85	27	7	119



第11表 4号窯窯内出土皿器形分類表

第69図 4号窯窯内出土皿類器形分類組成図



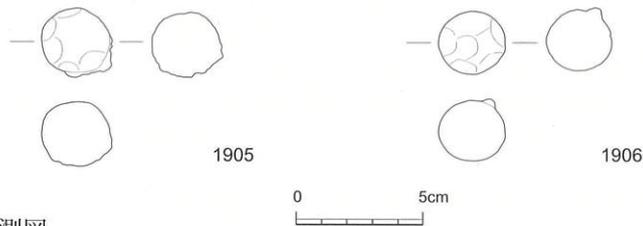
第70図 4号窯出土皿実測図



写真59 4号窯出土皿

陶丸（第71図、第55表、写真61）

陶丸の2点は焼成室からの出土である。球状であるが、手により成形のため完全な球ではなく、だ円気味である。1905は2.7×2.6cmを計測し、表面には自然釉が付着し、小石も張り付いている。1906は2.7×2.5cmで、形状と特徴は1905と類似している。



第71図 4号窯出土陶丸実測図



写真60 4号窯出土陶丸

重ね碗（第72図、第56表、写真61）

焼成室と燃焼室に大量に放置され、天井部の下敷きになってつぶれたようになっていた中から焼成時に積み上げられた様子が推測されるものを選択して掲載する。1913は焼成室からの出土で、8枚重ねで、全長18.1cmである。最上段に重ね跡がなく、自然釉が碗内面全体に認められることから“天場もの”と思われる。1914は燃焼室にあったもので、7枚重ねである。1913と同じく“天場もの”と推定する。

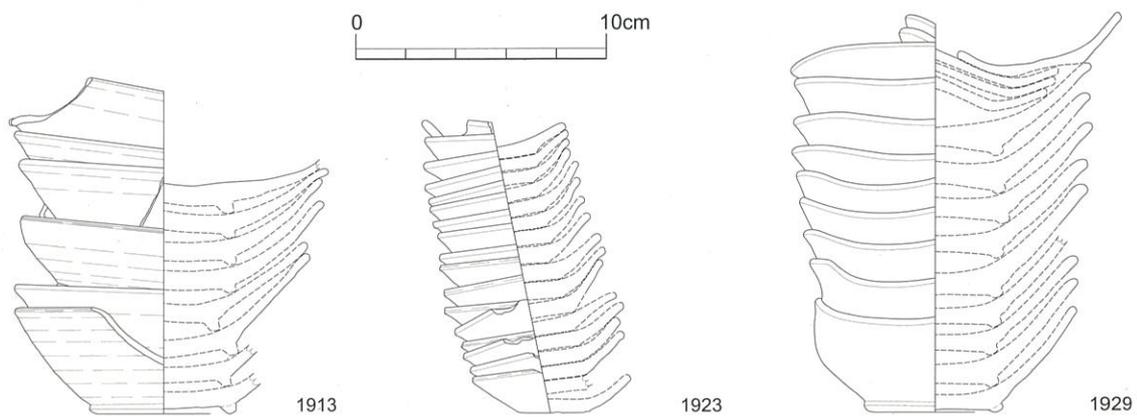
重ね皿（第72図、第57表、写真61）

1923は焼成室からの出土で、17枚重ねで、全長で15.6cmあり、今回出土した皿の重ね状態では最多枚数と思われる。1924は燃焼室から3枚重ねの状態出土したものである。

重ね碗皿（第72図、第57表、写真61）

焼成時に、同器種のみ重ねているのではなく、別の器種を乗せる場合があったようで、今回とりあげるのは、碗と皿を混合したものである。1929は9枚の碗と4枚の皿を重ねたもので、13枚が釉着してしまっている。全長は21.7cmを計測した。

1930は碗2枚、皿1枚であるが、碗の上に皿を乗せる形となっている。皿は碗よりの口径で半分、器の高さでも半分の長さしかないので、枚数を稼ぐために、このような方法を採用したのであろう。



第72図 4号窯出土重ね碗皿等実測図



写真61 4号窯出土重ね碗・重ね皿・重ね碗皿

焼台（第59表）

窯内で使用されていたもので、通常窯でよく目にする形で、馬蹄型を呈するものである。表面の製品を載せた窪みから判断して主に碗に使われたと思われる。窯内にはかなりの量が残されていたが、そのうち状態の良好な12点を資料として採取した。

【5号窯内】

5号窯内での出土品は碗・皿・焼台である。個体数としては碗241点、皿121点を数え、そのうちから資料として抽出できた碗95点・皿69点について報告する。

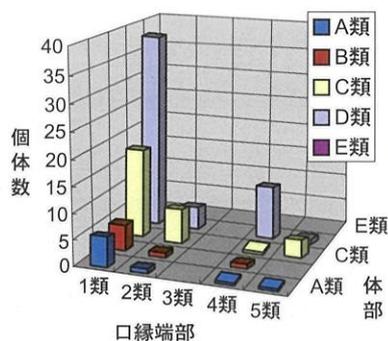
碗（第74図、第12表、写真62）

出土位置は、燃焼室から30点、焼成室から52点、窯内から9点、分焰柱から4点が内訳である。なお、分焰柱内とは補修用に使用されたものである。高台底面付着痕には靨痕が認められ、底部外面にはナデ・糸切り痕・糸切り後ナデ・糸切り後板目の4種類が見られる。胎土は少量の砂が混じるものもあるが、良質である。焼成は良好と不良（生焼けに近く、やや脆い）に属するものが半々であった。寸法は平均値で口径16.0cm、高台径8.2cm、器高4.9cmとなり、最大は口径16.8cm、高台径9.3cm、器高5.5cm、最小は口径15.2cm、高台径7.4cm、器高4.4cmを計測した。

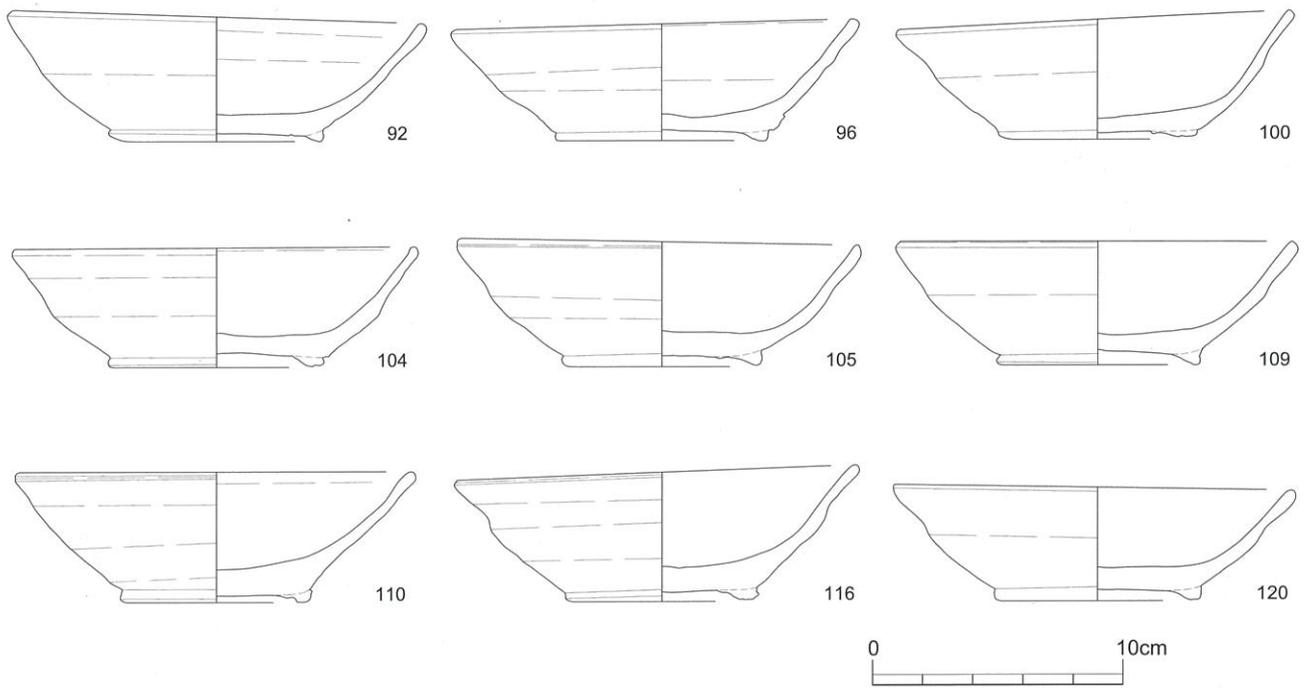
形状については、器形分類をおこなった結果、第12表のとおりとなった。最多はD類の53点、次いでC類の27点、以下A類の8点、B類の7点と続く。さらに口縁端部で分類すると、1類が65点、2類が12点、3類が13点、4類が5点とに分けられた。

口縁部 体部	口縁部					計
	1類	2類	3類	4類	5類	
A類	5	1		1	1	8
B類	5	1		1		7
C類	17	6		1	3	27
D類	38	4		10	1	53
E類						0
計	65	12	0	13	5	95

第12表 5号窯窯内出土碗器形分類表



第73図 5号窯窯内出土碗類器形分類組成図



第74图 5号窯出土碗实测图



写真62 5号窯出土碗

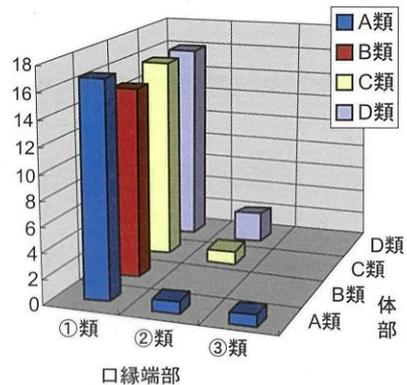
皿（第76図、第13表、写真63）

皿については、燃焼室から22点、焼成室から46点、窯内から1点、出土している。どれも高台は付いていない。底部外面には糸切り痕・ナデ痕・糸切り後ナデの3タイプが認められる。見込みは横ナデ24点、回転ナデ27点、不良18点であった。胎土は少量の砂が混じるものもあるが良好である。焼成については良好51点、不良18点である。寸法は平均値で口径7.8cm、高台径4.3cm、器高2.1cmとなり、最大は口径8.8cm、高台径4.8cm、器高2.5cm、最小は口径7.1cm、高台径3.7cm、器高1.1cmを計測した。形状については、底部に高台が付かないものが53点、底部が円柱状に高くなるものが16点である。器形分類をおこなった結果、第13表のとおりとなったが、どのタイプもほぼ同数であった。これらを口縁端部で分類すると、1類が65点、2類が5点に分けられた。

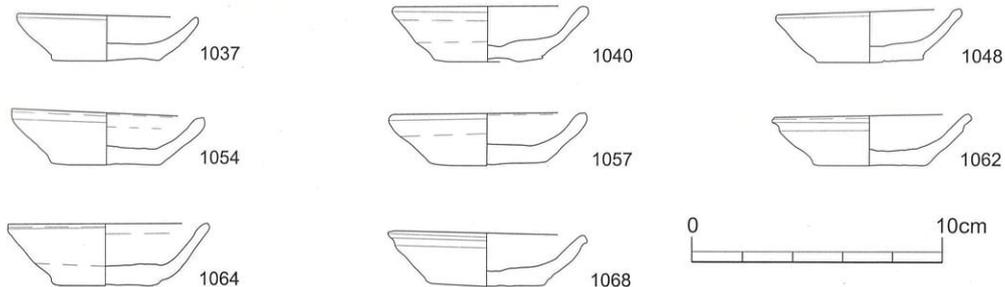
5号窯出土の皿のうち、特殊なものをいくつか例示する。これは口縁部の外側に溝状の凹みをめぐらして、玉縁状口縁に成形した皿で、全部で9点確認できた。燃焼室から4点（1061・1062・1067・1068）、焼成室から5点（1038・1039・1049・1471・1474）という内訳であるが、他の窯または関連灰原から出土しないので、5号窯のみで焼成したタイプの皿と思われる。

口縁端部 体部	高台			計
	I系	II系	III系	
	1類	2類	3類	
A類	17	1	1	19
B類	15			15
C類	16	1		17
D類	16	2		18
計	64	4	1	69

第13表 5号窯窯内出土皿器形分類表



第75図 5号窯窯内出土皿類器形分類組成図



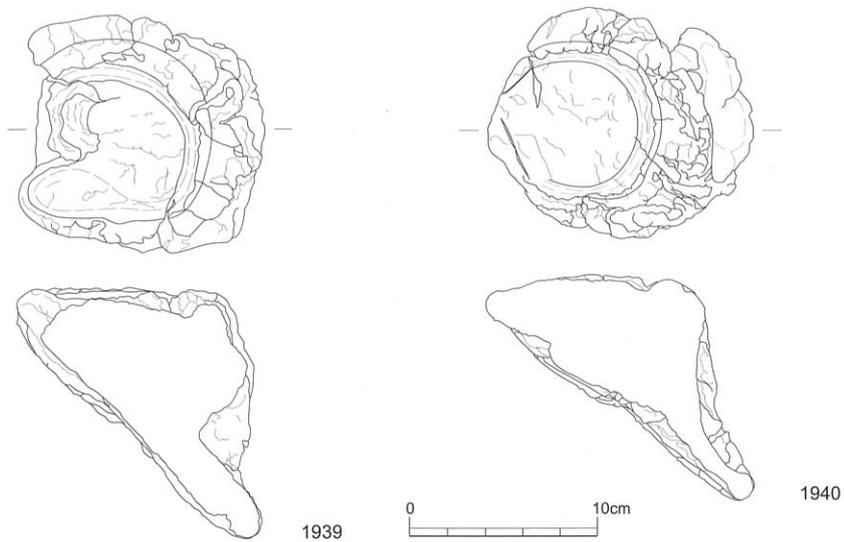
第76図 5号窯出土皿実測図



写真63 5号窯出土皿

焼台（第77図、第59表、写真64）

窯内で使用されていたもので、馬蹄型を呈するものである。表面の製品を載せた窪みから判断して主に碗に使われたと思われる。窯内に残されていたもののうち、状態の良好な6点を資料として採取した。



第77図 5号窯出土焼台実測図



写真64 5号窯出土焼台

第3節 灰原および土坑等の遺物

概要

灰原は、第2章の遺構で報告したように各窯に付属する灰原を特定できなかったためまとめて記述する。灰原・前庭部そして土坑や溝からは窯内と比較して大量の遺物が残されていた。ここでは、灰原と土坑や遺物集積土坑および溝などから出土した遺物をまとめて報告する。ただし、ここで取り扱うものは実測図を作成、及び観察表に掲載した1個体と判定したもののみである。

まず、灰原および土坑等から出土した単体の碗類は7441点を、皿は3285点を個体数として確認した。その他に片口碗、片口鉢、壺、重ね碗、重ね皿、陶丸、器種不詳製品、窯道具の焼台、窯業生産で使われたと思われる土師質埴片（伊勢型鍋）が確認された。また、窯業生産とは直接関係しないと思われるものとして、須恵器、製塩土器、弥生土器、石器が発見されている。

碗（第80・81・82図、第15・16表、写真65・66・67）

灰原等から出土した碗類531点について報告する。法量については平均値・最大値・最小値は第14表にしめしたとおりの数値である。その全体を通観した時、平均値は口径16.0cm、高台径7.8cm、器高5.1cmを計測している。

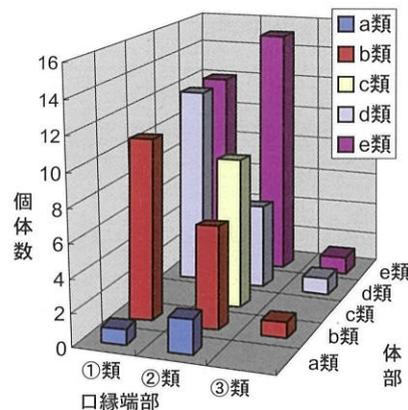
高台底面付着痕にはもみ・砂の2種類が認められ、底部外面では糸切り痕・糸切り後板目・糸切り後ナデ・ナデ・繊維痕・不明の6種類があり、見込みは回転ナデ・横ナデ・コロシを確認した。また胎土は最良と良で99%以上であった。器形分類は第15～16表のとおりであるが、全体で体部は1・2号窯関連でe類が最多、3・4・5号窯関連でD類である。口縁端部では前者が①類②類がほとんどで、後方で1類が8割以上を占めた。

	口 径	底径／高台径	器 高
平 均	16.0cm	7.8cm	5.1cm
最 大	18.0cm	9.5cm	6.5cm
最 小	14.4cm	5.9cm	4.1cm

第14表 灰原等出土碗法量一覧

体部	口縁部			計
	①類	②類	③類	
a類	1	2		3
b類	11	6	1	18
c類		9		9
d類	12	5	1	18
e類	12	15	1	28
計	36	37	3	76

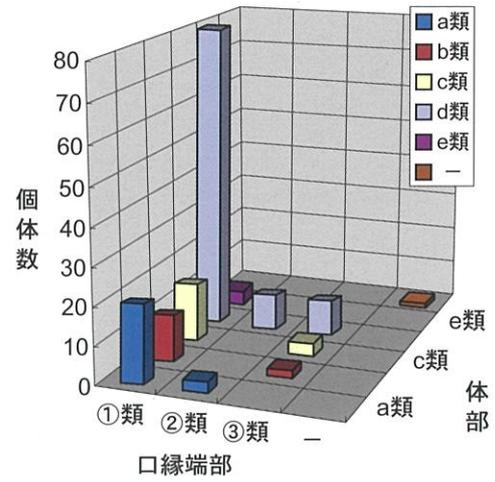
第15表 灰原等出土碗類A器形分類表



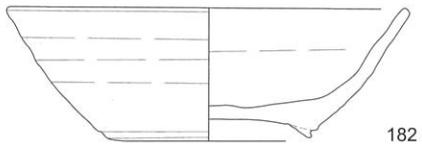
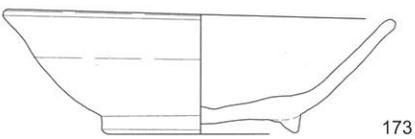
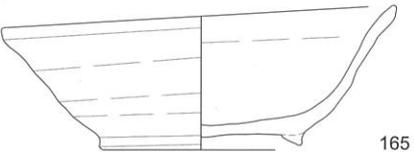
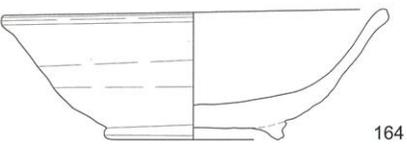
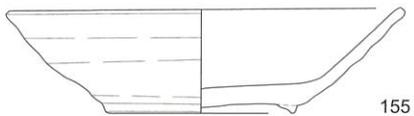
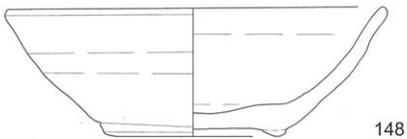
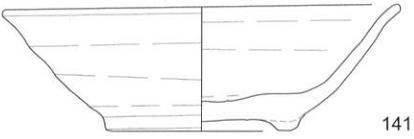
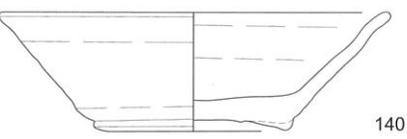
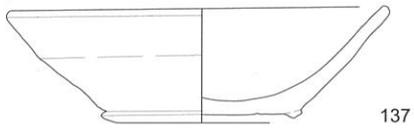
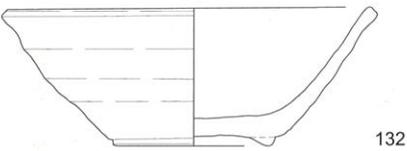
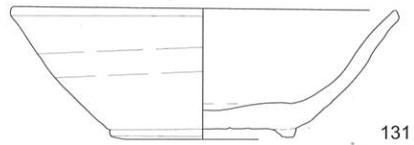
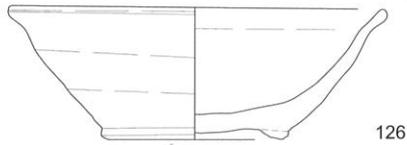
第78図 灰原等出土碗類A器形分類組成図

口縁端部 体部	高台				計
	i系・ii系				
	①類	②類	③類	—	
a類	19	3			22
b類	11		2		13
c類	14		3		17
d類	80	8	9		97
e類	4				4
—				1	1
計	128	11	14	1	154

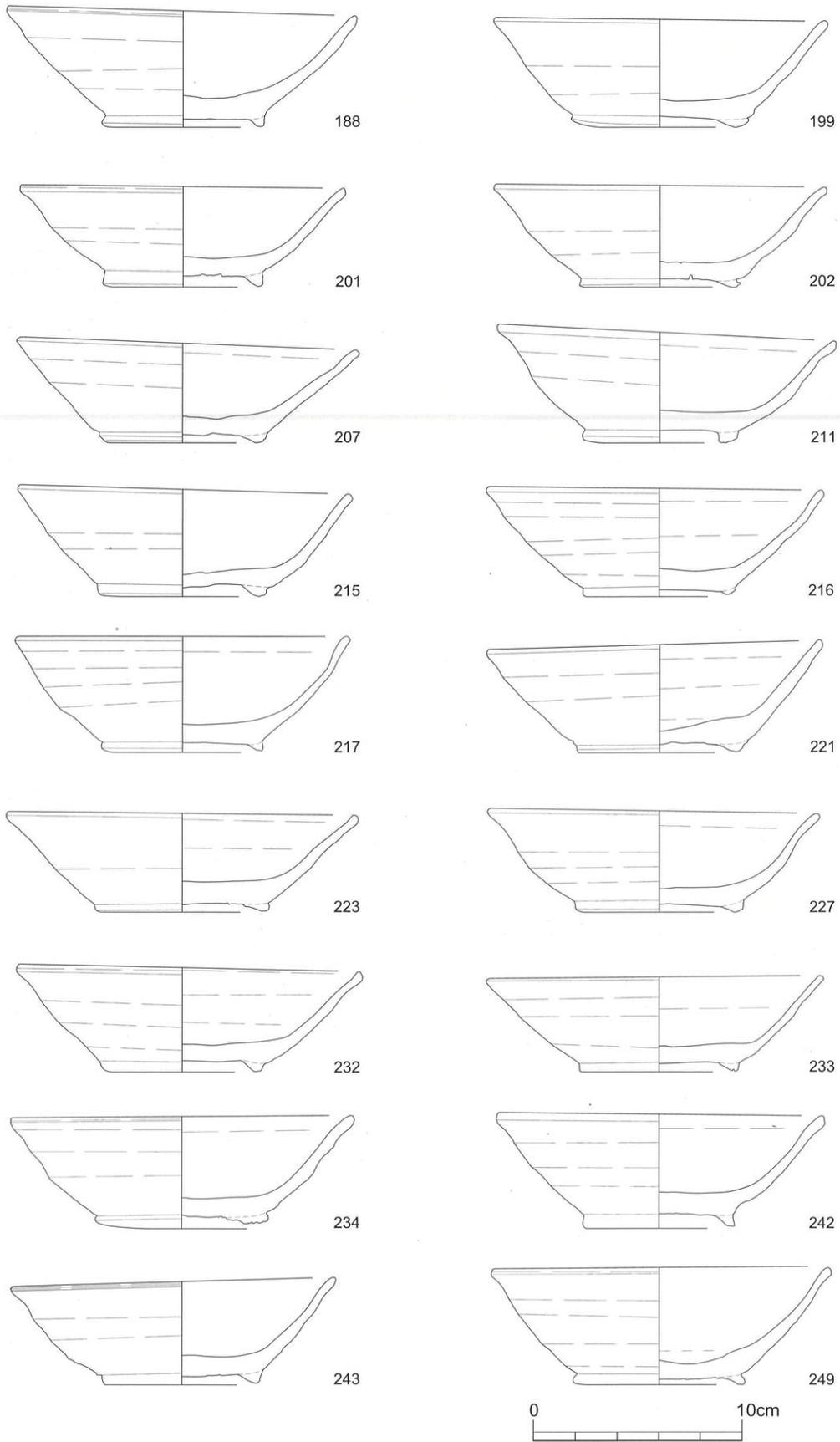
第16表 灰原等出土碗類B器形分類表



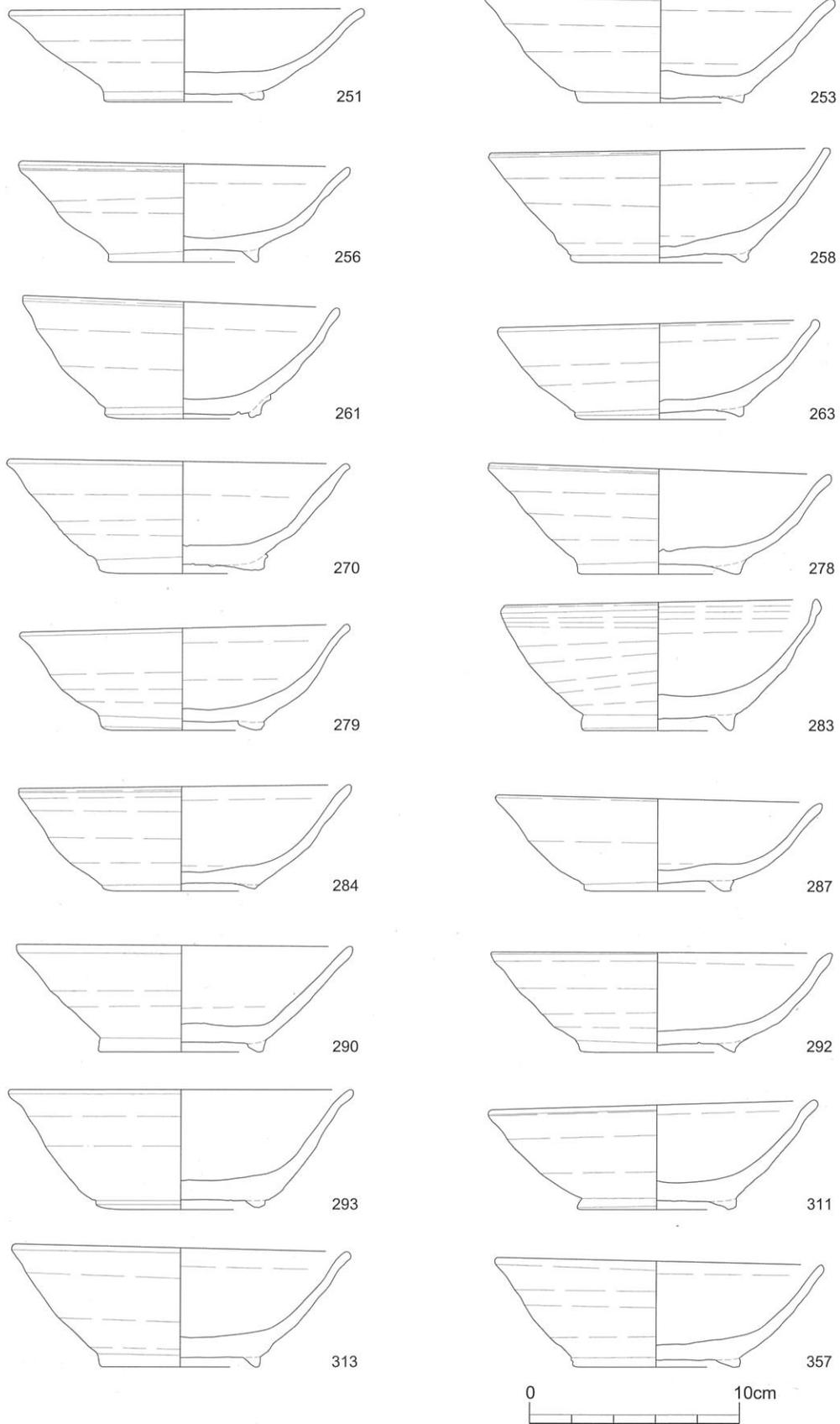
第79図 灰原等出土碗類B器形分類組成図



第80図 灰原等出土碗実測図 (その1)



第81図 灰原等出土碗実測図（その2）



第82図 灰原等出土碗実測図（その3）



写真65 灰原等出土碗（その1）



写真66 灰原等出土碗（その2）



251



253



256



258



261



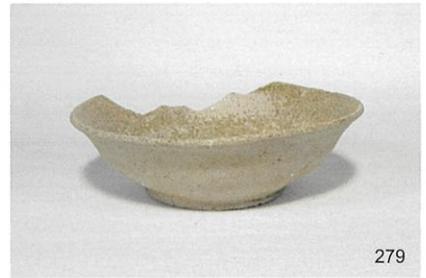
263



270



278



279



283



284



287



290



292



293



311



313



357

写真67 灰原等出土碗（その3）

皿（第85・86図、第18・19表、写真68・69）

灰原や土坑などから皿類は680点出土している。各部位の法量は平均値で口径8.3cm、底径（高台径）4.3cm、器高2.2cmである。最大値と最小値は第17表にまとめたとおりである。

ここから碗類と同様にナデにより全体が成形され、底部外面には糸切りの痕・糸切り後板目・糸切り後ナデ・ナデなどである。見込みは回転ナデ・横ナデ・コロシを確認した。胎土は少量の砂粒が混じる土が使用されているが、概ね良質と思われる。器形分類は下記の第18～19表に示すとおりであるが、高台の有無は、高台が付けられているものと、そうでないものとが混在している。ただ、その数は少なく、掲載した遺物のなかでも、1191・1222・1319・1365が該当するのみである。全体で体部は1・2号窯関連でd類が最多、3・4・5号窯関連でD類である。口縁端部では前者が①類②類がほとんどで、後方で1類が8割以上を占めた。

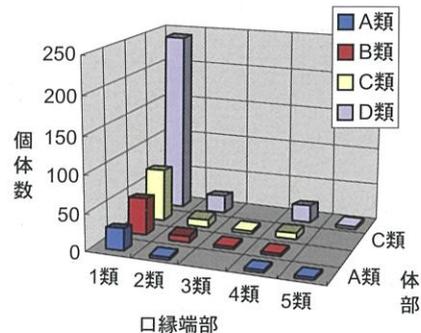
1368は灰原Dから出土したものだが、高台が高杯状に高くなっているタイプのもので、皿でない可能性がある。ただ体部と口縁部は全部欠損しており、全体の様子は不詳である。現在は底部のサイズから判断して皿に分類している。また、玉縁状に口縁部が成形された皿も確認し、1328・1359・1524・1824がそれである。

	口 径	底径／高台径	器 高
平 均	8.3cm	4.3cm	2.2cm
最 大	9.9cm	5.7cm	3.0cm
最 小	4.5cm	3.0cm	1.4cm

第17表 灰原等出土碗法量一覧

口縁部 体部	口縁部					計
	1類	2類	3類	4類	5類	
A類	26	1		4	3	34
B類	46	9	1	1		57
C類	66	11	1	6		84
D類	240	19		20	1	280
計	378	40	2	31	4	455

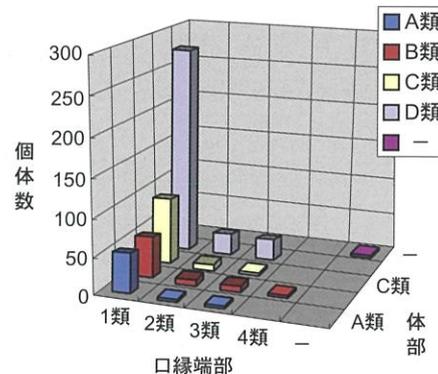
第18表 灰原等出土皿類A器形分類表



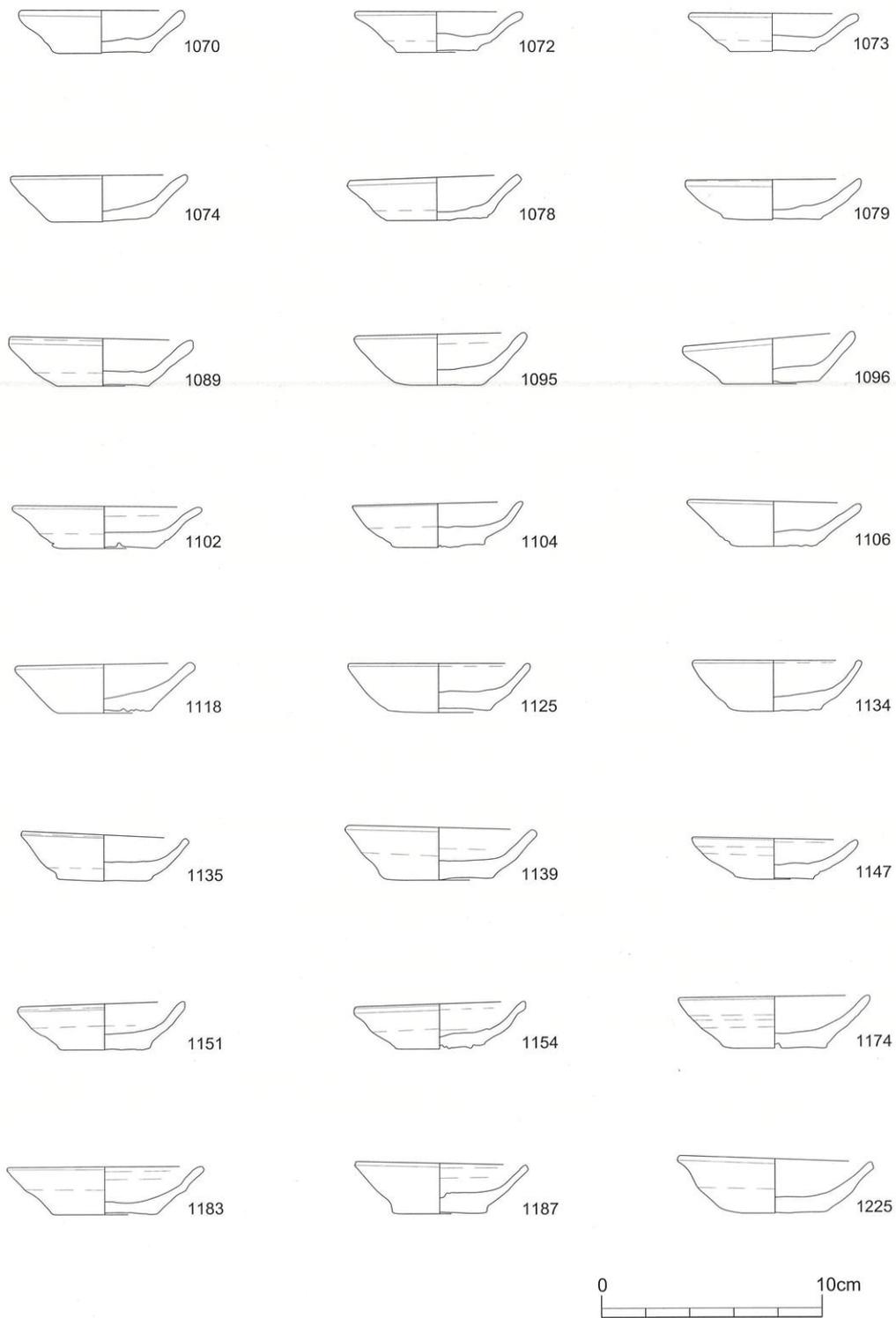
第83図 灰原等出土皿類A器形分類組成図

口縁端部 体部	高台					計
	I系・II系・III系					
	1類	2類	3類	4類	—	
A類	50	4	2			56
B類	51	8	6	1		66
C類	86	8	2			96
D類	275	25	22			322
—					3	3
計	462	45	32	1	3	543

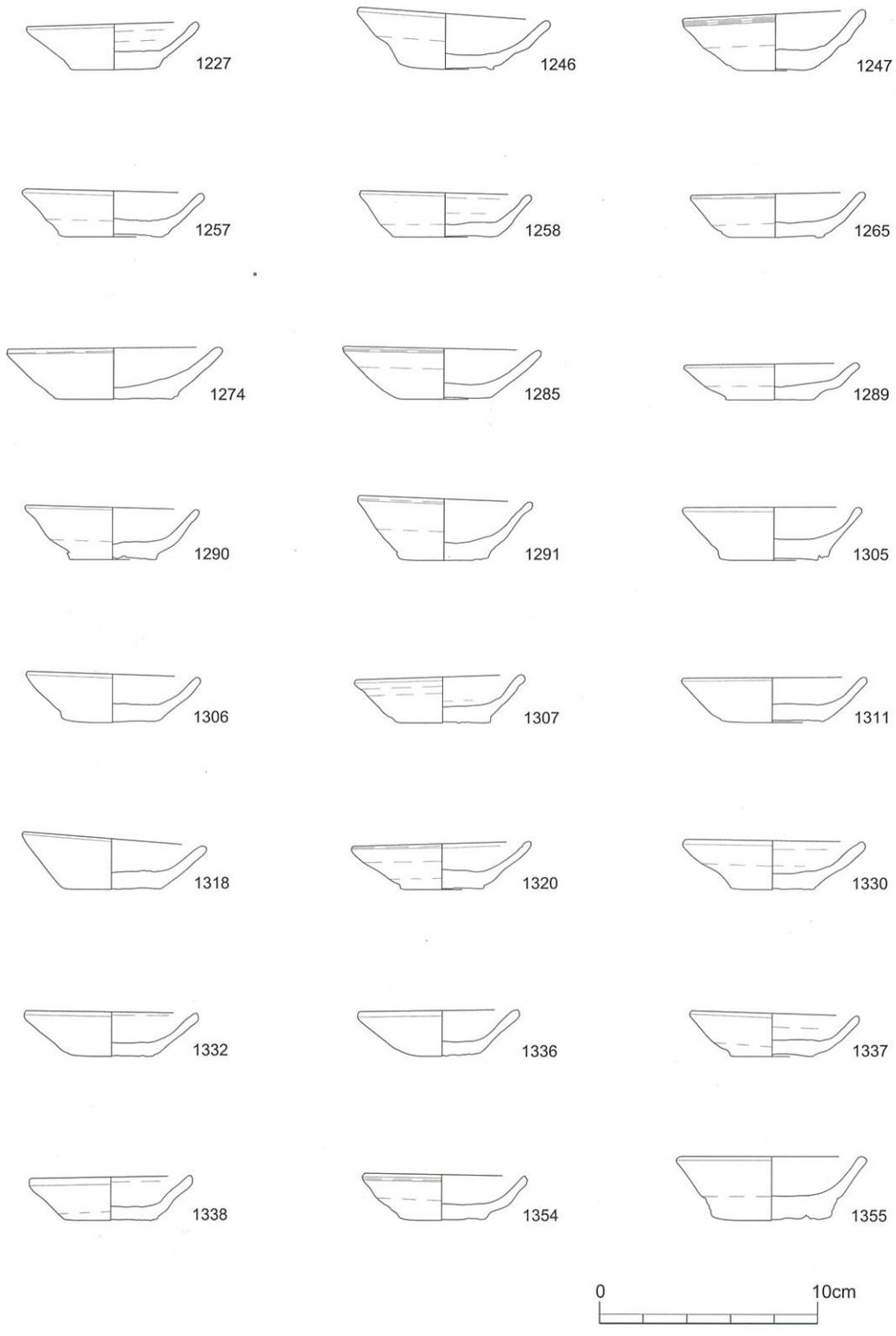
第19表 灰原等出土皿類B器形分類表



第84図 灰原等出土皿類B器形分類組成図



第85図 灰原等出土皿実測図（その1）



第86図 灰原等出土皿実測図（その2）



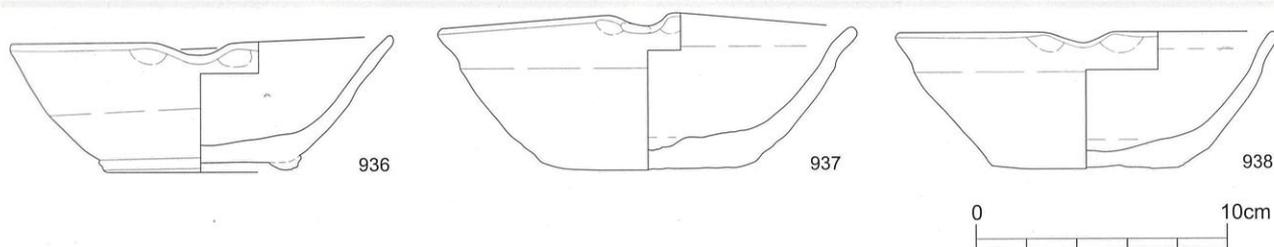
写真68 灰原等出土皿（その1）



写真69 灰原等出土皿（その2）

片口碗（第87図、第38表、写真70）

灰原と溝から5点出土している。灰原は2号窯のものが廃棄された場所で、溝も2号窯前庭部に穿たれたものである。いずれも2号窯で焼成されたと推定される。5点のうち、全体が分かるものは3点、2点は口のみである。936は焼成が甘く、生焼け状態の資料であるが、全体がよくわかる。口は片口鉢と同様に外で注ぎ口が付けられている。937・938は口縁部が大きく欠損しているが、底部と注ぎ口が残っており、全体像をつかめる。939と940は注ぎ口のみ資料である。寸法は、計測可能部分で口径15.4cm、底部径7.9cm、器高5.9cmである。底部外面は糸切り、見込みは横ナデ・回転ナデの2種類が認められた。碗のサイズに注ぎ口が付けられることはまったく珍しいことではないが、市内からは初例に当たると思われる。



第87図 灰原等出土片口碗実測図

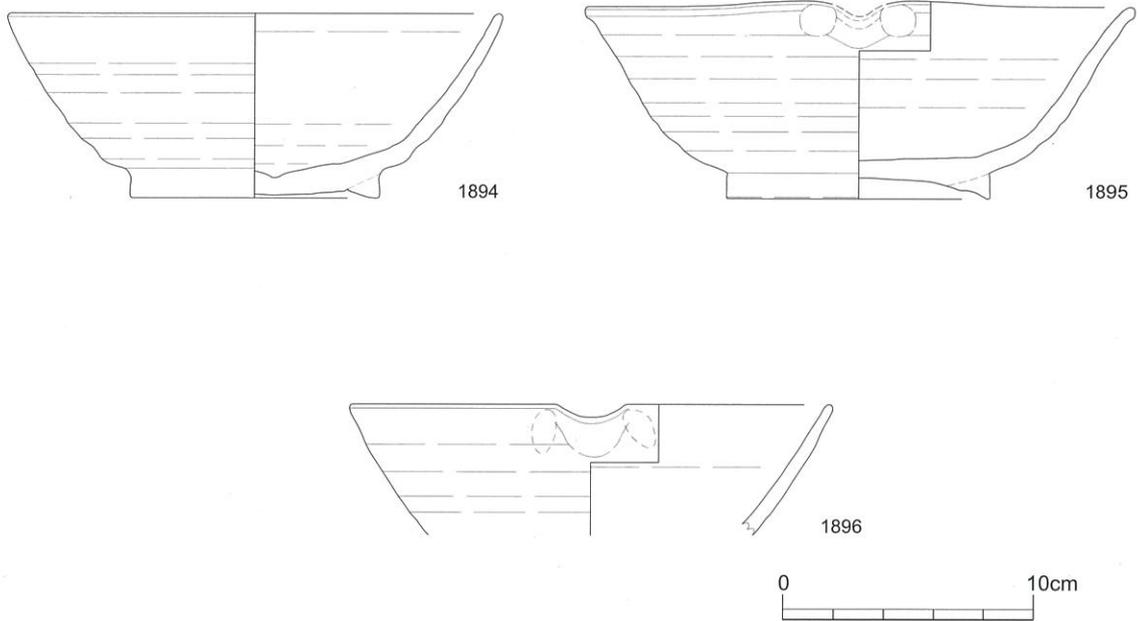


写真70 灰原等出土片口碗

片口鉢（第88図、第52表、写真71）

遺物量の割に鉢の出土は少なく、破片9点であった。そのうち1点は口縁部のみである。口を付けたもので、通称「片口鉢」と呼称される器種と思われる。出土位置は灰原のうち、灰原Cという3号窯の不良品などを主に廃棄したところと推定している。

1894と1895は口縁部から底部まで残存しているが、1896は口縁のみである。寸法は平均値で口径20.3cm、高台径10.0cm、器高8.7cmを計測した。高台が付けられており、その底面にはもみ痕かもみ痕・砂痕が付いており、底部外面はナデが施されている。見込みは回転ナデと横ナデのいずれかである。



第88図 灰原等出土鉢類実測図



写真71 灰原等出土鉢

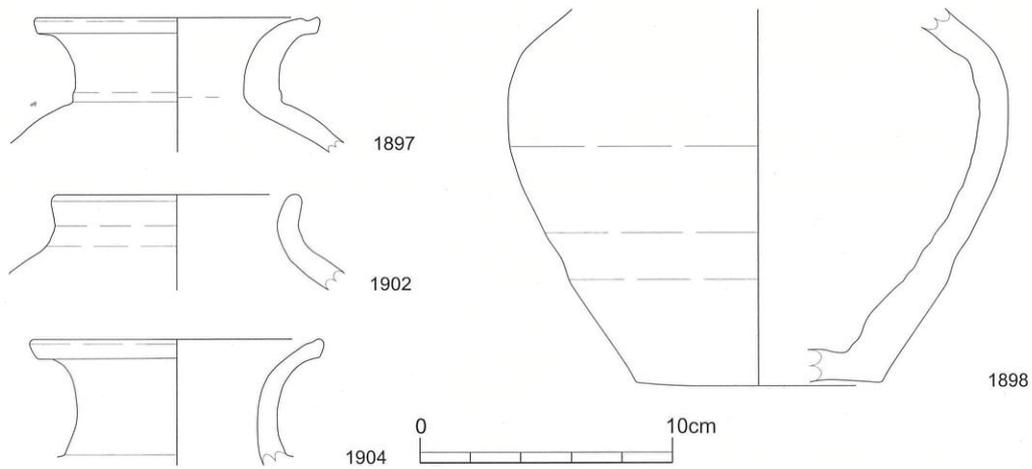
壺類 (第89図、第53表、写真72)

壺系に属する遺物は56点の破片が出土した。接合状況や破片の様子から4個体分と推定した。出

土位置は灰原・土坑などである。壺の形状については、口縁のあるものから判断すると、広口長頸壺と短頸壺との2種類である。

広口長頸壺となるものは、1897・1899・1900・1901・1904 である。いずれの破片も口縁の一部または頸部までである。1897は口径11.3cm（推定）、頸基部径8.3cm（推定）を計測するが、胴部が欠損しており、全体の大きさは不明である。1904は実寸で口径11.5cm、頸基部径8.1cmを計測するが、これも胴部が存在しない。したがって、本窯で焼成された広口長頸壺の全長は不明である。ただ、広口長頸壺が大量に出土した市内の神明古窯では、平均値で口径16.9cm、頸基部径9.6cmで、器高が24.6cmだったことが報告されていることから推測すると、20cm前後の高さではないかと思われる。1899・1900・1901は口縁の一部のみの資料である。

短頸壺は1898・1902・1903である。1898は口が欠損し、胴部のみの資料であるが、胴部と底部はある程度残存しているので、全体の様子は分かる。胴部径は推定で19.7cm、底径9.7cmを計測している。また1902は口縁部のみの、1903は口縁と胴部の一部のみが残る資料である。



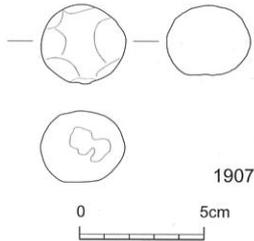
第89図 灰原等出土壺類実測図



写真72 灰原等出土壺

陶丸（第90図、第54表、写真73）

灰原関連の遺物集積坑から陶丸が1点出土した。手による成形がされ、自然釉がかかる。やや楕円を呈し、長径で3.4cm、短径で2.9cmを計測している。1907年には本体に“かまくそ”と呼ばれるものが付着しているため本来の形が不明である。

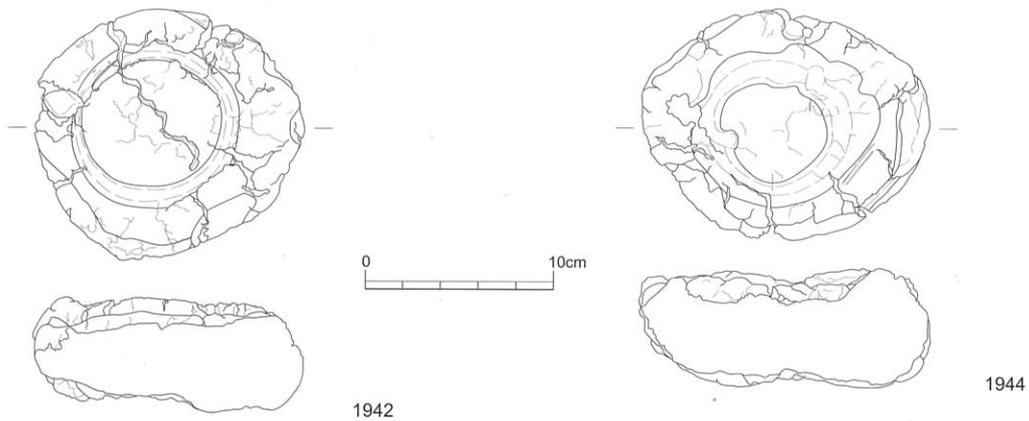


第90図 灰原等出土陶丸実測図

写真73 灰原等出土陶丸

焼台（第91図、第59表、写真74）

灰原等からは大量の焼台が出土している。そのなかから状態の良好なものを資料として採取した。そのうち9点を遺物観察表として掲載した。形状は馬蹄型のもので、窯内から出土したものと変わりが無い。特殊な形状をしているものは認められない。



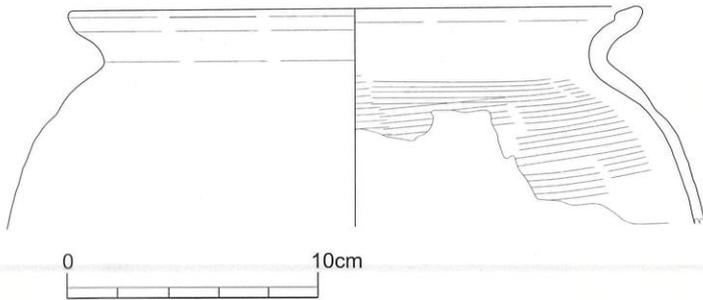
第91図 灰原等出土焼台実測図



写真74 灰原等出土焼台

土師質埴片（伊勢型鍋）（第92図、第60表、写真75）

伊勢型鍋と呼称される土器片が144点、破片で出土している。この地方の中世窯からは決まって出土する焼成品とは異質な土器である。資料は口縁部が残るものを中心に、遺物観察表へ5点掲載した。どれも表面は赤褐色系の色を呈し、状態はもろい。

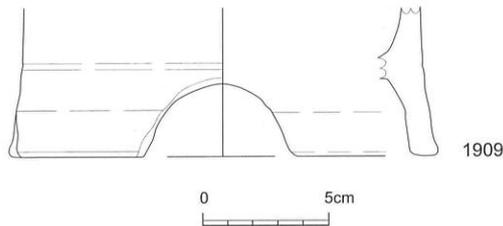


第92図 灰原等出土土師質埴片実測図

写真75 灰原等出土土師質埴片

器種不詳製品（第93図、第55表、写真76）

4点上記のいずれにも当てはまらない形状の破片が出土している。1909は、脚と思われる部分が残る資料だが、器種不詳である。ただ脚部には透かしのような加工がほどこされていることから香炉といった仏器が想定される。1910は底部のみの破片である。残された部分で計測すると3.9cmあり、小型の製品と思われる。1911と1912は肉厚の破片なので、壺のような器種の破片とも思われるが、詳細は不明である。



第93図 灰原等出土器種不詳製品実測図

写真76 灰原等出土器種不詳製品

須恵器

破片が80点出土している。詳細は第5節に譲る。

製塩土器

破片が1点出土している。詳細は第5節に譲る。

弥生土器

破片が2点出土している。詳細は第5節に譲る。

石器

加工したと思しきものが8点あり、そのうち石器と推定されるものは4点であった。詳細は第5節

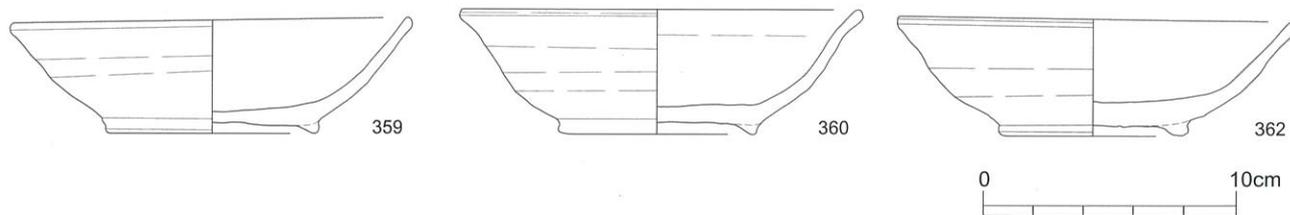
第4節 床面下施設の遺物

本窯では3号窯と4号窯で床面下施設が造られていることは第2章で詳述したとおりである。3号窯は焼成室と分焰柱のそばにかけて碗を使用して敷設されていた。4号窯は燃焼室の一部と分焰柱周り、焼成室全面にかけて碗を伏せて隙間なく敷き詰める方法で造られていた。

3号窯の床面下施設に利用されたものは碗で、その数は93点であるが、そのうちから資料として利用可能なものは10点であった。4号窯の床面下施設から出土した碗は403点であるが、そのうち同様に資料として利用可能なものは50点であった。合計60点の資料について分類を行った。なお、取上げ時の状況は、第20表から第25表を参照していただきたい。

3号窯床面下施設から出土した碗の寸法は、平均値で口径16.2cm、高台径7.9cm、器高4.8cm、最大値は口径17.1cm、高台径8.2cm、器高5.2cm、最小値は口径15.2cm、高台径7.4cm、器高4.6cmである。底面高台付着痕は9点が靨痕であり、1点が靨痕と砂であった。底部外面はナデが2点、糸きりが5点、糸切り後ナデ調整が3点であった。見込みは横ナデが3点、回転ナデが7点である。器形分類はB類が2点、C類が2点、D類が6点、口縁部は1類が1点、であとは分類不能であった。

4号窯床面下施設から出土した碗の寸法は、平均値で口径15.6cm、高台径7.7cm、器高5.1cm、最大値は口径16.4cm、高台径8.9cm、器高5.7cm、最小値は口径14.8cm、高台径6.9cm、器高4.5cmである。底面高台付着痕は46点が靨痕であり、4点が靨痕と砂であった。底部外面はナデが5点、糸きりが5点、糸切り後ナデ調整が39点、不明1点であった。底部外面の見込みは横ナデが2点、回転ナデが48点である。器形分類はA類が2点、B類が16点、C類が4点、D類が28点、口縁部は1類が44点、2類が2点、3類が3点、5類が1点であった。



第94図 3号窯床面下施設出土遺物実測図



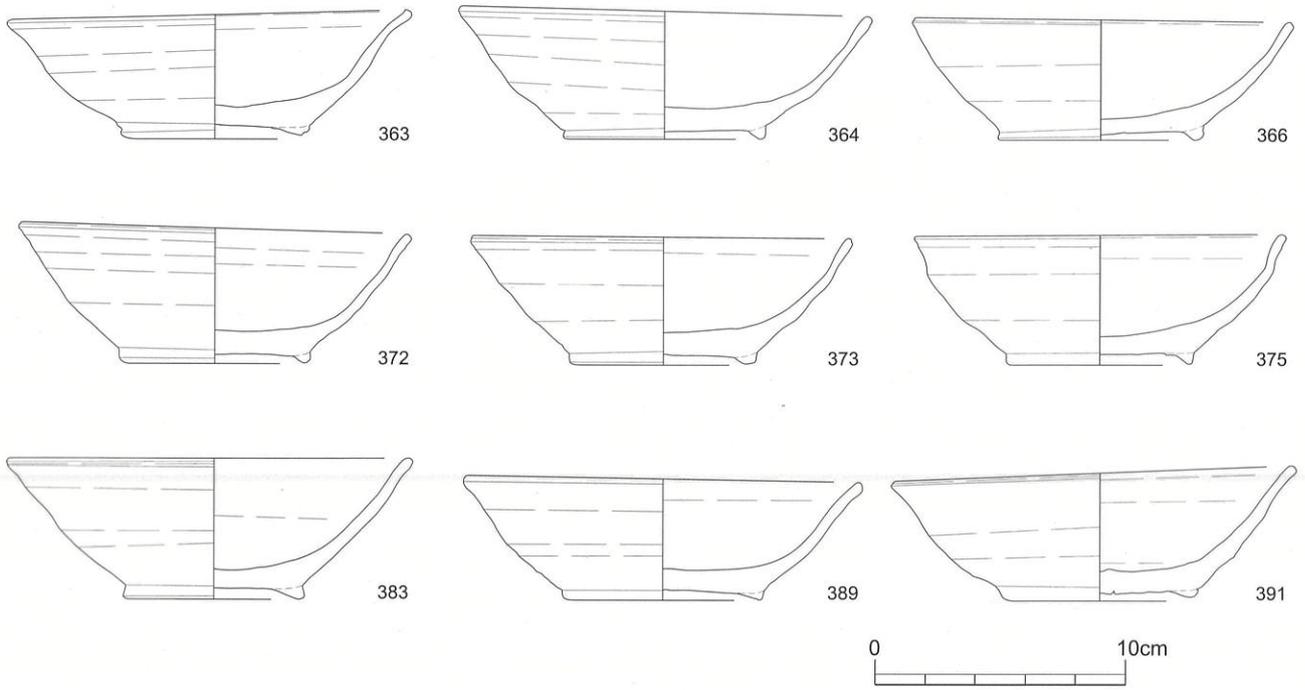
写真77 3号窯床面下施設出土遺物



第95図 3号窯床面下施設遺物取上番号図

取り上げNo.	器種名	出土状態	主製品個体数	破片の有無	備	考
1	碗	伏せ	1	有		
2	碗	伏せ	1	有		
3	碗	伏せ	1	有無		
4	碗	伏せ	1	有		
5	碗	伏せ	1	有	高台なし	
6	碗	伏せ	1	有		
7	碗	伏せ	1	有		
8	碗	上	1	無		
9	碗	伏せ	1	有		
10	碗	上	1	有		
11	碗	伏せ	1	有		
12	碗	伏せ	1	有		
13	碗	伏せ	1	有無	高台なし	
14	碗	伏せ	1	有		
15	碗	伏せ	1	有	高台なし	
16	碗	伏せ	1	無		
17	碗	伏せ	1	有		
18	碗	伏せ	1	有		
19	碗	伏せ	1	有		
20	碗	伏せ	1	無		
21	碗	伏せ	1	有	高台なし	
22	碗	伏せ	1	有		
23	碗	伏せ	1	有		
24	碗	伏せ	1	有		
25	碗	伏せ	1	有	高台なし	
26	碗	伏せ	1	有		
27	碗	伏せ	1	有		
28	碗	伏せ	1	有		
29	碗	伏せ	1	有	高台なし	
30	碗	伏せ	1	有		
31	碗	伏せ	1	有		
32	碗	伏せ	1	有		
33	碗	伏せ	1	有	高台なし	
34	碗	伏せ	1	有	高台なし	
35	碗	伏せ	1	有		
36	碗	伏せ	1	有		
37	碗	伏せ	1	有		
38	碗	伏せ	1	有		
39	碗	伏せ	1	有		
40	碗	伏せ	1	有		
41	碗	伏せ	1	有		
42	碗	伏せ	1	有		
43	碗	伏せ	1	有		
44	碗	伏せ	1	有		
45	碗	伏せ	1	有	No.46のものが入っているかもしれない	
46	碗	伏せ	1	有	高台なし	
47	碗	伏せ	1	有	高台なし	
48	碗	上	1	無		
49	碗	伏せ	1	有		
50	碗	伏せ	1	無	高台なし	
51	碗	伏せ	1	無		
52	碗	上	1	有	No.51の下に入る	
53	碗	伏せ	1	有		
54	碗	伏せ	1	有		
55	碗	伏せ	1	有		
56	碗	伏せ	1	有		
57	碗	伏せ	1	有		
58	碗	伏せ	1	有	高台なし	以上9 t グリット
59	碗	伏せ	1	有		
60	碗	伏せ	1	有	高台なし	
61	碗	伏せ	1	有		
62	碗	伏せ	1	有		
63	碗	伏せ	1	有		
64	碗	伏せ	1	有	高台なし	
65	碗	伏せ	1	有	高台なし	
66	碗	上	1	無	高台なし	
67	碗	伏せ	1	有	高台なし	
68	碗	伏せ	1	有	高台なし	
69	碗	伏せ	1	有	高台なし	
70	碗	上	1	有	高台なし	
71	碗	伏せ	1	有	高台なし	
72	碗	伏せ	1	有		
73	碗	伏せ	1	有	高台なし	
74	碗	伏せ	1	有		
75	碗	伏せ	1	有		
76	碗	伏せ	1	有	高台なし	
77	碗	伏せ	1	無	高台なし	
78	碗	伏せ	1	有	高台なし	
79	碗	伏せ	1	無	高台なし	以上9 s グリット
80	碗	伏せ	1	有	追加分	
81	碗	上	1	有	追加分	
82	碗	伏せ	1	無	追加分	
83	碗	伏せ	1	有	追加分	
84	碗	伏せ	1	有	追加分	
85	碗	伏せ	1	有	追加分	
86	碗	伏せ	1	有	追加分	
87	碗	伏せ	1	無	追加分	
88	碗	伏せ	3	有	追加分	下にかくれている 見えない 碗(1)→重
89	碗	伏せ	重1	有	追加分	
90	碗	伏せ	1	無	追加分	
91	碗	伏せ	1	有	追加分	
92	碗	伏せ	1	有	追加分	
93	碗	伏せ	1	不明		以上9 s グリット

第20表 3号窯床面下施設遺物取上げ表



第96図 4号窯床面下施設出土遺物実測図



写真78 4号窯床面下施設出土遺物



第97図 4号窯床面下施設遺物取上番号図

取り上げNo.	器種名	出土状態	主製品個体数	破片の有無	備考
1	碗	伏せ	1	無	
2	碗	伏せ	1	有	
3	碗	伏せ	1	有	
4	碗	伏せ	1	有	
5	碗	伏せ	1	有	
6	碗	伏せ	2	有	下に半部(高台が)が入っていた
7	碗	伏せ	重1	有	
8	碗	伏せ	1	有	
9	碗	伏せ	1	有	
10	碗	伏せ	重1・1	有	
11	碗	伏せ	1	無	
12	碗	伏せ	2	有	下に1枚(碗)が入っていた(重ねか) 見えないところ
13	碗	伏せ	1	有	
14	碗	伏せ	1	無	焼台に碗が張り付いたものを伏せている
15	碗	伏せ	1	無	
16	碗	伏せ	1	無	
17	碗	伏せ	1	有	
18	碗	伏せ	1	有	
19	碗	伏せ	2	無	下に碗が入っている 見えないところ
20	碗	伏せ	1	有	
21	碗	伏せ	1	有	
22	碗	伏せ	重1	無	
23	碗	伏せ	重1	有	
24	碗	伏せ	2	有	下に碗が入っている 見えないところ
25	碗	伏せ	1	有	
26	碗	伏せ	1	無	ほぼ完形品
27	碗	伏せ	1	無	
28	碗	伏せ	1	有	
29	碗	伏せ	1	有	
30	碗	伏せ	1	有	
31	碗	伏せ	1	有	
32	碗	伏せ	重1	無	
33	碗	伏せ	1	有	
34	碗	伏せ	1	有	
35	碗	伏せ	1	有	高台なし
36	碗	伏せ	1	無	
37	碗	伏せ	1	有	
38	碗	伏せ	1	無	完形品
39	碗	伏せ	重1	有	
40	碗	伏せ	1	無	
41	碗	伏せ	重1	有	重ねが剥がれている
42	碗	伏せ	1	有	
43	碗	伏せ	1	無	分焰柱にかかっている
44	碗	伏せ	1	無	
45	碗	伏せ	2	有	重ねだったかもしれない
46	碗	伏せ	1	有	
47	碗	伏せ	1	有	
48	碗	伏せ	1	有	
49	碗	伏せ	重1	有	
50	碗	伏せ	1	有	
51	碗	伏せ	1	有	
52	碗	伏せ	1	有	
53	碗	伏せ	1	有	
54	碗	伏せ	1	有	
55	碗	伏せ	1	有	
56	碗	伏せ	1	有	
57	碗	伏せ	1	無	
58	碗	伏せ	重1・1	有	下に1枚かくれている
59	碗	伏せ	1	有	
60	碗	伏せ・上	2	有	下に1枚かくれている(上向き) 接合で1個体
61	碗	伏せ	1	有	
62	碗	伏せ	1	有	
63	碗	伏せ	1	有	
64	碗	伏せ	1	有	
65	碗	伏せ	重1	有	
66	碗	伏せ	3	有	下に2枚かくれていた みんな伏せ
67	碗	伏せ	3	有	下に2枚かくれていた みんな伏せ
68	碗	伏せ	重1	有	
69	碗	伏せ	2	有	
70	碗	伏せ	重1	有	
71	碗	伏せ	1	有	下にNo.72
72	碗	伏せ	1	有	下にNo.74
73	碗	伏せ	重1	無	
74	碗	伏せ	1	有	
75	碗	伏せ	2	有	下にかくれている
76	碗	伏せ	1	有	下にかくれている No.77
77	碗	伏せ	1	有	
78	碗	伏せ	1	無	下にかくれている No.79
79	碗	伏せ	1	有	
80	碗	伏せ	1	無	
81	碗	伏せ	1	有	
82	碗	伏せ	重1	無	
83	碗	伏せ	1	有	
84	碗	伏せ	1	有	No.87に接合
85	碗	伏せ	1	無	
86	碗	伏せ	2	有	下に1枚かくれている(焼台付で伏せてある)
87	碗	伏せ	1	有	
88	碗	伏せ	1	無	
89	碗	伏せ	重1	有	
90	碗	伏せ	1	有	
91	碗	伏せ	重1	有	
92	碗	伏せ	重1	有	
93	碗	伏せ	1	有	下にNo.94 No.85に接合
94	碗	伏せ	1	無	
95	碗	伏せ	1	無	

第21表 4号窯床面下施設遺物取上げ表(その1)

取り上げNo.	器種名	出土状態	主製品個体数	破片の有無	備 考
96	碗	伏せ	1	有	
97	碗	伏せ	重1	有	
98	碗	伏せ	2	有	下にかくれている 見えない
99	碗	伏せ	2	有	
100	碗	伏せ	1	無	
101	碗	伏せ	重1	有	
102	碗	伏せ	重1	有	
103	碗	伏せ	1	無	完形品
104	碗	伏せ	重1	有	
105	碗	伏せ	1	有	下にNo.106
106	碗	伏せ	1	有	
107	碗	伏せ	1	有	下にNo.108
108	碗	伏せ	1	有	
109	碗	伏せ	1	有	
110	碗	伏せ	1	有	下にNo.111
111	碗	伏せ	1	有	
112	碗	伏せ	1	有	
113	碗	伏せ	1	有	
114	碗	伏せ	1	有	
115	碗	伏せ	1	無	
116	碗	伏せ	重1	有	
117	碗	伏せ	1	有	
118	碗	伏せ	1	有	
119	碗	伏せ	1	有	
120	碗	伏せ	1	有	
121	碗	伏せ	1	有	
122	碗	伏せ	1	有	
123	碗	伏せ	2	有	下にかくれている 見えない
124	碗	伏せ	1	有	
125	碗	伏せ	1	無	
126	碗	伏せ	1	有	
127	碗	伏せ	1	有	
128	碗	伏せ	1	無	
129	碗	伏せ	1	有	
130	碗	伏せ	重1	有	
131	碗	伏せ	1	有	
132	焼台	上	1	有	破片は碗のもの
133	碗	伏せ	1	有	
134	碗	伏せ	1	有	半分高台
135	碗	伏せ	1	有	
136	碗	伏せ	1	有	
137	碗	伏せ	2	有	下に高台が半分のものがかくれていた 見えない
138	碗	伏せ	1	有	
139	碗	伏せ	1	有	
140	碗	伏せ	1	有	
141	碗	伏せ	1	有	
142	碗	伏せ	1	有	
143	碗	伏せ	1	有	生焼け
144	碗	伏せ	1	有	
145	碗	伏せ	1	有	
146	碗	伏せ	1	有	
147	碗	伏せ	1	無	
148	碗	伏せ	重1	有	
149	碗	伏せ	1	無	
150	碗	伏せ	1	有	
151	碗	伏せ	1	有	
152	碗	伏せ	1	有	
153	碗	伏せ	1	有	
154	碗	伏せ	1	無	完形品
155	碗	伏せ	1	有	
156	碗	伏せ	1	有	
157	碗	伏せ	1	有	
158	碗	伏せ	2	有	下にかくれている
159	碗	伏せ	1	無	
160	碗	伏せ	1	無	
161	碗	伏せ	1	無	下にNo.167
162	碗	伏せ	1	有	
163	碗	伏せ	1	有	
164	碗	伏せ	1	有	
165	碗	伏せ	1	有	
166	碗	伏せ	1	有	
167	碗	伏せ	1	有	
168	碗	伏せ	1	有	
169	碗	伏せ	2	有	下にかくれている 見えない
170	碗	伏せ	重1	有	
171	碗	伏せ	重1	有	
172	碗	伏せ	2	有	下にかくれている
173	碗	伏せ	1	無	完形品
174	碗	伏せ	1	無	
175	碗	伏せ	1	無	
176	碗	伏せ	1	無	以上10tグリット
177	碗	伏せ	1	無	
178	碗	伏せ	2	有	下にかくれている
179	碗	伏せ	1	有	
180	碗	伏せ	1	有	
181	碗	伏せ	1	無	
182	碗	伏せ	重1	有	
183	碗	伏せ	1	無	
184	碗	伏せ	1	有	
185	碗	伏せ	1	有	
186	碗	伏せ	1	無	No.187と接合
187	碗	伏せ	1	有	
188	碗	伏せ	1	有	
189	碗	伏せ	重1	有	
190	碗	伏せ	1	有	

第22表 4号窯床面下施設遺物取上げ表 (その2)

取り上げNo.	器種名	出土状態	主製品個体数	破片の有無	備考
191	碗	伏せ	1	無	
192	碗	伏せ	1	有	
193	碗	伏せ	1	無	
194	碗	伏せ	1	無	
195	碗	伏せ	重1	有	2個体
196	碗	伏せ	1	有	
197	碗	伏せ	1	有	
198	碗	伏せ	1	有	
199	碗	伏せ	1	有	
200	碗	伏せ	1	有	
201	碗	伏せ	1	有	
202	碗	伏せ	1	有	
203	碗	伏せ	1	有	
204	碗	伏せ	1	有	
205	碗	伏せ	1	有	
206	碗	伏せ	1	有	
207	碗	伏せ	1	有	
208	碗	伏せ	1	有	
209	碗	伏せ	1	有	
210	碗	伏せ	1	有	
211	碗	伏せ	1	有	
212	碗	伏せ	重1	有	
213	碗	伏せ	1	有	
214	碗	伏せ	1	有	
215	碗	伏せ	1	有	
216	碗	伏せ	1	有	
217	碗	伏せ	1	無	
218	碗	伏せ	1	有	
219	碗	伏せ	重1	有	
220	碗	伏せ	1	有	
221	碗	伏せ	1	有	
222	碗	伏せ	1	有	
223	碗	伏せ	1	有	
224	碗	伏せ	1	有	
225	碗	伏せ	1	有	
226	碗	伏せ	1	有	
227	碗	伏せ	1	有	
228	碗	伏せ	1	有	
229	碗	伏せ	1	有	
230	碗	伏せ	1	有	
231	碗	伏せ	重1	有	
232	碗	伏せ	1	無	
233	碗	伏せ	1	有	
234	碗	伏せ	1	有	
235	碗	伏せ	1	有	
236	碗	伏せ	1	有	
237	碗	伏せ	1	有	
238	碗	伏せ	1	無	
239	碗	伏せ	重1	無	
240	碗	伏せ	1	無	
241	碗	伏せ	1	有	
242	碗	伏せ	1	有	
243	碗	伏せ	1	有	
244	碗	伏せ	重1	有	
245	碗	伏せ	1	有	
246	碗	伏せ	1	有	
247	碗	伏せ	1	無	完形品
248	碗	伏せ	1	無	
249	碗	伏せ	重1	無	
250	碗	伏せ	1	有	
251	碗	伏せ	1	有	
252	碗	伏せ	1	無	
253	碗	伏せ	1	有	
254	碗	伏せ	1	有	
255	碗	伏せ	1	有	
256	碗	伏せ	1	有	
257	碗	伏せ	重1	有	
258	碗	伏せ	1	有	
259	碗	伏せ	1	無	
260	碗	伏せ	1	有	
261	碗	伏せ	1	有	
262	碗	伏せ	1	有	
263	碗	伏せ	1	無	
264	碗	伏せ	1	有	
265	碗	伏せ	1	有	
266	碗	伏せ	1	有	
267	碗	伏せ	1	有	
268	碗	伏せ	1	有	
269	碗	伏せ	1	有	
270	碗	伏せ	1	有	
271	碗	伏せ	1	有	
272	碗	伏せ	1	有	
273	碗	伏せ	1	有	
274	碗	伏せ	1	有	
275	碗	伏せ	2	有	下にかくれている
276	碗	伏せ	1	有	
277	碗	伏せ	1	有	
278	碗	伏せ	1	有	
279	碗	伏せ	1	無	
280	碗	伏せ	1	有	下にNo.281
281	碗	伏せ	1	有	
282	碗	伏せ	1	有	
283	碗	伏せ	1	有	
284	碗	伏せ	1	有	
285	碗	伏せ	1	有	

第23表 4号窯床面下施設遺物取上げ表(その3)

取り上げNo.	器種名	出土状態	主製品個体数	破片の有無	備考
286	碗	伏せ	1	無	
287	碗	伏せ	重1	有	
288	碗	伏せ	1	有	
289	碗	伏せ	1	無	
290	碗	伏せ	1	有	
291	碗	伏せ	1	有	
292	碗	伏せ	1	有	
293	碗	伏せ	1	有	
294	碗	伏せ	1	有	
295	碗	伏せ	1	有	
296	碗	伏せ	1	有	
297	碗	伏せ	1	有	
298	碗	伏せ	1	有	
299	碗	伏せ	1	無	
300	碗	伏せ	1	有	
301	碗	伏せ	1	有	
302	碗	伏せ	1	有	
303	碗	伏せ	1	有	
304	碗	伏せ	重1	有	
305	碗	伏せ	1	無	
306	碗	伏せ	1	有	
307	碗	伏せ	重1	有	
308	碗	伏せ	1	有	
309	碗	伏せ	1	有	
310	碗	伏せ	1	有	
311	碗	伏せ	1	有	
312	碗	伏せ	1	有	
313	碗	伏せ	1	有	
314	碗	伏せ	1	有	
315	碗	伏せ	1	有	
316	碗	伏せ	1	有	
317	碗	伏せ	1	有	
318	碗	伏せ	1	有	
319	碗	伏せ	1	有	
320	碗	伏せ	1	無	
321	碗	伏せ	1	有	
322	碗	伏せ	1	有	
323	碗	伏せ	重1	有	
324	碗	伏せ	1	有	
325	碗	伏せ	1	有	
326	碗	伏せ	1	有	
327	碗	伏せ	2	有	下に1枚かかっている 見えない
328	碗	伏せ	1	有	
329	碗	伏せ	1	無	No.383と接合
330	碗	伏せ	1	無	
331	碗	伏せ	1	無	完形品
332	碗	伏せ	1	有	
333	碗	伏せ	1	無	
334	碗	伏せ	1	無	
335	碗	伏せ	1	有	
336	碗	伏せ	1	有	
337	碗	伏せ	1	無	
338	碗	伏せ	2	有	下にかくれている 見えない
339	碗	伏せ	1	無	下にNo.340
340	碗	伏せ	1	有	
341	碗	伏せ	1	有	
342	碗	伏せ	2	有	下にかくれている 見えない
343	碗	伏せ	1	無	No.330 接合
344	碗	伏せ	1	無	
345	碗	伏せ	2	有	下にかくれている 見えない
346	碗	伏せ	1	無	
347	碗	伏せ	2	無	下にかくれている (全高台) 見えない No.402と接合
348	碗	伏せ	1	有	No.391と接合
349	碗	伏せ	1	無	
350	碗	伏せ	1	有	
351	碗	伏せ	1	有	
352	碗	伏せ	1	有	No.323と接合
353	碗	伏せ	1	有	
354	碗	伏せ	1	有	
355	碗	伏せ	1	無	
356	碗	伏せ	1	有	
357	碗	伏せ	1	有	
358	碗	伏せ	1	有	
359	碗	伏せ	2	有	1/2以下が1
360	碗	伏せ	1	無	
361	碗	伏せ	1	有	
362	碗	伏せ	1	無	
363	碗	伏せ	1	有	
364	碗	伏せ	1	有	
365	碗	伏せ	1	有	
366	碗	伏せ	1	有	
367	碗	伏せ	1	有	
368	碗	伏せ	1	有	
369	碗	伏せ	1	無	
370	碗	伏せ	1	無	
371	碗	伏せ	1	有	
372	碗	伏せ	1	無	
373	碗	伏せ	1	無	
374	碗	伏せ	1	有	
375	碗	伏せ	1	無	
376	碗	伏せ	1	無	
377	碗	伏せ	1	有	
378	碗	伏せ	1	無	
379	碗	伏せ	1	有	
380	碗	伏せ	1	無	

第24表 4号窯床面下施設遺物取上げ表 (その4)

取り上げNo.	器種名	出土状態	主製品個体数	破片の有無	備考
381	碗	伏せ	1	無	381
382	碗	伏せ	1	有	382
383	碗	伏せ	2	有	383 下にかくれていた (半分台) 見えない 329と接合
384	碗	伏せ	1	無	384
385	碗	伏せ	1	無	385
386	碗	伏せ	重1	有	386 碗1
387	碗	伏せ	1	無	387
388	碗	伏せ	1	有	388
389	碗	伏せ	2	無	389
390	碗	伏せ	1	有	390
391	碗	伏せ	1	無	391 No.348と接合
392	碗	伏せ	1	有	392
393	碗	伏せ	1	有	393
394	碗	伏せ	1	有	394
395	碗	伏せ	1	無	395
396	碗	伏せ	1	無	396
397	碗	伏せ	1	無	397
398	碗	伏せ	1	有	398
399	碗	伏せ	1	無	399
400	碗	伏せ	1	有	400 No.375と接合
401	碗	伏せ	重1	無	401
402	碗	伏せ	1	無	402
403	碗	伏せ	1	無	403
404	碗	伏せ	1	無	404 以上9tグリット

第25表 4号窯床面下施設遺物取上げ表 (その5)

第5節 その他の遺物

本窯跡での発掘調査において、僅かながら古代の遺物が出土した。これらは窯本体の埋土や灰原で確認したものである。その種類と点数は、石器4点、弥生土器1点、製塩土器1点、須恵器9点であった。焼成品と比較した場合、点数的に取るに足りないが、大府ではほとんど出土を確認していない須恵器、とくに古墳に副葬品として埋納された土器片が含まれていたため、取上げることにした。

境川流域に面する当地は対岸の三河刈谷に比して古代の遺跡が圧倒的に少なく、当時を考える資料を提供してくれる遺跡等は、棧敷貝塚（縄文時代）・惣作遺跡（古代の製塩遺跡）・伝北崎町出土弥生土器が挙げられるのみである。これらの土器は窯での陶器生産に使用されたとは考えられないことから、窯の築窯時にすでにこの場所にあったものか、または別の遺跡が周辺に存在したことを示すものと現在は理解している。

須恵器（1956～1964）

須恵器の破片84点が、灰原や窯体の埋土から出土している。特に灰原の最下層で、地山との堺からはある程度まとまった形で発見している。形状から杯の蓋・壺・ハソウ・高杯の4種類を確認した。蓋は2点あり、いずれも口縁部が欠損している。ハソウの破片は最多で本体部分の形状が確認できる。

古墳時代の供膳容器といわれる杯身と組み合う、その蓋部分が1956と1962である。1956は1号窯の埋土から出土。口縁部が欠損しているが、最大長で9.2cmを計測する。焼成の状態も良好である。1962は灰原から出土し、状態は1956と類似している。ともに蓋が扁平化しているため、年代的には新しいものと考えられる。

1957・1959・1963・1964は須恵器系の壺または甕の破片と考えられる。1959は灰色を呈し、その他はレンガ色を帯びているため、少なくとも2個体分は存在した。ともに表面に押文が付けられている。

1958は、残存状況から高杯と思われる。口径は推定で13.5cmあり、体部に溝2条と文様が廻っている点の特徴である。

高杯は1960で、破片の一部に長方形の透しが穿たれていることから脚部で、残存部分から脚部の径を15.1cmと推定した。

1961は接合作業の結果、器種本体部分が残存している。最大径は15.1cmを計測し、全体に丸みを帯び、底部は丸くなっているため小型の壺のようなものである。また胴部に櫛目文様が施され、それを挟むように上下に溝が2条ずつ加工されている。ただ小孔の部分は残存していない。全体の様子から「はそう（はさふ）」と推定した。「はそう（はさふ）」は胴部に小孔を穿ち、孔に竹管などを挿入した容器で、液体を吸ったり注いだりしたものとされる。『延喜式』には注口部に篋竹を用いたことが記録されている。

石器（1965～1970）

4点出土している。1965は灰原の検出中に出土した。本体に打点が認められることから石器と判断した。石材はチャート、重量は5.6gあり、縦2.2cm、横3.0cm、厚さ1.0cmを計測した。石器の

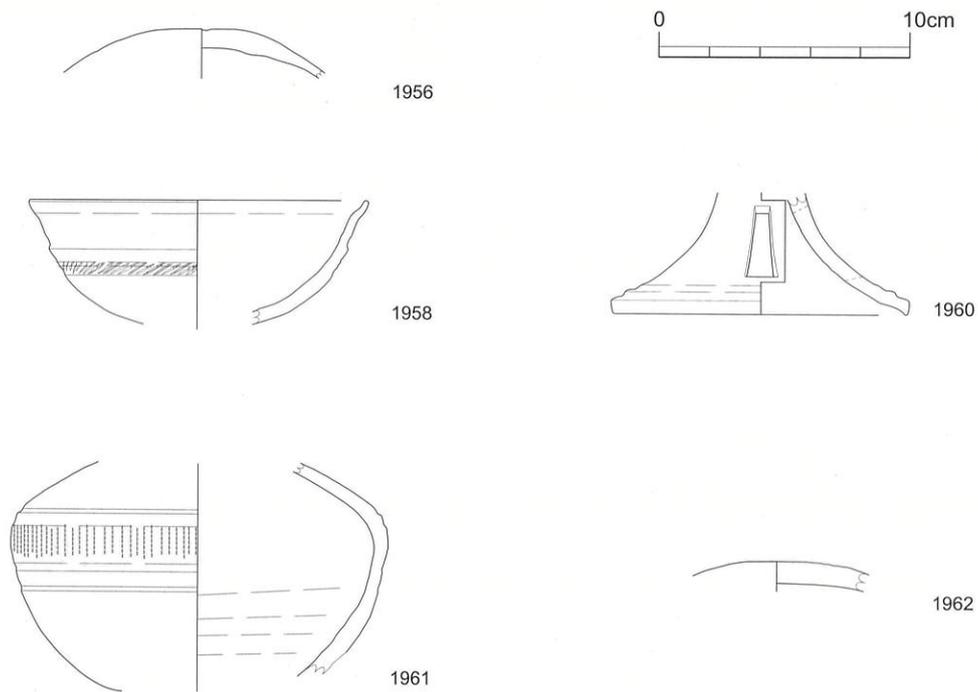
完成品ではなく、剥離片と思われる。1968は土坑3（SK03）から出土し、石材はチャートで、剥片と思われる。1969は灰原Cでの出土で、チャートの石核である。1970は安山岩（下呂石）の剥片で、2号窯燃焼室からの出土である。

弥生土器（1966）

1点のみ出土した。1966は灰原で出土したもので、体部の一部と思われる。残存部分は縦4.2cm、横5.8cm、厚さ0.8cmを計測した。器種は深鉢と思われるが、時期区分は不詳である。

製塩土器（1967）

1967が1点のみ灰原で出土したもので、形状から脚部と判断した。残存部分は先が欠けているが、寸法は5.1cm、脚径1.9cmあり、指痕や細条痕が確認された。遺跡の東に惣作遺跡という製塩遺跡が存在したので、その脚部と比較したが、類似点は認められなかった。



第98図 須恵器実測図



写真79 須恵器等写真

第6節 考 察

羽根山古窯跡群の出土品の詳細は以上のとおりである。ここでは、主要な出土品であり、かつ焼成品の碗類・皿類・鉢類について年代観を中心に考察を加えることにする。碗類と皿類の年代観について「赤羽・中野」による編年型式①、つまり常滑窯生産地編年を参考にその特徴などから年代観を検討する。さらに知多半島の付け根は常滑窯と猿投窯との境が重なる地域とされているので、中世猿投窯の編年表②をも参照した。本窯は全体的なところでは、基本的に碗類と皿類がセットで焼成され、皿類はほとんど高台がつかない。と同時に壺類・鉢類も共存している。これは常滑窯での基本的器種構成を具備していると言える。

次に、碗類・皿類の傾向をまとめる。1号窯窯内で計測可能であった碗3点はいずれも体部がわずかに内湾し、口縁部は角形を呈する。体部から口縁部までの器壁の厚みに大きな変化はみられない。高台はやや雑な作りである。皿3点はいずれも無高台である。体部が直線的に立ち上がるものが2点、内湾するものが1点、体部から口縁部までの器壁の厚さに大きな変化はみられない。検討できる遺物は少ないが、以上より1号窯は常滑窯編年で4型式から5型式、尾張型で第6～7型式と比定した。

2号窯窯内で計測可能な碗は、16点である。体部の立ち上がりが直線的なものが13点上り、4型式の特徴である体部の直線化が認められる。高台はやや雑な作りである。皿は26点が計測可能であった。そのうち9点が器高2.0cm以下という扁平な形を呈している。体部は直線的に立ち上がるものがほとんどである。これらの特徴から2号窯は常滑窯編年の3型式の終わりから4型式に相当し、尾張型では第5型式末から第7型式に比定できると考えられる。

3号窯窯内で、分類可能な遺物は39点であった。体部がわずかに内湾するものが28点あり、口縁端部は丸みをもつものが最も多く30点を数える。高台は1・2号窯に比べると丁寧な作りである。皿は高台が付くものが1点みられるが、他は高台がつかない。体部はやや曲線的に立ち上がるものが20点、直線的に立ち上がるものが19点とほぼ同数である。以上より3号窯の遺物は1・2号窯よりやや古い常滑窯編年の3～4型式に属すると考えられる。また尾張型では第5型式に比定できる。

4号窯窯内の碗190点のうち、体部がやや内湾するものが124点、口縁端部は丸みをもつものが152点を占め、3号窯と同様の傾向を示す。皿は119点が計測可能であった。すべて高台のつかないタイプである。立ち上がりの直線的なものが59点、曲線的なものが60点とほぼ同数であり、皿についても3号窯と同様の傾向であった。以上により4号窯も常滑窯編年の3～4型式と推定され、尾張型では第5型式に相当すると思われる。

5号窯内で計測可能な95点のうち体部がわずかに内湾するものが60点、直線的なものが35点あり、3・4号窯に比べると、直線的な立ち上がりをもつ個体の割合がやや多い。口縁端部は丸みを帯びるものが、65点と多い。1・2号窯に比べ、高台の作りもやや丁寧なことから5号窯については常滑窯編年の3型式と考えられ、尾張型の第5型式の古いタイプに比定される。

灰原には、各窯の焼成品が重なるように破棄されていたが、1・2号窯と目される場所は灰原Aと

灰原B（第36図参照）、3・4・5号窯と目される灰原は灰原C・D・E（第36図参照）で、器形分類から傾向に相違が認められる。碗類では、1・2号窯での体部の直線化と3・4・5号窯の口縁部の内湾化とが3・4・5号窯のものを区分する指標のひとつと想定される。また皿類での無高台は全体に共通する傾向である。ただし1・2号窯の皿類には扁平した皿が存在する。この点を含め、全体的な分析検討から灰原は4～6a型式期のグループと3～4型式期のグループとに分けられるのではないかと推定した。

最後に、碗類と皿類以外の焼成品について簡単にまとめておく。口縁に口が付けられた片口鉢は灰原を中心に出土しているが、寸法の相違から2タイプの存在を確認した瀬戸B古窯跡群のようなことはなく、羽根山古窯跡群では同一寸法1種類のみで、成形自体も丁寧である。また壺類に広口長頸壺と短頸壺とが混在して出土している点や陶丸も3・4号窯内や灰原から出土している。

以上の考察から、遺物からの羽根山古窯跡群の年代観（常滑窯生産地編年）は、1・2号窯が3型式の終末期～5型式期を主体に一部6a型式を含む年代とし、3・4・5号窯が3～4型式（1176～1220年）であると考えられる。これらをもとに大府市内の他の古窯群との比較を試みると、2型式期とされる神明古窯群・森岡第1号窯群や、2～3型式とされる深廻間A古窯群・深廻間B古窯群・瀬戸B古窯群1・2号窯より新しいのではないかと考えられる。また、4型式とされる海陸庵古窯群、また3～4型式への移行期と想定される深廻間C古窯群と同時期かそれ以降と、現時点では判断している。

註

- ①中野晴久他『「全国シンポジウム」中世常滑窯をおって』資料集「生産地編年について」（1944年）
- ②『愛知県史』別編 中世・近世 瀬戸系 窯業2（2007年）

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 附着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類		取上番号	備考
				口径	高台径	器高						体部	口縁部		
1	碗	7q	1号窯 焼成室	15.3	7.4	5.4	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	e	②		口縁部に溝
2	碗	8s	2号窯 焼成室	15.0	6.8	5.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	c	②		高台不格好、口縁部に溝
3	碗	8s	2号窯 焼成室	16.0	7.2	5.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	c	②		口縁部に溝
4	碗	8s	2号窯 焼成室	15.3	6.9	5.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	c	②		
5	碗	8r	2号窯 燃焼室	16.2	7.5	5.9	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	c	②		
6	碗	8r	2号窯 燃焼室	15.8	7.3	5.8	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	c	②		
7	碗	8r	2号窯 燃焼室	16.1	7.0	6.4	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	c	②		
8	碗	8r	2号窯 燃焼室	15.8	7.8	5.5	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	c	②		
9	碗	8r	2号窯 燃焼室	16.3	7.0	6.1	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	c	②		
10	碗	8r	2号窯 主軸ベルト	16.2	7.1	5.8	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	c	②		
11	碗	8s	2号窯 主軸ベルト	15.6	7.2	5.3	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	d	①		
12	碗	8s	2号窯 主軸ベルト	15.5	6.9	5.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	不良	c	②		
13	碗	9t	3号窯 焼成室	16.4	7.9	5.5	もみ	ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
14	碗	9t	3号窯 焼成室	16.4	8.1	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
15	碗	8s	3号窯 焼成室	16.1	7.7	5.4	もみ	ナデ	回転ナデ	不良	良	B	2		
16	碗	9s	3号窯 焼成室	16.9	7.7	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
17	碗	9t	3号窯 焼成室	16.1	8.3	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
18	碗	9t	3号窯 焼成室	16.4	7.6	4.4	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	4		口縁がむ
19	碗	9s	3号窯 主軸ベルト	16.6	8.1	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		高台の高さがほとんど無い
20	碗	9s	3号窯 主軸ベルト	16.3	8.7	5.3	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	C	1		
21	碗	9s	3号窯 主軸ベルト	16.1	8.5	4.9	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
22	碗	9s	3号窯 主軸ベルト	16.1	7.4	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
23	碗	9t	3号窯 焼成室	16.1	8.2	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
24	碗	9s	3号窯 燃焼室	15.9	7.6	4.6	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	C	1		高台の作りが雑
25	碗	9s	3号窯 燃焼室	16.7	7.7	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
26	碗	9s	3号窯 燃焼室	15.8	7.7	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		ほぼ完形品、内面底部以外の全面に釉附着
27	碗	9s	3号窯 燃焼室	16.0	7.3	5.0	もみ	ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		ほぼ完形品
28	碗	9s	3号窯 燃焼室	測定不能	8.3	測定不能	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	—		片口碗の可能性あり、全体的に厚みがある
29	碗	9s	3号窯 燃焼室	15.8	7.2	3.9	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	4		口縁積円
30	碗	9s	3号窯 燃焼室第1ベルト	15.2	7.2	5.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	2		
31	碗	9s	3号窯 主軸ベルト	15.2	7.6	5.3	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
32	碗	9s	3号窯 燃焼室	16.3	7.4	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
33	碗	9t	4号窯 焼成室	16.2	7.2	5.0	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
34	碗	9a	4号窯 焼成室	16.0	7.4	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	最良	良	C	1		
35	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.5	7.3	5.6	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
36	碗	9t	4号窯 焼成室	15.5	7.3	5.3	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
37	碗	9t	4号窯 主軸ベルト	15.6	7.5	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	最良	良	D	1		
38	碗	10t	4号窯 焼成室	16.3	8.0	5.3	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
39	碗	10t	4号窯 焼成室	16.1	7.3	5.3	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		口縁がむ
40	碗	10t	4号窯 焼成室	15.7	7.8	5.3	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
41	碗	10t	4号窯 焼成室	16.3	7.0	5.2	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		口縁積円
42	碗	10t	4号窯 焼成室	15.9	7.4	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
43	碗	10t	4号窯 焼成室	(15.4)	7.1	(5.5)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		
44	碗	9t	4号窯 焼成室	15.8	7.6	5.4	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
45	碗	9t	4号窯 焼成室	(16.0)	7.5	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		口縁に溝、口縁がむ
46	碗	9t	4号窯 焼成室	15.2	7.8	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
47	碗	9t	4号窯 焼成室	15.4	7.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
48	碗	9t	4号窯 焼成室	16.9	7.1	4.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		完形品、口縁がむ
49	碗	9t	4号窯 焼成室	16.1	7.2	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
50	碗	9t	4号窯 焼成室	15.8	7.0	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
51	碗	9t	4号窯 焼成室	16.9	8.0	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		完形品、口縁がむ
52	碗	9t	4号窯 焼成室	16.4	7.6	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		完形品、口縁積円
53	碗	9t	4号窯 焼成室	16.2	7.7	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
54	碗	9t	4号窯 焼成室	15.3	8.2	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		口縁がむ
55	碗	9t	4号窯 焼成室	15.7	7.4	5.3	もみ	糸切り	回転ナデ	最良	良	D	1		
56	碗	9t	4号窯 焼成室	16.1	7.3	5.4	もみ	糸切り	回転ナデ	最良	良	D	1		口縁がむ
57	碗	9t	4号窯 焼成室	16.0	8.0	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		口縁がむ
58	碗	9t	4号窯 燃焼室	14.9	6.9	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
59	碗	10t	4号窯 燃焼室	16.2	8.2	4.8	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	C	1		
60	碗	10t	4号窯 燃焼室	15.3	8.0	4.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
61	碗	10t	4号窯 燃焼室	15.3	7.0	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
62	碗	10t	4号窯 燃焼室	15.9	7.2	5.0	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	C	1		
63	碗	10t	4号窯 燃焼室	14.8	6.8	4.9	もみ	ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
64	碗	10t	4号窯 燃焼室	(16.3)	8.7	(4.2)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
65	碗	10t	4号窯 燃焼室	16.8	8.3	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
66	碗	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	15.5	7.4	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		完形品、口縁がむ
67	碗	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	15.5	7.6	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	C	2		
68	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	(16.4)	(8.5)	(4.4)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	C	5		
69	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.8	7.0	4.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
70	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.7	7.1	4.7	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	D	2		
71	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	16.0	7.7	4.0	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	A	1		天場もの、高台積円
72	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.9	7.2	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	不良	D	2		
73	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	(15.4)	7.5	(4.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		底面外面をセンイ状の痕あり
74	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	16.3	7.4	5.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	A	1		
75	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	16.3	7.2	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
76	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.8	7.0	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		ほぼ完形品

第26表 碗類観察表 (その1)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類		取上番号	備考
				口径	高台径	器高						体部	口縁端部		
77	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.8	7.9	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
78	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.9	7.9	4.7	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
79	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	16.1	8.3	4.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
80	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.9	7.8	5.2	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	A	1		
81	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	16.6	7.5	5.3	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	A	1		口縁ゆがむ
82	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	16.0	7.7	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	最良	良	D	1		
83	碗	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	17.0	7.9	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
84	碗	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	15.6	7.7	4.7	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		内面体部に何条か入る
85	碗	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	15.9	7.9	4.3	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		
86	碗	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	16.1	7.5	5.5	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	A	1		
87	碗	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	16.4	7.6	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	A	1		口縁ゆがむ
88	碗	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	16.4	8.2	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		ほぼ完形品
89	碗	9t	4号窯	15.4	7.7	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		内面底部に細長い粘土も付着
90	碗	9t	4号窯	15.6	7.4	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		ほぼ完形品、全体に作りが雑
91	碗	9a	5号窯 焼成室	16.4	(8.9)	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	5		全体に作りが雑
94	碗	10a	5号窯 焼成室	15.8	7.8	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
95	碗	10a	5号窯 焼成室	16.2	8.8	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		ほぼ完形品
96	碗	10a	5号窯 焼成室	16.3	8.5	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	4		ほぼ完形品
97	碗	9a	5号窯 焼成室	15.9	8.2	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	A	2		ほぼ完形品
98	碗	10a	5号窯 焼成室	15.8	8.2	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		ほぼ完形品
99	碗	10a	5号窯 主軸ベルト	15.6	7.7	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		完形品
100	碗	10a	5号窯 主軸ベルト	15.8	7.9	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		体部ゆがむ
101	碗	10a	5号窯 主軸ベルト	16.0	8.8	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	C	4		
102	碗	10a	5号窯 主軸ベルト	16.0	7.8	4.3	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		完形品、器面やや荒れる
103	碗	9a	5号窯 焼成室	15.7	8.2	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		体部ゆがむ
104	碗	9a	5号窯 焼成室	16.3	8.5	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	C	5		ほぼ完形品、全体に作りが雑
105	碗	10a	5号窯 焼成室	16.2	7.9	5.0	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		ほぼ完形品
106	碗	10a	5号窯 焼成室	15.8	7.9	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		完形品
107	碗	10a	5号窯 焼成室	16.1	8.4	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5		
108	碗	10a	5号窯 焼成室	16.1	7.8	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	5		内面口縁に5mm幅の溝あり
109	碗	10a	5号窯 焼成室	15.9	7.9	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	4		
110	碗	10a	5号窯 焼成室	16.0	7.5	5.2	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	A	1		ほぼ完形品、口縁ゆがむ
111	碗	10a	5号窯 焼成室	16.5	8.3	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
112	碗	10a	5号窯 燃焼室	15.9	7.8	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		ほぼ完形品
113	碗	10a	5号窯 燃焼室	16.2	7.8	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		体部ゆがむ
114	碗	10a	5号窯 燃焼室	15.6	8.2	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	4		
115	碗	10a	5号窯 燃焼室	15.5	7.8	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
116	碗	10a	5号窯 燃焼室	16.2	7.6	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
117	碗	10a	5号窯 燃焼室	15.9	7.5	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		ほぼ完形品
118	碗	10a	5号窯 燃焼室	16.2	8.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		天場もの
119	碗	10a	5号窯 燃焼室	15.7	8.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
120	碗	10a	5号窯 燃焼室	16.0	8.2	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
121	碗	10a	5号窯 燃焼室	16.4	8.5	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	1		
122	碗	10a	5号窯 燃焼室	16.2	8.0	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
123	碗	10a	5号窯 燃焼室	15.9	8.0	4.6	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		完形品
124	碗	10a	5号窯 燃焼室	15.7	8.3	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		ほぼ完形品
125	碗	10a	5号窯 燃焼室第1ベルト	16.1	8.3	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		ほぼ完形品
126	碗	8p	灰原A	15.2	7.5	5.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	e	①		外面底部に糊の痕多数付着、内面体部に何条か入る、口縁楕円
127	碗	8p	灰原A	15.5	7.4	5.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	e	①		
128	碗	8p	灰原A	15.2	7.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	d	①		
129	碗	7p	灰原A	15.5	7.6	5.2	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	e	①		
130	碗	7p	灰原A	15.7	(7.5)	5.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	e	②		内面底部立ち上がり付近に指で整形した痕
131	碗	8p	灰原A	15.6	7.4	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	d	②		完形品
132	碗	8r	灰原B	15.1	6.5	5.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	c	②		ほぼ完形品
133	碗	8r	灰原B	15.1	6.9	5.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	c	②		ほぼ完形品
134	碗	8r	灰原B	15.2	7.3	5.0	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	e	②		ほぼ完形品
135	碗	8r	灰原B	15.7	7.5	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	d	①		
136	碗	8r	灰原B	15.8	7.6	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	e	②		
137	碗	8r	灰原B	15.4	7.8	4.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	a	②		ほぼ完形品
138	碗	8r	灰原B	15.7	6.9	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	d	①		
139	碗	8r	灰原B	15.8	7.8	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	d	①		
140	碗	8r	灰原B	15.7	7.9	4.7	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	b	①		天場もの
141	碗	8r	灰原B	15.9	7.9	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	d	①		
142	碗	8r	灰原B	16.1	7.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	b	①		
143	碗	8r	灰原B	15.7	7.9	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	b	①		
144	碗	8r	灰原B	15.3	7.6	5.0	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	e	②		内面体部に粘土付着
145	碗	8q	Aベルト (灰原B)	16.1	7.6	4.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	b	①		高台不整形
146	碗	8q	Aベルト (灰原B)	15.6	7.5	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	d	②		
147	碗	9r	灰原B	16.5	7.9	4.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	a	①		ほぼ完形品、口縁ゆがむ
148	碗	9q	灰原B	15.3	7.4	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	e	①		ほぼ完形品
149	碗	10q	灰原B	15.1	7.3	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	e	②		
150	碗	10s	灰原C	15.9	7.2	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
151	碗	9s	灰原C	15.9	8.2	5.2	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
152	碗	9s	灰原C	16.5	9.5	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	5		
153	碗	9s	灰原C	15.6	7.8	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		

第27表 碗類観察表 (その2)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類		取上番号	備考
				口径	高台径	器高						体部	口縁端部		
154	碗	9s	灰原C	16.6	8.2	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
155	碗	10s	灰原C	16.0	7.8	4.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	3		
156	碗	9s	灰原C	16.4	8.8	4.6	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		
157	碗	9s	灰原C	16.3	7.7	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
158	碗	9s	灰原C	15.9	7.6	5.1	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		
159	碗	9r	灰原C	15.7	8.1	4.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
160	碗	9r	灰原C	16.4	8.5	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
161	碗	10r	灰原C	(16.4)	8.5	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
162	碗	9r	灰原C	(15.8)	7.6	(4.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	B	2		
163	碗	10r	灰原C	15.8	7.4	5.1	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
164	碗	11s	灰原C	15.5	7.2	5.1	もみ	ナデ	不明	良	良	D	4		完形品、天場もの、口縁楕円
165	碗	11s	灰原C	15.8	8.1	5.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	2		
166	碗	10r	灰原C	16.6	7.9	4.9	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
167	碗	10r	灰原C	15.3	7.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
168	碗	10r	灰原C	16.1	7.8	5.3	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
169	碗	10r	灰原C	16.2	8.6	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
170	碗	11r	灰原C	15.2	7.7	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	D	4		
171	碗	11r	灰原C	16.4	7.4	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
172	碗	10r	灰原C	15.8	7.4	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	2		
173	碗	10r	灰原C	15.7	7.9	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		ほぼ完形品、口縁端部に段差あり
174	碗	10r	灰原C	15.7	7.8	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁に補正箇所あり
175	碗	10r	灰原C	15.6	8.1	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
176	碗	10r	灰原C	16.8	8.2	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品、口縁ゆがむ
177	碗	10q	灰原C	15.9	7.9	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
178	碗	10q	灰原C	16.1	7.9	4.7	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面体部に重ね焼片付着
179	碗	10q	灰原C	16.1	7.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面体部に重ね焼片付着
180	碗	10q	灰原C	15.8	7.7	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
181	碗	10r	灰原C	15.5	8.0	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	D	1		
182	碗	10q	灰原C	16.2	8.3	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		完形品、高台に焼台付着
183	碗	10q	灰原C	(16.8)	8.4	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	4		高台の付き方きれい
184	碗	9r	Bベルト (灰原C)	15.5	7.2	5.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
185	碗	10s	IIIベルト (灰原C)	16.3	7.7	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
186	碗	9r	灰原C	15.8	8.4	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	1		
187	碗	10r	IIIベルト (灰原C)	15.7	7.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
188	碗	11r	IIIベルト (灰原C)	16.7	7.6	5.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	最良	A	1		完形品
189	碗	11r	IIIベルト (灰原C)	15.7	7.6	4.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
190	碗	11r	IIIベルト (灰原C)	17.0	8.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
191	碗	11r	IIIベルト (灰原C)	15.5	7.7	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		高台不整形、内面底部と体部の境に指で作った5mm幅の溝あり
192	碗	11r	IIIベルト (灰原C)	15.8	8.1	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		底部の作り不整形、口縁・高台楕円
193	碗	11r	IIIベルト (灰原C)	16.4	7.8	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		高台不整形、内面底部と体部の境に指で作った5cmの溝あり
194	碗	11r	IIIベルト (灰原C)	16.0	7.8	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
195	碗	11s	11s杭山	15.8	7.9	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		口縁楕円
196	碗	11q	灰原C	15.8	7.4	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	最良	最良	C	2		内面底部・口縁端部に黒い塊付着
197	碗	11r	灰原C	16.1	7.7	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
198	碗	10q	灰原C	15.2	8.1	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		口縁玉縁風
199	碗	10q	灰原C	16.0	8.3	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	1		ほぼ完形品
200	碗	10r	10r杭山	16.1	7.3	4.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		ほぼ完形品
201	碗	11r	IIIベルト (灰原C)	15.0	7.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		高台の付き方きれい
202	碗	11r	IIIベルト (灰原C)	15.9	7.4	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	4		
203	碗	9r	灰原C	16.3	8.3	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
204	碗	10r	灰原C	16.0	7.6	5.1	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
205	碗	9r	灰原C	16.9	8.6	4.7	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品、口縁楕円
206	碗	10r	灰原C	16.0	7.9	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
207	碗	10r	灰原C	16.4	8.0	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	4		ほぼ完形品
208	碗	10r	灰原C	16.2	8.2	4.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		ほぼ完形品
209	碗	10r	灰原C	16.4	8.5	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
210	碗	10r	灰原C	15.9	7.9	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
211	碗	10s	灰原C	16.3	7.3	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
212	碗	10r	灰原C	15.2	7.2	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		体部の厚みが他の物より薄い
213	碗	10r	灰原C	17.1	8.8	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	A	1		
214	碗	10r	灰原C	16.8	8.7	4.9	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		
215	碗	10r	灰原C	16.0	8.1	5.1	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	B	2		ほぼ完形品
216	碗	10q	灰原C	16.2	7.3	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		ほぼ完形品
217	碗	10q	灰原C	16.0	7.0	5.5	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	4		ほぼ完形品
218	碗	10q	灰原C	16.8	7.6	5.0	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
219	碗	10q	灰原C	15.9	7.1	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁玉縁風
220	碗	10q	灰原C	15.6	7.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁楕円
221	碗	10q	灰原C	16.1	8.2	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	不良	C	1		完形品
222	碗	10q	灰原C	16.3	8.8	5.3	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		
223	碗	10q	灰原C	16.8	8.2	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	5		
224	碗	10q	灰原C	16.3	8.4	5.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
225	碗	10q	灰原C	15.8	7.7	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
226	碗	10q	灰原C	15.6	7.9	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
227	碗	10q	灰原C	15.9	8.1	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
228	碗	12s	灰原D	(16.9)	(9.1)	(6.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		高台他のものより大きく不整形、片口碗の可能性ある

第28表 碗類観察表 (その3)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 附着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類		取上番号	備考
				口径	高台径	器高						体部	口縁端部		
229	碗	12s	灰原D	16.3	8.2	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
230	碗	10s	灰原D	(15.1)	7.9	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
231	碗	10s	灰原C	16.3	8.4	5.0	もみ	糸切り	横ナデ	不良	良	D	1		
232	碗	10s	灰原C	16.5	7.8	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	5		
233	碗	10s	灰原C	16.2	7.6	4.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	3		
234	碗	10s	灰原D	16.4	8.1	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		完形品
235	碗	10s	灰原D	16.1	8.3	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
236	碗	10s	灰原D	16.0	7.9	4.9	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
237	碗	10s	灰原D	16.5	8.5	5.0	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
238	碗	10s	灰原D	16.3	7.9	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
239	碗	10s	灰原D	16.1	8.0	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
240	碗	11s	灰原D	15.1	6.3	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁玉縁風、完形品、口縁ゆがむ
241	碗	11s	灰原D	(17.2)	7.3	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面体部に2条あり、
242	碗	11s	灰原D	15.7	7.1	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		口縁ゆがむ
243	碗	11s	灰原D	15.6	7.6	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		完形品
244	碗	11s	灰原D	17.2	7.8	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品、口縁ゆがむ
245	碗	11s	灰原D	17.3	9.0	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
246	碗	11r	灰原D	16.2	8.4	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
247	碗	11r	灰原D	17.4	9.1	5.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
248	碗	11s	灰原D	17.1	9.0	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
249	碗	11s	灰原D	16.3	7.9	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
250	碗	11s	灰原D	17.8	8.4	5.6	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		天場もの
251	碗	11r	灰原D	17.0	7.6	4.4	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	4		完形品、口縁ゆがむ
252	碗	11r	灰原D	17.9	9.1	5.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
253	碗	11r	灰原D	16.7	8.1	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		ほぼ完形品
254	碗	11r	灰原D	15.7	7.7	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
255	碗	11r	灰原D	17.3	8.4	6.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
256	碗	11r	灰原D	15.8	7.2	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
257	碗	11r	灰原D	16.7	8.7	5.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
258	碗	11r	灰原D	16.3	8.6	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		ほぼ完形品、口縁ゆがむ
259	碗	11r	灰原D	17.0	8.7	5.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
260	碗	11t	灰原D	16.8	8.4	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品、口縁ゆがむ
261	碗	11t	灰原D	15.2	7.8	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
262	碗	10s	Bベルト (灰原D)	16.7	8.7	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
263	碗	10t	IVベルト (灰原D)	15.4	8.1	4.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	A	5		
264	碗	11s	IVベルト (灰原D)	15.6	7.5	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面体部に何条か入る
265	碗	10r	IIIベルト (灰原D)	15.9	7.8	4.9	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
266	碗	10r	IIIベルト (灰原D)	15.5	7.8	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
267	碗	10r	IIIベルト (灰原D)	16.9	7.1	5.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
268	碗	12s	灰原D	16.2	8.3	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
269	碗	12s	灰原D	15.5	7.0	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
270	碗	12s	灰原D	16.3	8.0	5.3	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		完形品
271	碗	12s	灰原D	16.7	8.7	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
272	碗	12s	灰原D	15.5	7.3	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
273	碗	12s	灰原D	16.4	8.6	5.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	A	1		
274	碗	12s	灰原D	15.9	8.2	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
275	碗	12s	灰原D	15.8	7.1	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
276	碗	12r	灰原D	15.8	8.3	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
277	碗	12r	灰原D	16.5	7.6	6.5	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
278	碗	11r	灰原D	16.3	8.0	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
279	碗	11r	灰原D	15.8	7.8	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
280	碗	11r	灰原D	15.7	6.8	5.1	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
281	碗	11r	IVベルト (灰原D)	(15.7)	8.3	(5.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
282	碗	12r	IVベルト (灰原D)	16.1	7.3	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
283	碗	10s	灰原D	15.3	7.3	6.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		口縁が特徴的、高台の作りがきれい
284	碗	10s	灰原D	15.9	7.4	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
285	碗	10s	灰原D	16.2	7.6	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
286	碗	10s	灰原D	16.2	7.5	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
287	碗	10s	灰原D	15.6	7.1	4.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		完形品
288	碗	10s	灰原D	15.7	8.4	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品、高台ほとんどつぶれている
289	碗	11r	灰原D	15.6	7.9	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
290	碗	11r	灰原D	16.1	7.9	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	1		完形品
291	碗	11s	灰原D	(16.6)	7.1	(4.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
292	碗	11t	Bベルト (灰原E)	16.3	8.2	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
293	碗	12t	Vベルト (灰原E)	(16.4)	8.1	(5.7)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
294	碗	不明	Cトレンチ	16.6	7.6	4.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品、口縁ゆがむ
295	碗	9s	SK01	16.9	8.5	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
296	碗	9s	SK01	15.6	7.6	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
297	碗	9s	SK01	16.4	8.6	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		口縁ゆがむ
298	碗	9s	SK01	16.9	8.5	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	4		
299	碗	9s	SK01	15.9	7.5	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		口縁玉縁風
300	碗	9s	SK01	15.9	7.6	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
301	碗	9s	SK01	16.4	7.7	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
302	碗	9s	SK01	15.8	7.3	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
303	碗	9s	SK01	15.0	7.9	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	最良	D	1		
304	碗	9s	SK01	16.0	7.6	5.1	もみ	ナデ	回転ナデ	良	最良	D	1		内面底部と体部の境に指で作った5mm幅の溝あり

第29表 碗類観察表 (その4)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類		取上番号	備考
				口径	高台径	器高						体部	口縁端部		
305	碗	9s	SK01	15.7	7.5	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	最良	D	1		
306	碗	9s	SK01	15.4	7.2	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	C	1		ほぼ完形品、口縁積門
307	碗	9s	SK01	15.3	7.2	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品、口縁ゆがむ
308	碗	9r	灰原C (SK01)	16.6	7.7	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
309	碗	9r	灰原C (SK01)	(15.5)	8.0	(5.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
310	碗	10r	灰原C (SK01)	16.0	8.3	4.7	もみ	ナデ	不明	良	良	B	1		天場もの
311	碗	9r	SK01	15.7	7.4	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
312	碗	9r	SK01	16.7	7.6	5.3	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
313	碗	9r	Aベルト (SK01)	16.2	7.7	5.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		ほぼ完形品
314	碗	12s	Vベルト (SK03)	(15.8)	7.4	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	不明	最良	最良	D	1		天場もの
315	碗	12s	SK04	(17.8)	8.1	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		高台不整形
316	碗	11q	SK05	16.6	8.3	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
317	碗	11r	SK05	(16.8)	8.7	(4.7)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		
318	碗	8r	SK06	15.7	7.1	6.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	c	②		
319	碗	8r	SK06	15.6	7.2	5.9	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	c	②		ほぼ完形品
320	碗	9r	SU01	15.7	7.0	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	b	②		
321	碗	9r	SU01	15.1	7.5	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	b	①		
322	碗	9r	SU01	(15.8)	7.6	(5.3)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	e	②		
323	碗	9r	SU01	15.7	7.9	4.8	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	d	①		
324	碗	9r	SU01	15.7	7.2	4.8	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	b	①		
325	碗	9s	SU01	15.8	7.3	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	b	①		
326	碗	9s	SU01	14.9	7.1	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	e	①		
327	碗	9s	SU01	14.4	6.1	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	e	①		
328	碗	9s	SU01	15.1	7.5	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	e	①		
329	碗	9s	灰原C (SU01)	16.0	7.8	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
330	碗	9s	灰原C (SU01)	16.2	8.3	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
331	碗	9s	灰原C (SU01)	15.8	8.0	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
332	碗	9s	灰原C (SU01)	15.9	7.8	5.2	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
333	碗	9s	灰原C (SU01)	16.1	8.1	5.0	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		ほぼ完形品
334	碗	10t	SU02	16.1	8.3	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	4		完形品
335	碗	10t	SU02	15.1	7.1	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	4		完形品
336	碗	10t	SU02	16.3	8.2	4.4	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	A	1		
337	碗	10t	SU02	16.5	7.5	4.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	5		
338	碗	10t	SU02	15.2	7.6	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
339	碗	10t	SU02	15.8	7.9	5.3	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
340	碗	10t	SU02	15.9	7.5	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
341	碗	10t	SU02	15.5	7.4	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
342	碗	10t	SU02	16.0	7.8	4.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		完形品
343	碗	10t	SU02(4号窯内)	15.7	8.5	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		完形品
344	碗	10t	SU02(4号窯内)	15.6	7.8	5.1	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	4		
345	碗	10t	SU02(4号窯内)	15.8	7.0	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
346	碗	10t	SU02(4号窯内)	16.3	7.8	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁積門
347	碗	10t	SU02(4号窯内)	15.8	8.1	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
348	碗	10t	SU02(4号窯内)	16.4	8.3	5.1	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	C	2		
349	碗	10t	SU02(4号窯燃焼室)	15.3	7.8	4.7	もみ	不明	不明	良	良	B	2		天場もの、完形品
350	碗	10t	SU02(4号窯燃焼室)	16.1	8.1	5.0	もみ	ナデ	不明	良	良	B	1		口縁積門、底部中心欠損
351	碗	10t	SU02(4号窯燃焼室)	15.0	8.0	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
352	碗	10t	SU02(4号窯燃焼室)	15.8	8.1	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
353	碗	10t	SU02(4号窯燃焼室)	15.5	8.3	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		完形品
354	碗	10t	SU02(4号窯燃焼室)	16.3	8.1	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
355	碗	8r	SU03 (灰原A)	15.9	7.7	5.4	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	e	②		
356	碗	8r	SU03 (灰原A)	15.1	7.5	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	e	①		
357	碗	9r	SU04	15.7	8.0	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	d	①		完形品(すごく全体にきれい)
358	碗	9t	3号窯 床面下施設	16.4	8.1	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
359	碗	9s	3号窯 床面下施設	16.1	8.1	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
360	碗	9s	3号窯 床面下施設	16.2	8.1	5.0	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
361	碗	9s	3号窯 床面下施設	16.8	8.2	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
362	碗	9s	3号窯 床面下施設	15.8	7.6	4.7	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
363	碗	10t	4号窯 床面下施設	16.2	7.7	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	最良	良	D	5		
364	碗	10t	4号窯 床面下施設	16.4	8.0	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
365	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.0	7.7	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		ほぼ完形品
366	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.2	8.2	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	4		
367	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.8	8.0	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
368	碗	10t	4号窯 床面下施設	14.9	7.4	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
369	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.6	7.5	5.1	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
370	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.2	7.8	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		完形品
371	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.9	7.3	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		ほぼ完形品
372	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.6	7.7	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	B	1		
373	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.2	7.5	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		
374	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.3	7.1	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
375	碗	10t	4号窯 床面下施設	14.9	7.1	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
376	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.6	8.6	4.9	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	最良	良	D	1		ほぼ完形品
377	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.4	8.0	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	1		完形品、口縁ゆがむ
378	碗	10t	4号窯 床面下施設	16.0	8.6	5.1	もみ	ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		内面口縁端部に1条入る
379	碗	10t	4号窯 床面下施設	14.8	8.1	5.0	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
380	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.7	7.7	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品

第30表 碗類観察表 (その5)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類		取上番号	備考
				口径	高台径	器高						体部	口縁端部		
381	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.3	7.8	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		他の遺物より体部に厚みあり
382	碗	9t	4号窯 床面下施設	15.6	7.1	5.0	もみ	ナデ	回転ナデ	最良	最良	D	1		ほぼ完形品
383	碗	9t	4号窯 床面下施設	16.2	7.1	5.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		ほぼ完形品
384	碗	9t	4号窯 床面下施設	14.9	7.7	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	最良	最良	B	1		ほぼ完形品
385	碗	9t	4号窯 床面下施設	15.4	7.3	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
386	碗	9t	4号窯 床面下施設	15.9	7.0	5.4	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	D	1		ほぼ完形品
387	碗	9t	4号窯 床面下施設	15.6	6.9	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
388	碗	9t	4号窯 床面下施設	14.9	7.6	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	B	1		内面体部に5mm幅の溝あり
389	碗	9t	4号窯 床面下施設	15.8	8.0	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
390	碗	9t	4号窯 床面下施設	16.2	7.3	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品、高台楕円
391	碗	9t	4号窯 床面下施設	16.2	8.1	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	D	4		
392	碗	9t	4号窯 床面下施設	15.4	7.7	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	最良	最良	D	1		
393	碗	不明	表面採集	15.8	7.0	4.9	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
394	碗	不明	表面採集	15.9	7.4	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
395	碗	不明	表面採集	(15.8)	(8.2)	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
396	碗	9a	5号窯 分始柱	(15.0)	7.8	(5.1)	もみ	ナデ	回転ナデ	不良	不良	D	1		全体が黒っぽい
397	碗	9a	5号窯 分始柱	(15.0)	7.2	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
398	碗	7r	1号窯 燃焼室第1ベルト	14.8	6.2	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	e	②		
399	碗	7q	1号窯 主軸ベルト	15.0	6.7	5.4	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	e	②		
400	碗	8r	2号窯 燃焼室	15.8	6.7	5.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	c	②		口縁楕円
401	碗	8r	2号窯 燃焼室	15.6	7.4	5.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	c	②		
402	碗	8r	2号窯 燃焼室	16.0	7.2	5.8	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	c	②		口縁楕円
403	碗	8r	2号窯 燃焼室	15.7	7.6	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	e	②		
404	碗	8s	3号窯 焼成室	16.8	8.7	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	C	2		
405	碗	9t	3号窯 焼成室	16.5	8.2	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
406	碗	9t	3号窯 焼成室	16.5	7.7	5.5	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		高台に焼台片付着
407	碗	9t	3号窯 焼成室	16.5	7.8	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
408	碗	9t	3号窯 焼成室	16.3	7.5	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
409	碗	9t	3号窯 主軸ベルト	16.5	7.8	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
410	碗	9s	3号窯 主軸ベルト	16.7	8.5	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
411	碗	9s	3号窯 主軸ベルト	16.4	7.5	4.8	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
412	碗	9t	3号窯 焼成室	16.5	7.5	5.2	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
413	碗	9s	3号窯 燃焼室	16.0	8.5	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	2		口縁楕円
414	碗	9s	3号窯 燃焼室	16.0	7.4	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
415	碗	9s	3号窯 燃焼室	16.0	7.2	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
416	碗	9s	3号窯 燃焼室	15.7	7.5	5.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
417	碗	9s	3号窯 燃焼室	15.4	7.5	4.9	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	3		高台に棒状で縦5mm・横1cmにした粘土付着 (取れた痕も1つあり)、口縁付近に稜線あり
418	碗	9s	3号窯 燃焼室	16.0	8.0	5.0	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品、口縁付近に稜線あり、口縁楕円
419	碗	9s	3号窯 燃焼室	15.9	8.5	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
420	碗	9s	3号窯 燃焼室	16.1	7.7	4.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
421	碗	9s	3号窯 燃焼室	16.2	7.0	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	2		口縁楕円
422	碗	9s	3号窯 主軸ベルト	16.2	7.8	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁付近に稜線あり
423	碗	9s	3号窯 主軸ベルト	15.1	7.5	5.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
424	碗	9t	4号窯 焼成室	16.1	7.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
425	碗	10t	4号窯 焼成室	16.0	8.0	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
426	碗	10t	4号窯 焼成室	16.2	7.2	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
427	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	16.3	7.3	5.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面体部に5mm幅の溝あり、内面底部・口縁楕円
428	碗	9t	4号窯 焼成室	15.9	7.0	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
429	碗	10t	4号窯 焼成室	15.8	7.9	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
430	碗	10t	4号窯 焼成室	15.7	8.0	5.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
431	碗	10t	4号窯 焼成室	16.1	7.6	6.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
432	碗	9t	4号窯 焼成室	16.2	7.5	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁楕円
433	碗	10t	4号窯 焼成室	15.4	7.5	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁楕円
434	碗	10t	4号窯 焼成室	15.8	7.9	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
435	碗	10t	4号窯 焼成室	15.5	8.1	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
436	碗	10t	4号窯 焼成室	15.4	7.2	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		
437	碗	10t	4号窯 焼成室	15.5	7.7	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
438	碗	10t	4号窯 焼成室	16.4	7.5	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
439	碗	10t	4号窯 焼成室	15.9	7.6	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
440	碗	10t	4号窯 焼成室	16.0	7.8	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
441	碗	10t	4号窯 焼成室	16.0	7.3	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
442	碗	10t	4号窯 焼成室	16.0	7.5	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
443	碗	10t	4号窯 焼成室	15.5	7.7	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
444	碗	10t	4号窯 焼成室	15.8	7.2	5.1	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
445	碗	9t	4号窯 焼成室	15.6	7.8	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		口縁楕円
446	碗	9t	4号窯 焼成室	15.8	8.1	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
447	碗	9t	4号窯 焼成室	15.3	7.6	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
448	碗	9t	4号窯 焼成室	16.8	7.9	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
449	碗	9t	4号窯 焼成室	16.1	7.1	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		ほぼ完形品、口縁楕円
450	碗	9t	4号窯 焼成室	15.7	7.3	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
451	碗	9t	4号窯 焼成室	測定不能	7.4	測定不能	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
452	碗	9t	4号窯 焼成室	16.7	7.3	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		口縁ゆがむ
453	碗	9t	4号窯 焼成室	16.8	7.8	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
454	碗	9t	4号窯 焼成室	16.3	7.7	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
455	碗	9t	4号窯 焼成室	16.8	7.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		ほぼ完形品、口縁ゆがむ

第31表 碗類観察表 (その6)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類		取上番号	備考
				口径	高台径	器高						体部	口縁端部		
456	碗	9t	4号窯 焼成室	15.4	7.6	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
457	碗	9t	4号窯 焼成室	16.2	8.0	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ、外面底部にセシイ痕付着
458	碗	9t	4号窯 焼成室	15.4	7.2	5.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
459	碗	9t	4号窯 焼成室	16.5	7.8	5.1	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
460	碗	9t	4号窯 焼成室	15.6	7.4	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
461	碗	9t	4号窯 焼成室	15.9	6.9	5.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面体部に凸状に筋あり
462	碗	9t	4号窯 焼成室	16.2	7.6	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	4		
463	碗	9t	4号窯 焼成室	16.2	7.3	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
464	碗	9t	4号窯 焼成室	16.2	7.2	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
465	碗	9t	4号窯 焼成室	16.6	7.2	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		口縁ゆがむ
466	碗	9t	4号窯 焼成室	15.2	7.7	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	2		
467	碗	10t	4号窯 燃焼室	15.8	7.2	6.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		完形品、口縁ゆがむ(片口風な所あり)
468	碗	10t	4号窯 燃焼室	15.8	6.9	5.1	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
469	碗	10t	4号窯 燃焼室	16.4	7.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
470	碗	10t	4号窯 燃焼室	16.0	7.7	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
471	碗	10t	4号窯 燃焼室	15.8	7.6	5.2	もみ	ナデ	不明	良	良	D	1		天場もの
472	碗	10t	4号窯 燃焼室	15.5	6.8	4.8	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	2		他のものより全体に薄く作られている
473	碗	10t	4号窯 燃焼室	16.0	8.6	5.2	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
474	碗	10t	4号窯 燃焼室	15.8	6.8	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
475	碗	10t	4号窯 燃焼室	15.7	7.5	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
476	碗	10t	4号窯 燃焼室	16.1	7.3	5.4	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	B	1		天場もの
477	碗	10t	4号窯 燃焼室	16.8	7.7	5.5	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁楕円
478	碗	10t	4号窯 燃焼室	16.3	7.4	5.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
479	碗	10t	4号窯 燃焼室	16.1	7.5	4.5	もみ・砂	ナデ	不明	良	良	D	1		底部中心部分欠損
480	碗	10t	4号窯 燃焼室	16.0	7.7	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
481	碗	10t	4号窯 燃焼室	15.7	7.5	5.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	D	1		口縁ゆがむ
482	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.2	8.0	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
483	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	16.2	7.7	5.0	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
484	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.4	6.6	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
485	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.7	7.3	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
486	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.6	7.0	4.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		天場もの
487	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.4	7.8	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
488	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	(15.7)	7.4	(5.6)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		底部中心部分欠損
489	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.6	7.5	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
490	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	16.1	7.7	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		高台楕円
491	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.9	7.8	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
492	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	16.2	8.0	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
493	碗	10t	4号窯 主軸ベルト(SU02)	14.9	7.2	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		
494	碗	10t	4号窯 主軸ベルト(SU02)	16.1	7.4	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		口縁楕円
495	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.7	7.6	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
496	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	16.1	7.7	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
497	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.7	7.8	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		口縁ゆがむ
498	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	16.2	7.2	5.3	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		口縁ゆがむ
499	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	16.3	8.3	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
500	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.7	7.8	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
501	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.6	7.7	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
502	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	15.6	7.6	5.3	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
503	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	16.0	7.7	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
504	碗	10t	4号窯 主軸ベルト	16.6	7.2	4.9	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		口縁ゆがむ
505	碗	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	17.0	7.7	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
506	碗	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	16.0	7.7	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
507	碗	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	16.2	8.0	4.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
508	碗	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	16.6	7.8	4.6	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
509	碗	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	15.5	7.4	4.9	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		
510	碗	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	16.5	7.7	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		完形品、口縁ゆがむ
511	碗	9t	4号窯	16.1	7.7	5.0	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
512	碗	9a	5号窯 焼成室	16.7	8.6	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
513	碗	9a	5号窯 焼成室	16.2	8.2	4.6	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	B	1		
514	碗	9a	5号窯 焼成室	16.3	8.5	5.0	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	B	1		
515	碗	9a	5号窯 焼成室	16.1	8.4	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	B	1		
516	碗	9a	5号窯 焼成室	16.1	8.8	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	4		
517	碗	9a	5号窯 焼成室	15.8	8.2	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
518	碗	9a	5号窯 焼成室	16.1	8.5	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
519	碗	9a	5号窯 焼成室	15.3	8.1	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	C	5		
520	碗	9a	5号窯 焼成室	15.5	8.5	5.5	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	D	1		
521	碗	9a	5号窯 焼成室	16.4	9.1	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
522	碗	9a	5号窯 焼成室	15.8	8.1	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	2		
523	碗	10a	5号窯 焼成室	15.9	8.4	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
524	碗	10a	5号窯 焼成室	15.9	8.9	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
525	碗	10a	5号窯 焼成室	16.7	8.7	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	C	1		
526	碗	10a	5号窯 焼成室	16.2	7.9	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
527	碗	10a	5号窯 焼成室	16.6	8.0	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		内面口縁付近に数条模様のように入る
528	碗	10a	5号窯 焼成室	15.8	8.0	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
529	碗	10a	5号窯 主軸ベルト	16.6	8.5	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	B	2		
530	碗	10a	5号窯 主軸ベルト	15.4	8.4	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
531	碗	10a	5号窯 焼成室	16.3	8.1	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		

第32表 碗類観察表 (その7)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類		取上番号	備考
				口径	高台径	器高						体部	口縁端部		
532	碗	10a	5号窯 焼成室	16.3	8.2	4.7	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	4		
533	碗	10a	5号窯 焼成室	16.3	8.7	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
534	碗	10a	5号窯 主軸ベルト	16.2	8.5	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
535	碗	10a	5号窯 主軸ベルト	16.7	8.7	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	不良	C	1		生焼け
536	碗	9a	5号窯 焼成室	16.0	8.9	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		生焼け、ほぼ完形品
537	碗	9a	5号窯 焼成室	15.5	7.4	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	不良	D	1		生焼け
538	碗	9a	5号窯 焼成室	16.6	8.4	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	不良	D	4		生焼け
539	碗	9a	5号窯 焼成室	15.9	8.5	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
540	碗	9a	5号窯 焼成室	16.3	9.3	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	不良	D	1		生焼け、ほぼ完形品
541	碗	9a	5号窯 焼成室	16.3	9.3	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
542	碗	9a	5号窯 焼成室	16.0	8.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	C	1		生焼け
543	碗	10a	5号窯 焼成室	15.7	8.6	4.8	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		一部生焼け、底部中心部分欠損
544	碗	10a	5号窯 焼成室	16.0	8.3	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	4		
545	碗	10a	5号窯 焼成室	15.2	8.2	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	4		ほぼ完形品
546	碗	10a	5号窯 焼成室	15.8	7.7	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	不良	D	4		生焼け
547	碗	10a	5号窯 焼成室	15.8	8.2	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		一部生焼け
548	碗	10a	5号窯 焼成室	16.0	8.2	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		
549	碗	10a	5号窯 焼成室	16.0	8.3	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
550	碗	10a	5号窯 焼成室	16.5	7.6	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品、口縁ゆがむ
551	碗	10a	5号窯 焼成室	15.4	8.2	4.6	もみ	糸切り	横ナデ	不良	良	B	1		
552	碗	10a	5号窯 焼成室	16.6	8.1	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
553	碗	10a	5号窯 焼成室	15.9	8.7	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
554	碗	10a	5号窯 焼成室	16.6	8.6	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		
555	碗	10a	5号窯 焼成室	16.0	8.7	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	C	2		
556	碗	10a	5号窯 焼成室	15.9	8.8	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
557	碗	10a	5号窯 主軸ベルト	16.6	9.0	4.7	もみ	糸切り	横ナデ	不良	良	C	2		
558	碗	10a	5号窯 焼成室	15.8	7.8	4.4	もみ	糸切り	不明	良	良	D	1		天場もの、ほぼ完形品、口縁ゆがむ
559	碗	10a	5号窯 焼成室	16.6	7.9	4.8	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
560	碗	10a	5号窯 焼成室	15.6	7.6	5.3	もみ	糸切り	横ナデ	不良	良	D	4		
561	碗	10a	5号窯 焼成室	15.2	8.2	4.7	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
562	碗	10a	5号窯 焼成室	15.9	8.1	5.3	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
563	碗	10a	5号窯 焼成室	16.3	7.6	4.5	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		天場もの、高台が極端に低い
564	碗	10a	5号窯 焼成室	16.3	8.5	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁楕円
565	碗	10a	5号窯 焼成室	16.3	8.4	4.9	もみ	糸切り	不明	不良	良	C	1		底部中心部分欠損
566	碗	10a	5号窯 焼成室	16.1	8.4	5.0	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	C	1		
567	碗	10a	5号窯 焼成室	15.9	8.6	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
568	碗	8r	灰原A	15.8	8.0	5.9	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	b	②		
569	碗	8p	灰原A	15.2	8.3	5.0	もみ	糸切り	横ナデ	不良	良	d	①		体部D・口縁端部2の方が近い
570	碗	7p	灰原A	15.8	7.4	5.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	e	②		
571	碗	7p	灰原A	15.1	7.5	5.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	e	①		
572	碗	7p	灰原A	15.1	6.9	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	e	②		
573	碗	7p	灰原A	15.3	7.4	5.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	e	②		
574	碗	8p	灰原A	(14.7)	7.4	(5.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	e	②		
575	碗	8p	灰原A	16.1	7.7	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	e	①		
576	碗	8p	灰原A	16.6	8.0	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	b	①		
577	碗	8q	Aベルト (灰原B)	14.9	7.2	5.0	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	d	②		
578	碗	7q	Aベルト (灰原A)	14.8	6.8	5.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	d	②		
579	碗	8r	8r杭山	15.2	7.5	5.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	d	①		
580	碗	8r	8r杭山	14.9	8.4	4.9	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	d	①		
581	碗	8r	灰原B	15.2	7.3	5.9	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	c	②		
582	碗	8r	灰原B	15.9	7.2	5.6	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	c	②		
583	碗	8r	灰原B	16.1	7.0	5.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	c	②		
584	碗	8r	2号窯 主軸ベルト焼成室	15.1	7.8	5.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	e	②		
585	碗	8r	灰原B	15.1	7.6	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	d	①		
586	碗	8r	灰原B	15.6	7.2	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
587	碗	8r	灰原B	15.0	7.7	5.2	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	B	2		
588	碗	8r	灰原B	15.1	7.7	4.6	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	1		
589	碗	8r	灰原B	15.3	7.1	5.1	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	B	2		
590	碗	8r	灰原B	15.0	(7.0)	4.9	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	B	2		
591	碗	8r	灰原B	15.8	8.1	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
592	碗	8r	灰原B	16.0	7.2	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
593	碗	8r	灰原B	16.4	7.4	5.0	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
594	碗	8r	灰原B	15.8	7.4	4.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
595	碗	8r	灰原B	15.2	7.4	4.9	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
596	碗	8r	灰原B	15.5	8.0	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
597	碗	9q	灰原C	16.0	7.7	5.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
598	碗	8r	灰原B	15.8	7.1	4.6	もみ	糸切り	不明	良	良	B	2		天場もの、内面器面荒れる
599	碗	8r	灰原B	15.7	7.3	5.0	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
600	碗	8r	灰原B	16.1	8.9	5.0	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
601	碗	8r	灰原B	15.5	7.0	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
602	碗	8r	灰原B	15.6	7.5	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
603	碗	8r	灰原B	15.4	7.5	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
604	碗	8r	灰原B	16.0	7.8	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
605	碗	8q	Aベルト (灰原B)	16.0	7.8	5.3	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	B	2		
606	碗	8q	Aベルト (灰原B)	15.7	7.2	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
607	碗	8q	Aベルト (灰原B)	15.6	7.9	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		

第33表 碗類観察表 (その8)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類		取上番号	備考
				口径	高台径	器高						体部	口縁端部		
608	碗	8q	Aベルト (灰原B)	15.9	7.4	5.1	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
609	碗	8q	Aベルト (灰原B)	15.7	8.0	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
610	碗	9r	灰原B	16.4	8.1	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
611	碗	9r	灰原B	16.6	8.7	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	B	1		
612	碗	9r	灰原B	16.2	8.9	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
613	碗	9q	灰原B	15.9	8.1	5.2	もみ	糸切り	横ナデ	不良	良	B	1		
614	碗	9q	灰原B	15.6	8.0	4.8	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
615	碗	10q	灰原B	15.4	7.7	5.3	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	e	①		
616	碗	10q	灰原B	15.3	7.9	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	b	①		
617	碗	10q	灰原B	15.0	7.2	5.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	e	②		
618	碗	9p	灰原B	15.7	7.8	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	b	①		
619	碗	10s	灰原C	15.2	7.7	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
620	碗	10s	灰原C	16.4	8.2	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		
621	碗	10s	灰原C	16.3	8.2	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
622	碗	10s	灰原C	15.9	7.3	4.8	不明	不明	横ナデ	良	良	C	2		完形品、口縁がむ、外面全体に器面荒れる、伏せて使用した可能性あり
623	碗	9s	灰原C	15.7	7.4	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		1.3cm大の小石含む
624	碗	10s	灰原C	16.7	8.2	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁楕円
625	碗	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	16.0	8.0	5.2	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		口縁から内面5cmの所に溝あり(深いものではない)
626	碗	10s	灰原C	16.4	7.3	4.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
627	碗	9s	灰原C	15.8	7.8	5.3	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
628	碗	9s	灰原C	16.1	7.5	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
629	碗	9r	灰原C	17.5	7.8	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	2		
630	碗	9r	灰原C	15.6	7.5	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	B	1		口縁がむ
631	碗	9r	灰原C	15.6	8.0	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	D	1		
632	碗	10r	灰原C	16.3	7.9	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
633	碗	10r	灰原C	15.6	8.0	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	a	②		1・2号窯の遺物に似ている
634	碗	10r	灰原C	14.6	6.9	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
635	碗	11s	灰原C	16.1	7.3	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		
636	碗	11s	灰原C	15.6	6.7	4.9	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		天場もの
637	碗	11s	灰原C	16.0	6.9	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
638	碗	11s	灰原C	15.7	7.3	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
639	碗	10r	灰原C	16.3	7.8	4.9	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		口縁がむ
640	碗	10r	灰原C	15.8	7.9	5.2	もみ・砂	糸切り後ナデ	不明	最良	最良	D	1		天場もの
641	碗	11r	灰原C	16.3	7.7	4.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁がむ、高台の作りが雑
642	碗	11r	灰原C	16.5	8.8	5.4	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
643	碗	11r	灰原C	15.4	7.9	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
644	碗	11r	灰原C	17.3	8.0	5.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
645	碗	10r	灰原C	16.7	8.8	5.3	もみ	ナデ	回転ナデ	最良	良	D	1		
646	碗	10r	灰原C	15.3	7.8	5.1	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
647	碗	10r	灰原C	15.5	7.3	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
648	碗	10q	灰原C	16.1	7.8	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
649	碗	10r	灰原C	16.0	7.6	5.2	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
650	碗	10r	灰原C	15.7	7.6	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に段あり
651	碗	10q	灰原C	15.6	8.5	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
652	碗	10r	灰原C	15.7	7.7	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
653	碗	10r	灰原C	16.0	7.5	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品、口縁がむ
654	碗	10r	灰原C	16.5	8.4	5.1	不明	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁楕円
655	碗	10r	灰原C	15.4	7.5	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
656	碗	10r	灰原C	16.1	7.2	4.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		口縁がむ
657	碗	10r	灰原C	15.1	7.9	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
658	碗	10r	灰原C	15.8	8.1	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	最良	最良	D	1		
659	碗	10r	灰原C	16.8	8.0	5.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
660	碗	10r	灰原C	15.5	7.4	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
661	碗	10q	灰原C	15.8	8.6	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
662	碗	10q	灰原C	16.3	8.6	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		口縁がむ
663	碗	10q	灰原C	16.7	7.7	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
664	碗	10q	灰原C	15.2	7.7	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
665	碗	10r	灰原C	16.1	8.1	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
666	碗	10r	灰原C	16.2	8.0	4.7	もみ	ナデ	回転ナデ	最良	最良	D	1		
667	碗	10r	灰原C	16.3	8.4	5.3	もみ	ナデ	回転ナデ	最良	最良	D	1		
668	碗	10q	灰原C	16.4	8.8	5.2	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
669	碗	10q	灰原C	16.3	8.3	4.8	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		
670	碗	10q	灰原C	16.8	8.8	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
671	碗	10q	灰原C	15.0	7.5	5.5	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
672	碗	10q	灰原C	16.2	8.0	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
673	碗	9r	Bベルト (灰原C)	15.5	8.4	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
674	碗	9r	Bベルト (灰原C)	16.5	8.0	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		口縁がむ
675	碗	9r	Bベルト (灰原C)	15.8	7.6	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
676	碗	9r	Bベルト (灰原C)	16.6	8.0	4.5	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁がむ
677	碗	9r	Bベルト (灰原C)	16.5	7.4	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		高台不格好
678	碗	9r	Bベルト (灰原C)	15.9	7.8	4.9	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
679	碗	9r	Bベルト (灰原C)	16.9	8.8	5.2	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		高台不格好
680	碗	10r	Bベルト	16.6	7.8	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁がむ
681	碗	9r	灰原C	16.0	8.2	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
682	碗	9r	灰原C	16.6	8.1	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	最良	最良	D	1		

第34表 碗類観察表 (その9)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類		取上番号	備 考
				口径	高台径	器高						体部	口縁端部		
683	碗	10r	Ⅲベルト (灰原C)	16.3	8.5	4.9	もみ	ナデ	不明	良	良	D	1		内面全体に釉付着
684	碗	11r	Ⅲベルト (灰原C)	16.8	8.4	5.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
685	碗	11r	Ⅲベルト (灰原C)	16.7	7.3	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
686	碗	11r	Ⅲベルト (灰原C)	16.6	7.6	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ、口縁端部から1cm下に稜あり
687	碗	11r	Ⅲベルト (灰原C)	16.1	8.1	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
688	碗	11r	Ⅲベルト (灰原C)	16.7	8.6	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		口縁ゆがむ
689	碗	11r	Ⅲベルト (灰原C)	(16.0)	7.8	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
690	碗	11r	Ⅲベルト (灰原C)	15.7	8.7	5.0	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	4		高台不格好
691	碗	11s	11s杭山	15.9	8.3	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
692	碗	11s	11s杭山	16.7	8.4	4.4	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	C	2		完形品、口縁ゆがむ
693	碗	11q	灰原C	17.0	8.3	5.1	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
694	碗	11q	灰原C	15.6	7.9	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
695	碗	12q	灰原C	16.5	8.4	5.1	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
696	碗	12q	灰原C	15.3	7.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
697	碗	11r	灰原C	16.3	8.6	5.6	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	C	1		
698	碗	11r	灰原C	15.8	7.3	4.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
699	碗	11r	灰原C	16.0	7.5	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
700	碗	11r	灰原C	16.2	8.6	5.0	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
701	碗	11r	灰原C	16.0	8.0	5.6	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
702	碗	11r	灰原C	15.8	8.0	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
703	碗	11r	灰原C	16.3	7.6	4.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
704	碗	10q	灰原C	16.3	7.7	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	最良	最良	C	2		
705	碗	10q	灰原C	15.8	7.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
706	碗	10r	10r杭山 (灰原C)	16.6	8.5	5.0	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	4		
707	碗	11r	Ⅲベルト (灰原C)	16.3	7.6	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
708	碗	11r	Ⅲベルト (灰原C)	15.9	7.8	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
709	碗	11r	Ⅲベルト (灰原C)	16.3	7.6	4.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
710	碗	10r	灰原C	16.2	7.6	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	4		
711	碗	10r	灰原C	16.2	8.6	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
712	碗	10r	灰原C	15.6	7.7	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
713	碗	10r	灰原C	15.5	7.8	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		
714	碗	9r	灰原C	16.0	7.7	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	1		
715	碗	10r	灰原C	16.0	7.9	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	4		
716	碗	9r	灰原C	16.0	7.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
717	碗	10r	灰原C	15.9	8.4	4.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	4		
718	碗	10r	灰原C	16.0	8.1	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	4		
719	碗	10r	灰原C	16.3	7.3	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	2		
720	碗	10r	灰原C	16.7	8.1	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
721	碗	9r	灰原C	15.8	7.4	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
722	碗	10s	灰原C	17.5	(8.8)	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品、口縁ゆがむ
723	碗	10r	灰原C	15.6	7.1	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
724	碗	10r	灰原C	16.6	7.6	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
725	碗	10r	灰原C	15.6	7.3	4.9	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
726	碗	10r	灰原C	16.2	7.9	4.5	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
727	碗	10r	灰原C	15.8	7.1	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
728	碗	10r	灰原C	(16.4)	7.9	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
729	碗	10r	灰原C	16.3	7.9	5.0	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
730	碗	10r	灰原C	16.7	7.8	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		口縁ゆがむ
731	碗	10r	灰原C	15.9	7.5	5.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
732	碗	10r	灰原C	16.2	7.6	5.5	もみ	ナデ	回転ナデ	良	不良	D	1		
733	碗	10r	灰原C	16.3	8.4	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
734	碗	10q	灰原C	16.1	8.4	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
735	碗	10q	灰原C	15.2	8.0	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
736	碗	10q	灰原C	16.2	7.0	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		
737	碗	10q	灰原C	15.0	7.9	4.9	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
738	碗	10q	灰原C	15.7	8.3	5.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
739	碗	10q	灰原C	15.3	7.7	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
740	碗	10q	灰原C	15.2	7.9	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
741	碗	10q	灰原C	16.1	8.2	5.2	もみ	糸切り	回転ナデ	良	不良	C	1		
742	碗	10q	灰原C	17.3	8.5	5.8	もみ	不明	回転ナデ	良	良	A	1		
743	碗	10q	灰原C	16.3	7.9	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		完形品、口縁ゆがむ
744	碗	10q	灰原C	15.0	8.1	5.0	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	1		口縁から内側に1.5cm下に溝入る
745	碗	10q	灰原C	15.6	7.6	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品、口縁槽円
746	碗	10q	灰原C	16.0	8.3	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
747	碗	10r	灰原C	16.4	8.3	5.1	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	C	4		口縁ゆがむ
748	碗	10q	灰原C	15.3	7.7	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
749	碗	10q	灰原C	15.3	7.3	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
750	碗	12s	灰原D	16.4	8.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
751	碗	10s	灰原D	15.8	7.2	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
752	碗	10s	灰原D	16.6	8.3	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
753	碗	10s	灰原D	18.0	8.5	5.1	もみ	センイ痕	横ナデ	良	良	C	1		口縁ゆがむ
754	碗	10s	灰原D	15.7	8.1	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
755	碗	10s	灰原D	15.3	7.3	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		高台が雑
756	碗	10s	灰原D	15.8	7.6	5.1	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
757	碗	10s	灰原D	16.2	8.0	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		完形品、口縁ゆがむ
758	碗	10s	灰原D	16.8	8.8	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		完形品

第35表 碗類観察表 (その10)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類		取上番号	備考
				口径	高台径	器高						体部	口縁端部		
759	碗	10s	灰原D	17.2	9.1	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
760	碗	10s	灰原D	16.3	8.7	5.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	C	1		ほぼ完形品
761	碗	11s	灰原D	16.7	7.2	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
762	碗	11s	灰原D	15.7	7.1	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		口縁ゆがむ
763	碗	11s	灰原D	16.0	7.4	4.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		口縁ゆがむ
764	碗	11s	灰原D	16.1	8.1	5.2	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
765	碗	11s	灰原D	16.5	7.6	4.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
766	碗	11s	灰原D	16.6	7.3	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
767	碗	11s	灰原D	15.8	7.8	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		内面体部に溝が数条入る
768	碗	11s	灰原D	16.9	7.7	4.8	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	A	1		口縁ゆがむ
769	碗	11r	灰原D	16.4	8.5	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
770	碗	12s	灰原D	16.3	7.4	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		口縁ゆがむ
771	碗	11r	灰原D	16.5	8.3	5.6	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		
772	碗	11s	灰原D	16.2	7.7	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
773	碗	11r	灰原D	16.3	8.3	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
774	碗	11r	灰原D	16.0	7.4	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内高台不格好
775	碗	11r	灰原D	16.7	8.5	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
776	碗	11r	灰原D	16.1	8.1	5.0	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	4		
777	碗	11r	灰原D	17.4	9.3	5.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
778	碗	11r	灰原D	15.8	7.5	5.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
779	碗	11r	灰原D	16.8	7.5	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
780	碗	11r	灰原D	16.7	8.5	5.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
781	碗	11t	灰原D	15.5	7.5	5.0	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
782	碗	11t	灰原D	16.5	8.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
783	碗	11t	灰原D	16.0	8.4	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
784	碗	11t	灰原D	16.3	8.1	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
785	碗	10s	Bベルト (灰原D)	16.7	8.4	5.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
786	碗	10s	IIIベルト (灰原D)	16.0	7.3	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
787	碗	10r	IIIベルト (灰原D)	15.5	7.8	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
788	碗	12s	灰原D	16.6	7.7	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
789	碗	12s	灰原D	16.8	7.8	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
790	碗	12s	灰原D	15.8	7.7	4.9	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
791	碗	12s	灰原D	16.3	7.4	4.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		完形品
792	碗	12s	灰原D	16.6	7.4	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
793	碗	12s	灰原D	16.3	8.4	4.9	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	C	1		
794	碗	12s	灰原D	15.8	7.6	5.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
795	碗	12s	灰原D	17.0	8.8	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁楕円
796	碗	12s	灰原D	17.0	7.8	5.3	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
797	碗	12s	灰原D	16.5	8.1	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
798	碗	12s	灰原D	17.2	8.5	4.9	もみ	糸切り	横ナデ	不良	良	D	1		
799	碗	12s	灰原D	16.3	7.7	5.1	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
800	碗	12s	灰原D	16.3	7.8	5.0	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
801	碗	12s	灰原D	15.5	7.5	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
802	碗	12s	灰原D	16.1	7.5	5.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
803	碗	12s	灰原D	15.8	7.1	5.0	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
804	碗	12r	灰原D	15.8	7.9	5.1	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
805	碗	12r	灰原D	16.4	7.7	5.5	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
806	碗	12r	灰原D	16.2	8.2	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品、口縁楕円
807	碗	12r	灰原D	15.9	7.8	5.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
808	碗	12r	灰原D	16.5	7.7	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
809	碗	12r	灰原D	15.4	7.5	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	4		
810	碗	12r	灰原D	15.7	7.9	5.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
811	碗	12r	灰原D	16.4	8.7	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
812	碗	12r	灰原D	16.0	7.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
813	碗	12r	灰原D	16.6	7.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		口縁ゆがむ
814	碗	11r	灰原D	16.2	8.1	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
815	碗	11r	灰原D	15.8	7.8	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
816	碗	11r	灰原D	15.9	7.5	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
817	碗	11r	灰原D	15.4	8.0	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
818	碗	11r	灰原D	15.7	8.5	5.4	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品
819	碗	11r	灰原D	16.3	7.8	4.6	もみ	ナデ	不明	良	良	D	1		天場もの
820	碗	11r	IVベルト (灰原D)	16.0	8.6	5.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
821	碗	11r	IVベルト (灰原D)	16.2	7.7	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		
822	碗	12r	IVベルト (灰原D)	15.8	7.5	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
823	碗	12r	IVベルト (灰原D)	15.7	7.3	5.5	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		完形品、口縁ゆがむ
824	碗	12r	IVベルト (灰原D)	15.5	7.9	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
825	碗	12r	IVベルト (灰原D)	16.2	8.2	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
826	碗	12r	IVベルト (灰原D)	16.5	7.3	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
827	碗	10s	灰原D	15.9	8.0	5.4	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	C	1		天場もの
828	碗	10s	灰原D	16.0	7.8	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ
829	碗	10s	灰原D	16.2	7.9	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
830	碗	10s	灰原D	15.8	8.0	5.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	2		
831	碗	10s	灰原D	16.9	8.7	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
832	碗	10s	灰原D	15.8	8.1	5.1	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
833	碗	11s	灰原D	16.1	8.2	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		ほぼ完形品
834	碗	10s	灰原D	16.8	8.4	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ

第36表 碗類観察表 (その11)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 附着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類		取上番号	備	考
				口径	高台径	器高						体部	口縁端部			
835	碗	11r	灰原D	16.3	8.8	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2			
836	碗	11r	灰原D	16.3	7.8	5.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	2			
837	碗	11t	灰原E	16.8	7.5	5.0	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	2			
838	碗	11t	Bペルト (灰原E)	15.9	7.5	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1			
839	碗	12s	検出I	16.7	8.1	4.9	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1			
840	碗	9s	検出II	15.7	7.9	5.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	2			
841	碗	9r	検出III	16.3	8.1	4.8	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	C	1		ほぼ完形品、口縁槽門	
842	碗	不明	Cトレンチ	15.8	8.0	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1			
843	碗	不明	Cトレンチ	16.5	7.6	5.0	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	A	4			
844	碗	9s	SK01	16.4	8.5	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1			
845	碗	9s	SK01	15.9	7.9	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1			
846	碗	9s	SK01	15.9	8.0	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1			
847	碗	9s	SK01	17.0	8.2	5.0	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	4			
848	碗	9s	SK01	16.6	8.9	4.9	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1			
849	碗	9s	SK01	15.6	7.5	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1			
850	碗	9s	SK01	16.3	7.5	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1			
851	碗	9s	SK01	16.5	7.6	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1			
852	碗	9s	SK01	16.3	7.9	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1			
853	碗	9s	SK01	15.3	7.5	5.0	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1			
854	碗	9s	SK01	16.3	8.2	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1			
855	碗	9s	SK01	16.0	8.0	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	1			
856	碗	9r	SK01	15.8	7.7	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1			
857	碗	9r	SK01	14.8	7.9	5.0	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1			
858	碗	9r	SK01	15.8	8.1	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	4			
859	碗	9r	SK01	15.4	7.6	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1			
860	碗	9r	SK01	15.1	7.2	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ほぼ完形品	
861	碗	9r	SK01	16.1	7.6	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1			
862	碗	9r	SK01	15.3	7.7	5.5	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1			
863	碗	9r	SK01	16.1	7.8	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1			
864	碗	12s	SK03	16.3	8.3	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1			
865	碗	8r	SK06	15.4	6.7	5.4	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	b	②		口縁ゆがむ、高台不格好	
866	碗	8r	SK06	14.9	7.2	5.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	c	②			
867	碗	9r	SU01	16.2	7.9	4.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	d	①		内面口縁に3条入る	
868	碗	9r	SU01	15.5	7.5	5.1	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	d	①			
869	碗	9s	SU01	14.9	7.5	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	b	②		口縁ゆがむ	
870	碗	9s	SU01	14.9	7.9	5.1	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	b	②			
871	碗	9s	SU01	15.2	7.9	5.5	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	b	①			
872	碗	9s	SU01	15.4	8.1	5.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	e	①			
873	碗	9s	SU01	15.4	7.8	5.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	b	②			
874	碗	9s	SU01	14.9	5.9	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	b	③			
875	碗	9s	SU01	15.1	7.5	5.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	d	②			
876	碗	9s	SU01	15.1	7.9	5.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	e	②			
877	碗	9s	SU01	15.6	7.1	5.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	e	③			
878	碗	9s	SU01	15.6	7.7	5.8	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	c	②			
879	碗	9s	SU01(灰原C)	15.8	8.5	5.2	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		天場もの	
880	碗	9s	SU01(灰原C)	16.3	8.1	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1			
881	碗	9s	SU01(灰原C)	16.4	7.9	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1			
882	碗	9r	SU01	15.8	7.4	5.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1			
883	碗	10t	SU02	16.1	7.7	4.9	もみ	糸切り	横ナデ	不良	良	B	2			
884	碗	10t	SU02	15.5	7.4	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1			
885	碗	10t	SU02	15.6	8.4	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1			
886	碗	10t	SU02	15.3	7.4	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1			
887	碗	10t	SU02	15.7	8.0	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1			
888	碗	10t	SU02	15.6	8.3	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	D	2			
889	碗	10t	SU02	15.6	7.7	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1			
890	碗	10t	SU02	15.9	7.6	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4			
891	碗	10t	SU02	15.1	8.1	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1			
892	碗	10t	SU02	16.7	8.2	4.6	もみ	糸切り	横ナデ	不良	良	D	1			
893	碗	10t	SU02	16.1	8.6	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1			
894	碗	10t	SU02(4号室内)	15.9	8.6	4.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	2			
895	碗	10t	SU02(4号室内)	17.0	8.1	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	D	4			
896	碗	10t	SU02(4号室内)	15.5	8.6	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1			
897	碗	10t	SU02(4号室内)	16.0	7.8	4.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2			
898	碗	10t	SU02(4号室内燃焼室)	16.1	8.5	5.0	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	A	1			
899	碗	10t	SU02(4号室内燃焼室)	15.9	7.9	4.6	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1			
900	碗	10t	SU02(4号室内燃焼室)	15.6	6.8	4.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		完形品、口縁槽門	
901	碗	10t	SU02(4号室内燃焼室)	16.4	7.4	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1			
902	碗	10t	SU02(4号室内燃焼室)	16.0	7.8	4.6	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	A	1			
903	碗	10t	SU02(4号室内燃焼室)	16.0	8.7	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1			
904	碗	10t	SU02(4号室内燃焼室)	15.7	8.1	4.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1			
905	碗	8r	SU03 (灰原A)	15.1	7.5	5.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	d	③			
906	碗	8r	SU03 (灰原A)	(16.4)	7.7	(5.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	e	②			
907	碗	9t	3号窯 床面下施設	15.8	8.1	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	27/25/29		
908	碗	9t	3号窯 床面下施設	16.0	7.5	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	42/43		
909	碗	9t	3号窯 床面下施設	15.2	7.4	4.9	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1	49		
910	碗	9s	3号窯 床面下施設	17.1	7.8	5.0	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1	88	ほぼ完形品	

第37表 碗類観察表 (その12)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	器形分類		取上番号	備	考
				口径	高台径	器高						体部	口縁端部			
911	碗	9s	3号窯 床面下施設	16.4	8.2	4.7	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1	91/93		
912	碗	10t	4号窯 床面下施設	16.0	7.9	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	9		
913	碗	10t	4号窯 床面下施設	16.2	7.9	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1	20		
914	碗	10t	4号窯 床面下施設	16.1	7.7	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4	24		
915	碗	10t	4号窯 床面下施設	16.0	7.9	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	43		
916	碗	10t	4号窯 床面下施設	16.2	7.8	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	78/77		
917	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.1	7.9	4.5	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1	98		
918	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.6	7.8	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1	124		
919	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.5	7.9	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	最良	良	B	1	135	口縁ゆがむ	
920	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.5	7.5	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	最良	良	B	1	136		
921	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.4	7.6	5.1	もみ	不明	回転ナデ	良	良	A	1	147		
922	碗	10t	4号窯 床面下施設	15.3	8.6	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	172		
923	碗	9t	4号窯 床面下施設	16.1	7.3	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	208		
924	碗	9t	4号窯 床面下施設	15.8	7.6	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1	236		
925	碗	9t	4号窯 床面下施設	15.3	7.8	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	1	243		
926	碗	9t	4号窯 床面下施設	15.5	8.0	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	最良	良	B	1	247	完形品	
927	碗	9t	4号窯 床面下施設	15.3	7.5	5.0	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	1	251		
928	碗	9t	4号窯 床面下施設	16.0	7.4	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1	252		
929	碗	9t	4号窯 床面下施設	16.3	8.9	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	2	266		
930	碗	9t	4号窯 床面下施設	15.9	8.4	5.0	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1	296		
931	碗	9t	4号窯 床面下施設	16.3	7.6	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	最良	良	D	1	298		
932	碗	9a	5号窯 分縮柱	15.3	7.9	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	B	1		全体に黒い色をしている	
933	碗	9a	5号窯 分縮柱	16.0	7.9	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1			
934	碗	不明	表面採集	16.4	7.6	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがむ	
935	碗	不明	山桜根元	15.7	7.5	6.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	e	②			
936	片口碗	9q	灰原B	15.4	(8.0)	5.9	もみ	糸切り	横ナデ	不良	良	B	2			
937	片口碗	9r	SU01	(16.6)	8.5	(6.2)	-	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		高台が付着している形跡なし	
938	片口碗	9s	SU01	(15.3)	7.4	(5.5)	-	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		高台が付着している形跡なし	
939	片口碗	9p	灰原B	(15.1)	-	-	-	-	-	良	良	-	1		口縁付近のみ	
940	片口碗	9p	灰原B	(15.4)	-	-	-	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		高台が付着している形跡なし	

第38表 碗類観察表 (その 13)

遺物観察表の凡例

【法量の測量】

○ 口径・高台径

実測できるものは、そのまま計測した。1/2以下は推定値を記し小数点第2位を繰上げ、()で記入した。測定個所が欠損している場合は「-」とし、測定出来なかったものについては「測定不能」とした。

○ 器高

実測できるものはそのまま計測した。測定個所が欠損している場合は「-」とし、測定出来なかったものについては「測定不能」とした。

○ 高台底部接地面

高台底部に付いた様々な痕跡を記した。

○ 底部外面

回転台から切り離す工程でできた糸切り痕やナデなどを記した。

○ 見込み

内面底部中央にできた調整痕のことを記した。

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			取上番号	備考
				口径	底径/高台径	器高						高台	体部	口縁端部		
941	皿	7r	1号窯 焼成室	8.6	4.9	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	a	③		ほぼ完形品
942	皿	7q	1号窯 主軸ベルト燃焼室	8.8	4.7	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	b	①		
943	皿	8s	2号窯 焼成室分焰柱付近	8.1	5.1	1.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	i	e	①		完形品
944	皿	8s	2号窯 焼成室分焰柱付近	8.3	5.3	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	e	①		ほぼ完形品
945	皿	8s	2号窯 焼成室分焰柱付近	8.7	4.5	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	a	①		ほぼ完形品
946	皿	8s	2号窯 焼成室分焰柱付近	8.2	5.3	1.7	-	糸切り	横ナデ	良	良	ii	e	①		ほぼ完形品
947	皿	8s	2号窯 主軸ベルト焼成室	8.2	5.2	1.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	e	①		完形品
948	皿	8r	2号窯 燃焼室	8.4	5.0	1.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	e	①		完形品
949	皿	8r	2号窯 燃焼室	8.5	4.5	2.1	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	i	a	①		ほぼ完形品、内面器面荒れる
950	皿	8r	2号窯 燃焼室	8.5	4.3	2.1	-	糸切り	不明	良	良	i	a	①		内面器面荒れる
951	皿	8r	2号窯 燃焼室第1ベルト	8.5	4.6	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	a	①		
952	皿	8r	2号窯 主軸ベルト燃焼室	8.5	4.6	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	a	①		ほぼ完形品、内面器面荒れる
953	皿	8r	2号窯 主軸ベルト燃焼室	9.5	4.3	1.7	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	e	③		
954	皿	8r	2号窯 主軸ベルト燃焼室	8.8	4.3	2.0	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	i	a	①		
955	皿	8r	2号窯 主軸ベルト燃焼室	7.8	3.6	2.2	-	ナデ	横ナデ	良	良	i	c	①		
956	皿	8r	2号窯 燃焼室第1ベルト	8.0	4.9	1.4	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	e	①		完形品
957	皿	8r	2号窯 燃焼室第1ベルト	8.2	4.7	1.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	e	①		完形品
958	皿	8t	3号窯 焼成室	7.8	3.8	2.1	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1		完形品
959	皿	8t	3号窯 焼成室	7.6	4.0	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1		ほぼ完形品
960	皿	8t	3号窯 焼成室	7.7	4.0	2.0	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1		ほぼ完形品
961	皿	8t	3号窯 焼成室	8.0	4.0	2.0	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	B	1		ほぼ完形品
962	皿	9s	3号窯 焼成室	8.3	3.4	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	1		完形品
963	皿	9t	3号窯 焼成室	8.2	3.8	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	1		
964	皿	9t	3号窯 焼成室	8.0	4.1	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		完形品
965	皿	8t	3号窯 主軸ベルト焼成室	7.9	3.5	2.0	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1		
966	皿	9s	3号窯 主軸ベルト焼成室	7.4	3.5	1.9	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1		
967	皿	9s	3号窯 主軸ベルト焼成室	7.9	4.2	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	II	D	1		
968	皿	9s	3号窯 主軸ベルト焼成室	7.5	4.2	2.0	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1		
969	皿	8t	3号窯 焼成室	7.9	3.7	1.9	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1		完形品
970	皿	8t	3号窯 焼成室第2ベルト	7.8	3.8	2.0	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1		完形品
971	皿	8t	3号窯 焼成室第2ベルト	7.7	4.0	2.0	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1		完形品
972	皿	8t	3号窯 焼成室第2ベルト	8.0	4.0	2.1	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1		完形品
973	皿	8t	3号窯 焼成室第2ベルト	7.8	3.8	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1		ほぼ完形品
974	皿	9s	3号窯 燃焼室	8.1	4.0	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	1		
975	皿	9s	3号窯 燃焼室	8.3	3.7	3.4	-	ナデ	横ナデ	不良	良	I	D	1		
976	皿	9s	3号窯 燃焼室第1ベルト	8.1	4.0	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		完形品
977	皿	9s	3号窯 主軸ベルト燃焼室	7.9	4.1	2.1	-	ナデ	横ナデ	良	良	II	D	1		ほぼ完形品
978	皿	10t	4号窯 焼成室	7.2	3.9	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	2		ほぼ完形品
979	皿	10t	4号窯 焼成室	8.7	4.2	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	B	1		
980	皿	10t	4号窯 焼成室	9.0	4.3	2.4	-	ナデ	横ナデ	良	良	II	D	1		
981	皿	10t	4号窯 焼成室	8.6	4.3	2.2	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	2		
982	皿	10t	4号窯 焼成室	8.7	4.8	2.2	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	D	3		ほぼ完形品
983	皿	10t	4号窯 焼成室	8.9	4.1	2.1	-	ナデ	不明	良	良	II	C	1		天場もの、完形品
984	皿	10t	4号窯 焼成室	8.1	4.1	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1		
985	皿	10t	4号窯 焼成室	8.1	4.3	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1		
986	皿	9t	4号窯 焼成室	8.8	3.7	2.2	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	C	1		
987	皿	9t	4号窯 焼成室	8.8	4.0	2.4	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	I	A	1		天場もの、完形品
988	皿	9t	4号窯 焼成室	8.3	4.3	2.1	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1		完形品
989	皿	9t	4号窯 焼成室	9.0	4.1	2.4	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1		ほぼ完形品
990	皿	9t	4号窯 焼成室	8.4	4.4	2.5	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	C	2		
991	皿	9t	4号窯 焼成室	8.4	3.7	1.9	-	糸切り後ナデ	横ナデ	最良	良	II	B	1		完形品
992	皿	9t	4号窯 焼成室	8.9	4.1	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	II	C	1		
993	皿	9t	4号窯 焼成室	8.7	4.5	2.1	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		
994	皿	9t	4号窯 焼成室	8.9	5.2	2.1	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	I	C	2		全体に釉付着
995	皿	9t	4号窯 焼成室	8.6	4.4	2.4	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	D	2		
996	皿	9t	4号窯 焼成室	8.7	4.0	2.2	-	ナデ	横ナデ	良	良	II	D	3		
997	皿	9t	4号窯 焼成室	8.9	4.0	2.5	-	ナデ	横ナデ	良	良	II	B	1		
998	皿	9t	4号窯 焼成室	8.5	4.0	2.1	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	C	1		口縁稍円
999	皿	10t	4号窯 燃焼室	9.1	4.7	2.4	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		
1000	皿	10t	4号窯 燃焼室	9.2	4.6	2.3	-	ナデ	不明	良	良	I	D	1		内面全体に付着
1001	皿	10t	4号窯 燃焼室	8.6	4.1	2.5	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	D	1		口縁ゆがむ
1002	皿	10t	4号窯 燃焼室	8.6	4.0	2.4	-	ナデ	横ナデ	良	良	II	D	1		全体に厚み薄い
1003	皿	10t	4号窯 燃焼室	9.0	4.1	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	2		
1004	皿	10t	4号窯 燃焼室	8.6	4.2	2.4	-	ナデ	不明	良	良	I	D	1		
1005	皿	10t	4号窯 燃焼室	8.8	4.5	2.4	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1		完形品、外面底部中心に窪みあり
1006	皿	10t	4号窯 燃焼室	8.0	4.2	1.9	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	I	A	1		ほぼ完形品
1007	皿	10t	4号窯 燃焼室	9.4	5.2	2.6	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	A	1		
1008	皿	10t	4号窯 燃焼室前庭部付近	(8.7)	4.6	(2.1)	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		内面体部に1本溝あり
1009	皿	10t	4号窯 燃焼室前庭部付近	8.0	4.2	1.9	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1		ほぼ完形品
1010	皿	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	8.5	4.0	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	C	1		ほぼ完形品
1011	皿	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	8.7	4.1	2.2	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		
1012	皿	10t	4号窯 燃焼室	8.8	4.4	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	2		完形品
1013	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	7.5	4.1	1.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	A	1		
1014	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.9	4.8	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1015	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室 (SU02下層)	7.9	4.2	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	3		
1016	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室 (SU02下層)	7.5	4.5	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	B	1		口縁ゆがむ
1017	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.7	4.4	2.3	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	B	2		

第39表 皿類観察表 (その1)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			取上番号	備	考
				口径	底径/高台径	器高						高台	体部	口縁端部			
1018	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.3	4.6	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	2			
1019	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.6	4.3	2.2	-	ナデ	横ナデ	良	良	II	D	2			
1020	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.7	5.2	2.5	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		天場もの	
1021	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.4	3.8	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	C	2			
1022	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.3	3.9	2.5	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	D	1			
1023	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.7	3.8	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	2			
1024	皿	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト (SU02下層)	7.8	3.7	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	3			
1025	皿	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	7.9	3.5	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1026	皿	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	8.3	4.4	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1		外面底部中心に窪みあり	
1027	皿	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	8.8	4.8	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	2		ほぼ完形品	
1028	皿	10t	4号窯 燃焼室第1ベルト	8.0	4.2	1.8	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1			
1029	皿	10t	4号窯	8.1	3.9	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1030	皿	10a	5号窯 焼成室	8.3	4.5	2.3	-	糸切り	回転ナデ	不良	良	I	A	1		内面底部中心に窪みあり	
1031	皿	10a	5号窯 焼成室	7.8	4.2	2.0	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	I	C	1			
1032	皿	10a	5号窯 主軸ベルト	8.0	4.5	2.0	-	糸切り	不明	良	良	I	A	1		完形品、天場もの	
1033	皿	10a	5号窯 主軸ベルト焼成室	7.8	4.1	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	B	1			
1034	皿	10a	5号窯 主軸ベルト焼成室	8.0	4.5	2.0	-	糸切り	不明	良	良	I	A	1		完形品、天場もの	
1035	皿	10a	5号窯 主軸ベルト焼成室	7.5	4.2	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	1			
1036	皿	10a	5号窯 主軸ベルト焼成室	7.5	4.8	2.2	-	糸切り	不明	良	良	II	A	3		完形品、天場もの	
1037	皿	10a	5号窯 主軸ベルト焼成室	7.2	4.2	1.8	-	糸切り	不明	良	良	I	B	1		ほぼ完形品、天場もの	
1038	皿(玉)	10a	5号窯 主軸ベルト焼成室	7.4	4.1	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1039	皿(玉)	10a	5号窯 主軸ベルト焼成室	7.9	4.0	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1040	皿	9a	5号窯 焼成室	7.7	4.2	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	A	1		完形品、内面底部中心に窪みあり	
1041	皿	10a	5号窯 焼成室	7.8	4.4	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	1			
1042	皿	10a	5号窯 焼成室	7.3	4.0	1.1	-	糸切り	不明	良	良	I	D	1		天場もの	
1043	皿	10a	5号窯 焼成室	8.0	4.0	2.1	-	糸切り	横ナデ	不良	良	II	B	1			
1044	皿	10a	5号窯 焼成室	7.9	4.4	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	1		ほぼ完形品	
1045	皿	10a	5号窯 焼成室	7.9	4.3	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	1			
1046	皿	10a	5号窯 焼成室	(7.8)	4.5	(2.4)	-	糸切り	回転ナデ	不良	良	I	C	1			
1047	皿	10a	5号窯 焼成室	8.0	4.5	2.1	-	ナデ	回転ナデ	不良	良	I	B	1		完形品、内面底部中心に窪みあり	
1048	皿	10a	5号窯 焼成室	7.5	4.3	2.0	-	糸切り	不明	良	良	I	D	1		完形品	
1049	皿(玉)	10a	5号窯 焼成室	8.0	4.3	2.0	-	糸切り	不明	良	良	I	D	1		完形品、天場もの	
1050	皿	9a	5号窯 焼成室	7.8	4.3	2.3	-	糸切り	不明	良	良	I	D	2		天場もの	
1051	皿	10a	5号窯 焼成室	8.1	4.2	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1052	皿	10a	5号窯 焼成室	8.8	4.4	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1			
1053	皿	10a	5号窯 焼成室	7.9	4.5	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	B	1			
1054	皿	10a	5号窯 焼成室	7.7	4.4	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	2			
1055	皿	10a	5号窯 燃焼室	7.7	4.3	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	1			
1056	皿	10a	5号窯 燃焼室	7.7	3.7	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1			
1057	皿	10a	5号窯 燃焼室	7.8	4.6	2.0	-	糸切り	横ナデ	不良	良	I	C	2		ほぼ完形品	
1058	皿	10a	5号窯 燃焼室	7.7	4.5	2.1	-	糸切り	不明	良	良	I	C	1		ほぼ完形品、天場もの	
1059	皿	8p	灰原A	8.2	4.1	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	1		外面底部に窪みあり	
1060	皿	10a	5号窯 燃焼室	7.1	4.0	1.2	-	糸切り	横ナデ	不良	良	I	D	1			
1061	皿(玉)	10a	5号窯 燃焼室	7.5	4.1	2.0	-	糸切り	不明	良	良	I	A	1		完形品、天場もの	
1062	皿(玉)	10a	5号窯 燃焼室	8.0	4.5	2.0	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	不良	II	D	1		生焼け	
1063	皿	10a	5号窯 燃焼室第1ベルト	8.1	4.2	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	1			
1064	皿	10a	5号窯 燃焼室第1ベルト	8.0	4.1	2.4	-	糸切り	回転ナデ	不良	良	II	B	1			
1065	皿	10a	5号窯 燃焼室	8.2	4.5	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	1		底部に窪みあり	
1066	皿	10a	5号窯 燃焼室	7.6	4.4	2.1	-	糸切り	不明	良	良	I	C	1		完形品、天場もの、口縁ゆがむ	
1067	皿(玉)	10a	5号窯 燃焼室	7.7	4.2	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	1		内面底部中心に窪みあり	
1068	皿(玉)	10a	5号窯 燃焼室	7.9	4.6	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	1		完形品	
1069	皿	8p	灰原A	(8.8)	5.5	(1.9)	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1070	皿	7p	灰原A	7.5	4.3	1.9	-	糸切り	横ナデ	不良	良	i	c	①		ほぼ完形品	
1071	皿	8p	灰原A	7.7	3.5	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	ii	d	①			
1072	皿	8p	灰原A	7.6	3.7	1.8	-	糸切り	回転ナデ	良	良	ii	c	①			
1073	皿	8p	灰原A	7.7	3.9	1.7	-	糸切り	回転ナデ	良	良	ii	d	①			
1074	皿	8p	灰原A	8.1	4.5	2.1	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	i	a	①		完形品、天場もの	
1075	皿	8p	灰原A	8.1	4.3	2.2	-	ナデ	横ナデ	良	良	i	a	①		完形品	
1076	皿	7o	灰原A	7.9	4.2	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	③			
1077	皿	7p	灰原A	7.8	4.3	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	②			
1078	皿	7p	灰原A	7.9	4.6	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	②			
1079	皿	7p	灰原A	8.0	4.4	1.8	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	③		ほぼ完形品	
1080	皿	7p	灰原A	7.7	4.1	1.9	-	ナデ	不明	良	良	i	a	①		ほぼ完形品、天場もの	
1081	皿	7p	灰原A	7.7	4.5	1.8	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①		ほぼ完形品	
1082	皿	8p	灰原A	8.3	3.8	2.2	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	i	d	③			
1083	皿	8p	灰原A	8.3	4.0	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	ii	d	①			
1084	皿	8p	灰原A	7.9	4.0	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1085	皿	8p	灰原A	8.5	4.2	2.1	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	i	d	①			
1086	皿	8q	灰原A	8.3	3.6	2.2	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	ii	d	①			
1087	皿	8q	灰原A	8.1	3.6	1.9	-	ナデ	横ナデ	良	良	ii	d	①			
1088	皿	8q	灰原A	8.3	4.7	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1089	皿	8r	灰原B	8.4	4.2	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①		完形品	
1090	皿	8r	灰原B	8.0	4.2	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①		ほぼ完形品	
1091	皿	8r	灰原B	8.2	4.5	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1092	皿	9r	灰原B	8.9	4.1	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1093	皿	8p	灰原B	8.4	4.3	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1094	皿	8p	灰原B	8.4	4.4	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1095	皿	8p	Iベルト (灰原B)	7.8	4.0	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	i	b	①			

第40表 皿類観察表 (その2)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			取上番号	備	考
				口径	直径/高台径	器高						高台	体部	口縁端部			
1096	皿	9q	IIベルト(灰原B)	7.8	4.4	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	c	①			
1097	皿	9r	Aベルト灰原B	-	5.0	-	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	ii	-	-			
1098	皿	9r	灰原B	8.6	4.3	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	ii	d	①		ほぼ完形品	
1099	皿	9r	灰原B	7.6	4.6	2.1	-	糸切り後ナデ	横ナデ	最良	良	i	d	①			
1100	皿	9r	灰原B	(7.7)	4.4	(2.4)	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	最良	良	i	d	①			
1101	皿	9r	灰原B	7.9	3.9	2.2	-	糸切り後ナデ	横ナデ	最良	最良	ii	d	①		ほぼ完形品	
1102	皿	9r	灰原B	8.7	4.7	1.9	-	糸切り	回転ナデ	良	良	ii	d	①		完形品	
1103	皿	9r	灰原B	8.8	5.0	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	i	d	①		口縁ゆがむ	
1104	皿	9r	灰原B	7.7	4.2	2.0	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	ii	b	①		ほぼ完形品	
1105	皿	9r	灰原B	8.0	4.5	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	i	d	①			
1106	皿	9q	灰原B	7.9	3.9	2.0	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	i	a	①		完形品	
1107	皿	9q	灰原B	7.8	4.4	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①		完形品	
1108	皿	9q	灰原B	8.2	4.2	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1109	皿	9p	灰原B	7.7	4.2	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	i	d	①			
1110	皿	9p	灰原C	8.2	3.9	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①		ほぼ完形品	
1111	皿	10s	灰原C	8.0	4.3	2.2	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品	
1112	皿	10s	灰原C	7.9	4.4	1.9	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	C	1		ほぼ完形品	
1113	皿	10s	灰原C	8.3	4.8	2.1	-	ナデ	不明	良	良	I	D	1			
1114	皿	9s	灰原C	9.1	5.1	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1115	皿	9s	灰原C	(8.9)	4.6	(2.1)	-	ナデ	横ナデ	良	良	II	D	2			
1116	皿	9s	灰原C	8.1	3.8	1.8	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1			
1117	皿	9s	灰原C	8.2	4.5	1.8	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1118	皿	10s	灰原C	8.2	4.4	2.2	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1		ほぼ完形品、口縁精円	
1119	皿	10s	灰原C	7.8	4.2	2.1	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	B	1			
1120	皿	9r	灰原C	8.6	4.2	2.2	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	1			
1121	皿	9r	灰原C	(8.3)	3.6	(1.9)	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		内面の口縁付近に深い段入る、器高が低く扁平な遺物	
1122	皿	9r	灰原C	8.7	4.5	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1123	皿	9r	灰原C	8.3	4.4	2.3	-	ナデ	横ナデ	最良	最良	I	D	1		ほぼ完形品	
1124	皿	9r	灰原C	9.0	4.7	1.9	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		内面の口縁付近に深い段入る、器高が低く扁平な遺物	
1125	皿	9r	灰原C	8.2	4.7	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	1		ほぼ完形品	
1126	皿	9r	灰原C	7.7	4.6	1.9	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	B	1		ほぼ完形品	
1127	皿	10r	灰原C	8.5	4.4	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1128	皿	10r	灰原C	8.4	4.4	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1129	皿	10r	灰原C	8.3	4.1	2.3	-	ナデ	横ナデ	良	良	II	D	1			
1130	皿	10r	灰原C	8.5	4.0	1.9	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	II	B	1			
1131	皿	10r	灰原C	8.6	4.1	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1132	皿	10r	灰原C	7.8	4.3	2.1	-	ナデ	横ナデ	最良	最良	I	D	1			
1133	皿	10r	灰原C	9.3	5.3	2.4	-	ナデ	回転ナデ	不良	良	I	D	1		ほぼ完形品	
1134	皿	11r	灰原C	7.7	4.2	2.3	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	4		口縁に補修痕あり	
1135	皿	11r	灰原C	7.7	4.3	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	3			
1136	皿	11r	灰原C	8.3	5.1	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	不良	II	D	1			
1137	皿	11r	灰原C	8.3	4.2	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	不良	II	D	1			
1138	皿	10r	灰原C	8.0	4.7	2.1	-	糸切り	横ナデ	不良	良	I	D	1			
1139	皿	10r	灰原C	8.7	5.0	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	不良	II	D	2			
1140	皿	10r	灰原C	8.9	5.1	2.2	-	糸切り	コロシ	良	不良	II	D	1		ほぼ完形品	
1141	皿	10q	灰原C	8.1	3.9	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1		ほぼ完形品	
1142	皿	10q	灰原C	8.1	3.8	2.0	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1			
1143	皿	10r	灰原C	8.9	4.6	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1144	皿	10r	灰原C	7.4	4.5	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		ほぼ完形品、口縁精円、口縁付近に玉縁風の溝あり	
1145	皿	10q	灰原C	7.6	3.6	2.5	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	1			
1146	皿	10q	灰原C	7.7	4.1	2.4	-	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	II	D	1		内面底部に1条入る	
1147	皿	10q	灰原C	7.5	3.6	1.8	-	糸切り	コロシ	良	良	II	B	1		完形品	
1148	皿	10r	灰原C	9.0	4.7	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	不良	II	D	1			
1149	皿	10r	灰原C	9.0	5.2	2.5	-	ナデ	回転ナデ	不良	不良	I	D	1			
1150	皿	10r	灰原C	(8.3)	4.7	(2.4)	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1151	皿	10r	灰原C	7.6	4.1	2.1	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	II	D	1		ほぼ完形品	
1152	皿	10r	灰原C	8.6	4.5	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	最良	最良	I	D	1		ほぼ完形品	
1153	皿	10r	灰原C	8.6	4.9	2.5	-	ナデ	回転ナデ	不良	不良	I	D	1			
1154	皿	10r	灰原C	7.8	4.0	2.0	-	糸切り	コロシ	不良	良	I	D	3		内面底部に1条入る	
1155	皿	10q	灰原C	9.0	5.0	2.5	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	不良	I	D	3			
1156	皿	10r	灰原C	8.0	4.7	2.1	-	ナデ	不明	最良	良	I	A	1		天場もの	
1157	皿	10q	灰原C	7.8	4.0	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	不良	I	A	1			
1158	皿	10q	灰原C	(7.4)	3.4	(2.1)	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1159	皿	10q	灰原C	9.0	4.4	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	C	1			
1160	皿	10q	Bベルト(灰原C)	8.0	4.2	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品、内面口縁付近に後あり	
1161	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.6	4.1	2.3	-	糸切り後ナデ	不明	最良	最良	I	C	1		ほぼ完形品、天場もの、口縁ゆがむ	
1162	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.0	4.0	2.2	-	ナデ	横ナデ	最良	最良	I	C	1			
1163	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.1	4.2	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		外面底部中心に窪みあり	
1164	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.7	4.6	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	II	D	1			
1165	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.5	4.6	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品	
1166	皿	9r	Bベルト(灰原C)	7.7	4.3	1.9	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	3			
1167	皿	9r	Bベルト(灰原C)	7.9	4.0	2.1	-	ナデ	横ナデ	良	良	II	B	1			
1168	皿	10s	IIIベルト(灰原C)	8.7	4.3	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	1		ほぼ完形品	
1169	皿	10s	IIIベルト(灰原C)	8.0	4.3	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1170	皿	10s	IIIベルト(灰原C)	8.1	3.2	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1171	皿	10s	IIIベルト(灰原C)	8.9	3.8	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		ほぼ完形品	

第41表 皿類観察表(その3)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			取上番号	備考
				口径	底径/高台径	器高						高台	体部	口縁端部		
1172	皿	10s	皿ベルト(灰原C)	7.9	3.8	2.2	-	ナデ	コロシ	良	良	Ⅱ	D	1	ほぼ完形品、口縁楕円	
1173	皿	10s	皿ベルト(灰原C)	8.8	3.9	2.7	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	ほぼ完形品	
1174	皿	9r	灰原C	8.7	4.6	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	最良	最良	Ⅰ	C	1	ほぼ完形品	
1175	皿	9r	灰原C	8.3	4.8	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	最良	最良	Ⅰ	C	1		
1176	皿	11r	皿ベルト(灰原C)	9.2	4.2	2.3	-	糸切り	不明	最良	良	Ⅰ	A	1	天場もの	
1177	皿	11s	11s杭山	8.7	4.1	2.7	-	糸切り	コロシ	良	良	Ⅰ	D	1	ほぼ完形品	
1178	皿	11s	11s杭山	8.2	4.0	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1		
1179	皿	11q	灰原C	7.7	3.8	2.0	-	ナデ	不明	良	良	Ⅰ	D	1	天場もの	
1180	皿	11q	灰原C	8.3	3.8	2.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1		
1181	皿	11q	灰原C	(8.3)	4.2	(2.7)	-	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	口縁ゆがむ	
1182	皿	11q	灰原C	9.1	4.8	2.2	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	ほぼ完形品	
1183	皿	11q	灰原C	9.0	4.7	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	C	1	ほぼ完形品	
1184	皿	12q	灰原C	8.3	3.8	2.2	-	糸切り後ナデ	コロシ	良	良	Ⅰ	D	1	完形品	
1185	皿	11r	灰原C	8.6	5.7	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	C	1	ほぼ完形品	
1186	皿	11r	灰原C	8.8	4.9	2.6	-	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1		
1187	皿	11r	灰原C	7.8	4.3	2.3	-	糸切り	不明	最良	良	Ⅱ	A	1	内面底部中心点に窪みあり	
1188	皿	11r	灰原C	7.9	4.0	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1		
1189	皿	11r	灰原C	7.6	3.9	2.0	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1		
1190	皿	10q	灰原C	(7.6)	4.1	(1.7)	-	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	内面底部に1条入る	
1191	皿	10q	灰原C	-	4.0	-	不明	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	-	-	底部のみ残存、高台の作りが丁寧	
1192	皿	10r	10r杭山(灰原C)	8.4	4.2	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1		
1193	皿	11r	皿ベルト(灰原C)	8.7	4.3	2.3	-	糸切り	コロシ	良	良	Ⅱ	C	1		
1194	皿	11r	皿ベルト(灰原C)	7.7	4.2	1.8	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	完形品	
1195	皿	10s	灰原C	8.3	4.6	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	A	1		
1196	皿	10r	灰原C	8.1	5.0	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	ほぼ完形品	
1197	皿	10r	灰原C	8.2	4.9	2.2	-	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	C	2		
1198	皿	10r	灰原C	8.1	4.4	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	ほぼ完形品	
1199	皿	10r	灰原C	8.7	5.0	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	A	1		
1200	皿	10r	灰原C	8.2	4.1	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1		
1201	皿	10r	灰原C	8.1	4.0	2.3	-	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1		
1202	皿	10r	灰原C	9.0	5.3	2.5	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	ほぼ完形品	
1203	皿	9r	灰原C	8.0	4.1	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	ほぼ完形品	
1204	皿	9r	灰原C	7.8	5.0	2.4	-	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1		
1205	皿	9r	灰原C	8.1	4.5	2.4	-	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1		
1206	皿	9r	灰原C	8.6	4.5	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1		
1207	皿	10r	灰原C	(8.4)	4.3	(2.2)	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	内面の口縁付近に深い段入る、器高が低く扁平な遺物	
1208	皿	10r	灰原C	8.4	4.6	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1		
1209	皿	10r	灰原C	8.3	4.5	2.4	-	糸切り後板目	不明	良	良	Ⅱ	D	1	天場もの	
1210	皿	10s	灰原C	8.3	3.7	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	ほぼ完形品	
1211	皿	10r	灰原C	8.7	5.3	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	C	1		
1212	皿	10r	灰原C	8.2	4.1	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1		
1213	皿	10r	灰原C	9.0	4.9	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	C	1	内面口縁部に線を形成	
1214	皿	10r	灰原C	8.6	4.9	2.4	-	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	Ⅱ	D	1		
1215	皿	10r	灰原C	8.5	5.1	2.2	-	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	A	1	天場もの	
1216	皿	10r	灰原C	8.8	4.6	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	C	1		
1217	皿	10r	灰原C	8.9	4.7	2.6	-	糸切り	コロシ	良	良	Ⅱ	D	1	ほぼ完形品	
1218	皿	10r	灰原C	7.9	4.2	2.2	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	ほぼ完形品、口縁ゆがむ	
1219	皿	10q	灰原C	9.7	5.6	2.1	-	糸切り	回転ナデ	不良	不良	Ⅰ	B	1	生焼け、内面口縁付近に深い段入る、器高が低く扁平な遺物	
1220	皿	10r	灰原C	8.2	4.7	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	1		
1221	皿	10q	灰原C	8.6	4.6	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	完形品	
1222	皿	9q	灰原C	(9.5)	5.1	(3.3)	不明	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	口縁ゆがむ	
1223	皿	12s	灰原D	8.8	4.7	2.2	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅱ	D	1	完形品、天場もの	
1224	皿	12s	灰原D	8.4	4.8	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	ほぼ完形品	
1225	皿	10t	灰原D(4号窯焚口付近)	8.9	4.6	2.4	-	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	ほぼ完形品	
1226	皿	10s	灰原D	7.7	4.1	1.7	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	C	1		
1227	皿	10s	灰原D	7.9	4.0	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	A	1	ほぼ完形品	
1228	皿	10s	灰原D	7.8	3.9	2.3	-	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	ほぼ完形品	
1229	皿	10s	灰原D	(8.2)	4.4	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	内面の口縁付近に深い段入る	
1230	皿	10s	灰原D	8.2	3.6	2.4	-	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	内面の口縁付近に段入る、内面底部に窪みあり	
1231	皿	10s	灰原D	8.2	5.5	1.9	-	糸切り	横ナデ	不良	良	Ⅰ	D	1		
1232	皿	10s	灰原D	8.2	3.8	2.4	-	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	ほぼ完形品	
1233	皿	10s	灰原D	9.3	5.1	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	C	1		
1234	皿	10s	灰原D	8.3	4.8	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅰ	C	1	内面底部中心に窪みあり	
1235	皿	11s	灰原D	7.1	3.6	2.0	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	ほぼ完形品	
1236	皿	11s	灰原D	8.4	4.0	2.3	-	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	ほぼ完形品、口縁ゆがむ	
1237	皿	11s	灰原D	8.2	3.5	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1		
1238	皿	11s	灰原D	8.2	4.1	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内外面に砂粒付着	
1239	皿	11s	灰原D	(8.4)	3.8	(2.5)	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	2		
1240	皿	11s	灰原D	8.5	4.1	2.3	-	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	体部ゆがむ	
1241	皿	11s	灰原D	7.8	4.3	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	内面体部に数条入る	
1242	皿	11r	灰原D	8.4	4.0	2.8	-	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	ほぼ完形品	
1243	皿	11r	灰原D	(7.0)	3.4	(1.7)	-	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	全体に厚みがかかなり薄い	
1244	皿	11r	灰原D	8.4	4.5	2.5	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	ほぼ完形品	
1245	皿	11r	灰原D	8.8	3.8	2.5	-	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	C	1	ほぼ完形品、口縁ゆがむ	
1246	皿	11r	灰原D	8.9	4.3	2.5	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅱ	C	1	完形品	
1247	皿	11r	灰原D	8.4	3.5	2.6	-	糸切り後ナデ	コロシ	不良	良	Ⅰ	D	1	完形品、口縁楕円	
1248	皿	10s	皿ベルト	8.6	5.4	2.3	-	糸切り	回転ナデ	不良	良	Ⅰ	B	1		

第42表 皿類観察表 (その4)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			取上番号	備考
				口径	底径/高台径	器高						高台	体部	口縁端部		
1249	皿	10r	皿ベルト(灰原D)	8.8	4.4	2.6	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	C	1		口縁楕円
1250	皿	12s	灰原D	7.9	4.7	2.1	-	糸切り後ナデ	コロシ	良	良	II	D	1		ほぼ完形品
1251	皿	12s	灰原D	8.2	4.7	2.3	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		体部の厚み薄い
1252	皿	12s	灰原D	8.2	4.4	1.9	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		口縁楕円
1253	皿	12s	灰原D	8.4	4.8	1.9	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1		ほぼ完形品
1254	皿	12s	灰原D	8.6	4.7	2.5	-	ナデ	回転ナデ	不良	良	II	D	1		内面底部中心に窪みあり
1255	皿	12s	灰原D	9.2	4.3	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1256	皿	12s	灰原D	7.9	4.0	1.7	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	1		
1257	皿	12s	灰原D	8.4	4.8	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		ほぼ完形品
1258	皿	12s	灰原D	7.9	4.6	2.0	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	3		
1259	皿	12s	灰原D	8.2	5.0	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1260	皿	12s	灰原D	8.9	4.2	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	C	1		ほぼ完形品
1261	皿	12s	灰原D	8.6	4.6	2.5	-	糸切り	コロシ	良	良	II	D	1		
1262	皿	12s	灰原D	9.0	4.5	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		ほぼ完形品、内面底部中心に窪みあり
1263	皿	12s	灰原D	9.0	4.0	2.6	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1		ほぼ完形品、内面底部中心に窪みあり
1264	皿	12r	灰原D	(7.8)	3.9	(1.8)	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		全体に厚み薄い
1265	皿	12r	灰原D	8.0	4.4	2.0	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	II	B	1		
1266	皿	12r	灰原D	8.8	4.1	2.6	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1		ほぼ完形品、外面底部中心に窪みあり
1267	皿	12r	灰原D	8.1	4.2	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		ほぼ完形品
1268	皿	12r	灰原D	9.4	4.3	2.7	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	I	A	1		ほぼ完形品
1269	皿	12r	灰原D	(8.6)	4.3	(2.6)	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	II	D	1		
1270	皿	12s	杭山	8.5	4.4	2.6	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	II	C	1		
1271	皿	11r	灰原D	8.1	4.7	2.1	-	糸切り	不明	良	良	I	D	1		完形品、天場もの
1272	皿	11r	灰原D	7.7	4.3	1.7	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		全体に厚み薄い
1273	皿	11r	灰原D	8.1	4.2	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1274	皿	11r	灰原D	9.9	5.7	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	1		完形品
1275	皿	11r	灰原D	(8.6)	4.4	(2.6)	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1276	皿	11r	灰原D	9.2	4.4	2.6	-	糸切り	不明	良	良	II	D	1		天場もの
1277	皿	11r	灰原D	8.7	4.1	2.3	-	ナデ	不明	良	良	I	D	1		天場もの
1278	皿	12s	Vベルト(灰原D)	8.6	4.7	2.3	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1279	皿	11r	IVベルト(灰原D)	9.0	5.3	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	1		
1280	皿	11r	IVベルト(灰原D)	9.0	4.7	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1281	皿	11r	IVベルト(灰原D)	8.6	4.3	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	2		ほぼ完形品、口縁楕円
1282	皿	11r	IVベルト(灰原D)	8.5	4.3	2.1	-	糸切り	コロシ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品
1283	皿	12r	IVベルト(灰原D)	8.3	4.5	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		ほぼ完形品
1284	皿	10s	灰原D	8.7	4.4	2.5	-	糸切り	コロシ	良	良	II	D	1		ほぼ完形品
1285	皿	10s	灰原D	9.1	4.3	2.3	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	1		完形品
1286	皿	10s	灰原D	8.2	3.7	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		ほぼ完形品
1287	皿	10s	灰原D	8.3	3.8	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	B	1		
1288	皿	11s	灰原D	8.7	4.4	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1289	皿	11r	灰原D	8.0	4.1	1.6	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		完形品、器高が低く扁平な遺物
1290	皿	11t	灰原E	8.0	4.0	2.3	-	糸切り	コロシ	良	良	II	D	1		
1291	皿	11t	灰原E	8.0	4.1	2.8	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1292	皿	12s	Vベルト(灰原E)	7.9	4.2	1.9	-	ナデ	不明	良	最良	II	B	1		完形品、天場もの
1293	皿	11s	検出I	8.8	4.3	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1294	皿	11r	検出I	8.0	4.2	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1295	皿	12t	検出I	8.7	4.6	2.3	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1296	皿	9r	検出II	8.5	4.9	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1297	皿	不明	試掘調査Cトレンチ	9.0	5.0	2.3	-	糸切り	不明	良	良	I	D	1		完形品、天場もの、口縁不格好
1298	皿	不明	試掘調査Cトレンチ	8.3	3.9	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品
1299	皿	不明	試掘調査Cトレンチ	8.6	4.7	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品
1300	皿	9s	SK01	8.2	4.5	2.0	-	ナデ後板目	横ナデ	良	良	I	B	1		
1301	皿	9s	SK01	7.8	4.1	1.9	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	II	B	1		
1302	皿	9s	SK01	8.3	3.9	2.0	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	C	1		ほぼ完形品、内面口縁付近に1条入る
1303	皿	9r	SK01(灰原C)	8.4	4.6	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	1		
1304	皿	9r	SK01(灰原C)	8.1	4.3	2.4	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1		
1305	皿	9r	灰原C	8.3	4.5	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	A	2		
1306	皿	9r	SK01(灰原C)	8.0	4.3	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1		完形品
1307	皿	9r	SK01(灰原C)	7.9	4.3	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		完形品、口縁ゆがむ、外面口縁付近に玉縁風の溝入る
1308	皿	9r	SK01(灰原C)	8.9	4.6	2.1	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	1		ほぼ完形品
1309	皿	9r	SK01(灰原C)	8.8	4.4	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		ほぼ完形品
1310	皿	9r	SK01(灰原C)	8.7	4.8	2.1	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品
1311	皿	9r	SK01(灰原C)	8.5	4.8	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品
1312	皿	9r	SK01(灰原C)	8.2	4.4	1.9	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品
1313	皿	9r	SK01(灰原C)	8.4	4.7	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1314	皿	9r	SK01(灰原C)	8.5	3.9	2.7	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1315	皿	10r	SK01(灰原C)	8.5	4.4	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	1		
1316	皿	10r	SK01(灰原C)	8.4	4.4	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1317	皿	10r	SK01(灰原C)	8.7	4.9	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1318	皿	10r	SK01(灰原C)	8.5	4.5	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	B	1		完形品
1319	皿	9r	SK01	8.0	4.5	2.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	III	D	3		
1320	皿	9r	SK01	8.2	3.8	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	A	1		内面口縁付近に1条入る
1321	皿	9r	SK01	7.9	4.0	2.0	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	II	B	1		
1322	皿	12s	SK03	7.7	4.2	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1323	皿	12s	SK04	9.1	4.6	2.2	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		口縁楕円
1324	皿	11q	SK05	8.8	4.7	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1325	皿	11q	SK05	8.8	4.6	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	C	1		ほぼ完形品
1326	皿	11q	SK05	7.8	4.5	1.9	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品

第43表 皿類観察表 (その5)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 附着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			取上番号	備考
				口径	底径/高台径	器高						高台	体部	口縁端部		
1327	皿	11r	SK05	8.4	4.4	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	C	1		
1328	皿	8r	SK06	8.1	5.5	1.4	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	e	①		
1329	皿	8r	SK06	8.9	4.3	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①		
1330	皿	9r	SU01	8.4	3.9	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	ii	c	①		ほぼ完形品
1331	皿	9r	SU01	7.8	3.5	1.8	-	ナデ	横ナデ	良	良	ii	c	①		内面体部に段あり
1332	皿	9r	SU01	8.0	3.8	2.0	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	i	a	①		
1333	皿	9r	SU01	8.2	4.5	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	a	①		ほぼ完形品
1334	皿	9r	SU01	8.1	3.9	2.1	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	i	a	①		
1335	皿	9s	SU01	7.4	3.6	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	a	①		
1336	皿	9s	SU01	7.4	3.2	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	a	①		完形品、 天場もの
1337	皿	9s	SU01	7.8	3.8	2.0	-	ナデ	不明	最良	最良	i	b	①		
1338	皿	9s	SU01	7.5	4.2	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①		完形品
1339	皿	9s	SU01(灰原C)	8.7	4.7	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1340	皿	9s	SU01(灰原C)	8.8	4.5	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1341	皿	9s	SU01(灰原C)	8.7	4.5	1.7	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		器高が1・2号窯の物に類似して低くて扁平な 遺物
1342	皿	9s	SU01(灰原C)	7.4	4.6	1.7	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1		ほぼ完形品、全体に小さく厚みも薄い
1343	皿	9r	SU01	8.0	3.9	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	B	1		
1344	皿	9s	SU01	8.4	4.7	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		口縁積円
1345	皿	10t	SU02	8.0	4.2	2.3	-	糸切り	横ナデ	不良	良	I	D	3		
1346	皿	10t	SU02(前庭部焚口直上)	8.0	4.2	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	D	1		内面体部の一部に凹みあり
1347	皿	10t	SU02(4号窯燃焼室)	8.1	3.4	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	2		
1348	皿	8r	SU03(灰原A)	8.8	4.3	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①		
1349	皿	8r	SU03(灰原A)	8.4	4.4	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①		内面口縁付近に段を形成
1350	皿	8r	SU03(灰原A)	8.2	3.6	2.1	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	i	d	①		
1351	皿	8r	SU03(灰原A)	8.0	3.6	1.9	-	ナデ	横ナデ	良	良	ii	d	①		
1352	皿	8r	SU03(灰原A)	8.5	4.1	1.9	-	ナデ	横ナデ	良	良	i	d	①		
1353	皿	8r	SU03(灰原A)	8.4	4.6	2.0	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	i	d	①		
1354	皿	9r	SU04	7.6	3.9	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	ii	d	①		口縁に溝あり
1355	皿	9r	SU04	(8.8)	5.4	(2.9)	-	糸切り	回転ナデ	不良	良	ii	a	①		
1356	皿	9r	SU04	8.3	4.3	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	ii	c	①		
1357	皿	9r	SU04	8.2	4.2	2.0	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	ii	d	①		
1358	皿	不明	表面採集 抜根中	8.8	4.9	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1359	皿	不明	表面採集 抜根中	8.4	3.9	1.7	-	糸切り	不明	良	良	ii	e	①		完形品、内面全体に砂粒付着
1360	皿	不明	表面採集 抜根中	(8.7)	3.7	(2.0)	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	C	1		内面底部中心に窪みあり、器高が扁平で内面 体部に2溝あり
1361	皿	不明	表面採集 抜根中	8.2	5.1	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1362	皿	不明	表面採集 抜根中	(9.4)	4.0	(2.8)	-	糸切り	コロシ	良	良	II	C	1		
1363	皿	不明	表面採集 抜根中	7.7	4.1	1.9	-	糸切り後ナデ	コロシ	良	良	I	B	3		
1364	皿	不明	表面採集 抜根中	9.1	4.2	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		底部中心に穴あり
1365	皿	不明	表面採集 抜根中	-	5.5	-	不明	ナデ	回転ナデ	良	良	III	-	-		底部のみ残存
1366	皿	不明	調査中ニぼれ	7.5	4.1	2.1	-	糸切り	回転ナデ	最良	最良	I	B	1		
1367	皿	不明	山桜根元	7.8	4.5	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	1		
1368	皿(高)	10s	IVベルト	-	(6.1)	-	-	糸切り	回転ナデ	良	良	-	-	-		脚付小坏
1369	皿	7r	1号窯 燃焼室	8.5	4.5	2.3	-	糸切り	不明	良	良	i	d	①		天場もの
1370	皿	8s	2号窯 焼成室分焼柱付近	8.7	4.6	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	不良	i	d	①		
1371	皿	8s	2号窯 焼成室分焼柱付近	8.6	4.5	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	d	①		
1372	皿	8s	2号窯 焼成室分焼柱付近	8.4	4.6	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	不良	i	d	①		
1373	皿	8r	2号窯 燃焼室	8.3	4.3	2.2	-	ナデ	横ナデ	良	不良	i	d	①		
1374	皿	8s	2号窯 燃焼室	8.9	4.8	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	d	①		外面体部に1条あり
1375	皿	8r	2号窯 燃焼室第1ベルト	8.7	4.6	2.2	-	ナデ	不明	良	良	i	d	①		天場もの、底部一部欠損
1376	皿	8r	2号窯 主軸ベルト燃焼室	8.8	4.8	2.4	-	ナデ	横ナデ	良	不良	i	d	①		
1377	皿	8r	2号窯 主軸ベルト燃焼室	8.8	4.5	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	不良	i	d	①		
1378	皿	8r	2号窯 主軸ベルト燃焼室	8.8	4.8	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	d	①		
1379	皿	8r	2号窯 主軸ベルト燃焼室	9.0	4.6	2.2	-	ナデ	不明	良	不良	i	d	①		
1380	皿	8r	2号窯 燃焼室第1ベルト	8.2	5.4	1.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	i	e	①		
1381	皿	8t	3号窯 焼成室	7.8	4.1	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	1		ほぼ完形品
1382	皿	9t	3号窯 焼成室	7.9	3.3	2.1	-	ナデ	横ナデ	不良	良	I	A	1		
1383	皿	9t	3号窯 焼成室	7.4	3.8	2.0	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		
1384	皿	9t	3号窯 焼成室	7.9	4.1	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	C	1		
1385	皿	9t	3号窯 焼成室	8.1	4.0	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	1		口縁ゆがむ
1386	皿	9t	3号窯 主軸ベルト焼成室	8.0	4.0	2.2	-	糸切り	横ナデ	不良	良	II	C	1		
1387	皿	8t	3号窯 焼成室第2ベルト	7.6	4.0	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1		完形品
1388	皿	8t	3号窯 焼成室第2ベルト	7.6	4.3	1.9	-	糸切り	不明	良	良	I	D	1		完形品、天場もの
1389	皿	8t	3号窯 焼成室第2ベルト	7.7	3.8	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1		完形品、口縁ゆがむ
1390	皿	9t	3号窯 焼成室	8.0	3.8	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	1		完形品、口縁ゆがむ
1391	皿	9t	3号窯 焼成室	7.7	3.8	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1		
1392	皿	9s	3号窯 燃焼室	7.7	3.8	2.0	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1		
1393	皿	9s	3号窯 燃焼室	8.1	4.3	2.2	-	糸切り	不明	良	良	II	D	1		天場もの
1394	皿	9s	3号窯 燃焼室	7.9	3.9	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	1		
1395	皿	9s	3号窯 燃焼室	8.0	3.9	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	1		
1396	皿	9s	3号窯 燃焼室第1ベルト	8.8	4.8	2.4	-	ナデ	不明	良	良	I	D	1		天場もの、口縁ゆがむ
1397	皿	9s	3号窯 主軸ベルト燃焼室	7.5	3.7	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	B	3		
1398	皿	9s	3号窯 主軸ベルト燃焼室	8.0	3.7	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	B	1		
1399	皿	9s	3号窯 主軸ベルト燃焼室	7.5	(4.1)	(2.5)	不明	糸切り	不明	良	良	III	D	1		天場もの
1400	皿	10t	4号窯 焼成室	8.7	4.0	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1		
1401	皿	9t	4号窯 主軸ベルト焼成室	9.0	4.5	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	1		口縁ゆがむ
1402	皿	10t	4号窯 焼成室	8.2	4.2	1.9	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	B	3		
1403	皿	10t	4号窯 焼成室	7.9	4.2	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		口縁ゆがむ

第44表 皿類観察表 (その6)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			取上番号	備考
				口径	底径/高台径	器高						高台	体部	口縁部		
1404	皿	10t	4号窯 焼成室	8.3	4.5	2.0	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1		口縁ゆがむ
1405	皿	10t	4号窯 焼成室	8.4	3.9	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	2		口縁ゆがむ、内面体部に何条かあり
1406	皿	10t	4号窯 焼成室	8.0	4.1	1.9	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	2		
1407	皿	10t	4号窯 焼成室	8.2	4.3	1.9	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	A	1		完形品、口縁ゆがむ
1408	皿	10t	4号窯 焼成室	8.0	4.7	1.7	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1		完形品、天場もの
1409	皿	10t	4号窯 焼成室	8.8	3.9	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	B	2		ほぼ完形品、口縁ゆがむ
1410	皿	10t	4号窯 焼成室分焰柱内	8.5	4.4	2.0	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1		完形品、口縁ゆがむ
1411	皿	9t	4号窯 焼成室	(7.8)	4.3	(1.9)	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1		内全体に厚み薄い
1412	皿	9t	4号窯 焼成室	8.9	4.7	2.2	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	I	D	2		天場もの、口縁ゆがむ
1413	皿	9t	4号窯 焼成室	8.7	4.0	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	2		完形品、口縁ゆがむ、内面口縁付近に1条入る
1414	皿	9t	4号窯 焼成室	7.8	4.1	2.1	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	1		
1415	皿	9t	4号窯 焼成室	8.2	3.8	1.8	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1416	皿	9t	4号窯 焼成室	8.4	4.2	2.5	-	糸切り	不明	良	良	I	A	2		完形品、天場もの、口縁ゆがむ
1417	皿	9t	4号窯 焼成室	8.2	4.2	2.0	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		
1418	皿	9t	4号窯 焼成室	8.5	4.1	2.5	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	D	1		口縁ゆがむ
1419	皿	9t	4号窯 焼成室	8.9	4.2	2.4	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	1		
1420	皿	9t	4号窯 焼成室	8.9	4.3	2.4	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	II	D	2		天場もの、口縁楕円
1421	皿	9t	4号窯 焼成室	8.8	4.5	2.5	-	ナデ	コロシ	良	良	I	D	1		外面底部中心に窪みあり
1422	皿	9t	4号窯 焼成室	8.8	4.0	2.3	-	糸切り	不明	良	良	I	A	1		
1423	皿	9t	4号窯 焼成室	8.3	4.1	2.0	-	糸切り	不明	良	良	I	A	1		天場もの
1424	皿	9t	4号窯 焼成室	8.6	3.8	2.5	-	ナデ	不明	良	良	I	D	1		天場もの、外面底部中心に窪みあり
1425	皿	9t	4号窯 焼成室	8.7	4.2	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	2		天場もの、口縁ゆがむ
1426	皿	10t	4号窯 焼成室	9.1	5.3	2.3	-	糸切り	回転ナデ	不良	良	I	C	1		
1427	皿	10t	4号窯 焼成室	8.4	4.0	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1		内面口縁付近に1条入る
1428	皿	10t	4号窯 焼成室	8.4	4.0	1.7	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1		口縁ゆがむ
1429	皿	10t	4号窯 焼成室	9.0	4.6	2.2	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		口縁ゆがむ
1430	皿	10t	4号窯 焼成室	8.9	4.9	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1431	皿	10t	4号窯 焼成室	8.6	4.7	1.9	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	I	D	1		完形品、天場もの、口縁ゆがむ
1432	皿	10t	4号窯 焼成室	8.8	4.5	2.4	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	3		外面底部中心に窪みあり
1433	皿	10t	4号窯 焼成室	8.0	4.5	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1434	皿	10t	4号窯 焼成室前庭部付近	8.3	4.2	2.4	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		完形品、口縁楕円
1435	皿	10t	4号窯 焼成室前庭部付近	8.0	4.0	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	2		
1436	皿	10t	4号窯 焼成室前庭部付近	7.7	4.2	2.3	-	糸切り	横ナデ	不良	良	II	B	1		
1437	皿	10t	4号窯 焼成室前庭部付近	9.3	4.9	2.3	-	糸切り	回転ナデ	不良	良	I	C	1		内面体部に段あり
1438	皿	10t	4号窯 焼成室前庭部付近	8.8	4.6	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	1		
1439	皿	10t	4号窯 焼成室前庭部付近	7.6	3.6	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	1		
1440	皿	10t	4号窯 焼成室前庭部付近	7.6	3.8	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1441	皿	10t	4号窯 焼成室前庭部付近	9.1	4.9	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1442	皿	10t	4号窯 焼成室前庭部付近	8.3	4.6	2.2	-	糸切り	不明	良	良	I	C	2		天場もの
1443	皿	10t	4号窯 焼成室第1ベルト	8.8	4.1	2.4	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	A	2		
1444	皿	10t	4号窯 焼成室第1ベルト	8.2	4.4	2.0	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	C	1		
1445	皿	10t	4号窯 焼成室第1ベルト	8.8	4.7	2.2	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		口縁ゆがむ
1446	皿	10t	4号窯 焼成室第1ベルト	8.1	4.2	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1447	皿	10t	4号窯 焼成室第1ベルト	7.9	4.3	2.2	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	I	A	1		ほぼ完形品、天場もの、口縁ゆがむ
1448	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.2	4.2	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	B	1		口縁楕円
1449	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.3	4.1	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1		
1450	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.4	4.5	2.2	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		
1451	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.8	5.0	2.3	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	I	D	1		天場もの、口縁ゆがむ
1452	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.6	4.5	2.4	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		
1453	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.7	4.0	2.2	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	C	1		ほぼ完形品、口縁ゆがむ
1454	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.4	4.8	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	1		完形品、口縁ゆがむ
1455	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	7.8	4.3	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	1		
1456	皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	8.3	4.5	2.2	-	ナデ	不明	良	良	I	C	2		完形品、天場もの
1457	皿	10t	4号窯 焼成室第1ベルト	7.9	4.0	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	B	1		
1458	皿	10t	4号窯 焼成室第1ベルト	(9.4)	5.0	(2.3)	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		口縁ゆがむ、外面の器面荒れ砂粒付着(伏せて利用か?)
1459	皿	10t	4号窯	8.1	4.6	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1460	皿	9a	5号窯 焼成室	7.2	4.6	1.9	-	糸切り	回転ナデ	不良	良	I	D	2		生焼け、内面底部に2条あり
1461	皿	10a	5号窯 焼成室	8.1	4.7	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	1		口縁ゆがむ
1462	皿	10a	5号窯 焼成室	7.2	4.6	1.7	-	糸切り	不明	良	良	I	B	1		天場もの
1463	皿	10a	5号窯 主軸ベルト焼成室	8.0	3.9	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	C	1		口縁楕円
1464	皿	10a	5号窯 主軸ベルト焼成室	7.8	3.9	2.4	-	糸切り	不明	良	良	II	B	1		
1465	皿	10a	5号窯 主軸ベルト焼成室	7.8	4.7	2.0	-	糸切り	不明	良	良	I	A	1		ほぼ完形品、天場もの
1466	皿	10a	5号窯 主軸ベルト焼成室	8.0	4.1	2.2	-	糸切り	横ナデ	不良	良	II	B	1		生焼け、内面底部中心に窪みあり
1467	皿	10a	5号窯 主軸ベルト焼成室	7.5	4.5	2.1	-	糸切り	横ナデ	不良	良	II	A	1		生焼け
1468	皿	10a	5号窯 焼成室	7.8	4.1	1.9	-	糸切り	不明	良	良	I	B	1		ほぼ完形品、天場もの、口縁ゆがむ
1469	皿	10a	5号窯 焼成室	8.2	4.3	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1470	皿	10a	5号窯 焼成室	8.2	4.6	2.1	-	糸切り	横ナデ	不良	良	I	A	1		生焼け
1471	皿(玉)	10a	5号窯 焼成室	7.8	3.9	2.2	-	糸切り	不明	良	良	I	D	1		天場もの、内面底部中心に窪みあり
1472	皿	10a	5号窯 焼成室	7.3	4.0	1.9	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1473	皿	10a	5号窯 焼成室	7.4	4.6	2.5	-	糸切り	横ナデ	不良	良	I	D	1		
1474	皿(玉)	10a	5号窯 焼成室	7.7	4.3	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1475	皿	9a	5号窯 焼成室	8.1	4.5	2.4	-	糸切り	横ナデ	不良	不良	I	D	1		生焼け、口縁に1ヶ所棒状のもで凹ませた痕あり
1476	皿	10a	5号窯 焼成室	8.4	3.9	2.3	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	C	1		
1477	皿	10a	5号窯 焼成室	8.8	4.0	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	1		外面底部中心に窪みあり
1478	皿	10a	5号窯 焼成室	7.6	4.2	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1479	皿	10a	5号窯 焼成室	7.6	4.2	2.0	-	糸切り	回転ナデ	不良	良	I	D	1		
1480	皿	10a	5号窯 焼成室	7.5	4.1	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1		

第45表 皿類観察表 (その7)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			取上番号	備	考
				口径	底径/高台径	器高						高台	体部	口縁部			
1481	皿	10a	5号窯 焼成室	8.2	4.3	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	B	1			
1482	皿	10a	5号窯 焼成室	7.8	4.4	2.2	-	糸切り	横ナデ	不良	良	II	B	1			
1483	皿	10a	5号窯 焼成室	7.9	4.7	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	B	1			
1484	皿	10a	5号窯 焼成室	7.8	4.4	2.0	-	糸切り	横ナデ	不良	良	I	A	1			
1485	皿	10a	5号窯 焼成室	8.0	4.4	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	B	1			
1486	皿	10a	5号窯 焼成室	7.8	4.5	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1			
1487	皿	10a	5号窯 焼成室	8.1	4.3	2.5	-	糸切り	不明	良	良	I	D	1			ほぼ完形品
1488	皿	10a	5号窯 焼成室第1ベルト	7.7	3.9	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	B	1			
1489	皿	10a	5号窯 焼成室	7.7	4.3	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1490	皿	10a	5号窯 焼成室	8.0	4.1	2.3	-	糸切り	不明	良	良	I	A	1			完形品
1491	皿	8p	灰原A	7.8	3.7	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	ii	d	①			
1492	皿	8p	灰原A	7.8	4.0	2.2	-	糸切り	不明	良	良	i	a	①			ほぼ完形品、天場もの、内面口縁付近に稜を形成
1493	皿	8p	灰原A	7.9	4.4	1.9	-	糸切り	横ナデ	不良	良	i	c	①			
1494	皿	7o	灰原A	7.8	4.2	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1495	皿	7p	灰原A	7.5	4.3	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1496	皿	7p	灰原A	7.7	4.5	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1497	皿	7p	灰原A	7.6	4.3	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1498	皿	7p	灰原A	8.2	4.5	2.0	-	糸切り	横ナデ	不良	良	i	c	①			
1499	皿	7p	灰原A	7.4	3.8	2.0	-	糸切り	横ナデ	不良	良	i	d	①			
1500	皿	7p	灰原A	7.8	4.3	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1501	皿	8p	灰原A	7.3	4.3	2.1	-	不明	横ナデ	良	良	i	d	①			口縁ゆがむ
1502	皿	8p	灰原A	8.4	5.1	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1503	皿	8p	灰原A	7.9	4.3	1.9	-	ナデ	横ナデ	良	良	i	c	①			
1504	皿	8p	灰原A	7.9	3.8	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	ii	d	①			口縁ゆがむ
1505	皿	7p	灰原A	7.9	4.2	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	b	①			ほぼ完形品
1506	皿	7p	灰原A	7.8	4.3	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	b	①			
1507	皿	8q	灰原A	7.9	3.7	1.9	-	ナデ	横ナデ	良	良	i	d	①			
1508	皿	8q	灰原A	8.6	4.5	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	③			
1509	皿	8q	灰原A	8.3	5.0	2.1	-	糸切り	不明	良	良	i	d	①			天場もの、内面口縁付近に1条入る
1510	皿	7q	灰原A	8.5	5.0	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1511	皿	8q	灰原A	8.6	4.2	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1512	皿	7p	Aベルト(灰原A)	8.2	4.6	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	②			口縁ゆがむ
1513	皿	7p	Aベルト(灰原A)	8.1	4.3	1.9	-	糸切り	不明	良	良	i	d	①			完形品、天場もの
1514	皿	8r	灰原B	8.7	4.5	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	d	①			
1515	皿	8r	灰原B	8.2	4.5	2.2	-	ナデ	横ナデ	良	不良	i	b	①			
1516	皿	8r	灰原B	7.9	4.0	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	d	①			
1517	皿	8r	灰原B	8.7	4.9	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	a	①			天場もの
1518	皿	8r	灰原B	8.7	4.8	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	d	①			口縁ゆがむ
1519	皿	8r	灰原B	8.4	4.9	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	a	①			
1520	皿	8r	灰原B	7.6	4.1	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	b	②			内面口縁付近に稜を形成
1521	皿	9r	灰原B	8.1	5.5	1.8	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	d	①			
1522	皿	9r	灰原B	8.4	4.5	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	d	①			
1523	皿	9r	灰原B	8.3	4.7	2.2	-	ナデ	横ナデ	良	不良	i	d	①			
1524	皿	9r	灰原B	8.3	5.2	1.5	-	糸切り	横ナデ	不良	良	i	e	①			
1525	皿	9r	灰原B	8.1	4.5	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	d	①			
1526	皿	9r	灰原B	8.7	4.5	2.4	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	d	①			
1527	皿	8p	灰原B	8.6	4.2	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	ii	d	①			
1528	皿	9r	灰原B	8.2	5.1	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	ii	d	①			
1529	皿	9r	灰原B	8.1	4.1	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	ii	b	①			口縁ゆがむ
1530	皿	9q	灰原B	8.4	4.2	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	a	①			口縁ゆがむ
1531	皿	9q	灰原B	7.9	4.0	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	c	①			
1532	皿	9q	灰原B	8.1	4.3	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	a	①			
1533	皿	9q	灰原B	8.4	4.2	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	b	①			ほぼ完形品
1534	皿	9q	灰原B	8.2	4.0	2.4	-	ナデ	横ナデ	良	良	i	d	①			
1535	皿	9q	灰原B	8.4	4.2	2.0	-	糸切り	不明	良	良	i	d	①			天場もの
1536	皿	9q	灰原B	8.7	5.1	2.3	-	ナデ	不明	良	良	i	d	①			天場もの、口縁ゆがむ
1537	皿	9q	灰原B	7.8	3.6	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1538	皿	10p	灰原B	7.8	4.0	1.6	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	c	①			
1539	皿	9p	灰原B	8.3	4.0	1.8	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	b	①			内面口縁付近に1条あり
1540	皿	9p	灰原B	7.6	4.1	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1541	皿	9p	灰原B	8.0	4.2	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1542	皿	10s	灰原C	7.8	4.1	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	A	1			
1543	皿	10s	灰原C	8.1	4.8	2.1	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1544	皿	10s	灰原C	7.4	4.1	1.9	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	2			
1545	皿	9s	灰原C	8.0	4.1	1.8	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1			天場もの
1546	皿	9s	灰原C	8.3	4.5	1.9	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1547	皿	9s	灰原C	9.1	4.8	1.7	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1548	皿	9s	灰原C	8.7	4.7	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	1			
1549	皿	9s	灰原C	9.2	4.8	2.1	-	ナデ	不明	良	良	I	D	1			ほぼ完形品
1550	皿	10s	灰原C	8.2	4.5	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1			
1551	皿	10s	灰原C	7.5	4.3	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1			口縁ゆがむ
1552	皿	10s	灰原C	8.7	4.7	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	D	2			
1553	皿	9q	灰原C	7.4	3.9	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1			
1554	皿	9r	灰原C	8.2	4.4	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	3			
1555	皿	9r	灰原C	8.0	3.5	2.0	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	B	1			内面底部中心に穴あり
1556	皿	9r	灰原C	8.7	4.3	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	1			口縁ゆがむ
1557	皿	9r	灰原C	8.8	4.9	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	1			口縁ゆがむ
1558	皿	9r	灰原C	7.7	4.0	1.9	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	2			口縁ゆがむ

第46表 皿類観察表 (その8)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			取上番号	備考
				口径	底径/高台径	器高						高台	体部	口縁端部		
1559	皿	9r	灰原C	7.6	4.1	2.3	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	B	1		ほぼ完形品、口縁ゆがむ
1560	皿	9r	灰原C	8.3	4.6	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	B	1		
1561	皿	9r	灰原C	7.9	4.1	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1562	皿	9r	灰原C	8.4	4.6	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	2		
1563	皿	10r	灰原C	9.0	4.2	2.4	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	I	A	1		天場もの
1564	皿	9r	灰原C	7.8	4.0	2.0	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	B	3		
1565	皿	10r	灰原C	7.9	4.1	2.1	-	糸切り後ナデ	横ナデ	最良	最良	I	C	1		内面中心に穴あり
1566	皿	10r	灰原C	8.5	4.3	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1567	皿	10r	灰原C	8.8	4.4	2.6	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	3		
1568	皿	10r	灰原C	7.9	4.3	2.5	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		口縁楕円
1569	皿	10r	灰原C	8.1	4.4	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品、口縁楕円
1570	皿	10r	灰原C	8.5	4.3	2.3	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	1		
1571	皿	10r	灰原C	8.0	4.1	2.3	-	糸切り	不明	良	良	II	B	3		
1572	皿	10r	灰原C	7.7	3.9	2.0	-	ナデ	不明	良	良	II	B	1		天場もの
1573	皿	10r	灰原C	8.7	4.7	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		内面底部に窪みあり
1574	皿	10r	灰原C	8.7	4.6	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		口縁楕円
1575	皿	10r	灰原C	8.3	4.4	2.5	-	ナデ	回転ナデ	良	不良	I	D	1		
1576	皿	10r	灰原C	8.5	4.5	2.5	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	B	1		
1577	皿	11r	灰原C	7.8	4.3	2.2	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1578	皿	11r	灰原C	8.3	4.8	2.4	-	ナデ	不明	良	良	I	D	2		天場もの
1579	皿	11r	灰原C	(9.0)	4.8	(2.5)	-	糸切り	不明	良	良	I	D	1		天場もの
1580	皿	10r	灰原C	8.7	4.3	2.3	-	糸切り	コロシ	良	良	I	A	1		
1581	皿	10r	灰原C	8.2	4.6	2.2	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1582	皿	10r	灰原C	8.5	4.6	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1583	皿	10a	灰原C	8.8	5.1	2.5	-	糸切り	横ナデ	不良	良	I	B	1		
1584	皿	9r	灰原C	8.4	4.0	2.5	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		
1585	皿	10q	灰原C	8.0	3.6	2.1	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	B	2		ほぼ完形品
1586	皿	10r	灰原C	8.3	4.7	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1587	皿	10q	灰原C	8.0	3.9	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1		
1588	皿	10q	灰原C	7.8	4.1	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1		
1589	皿	10r	灰原C	8.7	4.7	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1590	皿	10r	灰原C	8.2	4.3	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1591	皿	10r	灰原C	8.9	5.0	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	2		口縁ゆがむ
1592	皿	10r	灰原C	8.6	4.3	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1593	皿	10r	灰原C	8.9	4.7	2.6	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	3		
1594	皿	10r	灰原C	8.4	4.2	2.3	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	1		
1595	皿	10r	灰原C	8.3	4.6	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1596	皿	10r	灰原C	8.3	5.0	2.3	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1597	皿	10r	灰原C	7.6	3.7	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	2		
1598	皿	10q	灰原C	8.5	4.8	2.3	-	糸切り	不明	良	良	II	D	1		完形品、天場もの
1599	皿	10q	灰原C	7.6	4.3	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		体部に穴あり
1600	皿	10q	灰原C	8.4	4.2	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1601	皿	10r	灰原C	8.1	4.6	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	2		体部に穴あり
1602	皿	10q	灰原C	8.0	4.2	2.2	-	糸切り後ナデ	コロシ	良	良	I	A	1		
1603	皿	10q	灰原C	8.3	4.9	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1604	皿	10q	灰原C	7.8	3.8	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	3		
1605	皿	9r	Bベルト(灰原C)	7.8	4.1	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1606	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.2	4.6	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	最良	I	D	3		
1607	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.6	4.2	2.4	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		
1608	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.0	4.2	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1609	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.2	4.2	2.0	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		口縁ゆがむ
1610	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.3	4.2	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	3		
1611	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.6	4.2	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品
1612	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.1	4.0	2.0	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	B	1		口縁ゆがむ
1613	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.0	4.4	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	II	D	1		
1614	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.1	4.3	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1615	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.4	4.5	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	B	1		
1616	皿	9r	Bベルト(灰原C)	8.1	4.7	2.1	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	B	1		口縁ゆがむ
1617	皿	10s	Bベルト(灰原C)	8.5	4.5	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1618	皿	9r	灰原C	8.5	5.1	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1619	皿	9r	灰原C	7.9	4.1	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	B	2		
1620	皿	10r	Bベルト(灰原C)	9.2	4.1	2.6	-	糸切り	回転ナデ	不良	良	I	D	1		
1621	皿	11q	灰原C	8.0	4.0	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1622	皿	11q	灰原C	9.2	5.0	2.3	-	糸切り	不明	良	良	I	C	1		天場もの
1623	皿	11q	灰原C	7.6	3.9	1.7	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		
1624	皿	11q	灰原C	8.4	4.5	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1625	皿	11q	灰原C	8.7	4.4	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1626	皿	12q	灰原C	8.6	4.9	2.0	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1627	皿	12q	灰原C	8.4	4.5	2.4	-	ナデ	横ナデ	良	良	II	D	2		完形品、口縁ゆがむ
1628	皿	11r	灰原C	8.2	4.1	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		完形品、天場もの
1629	皿	11r	灰原C	8.1	4.4	2.5	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	C	1		ほぼ完形品、口縁ゆがむ
1630	皿	11r	灰原C	8.5	5.0	2.3	-	糸切り	横ナデ	不良	良	I	D	1		
1631	皿	11r	灰原C	8.0	4.8	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	2		
1632	皿	11r	灰原C	8.8	4.5	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1633	皿	11r	灰原C	8.6	4.7	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1		ほぼ完形品
1634	皿	11r	灰原C	7.8	3.9	2.1	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	II	D	1		
1635	皿	11r	灰原C	8.1	4.4	2.2	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	2		口縁ゆがむ
1636	皿	11r	灰原C	8.1	4.0	2.1	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品
1637	皿	11r	灰原C	7.8	4.5	2.4	-	ナデ	横ナデ	良	良	II	D	3		ほぼ完形品

第47表 皿類観察表 (その9)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 附着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			取上番号	備	考
				口径	底径/高台径	器高						高台	体部	口縁端部			
1638	皿	11r	灰原C	8.6	3.9	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1639	皿	11r	灰原C	8.0	4.1	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1640	皿	11r	灰原C	7.6	4.2	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	D	1			
1641	皿	11r	灰原C	8.7	4.3	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1642	皿	10q	灰原C	8.2	3.6	2.0	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	C	1			
1643	皿	10r	灰原C	8.2	4.4	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	B	2			
1644	皿	11r	皿ベルト(灰原C)	9.0	5.0	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1645	皿	11r	皿ベルト(灰原C)	8.5	4.5	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		完形品、口縁にひびわれ	
1646	皿	11r	皿ベルト(灰原C)	8.3	4.2	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1647	皿	10r	灰原C	8.5	4.5	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	1		ほぼ完形品	
1648	皿	10r	灰原C	8.4	4.3	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1649	皿	10r	灰原C	8.5	4.3	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1		ほぼ完形品	
1650	皿	10r	灰原C	8.1	4.2	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	B	1			
1651	皿	10r	灰原C	8.4	4.8	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	B	1		ほぼ完形品	
1652	皿	10r	灰原C	8.5	4.6	2.2	-	糸切り	コロシ	良	良	I	D	1			
1653	皿	9r	灰原C	8.1	4.1	2.3	-	ナデ	横ナデ	良	良	II	B	2			
1654	皿	9r	灰原C	8.5	4.5	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1655	皿	9r	灰原C	7.9	4.0	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	B	2		ほぼ完形品	
1656	皿	10r	灰原C	8.2	4.4	2.5	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	I	B	2		内面底部中心部分ハクリ	
1657	皿	10r	灰原C	8.2	4.2	2.4	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1		ほぼ完形品	
1658	皿	10r	灰原C	7.9	4.0	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	3		ほぼ完形品	
1659	皿	10r	灰原C	8.2	4.4	2.3	-	ナデ	横ナデ	良	良	II	D	2			
1660	皿	10r	灰原C	8.3	4.4	2.1	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	I	D	1		天場もの	
1661	皿	10r	灰原C	8.3	4.5	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	2		ほぼ完形品、口縁ゆがむ	
1662	皿	9q	灰原C	8.8	4.7	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	不良	I	A	1			
1663	皿	10s	灰原C	8.4	4.8	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1664	皿	10s	灰原C	7.8	3.8	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1665	皿	10r	灰原C	9.4	4.9	2.3	-	糸切り	不明	良	良	I	C	1		天場もの	
1666	皿	10r	灰原C	8.6	4.8	2.7	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	I	D	1			
1667	皿	10r	灰原C	9.0	4.9	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1668	皿	10r	灰原C	8.6	5.0	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1669	皿	10r	灰原C	9.2	4.7	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1			
1670	皿	10r	灰原C	8.5	4.7	1.9	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1671	皿	10r	灰原C	8.3	4.3	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	C	1		内面底部中心に窪みあり	
1672	皿	10r	灰原C	8.9	4.3	2.0	-	糸切り	不明	良	良	I	C	1		天場もの	
1673	皿	10r	灰原C	8.5	4.7	2.3	-	ナデ	コロシ	良	良	I	D	1			
1674	皿	10r	灰原C	8.7	4.8	2.2	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1675	皿	10r	灰原C	8.3	5.0	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1676	皿	10r	灰原C	8.5	4.7	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1677	皿	10r	灰原C	8.6	5.0	2.3	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	3			
1678	皿	10r	灰原C	4.5	4.1	2.1	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1			
1679	皿	10r	灰原C	8.3	4.9	2.3	-	糸切り後ナデ	コロシ	良	良	I	D	1			
1680	皿	10r	灰原C	8.8	5.1	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1681	皿	10r	灰原C	9.1	5.0	2.1	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	2			
1682	皿	10r	灰原C	8.5	4.1	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1683	皿	10r	灰原C	8.8	4.8	2.6	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1684	皿	10q	灰原C	7.7	4.0	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1			
1685	皿	10q	灰原C	8.1	4.0	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1			
1686	皿	10q	灰原C	7.6	3.5	2.0	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	B	1		完形品、口縁ゆがむ	
1687	皿	10q	灰原C	8.6	4.6	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1		底部中心に穴あり	
1688	皿	10q	灰原C	7.3	3.8	1.9	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1			
1689	皿	10q	灰原C	8.5	4.1	2.5	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	A	1			
1690	皿	10q	灰原C	8.8	4.7	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		内面体部に段あり、口縁に1ヶ所棒状のもで凹ませた痕あり	
1691	皿	10q	灰原C	7.9	3.9	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		外面底部に窪みあり	
1692	皿	10q	灰原C	8.4	5.0	2.3	-	糸切り	回転ナデ	不良	良	I	A	1			
1693	皿	12s	灰原D	7.9	4.2	1.6	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1		縁ゆがむ	
1694	皿	12s	灰原D	9.0	4.7	2.6	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		内外面底部中心に窪みあり	
1695	皿	12s	灰原D	8.5	5.0	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1			
1696	皿	12s	灰原D	8.3	4.0	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良*	良	I	D	2			
1697	皿	10s	灰原D	9.2	5.1	2.5	-	糸切り	回転ナデ	不良	良	I	B	1			
1698	皿	10s	灰原D	8.6	4.9	1.8	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品	
1699	皿	10s	灰原D	9.1	4.1	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		ほぼ完形品、口縁ゆがむ	
1700	皿	10s	灰原D	9.7	5.2	2.5	-	糸切り	不明	良	良	I	C	1		天場もの	
1701	皿	10s	灰原D	8.6	3.8	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	2			
1702	皿	10s	灰原D	8.2	4.0	2.3	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	2			
1703	皿	10s	灰原D	8.8	4.2	2.2	-	ナデ	横ナデ	良	良	II	D	1			
1704	皿	10s	灰原D	8.2	4.4	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1705	皿	10s	灰原D	8.1	4.9	1.9	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1			
1706	皿	11s	灰原D	8.7	4.1	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1707	皿	11s	灰原D	8.1	3.8	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		口縁ゆがむ	
1708	皿	11s	灰原D	7.7	3.1	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1709	皿	11s	灰原D	8.2	3.9	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1710	皿	11s	灰原D	8.5	4.0	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1711	皿	11s	灰原D	8.0	3.8	2.5	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1712	皿	11s	灰原D	8.0	3.5	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	1		ほぼ完形品	
1713	皿	12s	灰原D	8.6	4.6	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	B	1			
1714	皿	12s	灰原D	8.2	4.4	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	3			
1715	皿	11r	灰原D	9.1	5.6	2.3	-	糸切り	不明	良	良	I	D	1		天場もの	

第48表 皿類観察表 (その10)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			取上番号	備	考
				口径	底径/高台径	器高						高台	体部	口縁端部			
1716	皿	11r	灰原D	8.3	3.9	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		天場もの	
1717	皿	11r	灰原D	8.2	4.3	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	B	3			
1718	皿	11r	灰原D	8.6	4.4	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	3			
1719	皿	11r	灰原D	8.4	3.7	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1720	皿	11r	灰原D	8.7	4.5	2.5	-	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	II	D	1		口縁に激しく引っ張られて出来た凹みあり	
1721	皿	11t	灰原D	8.5	4.1	2.7	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品	
1722	皿	11t	灰原D	9.0	4.2	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	1		完形品、口縁ゆがむ	
1723	皿	10t	IVベルト	8.8	4.7	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1724	皿	10t	IVベルト	7.9	3.9	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1725	皿	10s	IIIベルト	8.4	4.3	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1726	皿	11s	IVベルト(灰原D)	8.5	4.3	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		ほぼ完形品	
1727	皿	12s	灰原D	8.5	4.3	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1728	皿	12s	灰原D	8.7	4.3	2.3	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	2			
1729	皿	12s	灰原D	8.5	4.9	2.0	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	I	C	2		完形品、天場もの	
1730	皿	12s	灰原D	8.6	4.5	2.4	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	D	1		外面底部糸切りの取り外し痕がととも雑	
1731	皿	12s	灰原D	8.6	4.3	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1			
1732	皿	12s	灰原D	8.5	4.9	2.4	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	A	1			
1733	皿	12s	灰原D	8.1	4.5	2.0	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		ほぼ完形品、内面底部に1条入る	
1734	皿	12s	灰原D	8.6	5.7	2.0	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1		ほぼ完形品	
1735	皿	12s	灰原D	8.4	3.9	2.7	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	II	D	1		天場もの	
1736	皿	12s	灰原D	7.7	4.0	2.0	-	ナデ	コロシ	良	良	I	B	3			
1737	皿	12s	灰原D	8.5	5.0	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1738	皿	12s	灰原D	9.0	5.0	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1739	皿	12s	灰原D	8.4	4.8	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	3			
1740	皿	12s	灰原D	8.3	4.3	2.3	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1			
1741	皿	12s	灰原D	8.3	4.0	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1742	皿	12s	灰原D	8.8	4.3	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	3			
1743	皿	11t	11t(杭山)	8.4	3.9	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1744	皿	12r	灰原D	8.5	4.0	2.3	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	A	2			
1745	皿	12r	灰原D	7.9	4.4	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	1		ほぼ完形品	
1746	皿	12r	灰原D	9.0	4.3	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1		外面底部中心に窪みあり、口縁ゆがむ	
1747	皿	12r	灰原D	8.6	4.8	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1748	皿	12r	灰原D	8.1	3.9	2.3	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1			
1749	皿	12r	灰原D	8.2	4.1	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	2			
1750	皿	12r	灰原D	8.1	4.0	2.0	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1751	皿	12r	灰原D	8.6	3.7	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	2		内面体部に1条あり	
1752	皿	12r	灰原D	8.9	4.7	2.0	-	ナデ	不明	良	良	I	D	1		完形品、天場もの	
1753	皿	12r	灰原D	9.0	4.2	2.6	-	不明	横ナデ	良	良	I	C	1		外面ほぼ全体に釉付着	
1754	皿	11r	灰原D	8.4	4.0	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	A	3			
1755	皿	11r	灰原D	9.0	5.0	2.4	-	糸切り	回転ナデ	不良	良	I	D	1			
1756	皿	11r	灰原D	8.2	3.9	2.4	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品	
1757	皿	11r	灰原D	8.6	4.5	2.3	-	糸切り	コロシ	不良	良	I	D	2		外面底部に窪みあり	
1758	皿	11r	灰原D	8.0	4.3	1.9	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1759	皿	11r	灰原D	8.2	4.4	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		完形品	
1760	皿	11r	灰原D	8.6	4.4	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	D	1			
1761	皿	11r	灰原D	8.6	4.7	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	2			
1762	皿	11r	灰原D	9.0	5.0	2.4	-	糸切り	不明	良	良	I	C	1		完形品、天場もの	
1763	皿	11r	灰原D	8.7	5.0	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1764	皿	11r	灰原D	8.7	4.6	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1765	皿	11r	灰原D	8.8	4.8	2.5	-	ナデ	不明	良	良	I	D	2		完形品、天場もの	
1766	皿	11r	灰原D	8.2	4.7	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	1		内外面に砂粒付着	
1767	皿	11r	灰原D	9.3	5.0	2.0	-	糸切り	不明	良	良	I	C	1		完形品、天場もの、口縁ゆがむ	
1768	皿	11r	灰原D	8.3	5.0	2.3	-	糸切り	横ナデ	不良	良	I	A	1			
1769	皿	11r	灰原D	8.5	4.5	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1770	皿	11r	灰原D	8.6	4.6	2.4	-	糸切り	回転ナデ	不良	不良	II	D	1			
1771	皿	11r	灰原D	9.0	4.3	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	1			
1772	皿	11r	IVベルト	8.4	4.0	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1773	皿	12r	IVベルト	8.7	4.5	2.7	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	3		ほぼ完形品	
1774	皿	12r	IVベルト	8.2	4.2	2.3	-	糸切り後ナデ	コロシ	良	良	II	D	1			
1775	皿	12r	IVベルト	9.0	5.0	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	II	D	1		生焼け	
1776	皿	12r	IVベルト(灰原D)	8.7	4.6	2.6	-	糸切り	回転ナデ	不良	良	I	D	1			
1777	皿	10s	灰原D	9.1	4.8	2.9	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1778	皿	10s	灰原D	8.2	4.4	2.0	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1		内面口縁付近に釉を形成	
1779	皿	10s	灰原D	8.9	4.5	2.4	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	C	3			
1780	皿	10s	灰原D	8.2	4.0	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	1		完形品	
1781	皿	10s	灰原D	8.7	3.8	2.3	-	糸切り	コロシ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品、底部中心に窪み	
1782	皿	10s	灰原D	8.1	4.0	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	II	D	3			
1783	皿	10s	灰原D	7.8	3.8	2.1	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	1		ほぼ完形品、内面底部付近に何条かあり	
1784	皿	11s	灰原D	7.6	3.5	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	3			
1785	皿	11r	灰原D	8.7	4.1	2.6	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1786	皿	11t	灰原E	7.8	4.0	2.7	-	ナデ	不明	良	良	I	D	1		完形品、口縁ゆがむ	
1787	皿	11t	灰原E	8.5	4.2	2.6	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1788	皿	8p	検出I	8.4	4.0	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	C	1		全体に厚み薄い	
1789	皿	12r	検出I	8.5	4.0	2.2	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1790	皿	10s	検出II	8.3	4.3	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	B	2			
1791	皿	10s	検出II	8.0	4.9	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1792	皿	10r	検出II	8.1	4.4	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1793	皿	10r	検出II	8.5	4.0	2.6	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1794	皿	10r	検出II	8.8	4.9	2.5	-	糸切り後ナデ	不明	良	不良	II	D	1		天場もの	

第49表 皿類観察表 (その11)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			取上番号	備	考
				口径	底径/高台径	器高						高台	体部	口縁端部			
1795	皿	8p	検出II	8.2	4.5	2.1	-	糸切り	不明	良	良	I	D	2		天場もの	
1796	皿	8p	検出II	7.8	4.0	2.8	-	糸切り	不明	良	良	I	D	1		天場もの、口縁ゆがむ	
1797	皿	9q	検出II	8.0	4.0	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	D	1			
1798	皿	9q	検出II	7.5	3.0	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	B	1			
1799	皿	11s	検出II	8.1	3.8	2.2	-	ナデ	コロシ	良	良	I	B	1		内面体部に段あり	
1800	皿	11s	検出II	9.2	4.5	2.9	-	ナデ	不明	良	不良	I	B	1		天場もの、口縁ゆがむ	
1801	皿	11s	検出II	8.8	4.6	2.8	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1802	皿	10r	検出III	8.8	4.7	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1803	皿	不明	試掘調査Cトレンチ	8.8	4.7	2.7	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1		口縁ゆがむ	
1804	皿	不明	試掘調査Cトレンチ	8.9	4.6	2.5	-	糸切り後板目	コロシ	良	良	I	D	1			
1805	皿	不明	試掘調査Cトレンチ	8.3	4.5	2.0	-	糸切り	不明	良	良	I	D	3		完形品、天場もの、口縁ゆがむ	
1806	皿	9s	SK01	9.1	4.7	2.1	-	糸切り	不明	良	良	I	C	1		ほぼ完形品、天場もの	
1807	皿	9s	SK01	8.1	4.2	2.6	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1808	皿	9s	SK01	8.4	4.5	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	2			
1809	皿	9s	SK01	8.8	4.3	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1810	皿	9s	SK01	8.8	4.4	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1811	皿	9r	灰原C	8.4	4.5	2.7	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1812	皿	9r	灰原C	8.1	3.8	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	3			
1813	皿	9r	灰原C	8.7	4.1	3.0	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1814	皿	9r	灰原C(SK01)	8.2	4.0	2.7	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	II	D	1		完形品、天場もの、口縁ゆがむ	
1815	皿	9r	灰原C(SK01)	9.0	5.0	2.9	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	I	D	1		天場もの、口縁ゆがむ	
1816	皿	9r	灰原C	8.7	4.8	2.6	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	D	1		外面底部の作り雑	
1817	皿	9r	灰原C(SK01)	8.2	4.0	2.5	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1818	皿	9r	灰原C(SK01)	8.5	4.8	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1819	皿	10r	灰原C(SK01)	8.2	3.9	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1820	皿	10r	灰原C(SK01)	8.5	4.7	2.5	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1821	皿	10r	灰原C(SK01)	9.0	5.0	2.6	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品	
1822	皿	10r	灰原C(SK01)	8.1	4.5	2.2	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		ほぼ完形品	
1823	皿	10r	灰原C(SK01)	8.5	4.1	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1824	皿	10r	灰原C(SK01)	8.2	3.8	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	II	D	1			
1825	皿	9r	SK01	9.0	4.8	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1826	皿	9r	SK01	8.1	4.0	2.6	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	C	1		完形品、口縁ゆがむ	
1827	皿	9r	SK01	8.1	4.1	2.4	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	I	B	1		天場もの、口縁楕円	
1828	皿	9r	SK01	8.5	4.8	2.4	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		天場もの	
1829	皿	9r	SK01	8.3	4.6	2.4	-	糸切り	不明	良	良	I	D	1		天場もの、外面底部中心に窪みあり、口縁ゆがむ	
1830	皿	9r	SK01	8.6	4.1	2.3	-	ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		内面口縁付近に1条あり	
1831	皿	9r	SK01	8.4	4.0	2.4	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1			
1832	皿	9r	Aベルト(SK01)	8.0	4.3	2.1	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	1		ほぼ完形品、口縁ゆがむ	
1833	皿	9r	Aベルト(SK01)	8.7	4.2	2.6	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	B	2			
1834	皿	12s	SK03	8.6	4.6	2.6	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	I	D	1		口縁楕円	
1835	皿	11q	SK05	7.8	3.6	2.4	-	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	II	D	1		内面底部に1条入る	
1836	皿	8r	SK06	8.7	5.1	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	c	①			
1837	皿	9r	SU01	8.3	3.5	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	③		内面体部に砂粒付着	
1838	皿	9r	SU01	7.4	3.5	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①		ほぼ完形品、口縁ゆがむ	
1839	皿	9r	SU01	7.6	3.6	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①			
1840	皿	9r	SU01	7.8	3.8	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	a	①			
1841	皿	9r	SU01	8.3	3.5	2.3	-	ナデ	横ナデ	良	良	i	d	①			
1842	皿	9r	SU01	7.6	4.0	2.3	-	ナデ	横ナデ	不良	不良	i	b	①			
1843	皿	9r	SU01	7.5	3.5	2.2	-	糸切り	不明	良	良	i	d	③		天場もの、口縁ゆがむ	
1844	皿	9r	SU01	8.1	3.8	2.0	-	ナデ	横ナデ	良	良	i	d	①			
1845	皿	9r	SU01	7.5	3.7	2.0	-	ナデ	横ナデ	良	良	i	c	③			
1846	皿	9s	SU01	7.1	3.1	2.3	-	糸切り後板目	横ナデ	良	良	i	b	①		完形品、外面底部の作り雑	
1847	皿	9s	SU01	7.5	3.5	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	c	③			
1848	皿	9s	SU01	8.0	4.0	2.4	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	a	①		ほぼ完形品、口縁楕円	
1849	皿	9s	SU01	7.6	4.0	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	a	①			
1850	皿	9s	SU01	8.6	4.6	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	a	①			
1851	皿	9s	SU01	7.7	3.7	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	③		ほぼ完形品、口縁ゆがむ	
1852	皿	9s	SU01	8.5	4.0	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	③		ほぼ完形品、口縁ゆがむ	
1853	皿	9s	SU01	7.9	4.3	2.0	-	糸切り	横ナデ	不良	不良	i	a	①			
1854	皿	9s	SU01	8.4	5.0	1.4	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	e	①			
1855	皿	9s	SU01	7.6	3.8	2.1	-	ナデ	横ナデ	良	良	i	a	②			
1856	皿	9s	SU01	8.0	3.8	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	②		ほぼ完形品	
1857	皿	9s	SU01	8.0	4.1	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	d	①			
1858	皿	9s	SU01	8.3	4.0	2.0	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	d	①		口縁に凹みあり	
1859	皿	9s	SU01	8.3	4.6	2.4	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	d	①			
1860	皿	9s	SU01	8.0	3.7	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	a	②			
1861	皿	9s	SU01	8.1	4.8	2.5	-	ナデ	回転ナデ	良	良	i	d	①			
1862	皿	9s	灰原C(SU01)	9.0	4.7	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1		内面口縁付近に稜を形成	
1863	皿	9s	灰原C(SU01)	8.2	3.6	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	B	3		口縁ゆがむ	
1864	皿	9s	灰原C(SU01)	9.1	4.8	2.2	-	ナデ	横ナデ	良	良	I	C	2			
1865	皿	10t	SU02	8.0	4.3	2.3	-	糸切り	回転ナデ	良	不良	I	A	1		完形品、口縁ゆがむ	
1866	皿	10t	SU02(前底部焚口直上)	7.8	3.9	2.0	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	2		全体に厚み薄い	
1867	皿	10t	SU02(4号窯内)	8.6	4.9	2.2	-	糸切り	回転ナデ	良	良	I	C	1			
1868	皿	10t	SU02(4号窯燃焼室)	8.1	4.5	2.3	-	糸切り後ナデ	不明	良	良	I	D	1		ほぼ完形品、底部中心部分欠損	
1869	皿	8r	SU03(灰原A)	8.5	5.0	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	不良	i	b	③			
1870	皿	8r	SU03(灰原A)	9.1	5.2	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	c	②			
1871	皿	8r	SU03(灰原A)	8.8	3.5	2.0	-	ナデ	コロシ	良	良	ii	d	③		口縁ゆがむ	
1872	皿	8r	SU03(灰原A)	8.1	3.4	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	ii	d	①			

第50表 皿類観察表 (その12)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			取上番号	備考
				口径	底径/高台径	器高						高台	体部	口縁端部		
1873	皿	8r	SU03(灰原A)	8.9	3.8	2.1	-	ナデ	横ナデ	良	良	i	d	①		
1874	皿	8r	SU03(灰原A)	8.0	4.0	2.1	-	ナデ	コロシ	良	良	i	c	①		
1875	皿	8r	SU03(灰原A)	8.4	3.8	2.0	-	糸切り	コロシ	良	良	i	d	①		内面底部中心に窪みあり
1876	皿	8r	SU03(灰原A)	8.6	4.3	2.2	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	①		
1877	皿	8r	SU03(灰原A)	8.5	5.1	2.3	-	糸切り	横ナデ	不良	良	i	c	①		
1878	皿	8q	SU03(灰原A)	8.6	4.8	2.3	-	糸切り	横ナデ	良	良	i	d	②		
1879	皿	9r	SU04	8.0	4.1	2.4	-	糸切り	横ナデ	良	良	ii	d	①		
1880	皿	9r	SU04	7.6	4.2	2.0	-	ナデ	横ナデ	良	良	i	d	①		
1881	皿	9r	SU04	8.7	3.9	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	ii	d	①		口縁ゆがむ
1882	皿	不明	表面採取	8.0	4.0	2.0	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	1		
1883	皿	不明	表採	8.2	4.0	2.0	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	C	2		ほぼ完形品、外面底部中心に窪みあり
1884	皿	不明	表採	8.3	3.7	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1885	皿	不明	表採 抜根中	8.7	4.5	2.3	-	ナデ	横ナデ	良	良	II	D	1		
1886	皿	不明	表採 抜根中	8.3	3.7	2.3	-	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	II	D	2		ほぼ完形品
1887	皿	不明	表採 抜根中	7.8	3.8	2.2	-	ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1888	皿	不明	表採 抜根中	9.0	4.2	2.7	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1889	皿	不明	表採 抜根中	8.5	4.5	2.3	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	II	D	1		
1890	皿	不明	表採 土取り中	8.7	4.5	2.5	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		
1891	皿	不明	調査中こぼれ	8.1	4.5	2.9	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	I	D	1		口縁ゆがむ
1892	皿	不明	調査中こぼれ	8.1	4.7	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	不良	I	D	1		
1893	皿	不明	山桜根元	8.1	4.2	2.5	-	糸切り	横ナデ	良	良	I	A	1		

第51表 皿類観察表 (その13)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			取上番号	備考
				口径	高台径	器高						高台	体部	口縁端部		
1894	鉢	9r	灰原C	(19.7)	10.0	(7.4)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		外面体部に稜あり、内面底部中心が凸状になっている	
1895	鉢	10r	灰原C	(21.9)	10.0	(8.0)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		片口鉢、外面に焼台片付着	
1896	鉢	10q	灰原C	(19.3)	-	-	-	-	-	良	良	-	1		片口の口縁部破片のみ	

第52表 鉢類観察表

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)						残存率 (%)			胎土	焼成	備考	
				口径	頸基部径	胴部最大径	底径	器高	口頸部高	口縁	頸部	胴部				底部
1897	壺	10s	Ⅲベルト(灰原C)	(11.3)	(8.3)	-	-	-	(3.4)	40.0	40.0	0.5	-	良	良	
1898	壺	11r	灰原C	-	-	(19.7)	(9.7)	-	-	-	-	60.0	30.0	良	良	内面に遺物片付着
1899	壺	11s	灰原D	(16.9)	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-	良	良	
1900	壺	11s	灰原D	(19.7)	-	-	-	-	-	20.0	-	-	-	良	良	
1901	壺	11r	灰原D	(11.8)	-	-	-	-	-	10.0	-	-	-	最良	良	
1902	壺	11s	Ⅳベルト(灰原D)	(9.6)	-	-	-	-	-	10.0	0.5	0.5	-	良	不良	
1903	壺	13s	検出 I	(9.7)	(10.0)	(17.6)	-	-	(1.2)	20.0	20.0	30.0	-	良	良	
1904	壺	9s	SK01	11.5	8.1	-	-	-	4.6	55.0	55.0	-	-	良	良	全体に砂粒付着

第53表 壺類観察表

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)		備考
				長径	短径	
1905	陶丸	9t	4号窯 焼成室	2.7	2.6	軸や小石付着
1906	陶丸	9t	4号窯 焼成室	2.7	2.5	軸や小石付着
1907	陶丸	9s	SU01	3.4	2.9	
1908	陶丸	9t	3号窯 焼成室	2.6	2.4	一部に釉付着

第54表 陶丸観察表

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)				備考
				径	縦	横	厚み	
1909	名称不明	12s	灰原D	底径(17)	6.0	9.9	1.0	不明土器、脚付(すかしあり)
1910	ミニチュア壺	11r	灰原C	底径3.9	-	-	-	壺のミニチュア土器か?
1911	壺	11r	灰原D	-	9.0	9.6	1.6	生焼け
1912	甕	10s	検出II	-	7.2	11.4	1.3	生焼け

第55表 器種不詳製品観察表

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 附着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	備考
				口径	高台径	器高						
1913	重ね碗	9t	4号窯 焼成室	-	7.7	(5.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	重ね枚数: 8枚(8)
1914	重ね碗	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室(SU02)	15.6	8.2	4.6	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	重ね枚数: 7枚(7)
1915	重ね碗	8r	灰原B	15.1	測定不能	(5.7)	不明	不明	回転ナデ	良	良	重ね枚数: 3枚(3) 焼台付き
1916	重ね碗	9s	灰原C	15.4	(7.5)	(5.0)	もみ	糸切り	不明	良	良	重ね枚数: 9枚(10) 下段高台ほとんどハクリ
1917	重ね碗	10q	灰原C	15.8	測定不能	5.3	不明	不明	不明	良	良	重ね枚数: 4枚(4) 焼台付き
1918	重ね碗	11q	灰原C	14.4	7.1	4.9	もみ	ナデ	不明	良	良	重ね枚数: 3枚(3)
1919	重ね碗	11q	灰原C	15.4	7.4	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	重ね枚数: 3枚(3)
1920	重ね碗	11s	灰原D	16.1	7.5	4.8	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	重ね枚数: 3枚(3)
1921	重ね碗	9r	SU01	-	7.9	-	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	重ね枚数: 2枚(2) 最上段の内面底部に動物の物らしき爪 あとあり
1922	重ね碗	9s	SU01	15.0	7.5	4.8	もみ	糸切り	不明	良	良	重ね枚数: 6枚(6)

第56表 重ね碗観察表

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 附着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	備考
				口径	底径	器高						
1923	重ね皿	9t	4号窯 焼成室	8.1	3.7	2.0	-	糸切り	不明	良	良	重ね枚数: 17枚(17)、最上段内面器面荒れる、至る所に他の 重ね焼片付着
1924	重ね皿	10t	4号窯 主軸ベルト燃焼室	7.3	4.5	2.1	-	糸切り	横ナデ	良	良	重ね枚数: 3枚(3)、下段2個に外面口縁付近に玉縁のような 溝が入る
1925	重ね皿	11q	灰原C	8.6	5.1	2.7	-	糸切り	回転ナデ	良	良	重ね枚数: 4枚(4)
1926	重ね皿	10s	灰原D	7.5	4.4	2.1	-	糸切り	回転ナデ	良	良	重ね枚数: 4枚(4)
1927	重ね皿	11r	灰原D	8.0	4.3	2.0	-	ナデ	不明	良	良	重ね枚数: 14枚(14)
1928	重ね皿	9s	SU01	7.8	3.9	2.0	-	ナデ	横ナデ	良	良	重ね枚数: 13枚(13)

第57表 重ね皿観察表

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			高台底面 附着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	備考
				口径	高台径	器高						
1929	重ね碗皿	9t	4号窯 焼成室	13.5	7.2	5.0	もみ	糸切り	不明	良	良	重ね碗枚数: 9枚(9)、重ね皿枚数: 4枚(4)
1930	重ね碗皿	9t	4号窯 焼成室	測定不能	7.5	測定不能	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	重ね碗枚数: 2枚(2)、重ね皿枚数: 1枚(1)

第58表 重ね碗皿観察表

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			焼成	備考
				最大長	最大幅	最大高		
1931	焼台	8s	2号窯 焼成室	17.0	14.7	6.6	良	完形品
1932	焼台	8r	2号窯 主軸ベルト燃焼室	15.2	14.8	8.7	良	ほぼ完形品
1933	焼台	9t	3号窯 焼成室	15.0	13.2	6.2	良	ほぼ完形品
1934	焼台	9t	4号窯 焼成室	15.2	13.0	6.9	良	完形品、指圧痕あり
1935	焼台	10t	4号窯 焼成室	14.3	14.0	5.0	良	完形品、指圧痕あり
1936	焼台	9t	4号窯 焼成室	13.4	14.1	7.9	良	ほぼ完形品、指圧痕あり
1937	焼台	9t	4号窯 焼成室	7.9	13.3	6.4	良	完形品、指圧痕あり
1938	焼台	9t	4号窯 焼成室	14.7	13.3	5.2	良	完形品
1939	焼台	9a	5号窯 焼成室	12.1	12.5	7.6	良	一部欠損、指圧痕あり
1940	焼台	9a	5号窯 焼成室	14.1	11.9	6.9	良	一部欠損、指圧痕あり
1941	焼台	8p	灰原A	15.2	12.6	6.8	良	完形品、碗付着
1942	焼台	9r	灰原B	14.2	13.1	4.9	良	完形品
1943	焼台	11r	灰原C	14.8	15.0	3.7	良	一部欠損、指圧痕あり
1944	焼台	10s	灰原D	15.1	12.0	6.1	良	完形品、指圧痕あり
1945	焼台	9s	SK01	13.0	12.4	7.0	良	完形品
1946	焼台	9s	SK01	12.4	12.3	6.8	良	一部欠損、指圧痕あり
1947	焼台	9r	SU01	14.6	14.3	6.9	良	ほぼ完形品
1948	焼台	9r	SU01	11.0	11.6	4.7	良	ほぼ完形品、碗付着
1949	焼台	9s	灰原C	15.6	14.6	4.7	良	完形品

第59表 焼台観察表

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)						残存率 (%)			状態	備考	
				口径	頸基部径	胴部最大径	底径	器高	口頸部高	口縁	頸部	胴部			底部
1950	土師質埴	8s	2号窯 焼成室	23.8	21.5	25.1	11.0	16.3	4.2	70.0	90.0	100.0	100.0	もろい	ほぼ完形品、口縁部分に接合あり
1951	土師質埴	9s	灰原C	(22.5)	20.0	-	-	-	2.1	30.0	40.0	20.0	-	もろい	
1952	土師質埴	10s	灰原C	-	-	-	(8.1)	-	-	-	-	-	40.0	もろい	
1953	土師質埴	10r	検出II	(17.6)	-	-	-	-	-	0.5	-	-	-		口縁に一部分のみ
1954	土師質埴	9s	SU01	-	(14.3)	(20.9)	-	-	-	-	-	10.0	-	もろい	体部の一部分のみ
1955	土師質埴	9s	SU01	(12.7)	-	-	-	-	-	0.8	-	-	-	もろい	口縁に一部分のみ

第60表 土師質埴観察表

遺物番号	器種	G名	出土位置	器種	法量 (cm)				焼成	胎土	器形	その他	備考
					口径	縦	横	厚み					
1956	須恵器	7r	1号窯 主軸ベルト焼成室	蓋	-	8.0	9.2	0.9	良	良			破片の実寸
1957	須恵器	9s	3号窯 主軸ベルト焼成室	壺	-	4.8	7.6	0.9	不良	良			破片の実寸
1958	須恵器	10s	IIIベルト(灰原C)	高坏	(13.5)	6.8	11.8	0.5	良	良			破片の実寸
1959	須恵器	11q	灰原C	壺	-	5.9	8.9	0.9	不良	良			破片の実寸
1960	須恵器	11r	灰原C	高坏脚	脚部径11.7	6.8	10.2	0.6	良	良			破片の実寸
1961	須恵器	11r	灰原D	はそう	-	胴部最大径15.1			良	良			
1962	須恵器	10s	灰原D	蓋	-	7.1	7.0	0.9	良	良			破片の実寸
1963	須恵器	9s	検出II	壺	-	4.3	8.2	0.9	不良	良			破片の実寸
1964	須恵器	9s	SU01	壺	-	6.1	6.9	1.0	不良	良			破片の実寸

第61表 須恵器観察表

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			その他	備考
				長さ	幅	厚さ		
1965	石	10s	検出II	2.2	3.0	1.0		重量:5.6g 石材:チャート
1968	石	9r	SK01	3.1	3.9	8.5		重量:6.2g 石材:チャート
1969	石	10r	灰原C	2.2	2.7	1.5		重量:6.6g 石材:チャート
1970	石	8s	2号窯燃焼室	4.5	2.6	0.9		重量:12.3g 石材:安山岩(下呂石)

第62表 石器観察表

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)				その他	備考
				口径	縦	横	厚さ		
1966	深鉢	9s	灰原C	-	4.2	5.8	0.8		破片の実寸

第63表 弥生土器観察表

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)				穿孔	その他	備考
				胴長さ	脚径	脚部表面圧痕	器形分類			
1967	製塩土器	10q	灰原C	5.1	1.9	指痕・細条線	第3様式	なし		破片の実寸

第64表 製塩土器観察表

第 4 章 科学分析



第1節 羽根山古窯跡から出土した炭化材の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

当窯跡は、愛知県大府市に所在する12世紀末～13世紀中期の山茶碗窯跡である。当地域周辺には、平安時代から鎌倉時代に操業した多数の古窯群が分布している。ここでは、当時の窯業活動を支えた燃料材にはどのような樹種が使われていたのかを明らかにする目的で、窯体内や灰原・土坑などから出土した炭化材の樹種同定を行った結果を報告する。調査した炭化材は、同一斜面に並ぶ1～5号窯跡とその灰原A～DそしてSD03・SK01・SU01から採取されたものである。

燃料材樹種調査の蓄積は、伐採利用していた当時の森林がどのような様相の森林であったかを知る資料となる。また、窯業活動には大量の燃料材を必要とするので、窯業活動の維持・継続は森林に何らかの影響を及ぼしたはずであり、窯業活動の歴史のなかで、窯業と周辺森林の相互関係を理解する資料ともなる。

2. 炭化材樹種同定の方法

先ず、炭化材の横断面(木口)を手で割り実体顕微鏡で観察し、分類群のおおよその目安をつける。コナラ節・クヌギ節・クリなどは横断面の管孔配列が特徴的であるため実体顕微鏡下で同定可能であるが、それ以外の分類群については3方向の断面(横断面・接線断面・放射断面)を走査電子顕微鏡で観察し、材組織の特徴をもとに同定を決定した。またコナラ節やクヌギ節などでも、年輪幅の狭いぬか目や逆に年輪幅の広い試料などは実体顕微鏡下では誤同定の恐れがあるので、このような試料については走査電子顕微鏡で確認した。すべての針葉樹材には、樹脂道があり年輪幅が広く晩材部の量が多いなど同一分類群である可能性が高かったので、各試料ごとに無作為に複数の破片を抽出して走査電子顕微鏡で観察し、その結果を各試料の同定結果として提示した。

走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子(株)製 JSM-T100型)で観察と写真撮影を行った。

3. 結果

各試料の結果を第65表に示した。第66表では、出土地点と各窯別に検出された分類群を比較した。第66表の数値は、各分類群が検出された試料地点の合計数で比較した。第99図に、各分類群の出土地点を平面図に示した。

検出された分類群は、マツ属複維管束亜属が27試料から、クヌギ節が6試料から、コナラ節が5試料から、クリが2試料から、コナラ属根材が1試料から、樹皮が1試料から出土した。

材組織記載

1) マツ属複維管束亜属 *Pinus subgen Diploxylon* マツ科 写真80 1a-1c (No.21)

垂直と水平の樹脂道がある針葉樹材。晩材部の量は概して多く、垂直樹脂道は年輪後半から晩材部に多く分布している。分野壁孔は窓状である。放射組織の上下端には放射仮道管があり、その内壁には鋸歯状の肥厚があることからマツ属のアカマツとクロマツを含む複維管束亜属であることが判る。放射仮道管内壁の肥厚がアカマツは鋭利な鋸歯状を呈し、クロマツはなだらかであるが、アカマツでも緩やかな肥厚を示す場合があり識別は難しい。

2) コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科 写真80 2a-2c (No.7)

年輪の始めに中型の管孔が配列し、晩材部は薄壁・角形で小型の管孔が火炎状・放射方向に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にチロースがある。放射組織は単列のものと広放射組織・複合状のものがある。

3) コナラ属クヌギ節 *Q. sect. Cerris* ブナ科 写真80 3a-3c (No.6)

年輪の始めに大型の管孔が配列し、晩材部は厚壁・円形の小型の管孔が単独で放射方向に配列する環孔材。穿孔は単一、チロースがある。放射組織は同性、単列のものと集合状のものがある。

4) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 写真81 4a-4c (No.11)

年輪の始めに中型～大型の管孔が近接して配列し徐々に径を減じてゆき、晩材部では非常に小型の管孔が火炎状に配列し、柔組織が接線状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく開いており交互状や柵状である。

5) コナラ属根材 *Quercus root* ブナ科 写真81 5a-5c (No.32)

中心部に髄は無く、小型から非常に小型の管孔が放射方向に帯状にまとまり分布している。環孔性は不明瞭であるが、変形して不明瞭になっているようでもある。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は圧縮変形していたが単列と集合状放射組織があるようで、道管との壁孔は柵状や交互状である。コナラ節かクヌギ節またはアカガシ亜属の根材と思われる。

4. 考察

5基の窯跡や灰原などからは、おもにマツ属複維管束亜属・クヌギ節・コナラ節・クリが出土し、これらが燃料材として利用されていたことが判った。特にマツ属複維管束亜属は、5基と灰原の試料すべてから出土し、主要な燃料材であったと思われる。

1号と2号は13世紀中期、3～5号は12世紀末の窯跡であるが、いずれもマツ属複維管束亜属が多く出土し、燃料材樹種に時期差は見られなかった。ただし、1号窯はほかの窯に比べて、マツ属複

維管束亜属以外にもクヌギ節・コナラ節・クリの出土が多い違いがあった。また量的にはクヌギ節が最も多かった試料もあった(第65表 炭2と炭6)。しかしその要因については、不明である。

残存していた炭化材のうち丸木の形状をなす炭化材は、直径が3cm前後の比較的細い枝材が多く見られた。細い枝部も燃料材に利用していたようであった。

市内に分布する神明古窯(小川、1996)、森岡第1号窯(植田、1999)、ガンジ山A古窯(植田、2000)、深廻間A古窯(植田、2005)、深廻間B古窯(植田、2006)の炭化材樹種の調査においても、マツ属複維管束亜属・クヌギ節・コナラ節の3分類群が出土し、主要燃料材として利用されていたことが知られている。ただし、窯ごとに優占出土する分類群は異なる。当窯跡はマツ属複維管束亜属が優占していたが、当窯跡に近いガンジ山A古窯もマツ属複維管束亜属が優占しており、共通性が見られた。この共通性から、当窯跡周辺では二次林化が進行しマツ林が成立していた可能性が考えられる。ただし早野(2007)は、知多半島とその周辺における窯跡燃料材の樹種を集成し、マツ材の選択利用は二次林化に伴うだけではなく、焼成製品との兼ね合いや、燃料材の輸送体制なども視野に含めて検討してゆく必要性を指摘している。たしかに燃料材の樹種だけから周辺植生を断定することは危険と思われ、今後も資料を蓄積しつつ燃料材のもつ意味を検討する必要がある。

【引用文献】

- 小川雅康(1996) 出土炭化材の樹種同定。「海陸庵古窯址群・神明古窯址群」:125-133。大府市教育委員会。
- 植田弥生(1999) 森岡第1号窯跡出土炭化材の樹種同定。「森岡第1号窯跡群」:57-62。図版26-28。愛知県埋蔵文化財センター。
- 植田弥生(2000) 炭化物について。「ガンジ山A古窯跡群」:124-129。大府市教育委員会。
- 植田弥生(2005) 深廻間A古窯跡群出土炭化材の樹種同定。「深廻間A古窯跡群」:173-182。大府市教育委員会。
- 植田弥生(2006) 深廻間B古窯跡群出土炭化材の樹種同定。「深廻間B古窯跡群」:91-96。大府市教育委員会。
- 早野浩二(2007) 考察とまとめ。「夏敷古窯跡 蛇廻間古窯跡」:145-169。愛知県埋蔵文化財センター。

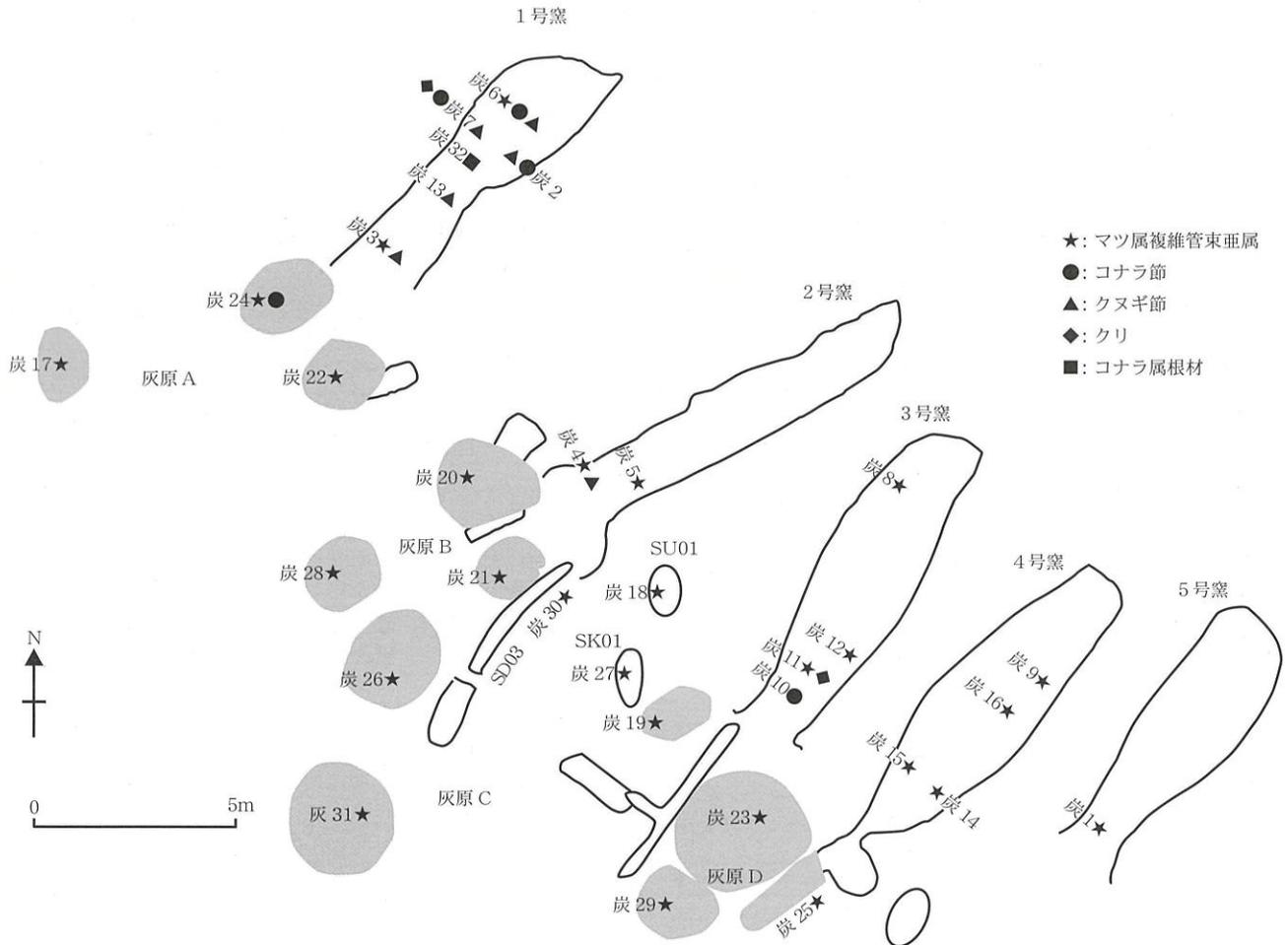
試料	グリット	採取試料地点		樹種	備考(破片数・形状・量など)
炭1	10a	5号窯	燃焼室床面上	マツ属複維管束亜属	破片複数
炭2	7r	1号窯	焼成室床面上	コナラ節	直径1.0~3.0cm丸木や破片多数
				クヌギ節	直径1.0~2.0cm前後で樹皮付き最終年輪は晩材部の丸木や鈍切削痕ある丸木や大小破片など
				樹皮	全体的にはクヌギ節》コナラ節
炭3	7q	1号窯	焚口	マツ属複維管束亜属 クヌギ節	小破片 破片複数、直径2.0cm丸木あり
炭4	8r	2号窯	燃焼室中層	マツ属複維管束亜属 クヌギ節	破片や直径2.5cm丸木など3点 破片や直径2.0cm丸木など2点
炭5	8r	2号窯	燃焼室	マツ属複維管束亜属	破片や直径3.0cm前後の丸木など多数
炭6	7r	1号窯	焼成室灰層第1層	マツ属複維管束亜属 コナラ節 クヌギ節	全体的にはクヌギ節>コナラ節> マツ属複維管束亜属 直径2.0cm前後の丸木あり 直径2.0~3.0cm前後の丸木が多い
				クヌギ節	破片と丸木など5点
				コナラ節	推定直径3.0cmと破片など3点
炭7	7r	1号窯	焼成室灰層第2層	クヌギ節 コナラ節 クリ	破片1点 破片1点
炭8	8t	3号窯	焼成室中層	マツ属複維管束亜属	破片1点
炭9	9t	4号窯	焼成室下層	マツ属複維管束亜属	破片1点
炭10	9s	3号窯	焼成室中層	コナラ節	直径2.2cm樹皮付き最終年輪晩材部の丸木1点
炭11	9s	3号窯	燃焼室下層	マツ属複維管束亜属	放射径2.0cm破片や直径1.5cm(20年輪)丸木など多数
				クリ	破片2点
炭12	9t	3号窯	燃焼室下層 分焰柱南東側	マツ属複維管束亜属	破片多数
炭13	7r	1号窯	焼成室	クヌギ節	破片と直径1.8cm(8年輪)樹皮付き最終年輪早材部の丸木など多数
炭14	10t	4号窯	燃焼室下層	マツ属複維管束亜属	破片や直径0.4cm樹皮付き最終年輪晩部の丸木など複数
炭15	10t	4号窯	燃焼室下層	マツ属複維管束亜属	破片多数
炭16	9t	4号窯	焼成室下層	マツ属複維管束亜属	直径2.3cm(23年輪)の丸木1点
炭17	8p	灰原A	焼成室下層	マツ属複維管束亜属	破片多数
炭18	9s	S U 0 1	灰層	マツ属複維管束亜属	直径2.5cm(約8年輪)樹皮付き丸木1点
炭19	9s	灰原C	黒色灰層	マツ属複維管束亜属	放射径0.7cm(17年年輪)の破片など複数
炭20	8r	灰原B	黒色灰層	マツ属複維管束亜属	破片4点
炭21	9r	灰原B	黒色灰層	マツ属複維管束亜属	破片複数
炭22	8q	灰原A	黒色灰層	マツ属複維管束亜属	推定直径2.5cmの丸木2点
炭23	10s	灰原D	黒色灰層	マツ属複維管束亜属	破片複数
炭24	7q	灰原A		マツ属複維管束亜属	破片4点
				コナラ節	破片1点
炭25	10s	灰原D	黒色灰層	マツ属複維管束亜属	直径3.5cm丸木や破片など複数
炭26	9q	灰原B		マツ属複維管束亜属	直径1.0~2.0cmの丸木破片5点
炭27	9r	S K 0 1	最下層	マツ属複維管束亜属	破片2点
炭28	9q	灰原B		マツ属複維管束亜属	丸木複数
炭29	10s	灰原D		マツ属複維管束亜属	直径1.0~2.0cmの丸木や破片複数
炭30	9r	S D 0 3		マツ属複維管束亜属	放射径5.0cmの破片1点
炭31	10q	灰原C	黒色灰層 下層 グリット全体	マツ属複維管束亜属	直径0.5~2.5cmの丸木多数
炭32	7r	1号窯	床面下	コナラ属根材	直径0.7cmの丸木2点 放射径:放射方向の長さ

第65表 羽根山古窯跡群出土炭化材の樹種同定結果一覧

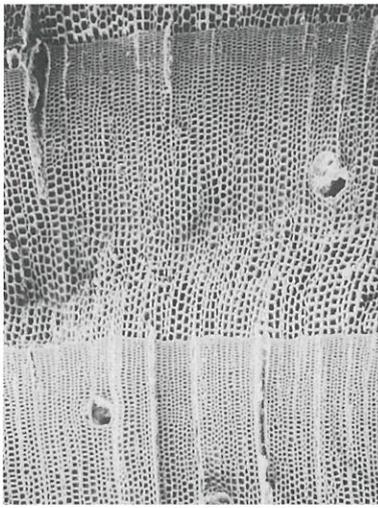
出土位置		樹種	マツ属 複雑管束亜属	クヌギ節	コナラ属 コナラ節	クリ	コナラ属 根材	樹皮	検出試料数	備考
床面下	1号窯						1		1	
焼成室	1号窯		1	4	3	1		1	10	13C前半
	2号窯		2	1					3	
	3号窯		2		1	1			4	12世紀末
	4号窯		2						2	
燃烧室	3号窯		1						1	12世紀末
	4号窯		2						2	
	5号窯		1						1	
焚口	1号窯		1	1					2	13C前半
灰原	A		3		1				4	黒色灰層
	B		4						4	
	C		2						2	
	D		3						3	
SD03・SK01・SU01			3						3	
検出試料数			27	6	5	2	1	1	42	

(表中の数字は、その分類群が検出された地点数であり、炭化材の破片数ではない。)

第66表 羽根山古窯跡群出土炭化材の窯体部位や灰原地点ごとの検出分類群の比較



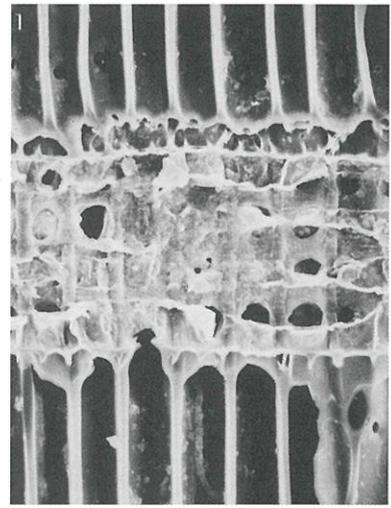
第99図 羽根山古窯跡群出土炭化材の試料位置と検出樹種



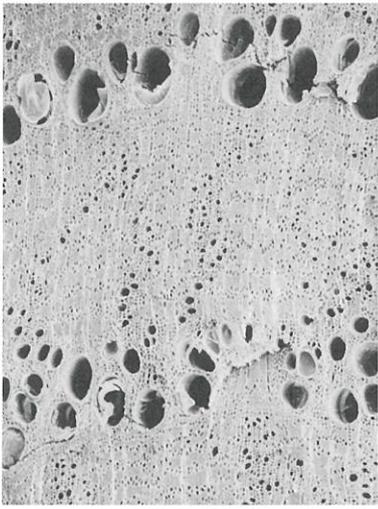
1a マツ属複維管束亜属 (横断面)
No.21 bar:0.5mm



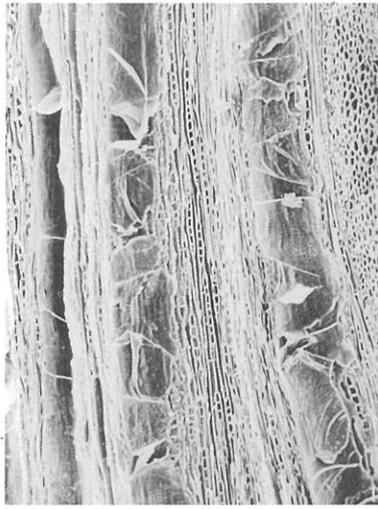
1b マツ属複維管束亜属 (接線断面)
No.21 bar:0.1mm



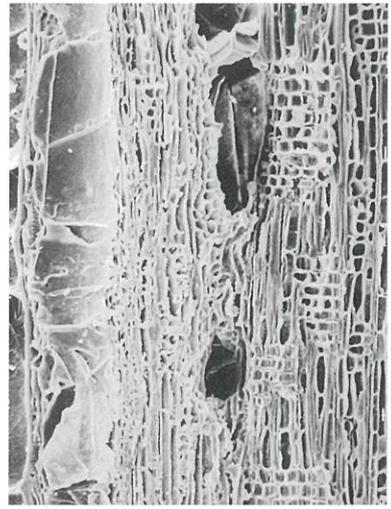
1c マツ属複維管束亜属 (放射断面)
No.21 bar:0.05mm



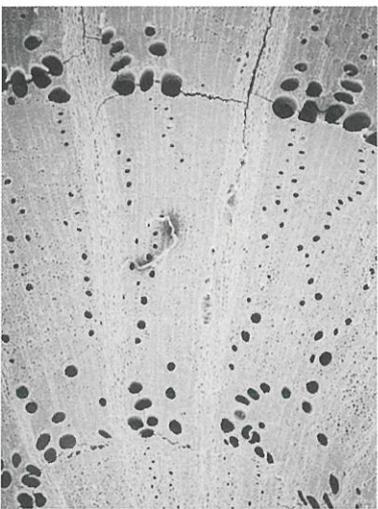
2a コナラ節 (横断面)
No.7 bar:0.5mm



2b コナラ節 (接線断面)
No.7 bar:0.1mm



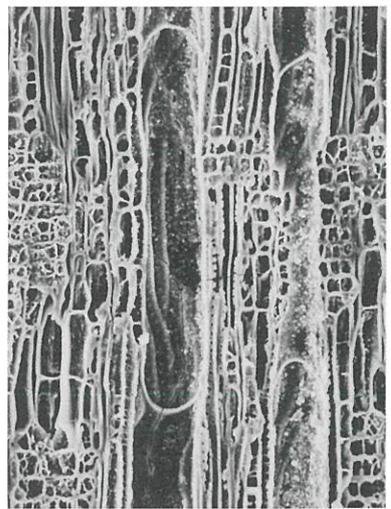
2c コナラ節 (放射断面)
No.7 bar:0.1mm



3a クヌギ節 (横断面)
No.6 bar:1.0mm

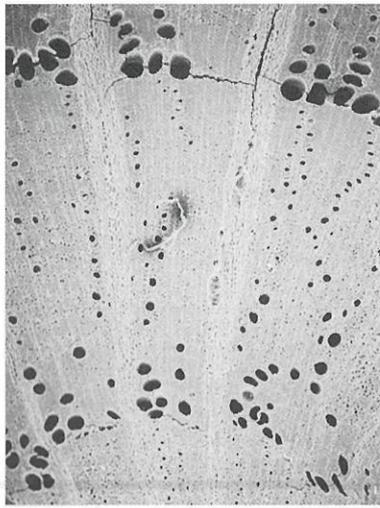


3b クヌギ節 (接線断面)
No.6 bar:0.1mm

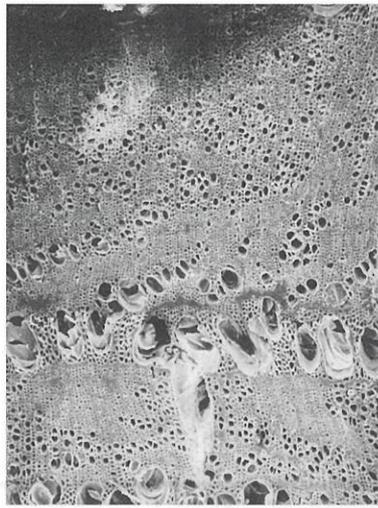


3c クヌギ節 (放射断面)
No.6 bar:1.0mm

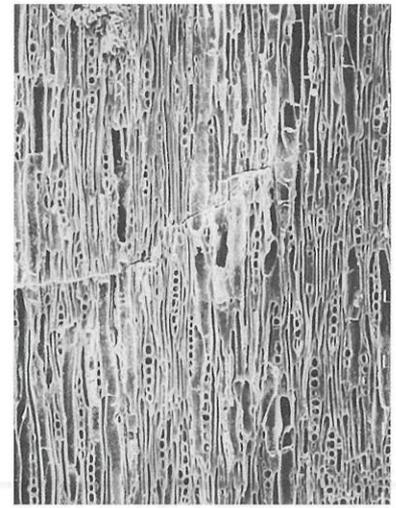
写真80 羽根山古窯跡群出土炭化材樹種1



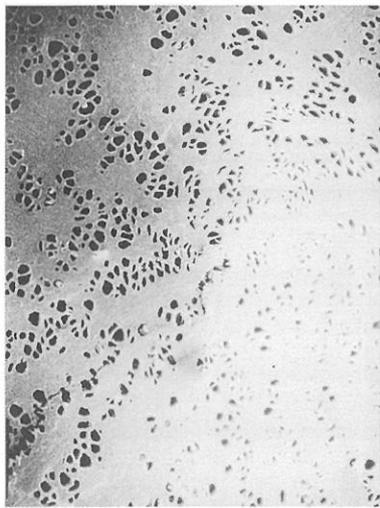
4a クリ節 (横断面)
No.11 bar:1.0mm



4b クリ節 (接線断面)
No.11 bar:0.5mm



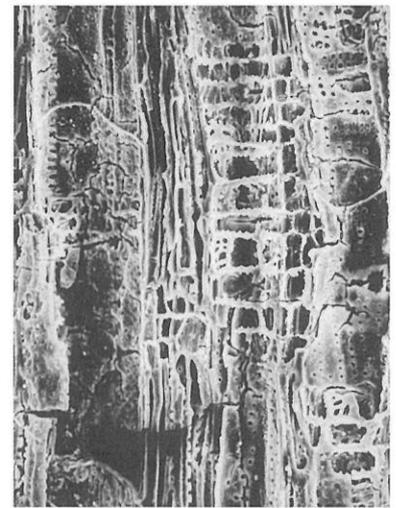
4c クリ節 (放射断面)
No.11 bar:0.1mm



5a コナラ属根材 (横断面)
No.32 bar:1.0mm



5b コナラ属根材 (接線断面)
No.32 bar:0.1mm



5c コナラ属根材 (放射断面)
No.32 bar:0.1mm

写真81 羽根山古窯跡群出土炭化材樹種 2

第 5 章 総 論



まとめ

羽根山古窯跡群の本調査は、大府市が市内で実施した13例目の発掘調査である。窯業遺跡では10例目に該当する。調査により窯体は5基・灰原1箇所・土坑7箇所・溝4条・土器集積土坑4箇所などを確認した。窯体を始めその残存状況は、良好な部類に属するものであった。また灰原の状態も良好であったが、その範囲は広範囲に及び、限られた時間の中での調査だったため十分な解明には至らなかった。焼成品は碗類と皿類が主体で、少量の鉢類と壺類が含まれる。この構成は平安時代末期から鎌倉時代前期を操業時期とすれば、知多半島では典型的な組み合わせと思われる。以下各章のまとめを行いながら若干の所見を加えて、まとめとしたい。

遺構について

本遺跡での遺構は、繰り返しになるが、窯体5基・灰原1箇所・土坑7箇所・溝4条・土器集積土坑4箇所などを確認したことは第2章で述べたとおりである。

窯業遺跡の主役である窯本体は5基検出したが、1・2号窯と3・4・5号窯はそれぞれ間隔を詰めた形で築窯されていた。特に、3号窯・4号窯・5号窯は近接しており、焚口の向きは南西方向である。また、1号窯と2号窯はやや間隔が空いていたが、こちらも焚口の方向は同じ西南西である。5基の窯は、窯体形状と築窯方向から2グループに分けることが出来そうである。それは1・2号窯と3・4・5号窯とである。1・2号窯は焼成室の胴体幅が煙道部に向け極端に狭くなることはなく、傾斜も緩やかに上昇していく形態である。3・4・5号窯は焼成室の胴体幅が広く、しかも焼成室から煙道部にかけて急傾斜になっている点に特徴がある。一方、この違いは時期差と築窯者の相違として認めることができよう。また別な職人集団により窯が築かれ、操業を始めたものとも評価することもできよう。以上から各窯の操業時期を時系列で表すと、3・4号窯→5号窯→1・2号窯と分析した。

また窯体構造の特徴として、3号窯と4号窯には焼成室に床面下施設が造られ、4号窯は焼成室全面に碗を利用して施設が構築され、分焰柱を取り巻くよう施設が燃焼室の一部に及んでいた。一方、3号窯の施設は4号窯に比して、まばらである。しかし、碗を高台を上に向けているので、意図的にここへ置いたと思われる。したがって床面下施設と判断した。多くの同様な施設に、前庭部と灰原方向へ伸びる溝を伴うのが通例であるが、この施設には窯内から延びる溝は検出されていない。一応、この施設は湧き出る地下水対策のためのものと判断しておく。

灰原は、切りあい関係が明確ではなかったが、窯内中軸ベルト5本とそれらに直交する3本のベルトの土層断面および掘削時に記録と観察状況から、各窯には灰原が付属していたと判断した。その結果は第36図で図示したとおりである。

遺物について

本窯では、窯操業にともなう製品として、碗・皿・鉢・壺・陶丸などが焼成されていた。その他に

窯操業と関連する伊勢型鍋の完形品、これらとは無関係な弥生時代から古墳時代の土器も出土している。焼成品の時代を比定するために遺物の年代観は中世常滑焼の生産地編年表（中野編年）を使用し、常滑窯と猿投窯とが重なるエリアであることを考慮して瀬戸窯を中心とした尾張地方の陶器の編年表（尾張型と称する）でも比定した。焼成品は碗類・皿類がほとんどを占め、少量の鉢類と壺類を含み、陶丸と器種不明だが仏器を想定させる脚に透かしの付いた製品が確認された。遺物個々の状態から碗類・皿類に各2種類の器形分類を行い、操業時期の推定材料とした。主要焼成品である碗類・皿類を中世常滑焼の生産地編年（中野編年）でみた場合、3～5型式および6a型式の範囲と比定され、年代的には12世紀後半から13世紀後期まで（実年代1176年頃～1275年頃）のものと推定される。また、中世猿投窯の編年表に当てはめた場合は尾張型第5型式～第6型式が中心で、一部第7型式を含むという結果が得られ、12世紀後期から13世紀中期に比定された。

碗類に特筆すべきことはないが、碗の大きさで注ぎ口をつけた片口碗を確認している。皿類には碗によく見られる玉縁状に口縁を厚くした玉縁状口縁碗のように口縁端部に溝を彫り込んだものを2号窯内とその灰原等から出土した。鉢は少量各部位の破片が出土し、注ぎ口が付いていたことから本窯で焼成されたのは片口鉢と判断した。また壺も鉢同様に少量ながら破片が出土している。口縁の器形と頸部から広口長頸壺と短頸壺との2種類が生産されたと思われる。前者の広口長頸壺は神明古窯で大量に出土した同様の壺と器形が似通っているが、寸法がやや小ぶりである。このタイプの壺の出土例は市内でも神明古窯とほかに数例あるが、知多半島の中世山茶碗窯では珍しい部類に属すると考えている。

炭化材について

本窯では遺構から土器とともに出土する炭化材について、その分析を行っている。5基の窯跡や灰原などからは、おもにマツ属複維管束亜属・クヌギ節・コナラ節・クリが出土し、これらが燃料材として利用されていたことが分析結果判明した。特にマツ属複維管束亜属は、5基と灰原の試料すべてから出土し、主要な燃料材であったと推定された。

どの窯跡からもマツ属複維管束亜属が多く出土したが、燃料材樹種に時期差は見られなかった。ただし、1号窯はほかの窯に比べて、マツ属複維管束亜属以外にもクヌギ節・コナラ節・クリの出土が多いという違いがあった。

操業年代について

考古学的に遺物の年代観と窯体構造から、操業年代について若干の私見を交えて考察する。

羽根山古窯跡群は山茶碗窯であるが、全体の窯構造が残る2・3・4号窯の窯型式を考えてみる。窯構造については、最近刊行された『夏敷古窯跡 蛇廻間古窯跡』に掲載された「窯体構造の変遷」「焼成室長・最大幅の変化」「焼成室長・床面傾斜の変化」を参照した。その結果、「焼成室長・最大幅の変化」と「焼成室長・床面傾斜の変化」で2・3型式の中に2・3・4号窯はいずれも収まることわかった。したがって12世紀後半の窯型式に属すると推定される。

次に、焼成品については碗類皿類の分析から中野編年で4～5型式期の1・2号窯と3～4型式期

の3・4・5号窯のグループに分けられ、年代的には12世紀後半から13世紀中頃まで（実年代1176年頃～1250年頃）という結論に至った。窯構造から得られた結果と焼成品からの結果とは必ずしも一致しないが、両者を考慮すると、12世紀末から13世紀中ごろを操業時期とみなすことができよう。

最後に、大府市内の窯業遺跡で、羽根山古窯跡群がどこに位置付けられるのか、という視点も含めて操業時期の私見を述べておく。主要焼成品である碗や皿（ほとんど高台なし）の型式と本窯で生産された製品の構成など、総合的に判断すると、神明古窯跡群（中野編年2～3型式、12世紀後半～12世紀末頃、1996年調査）や森岡第1号窯（中野編年2型式 12世紀後半 1999年調査）・瀬戸B古窯跡群1・2号窯より後と推定される。羽根山古窯跡群は中野編年の碗・皿の形式から3～4型式と分析したので、この型式の製品を焼成した大府市内の窯業遺跡はガンジ山A古窯跡群（中野編年3型式）・海陸庵古窯跡群（中野編年3型式）・深廻間C古窯跡群（中野編年3～4型式）があるが、それらと同じ時期の操業であると思われる。

大府市が含まれる常滑窯北部・猿投窯南端部では、12世紀後半から13世紀前期が窯業生産の最盛期の生産時期と想定されているので、まさに盛期頃に操業した窯と思われる遺跡であろう。つまり、本遺跡は碗類と皿類をメインに少量の鉢類と壺類を加えて焼成した中世山茶碗窯で、その操業年代は12世紀後半～13世紀中期と推定し、常滑窯に含まれる窯業遺跡と評価できよう。

註

- ①『夏敷古窯跡 蛇廻間古窯跡』147頁（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第152号 財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター 2007年）

報 告 書 抄 録

ふりがな	はねやまこようせきぐん							
書名	羽根山古窯跡群							
副書名	大府羽根山土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	大府市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第6集							
編著者名	古田功治、伊藤羊子、鈴木智恵、植田弥生、中村伸吾							
編集機関	大府市教育委員会							
所在地	〒474-0025 大府市中央町五丁目70番地							
発行年月日	西暦2010年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' ''	東経 ° ' ''	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はねやまこようせきぐん 羽根山古窯跡群	おおふしよこねまち 大府市横根町 はねやま 羽根山177-1・ 177-2・178-4・ 178-5・186-1 ばんち 番地	232238	44057	35° 00' 44.86''	136° 58' 41.14''	19981116 ～ 19990430 ・ 20010211 ・ 20010220 ・ 20010323	1200m ²	区画整 理事業
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
羽根山古窯跡群	古窯址	平安時代末期 ～ 鎌倉時代前期	窯体5基・ 灰原・土坑7・ 溝4	碗・皿・鉢・ 壺・伊勢型鍋 など		伊勢型鍋の口縁部が 半分欠損したのみの 完形品が出土したこ とがあげられる		
要約	窯跡は5基検出した。主要焼成製品の碗・皿で、鉢と壺が少量ながら確認された。碗・皿の器形に時期差があるので、操業時期が異なる窯の集合体と思われる。なお、古墳時代の土器もあわせて出土している。							

大府市文化財調査報告書刊行案内

- | タイトル | 刊行年 |
|-------------------------------------------------------------------|-------|
| 第1集 大府市山車調査報告書 | 平成7年 |
| 大府市指定有形民俗文化財になっている藤井神社祭礼山車3輛と山之神社祭礼1輛の詳細調査の報告書で図面多数掲載。3分冊で構成。 | |
| 第2集 海陸庵古窯址群・神明古窯址群 | 平成8年 |
| 平成6年から7年に発掘調査した前期中世山茶碗窯の遺構である。神明古窯址群からは大量の広口長頸壺が出土。 | |
| 第3集 円通寺古墓 | 平成9年 |
| 平成6年に発見された江戸中期の経塚遺構。近世村落社会における庶民の信仰を探る資料。 | |
| 第4集 ガンジ山A古窯跡群 | 平成12年 |
| 平成9年に発掘調査した中世山茶碗窯の遺構で、検出した窯跡1基から市内ではじめて床面下施設を確認した遺跡である。 | |
| 第5集 深廻間A古窯跡群 | 平成16年 |
| 平成9年に発掘調査した平安末期から鎌倉初期にかけての中世山茶碗窯の遺構で、検出した窯跡2基に床面下施設を確認した遺跡である。 | |
| 第6集 羽根山古窯跡群 | 平成22年 |
| 平成10年に発掘調査した鎌倉期の中世山茶碗窯で、市内に確認された最大規模の窯跡である。 | |
| 第7集 深廻間B古窯跡群 | 平成17年 |
| 平成11年に発掘調査した中世山茶碗窯の遺構で、窯跡3基を検出した遺跡である。 | |
| 第8集 砂原古窯跡群 | 平成19年 |
| 平成15年に発掘調査した中世山茶碗窯の遺構で、床面下施設を伴う窯跡1基を検出した遺跡である。 | |
| 第9集 深廻間C古窯跡群 | 平成20年 |
| 平成15年に発掘調査した中世山茶碗窯の遺構で、窯跡2基を検出した遺跡である。 | |
| 第10集 瀬戸B古窯跡群・奥池古窯 | 平成21年 |
| 平成16年に調査した中世山茶碗窯の遺構で、初めて陶硯を出土した瀬戸B古窯と碗・皿を焼成した窯跡と想定される奥池古窯の報告書である。 | |

大府市文化財調査報告書 第6集

羽根山古窯跡群

～大府羽根山土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告～

平成22年3月31日発行

発行 愛知県大府市教育委員会

住所 〒474-0025

愛知県大府市中央町五丁目70番地

印刷 松栄印刷株式会社

